

小郡市高齢者等実態調査 報告書

小 郡 市
令和2年5月

＜目次＞

第1章	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査設計	1
(1)	調査対象者	1
[1]	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1
[2]	在宅介護実態調査	1
[3]	介護保険サービス事業所調査	1
(2)	調査期間及び調査手法	2
[1]	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2
[2]	在宅介護実態調査	2
[3]	在宅生活改善調査	2
[4]	居所変更実態調査	2
3.	回収状況	2
[1]	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2
[2]	在宅介護実態調査	2
[3]	在宅生活改善調査	2
[4]	居所変更実態調査	2
4.	調査結果の見方	2
第2章	調査結果：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3
1.	回答者の基本属性	3
(1)	性別	3
(2)	年齢	3
(3)	要介護度	4
(4)	小学校区別基本属性	4
2.	要支援・要介護リスク評価項目別の結果	5
(1)	運動器機能	5
[1]	評価方法	5
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	5
(2)	低栄養	6
[1]	評価方法	6
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	6
(3)	そしゃく機能	7
[1]	評価方法	7
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	7
(4)	口腔機能	8
[1]	評価方法	8
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	8
(5)	閉じこもり	9
[1]	評価方法	9
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	9
(6)	認知機能	10
[1]	評価方法	10
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	10

(7)	うつ傾向.....	11
[1]	評価方法	11
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	11
(8)	転倒リスク	12
[1]	評価方法	12
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	12
(9)	IADL（手段的自立度）	13
[1]	評価方法	13
[2]	該当状況（全体及び性・年齢別）	13
(10)	要支援・要介護リスク評価項目の経年比較	14
3.	調査結果の詳細.....	15
(1)	調査の回答者.....	15
(2)	ご家族や生活状況について【問1】	15
[1]	家族構成	15
[2]	日中、一人になる時間の有無.....	16
[3]	一人になる時間帯	16
[4]	介護・介助の必要性.....	17
[5]	介護・介助が必要になった原因	17
[6]	主な介護者・介助者.....	19
[7]	暮らしの経済状況	19
[8]	住居形態	20
(3)	からだを動かすことについて【問2】	21
[1]	階段を手すりや壁をつたわず昇っていますか	21
[2]	椅子に座った状態から何にもつかまらず立ち上がっていますか.....	21
[3]	15分位続けて歩いていますか	21
[4]	過去1年間に転んだ経験がありますか	21
[5]	転倒に対する不安は大きいですか.....	22
[6]	週に1回以上は外出していますか	22
[7]	外出する理由	23
[8]	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	23
[9]	外出を控えていますか	24
[10]	外出を控えている理由.....	24
[11]	外出する際の移動手段.....	26
(4)	食べることについて【問3】	28
[1]	BMI（身長・体重）	28
[2]	半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか	28
[3]	お茶や汁物でむせることがありますか.....	28
[4]	口の渇きが気になりますか	28
[5]	歯磨きを毎日していますか	28
[6]	歯の噛み合わせは良いですか.....	29
[7]	歯の本数と入れ歯の利用状況.....	29
[8]	毎日入れ歯の手入れをしていますか	30
[9]	6か月で2～3kg以上の体重減少がありましたか	30
[10]	どなたかと食事をともにする機会がありますか.....	31
(5)	毎日の生活について【問4】	32
[1]	物忘れが多いと思いますか	32
[2]	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	32
[3]	今日が何月何日か分からない時がありますか.....	32

[4]	バスなどを使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	32
[5]	自分で食品・日用品の買物をしていますか	32
[6]	食品・日用品の主な入手方法.....	33
[7]	買い物の際の移動手段	33
[8]	食品・日用品の買い物で困っていること	34
[9]	自分で食事の用意をしていますか.....	34
[10]	自分で請求書の支払いをしていますか.....	34
[11]	自分で預貯金の出し入れをしていますか	34
[12]	年金などの書類が書けますか.....	35
[13]	新聞を読んでいますか.....	35
[14]	本や雑誌を読んでいますか	35
[15]	健康についての記事や番組に関心がありますか.....	35
[16]	友人の家を訪れていますか	36
[17]	家族や友人の相談にのっていますか	36
[18]	病人を見舞うことができますか	36
[19]	若い人に自分から話しかけることがありますか.....	36
[20]	趣味はありますか.....	36
[21]	生きがいがありますか.....	36
[22]	心身の健康のためにおこなっていること	37
(6)	地域での活動について【問5】	39
[1]	地域活動や趣味活動について.....	39
[2]	地域活動への参加者としての参加意向.....	40
[3]	地域活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向	40
(7)	たすけあいについて【問6】	41
[1]	心配事や愚痴を聞いてくれる人	41
[2]	反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人	41
[3]	看病や世話をしてくれる人	42
[4]	看病や世話をしてあげる人	42
[5]	家族や友人・知人以外での相談する相手	43
[6]	友人・知人と会う頻度	43
[7]	1か月間に会った友人・知人の数	44
[8]	よく会う友人・知人との関係.....	44
(8)	健康について【問7】	45
[1]	現在の健康状態.....	45
[2]	現在の幸福度	45
[3]	この1か月での気分の沈み・ゆううつな気持ち	46
[4]	この1か月での興味・楽しみの減退.....	46
[5]	飲酒の状況.....	46
[6]	喫煙の状況.....	47
[7]	「かかりつけ医」の有無	47
[8]	治療中、または後遺症のある病気.....	48
[9]	健康について知りたいこと	50
(9)	認知症にかかる相談窓口の把握について【問8】	52
[1]	認知症の症状の有無.....	52
[2]	認知症の相談窓口の認知度	52
(10)	高齢者の福祉や介護の施策に関する考え方について【問9】	53
[1]	介護保険料と介護サービスのあり方について	53
[2]	「小郡市地域包括支援センター」の認知度.....	53

[3]	介護が必要となった際、生活したい場所	54
[4]	「もしもの時」を考えたことがありますか.....	54
[5]	「もしもの時」のための準備について	55
[6]	災害時の避難場所の認知度	55
[7]	災害時に手助けしてくれる人の有無	56
[8]	小郡市の高齢者施策へのご意見・ご要望（自由記述）	57
第3章	調査結果：在宅介護実態調査.....	58
1.	基本属性	58
(1)	要介護者の基本属性	58
[1]	性別	58
[2]	年齢	58
[3]	要介護認定	59
[4]	小学校区別基本属性.....	60
2.	調査結果の詳細.....	61
[1]	調査票の記入者	61
(1)	A 票：調査結果	61
[1]	家族構成	61
[2]	日中、一人になることの有無.....	61
[3]	一人になる時間帯	62
[4]	住居形態	63
[5]	施設などへの入所・入居の検討状況	63
[6]	現在抱えている傷病.....	64
[7]	(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスの利用状況	64
[8]	介護保険サービスの利用状況.....	65
[9]	現在の介護サービスへの満足度	67
[10]	介護保険サービスを利用していない理由	68
[11]	「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況	69
[12]	在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	70
[13]	介護保険料と介護サービスのあり方について	71
[14]	今後の生活場所の希望.....	71
[15]	「もしもの時」を考えたことがありますか	72
[16]	「もしもの時」のための準備について.....	72
[17]	「小郡市地域包括支援センター」の認知度	73
[18]	災害時の避難場所の認知度	73
[19]	災害時に手助けしてくれる人の有無	74
[20]	訪問診療の利用状況	74
[21]	「かかりつけ医」の有無.....	74
[22]	家族・親族からの介護の頻度	75
(2)	B 票：調査結果	76
[1]	主な介護者	76
[2]	主な介護者の性別	76
[3]	主な介護者の年齢	77
[4]	主な介護者が行う介護	78
[5]	主な介護者が不安に感じる介護	79
[6]	介護を理由として退職した家族・親族の有無	80
[7]	主な介護者の勤務形態	80
[8]	介護をするにあたっての働き方の調整状況	81

[9]	仕事と介護の両立に効果的な支援.....	82
[1 0]	仕事・介護の両立の継続可能性	83
[1 1]	介護と子育ての両立状況	83
[1 2]	介護のうえで困っていること	84
[1 3]	介護に困ったときの対処法	85
[1 4]	介護が必要となった際、生活したい場所	86
[1 5]	在宅介護継続のための必要な支援	87
[1 6]	小都市の高齢者施策へのご意見・ご要望（自由記述）	89
第 4 章	共通項目（一般高齢者と要介護認定者の比較）	90
[1]	介護保険料と介護サービスのあり方について	90
[2]	介護が必要になった際、生活したい場所	91
[3]	「小都市地域包括支援センター」の認知度	93
[4]	「もしもの時」を考えたことがありますか	95
[5]	「もしもの時」のための準備について	95
[6]	災害時の避難場所の認知度	96
[7]	災害時に手助けしてくれる人の有無	97
第 5 章	調査結果：介護保険サービス事業所調査	99
1 .	在宅生活改善調査	99
(1)	ケアマネジャーの数・利用者数	99
[1]	所属するケアマネジャーの人数	99
[2]	利用者数	99
(2)	過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者の状況	100
[1]	過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行き先	100
[2]	過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度	101
(3)	現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者の状況	101
[1]	現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者数	101
[2]	現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者の属性等	102
[3]	現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（本人の状態）	102
[4]	「必要な身体介護の増大」の具体的な内容	103
[5]	「認知症の症状の悪化」の具体的な内容	104
[6]	「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」の具体的な内容	105
[7]	現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（本人の意向）	106
[8]	現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（家族等介護者の意向・負担）	106
(4)	状況改善のために必要なサービス	107
[1]	生活の維持が難しい利用者が状況を改善するために必要なサービス	107
[2]	生活改善に必要なサービス	108
[3]	特養に入所できていない理由	109
[4]	特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由	109
2 .	居所変更実態調査	110
(1)	施設等の概要	110
[1]	各施設等の定員等と入所・入居者数	110
[2]	自施設等の待機者数	110
[3]	特別養護老人ホームの待機者数（申込者数）	111
(2)	入所・入居者の状況	112
[1]	入所・入居者の要介護度	112
[2]	入所・入居者の医療処置の状況	113

(3)	過去1年間の入所・入居、退去の状況.....	114
[1]	過去1年間の新規入所・入居者の以前の居場所.....	114
[2]	過去1年間の退去者の状況.....	116
(4)	入所・入居者の退去理由.....	119
資料編（各種調査票）.....		121
(1)	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	121
(2)	在宅介護実態調査.....	139
(3)	在宅生活改善調査.....	154
(4)	居所変更実態調査.....	159

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本市における高齢者をとりまく課題等を抽出し、高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)策定の基礎資料とすることを目的に「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」、「在宅介護実態調査」、「介護保険サービス事業所調査(在宅生活改善調査、居所変更実態調査)」を実施した。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査の設問項目については、国が示した必須項目とオプション項目に小郡市独自の設問を加えて作成した。

在宅生活改善調査、居所変更実態調査の設問項目は、「介護保険事業計画における施策反映のための手引き(令和元年7月)」(以下、「手引き」という。)において国が示した調査項目に準拠した。

2. 調査設計

(1) 調査対象者

[1] 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査名	調査対象	発送件数
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	小郡市内在住の65歳以上の高齢者 (要介護1～5の認定を受けている方以外)の方	1,000件

[2] 在宅介護実態調査

調査名	調査対象	発送件数
在宅介護実態調査	小郡市内在住の要支援・要介護認定を受けて在宅で生活している方	1,000件

[3] 介護保険サービス事業所調査

調査名	調査対象	調査票の種類
在宅生活改善調査	・居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所 ・上記に所属するケアマネジャー	●事業所票 ●利用者票 (ケアマネジャーが回答)
居所変更実態調査	・施設系・居住系サービス事業所 (住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅を含む)	●事業所票

(2) 調査期間及び調査手法

[1] 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査期間：令和2年3月9日～3月31日（回収の予備期間も含む）

調査手法：郵送による配布回収

[2] 在宅介護実態調査

調査期間：令和2年3月9日～3月31日（回収の予備期間も含む）

調査手法：郵送による配布回収

[3] 在宅生活改善調査

調査期間：令和2年3月9日～3月31日（回収の予備期間も含む）

調査手法：郵送による配布回収

[4] 居所変更実態調査

調査期間：令和2年3月9日～3月31日（回収の予備期間も含む）

調査手法：郵送による配布回収

3. 回収状況

[1] 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

発送数：1,000 部

回収数：636 部

回収率：63.6%

[2] 在宅介護実態調査

発送数：1,000 部

回収数：594 部

回収率：59.4%

[3] 在宅生活改善調査

発送数：16 部

回収数：10 部（事業者票）、74 件（利用者票）

回収率：62.5%

[4] 居所変更実態調査

発送数：26 部

回収数：24 部

回収率：92.3%

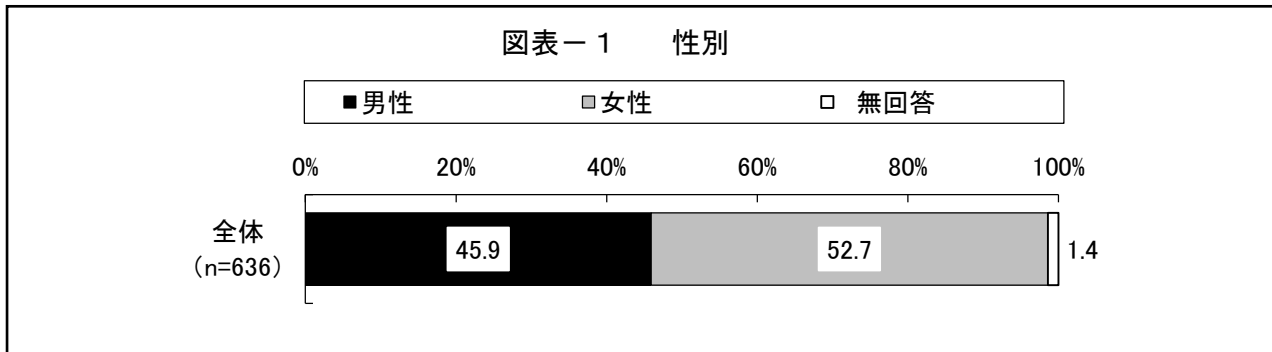
4. 調査結果の見方

- 回答は、原則として各質問の「調査数」を基数(n)とした百分率(%)で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- 性別・年齢、圏域等の基本属性等とのクロス集計においては、原則として、表側の各属性等の「無回答」を表示していない。ただし、「全体」は属性の「無回答」も含んでいる。
- クロス集計等において、基数(n)となる調査数が少数となる場合は参考までに数値をみる程度に留め、結果の利用には注意を要する。
- 在宅介護実態調査、在宅生活改善調査、居所変更実態調査の調査結果については、国が公表している自動集計ソフトを用いた分析結果から主要なものを抜粋し掲載している。

第2章 調査結果：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

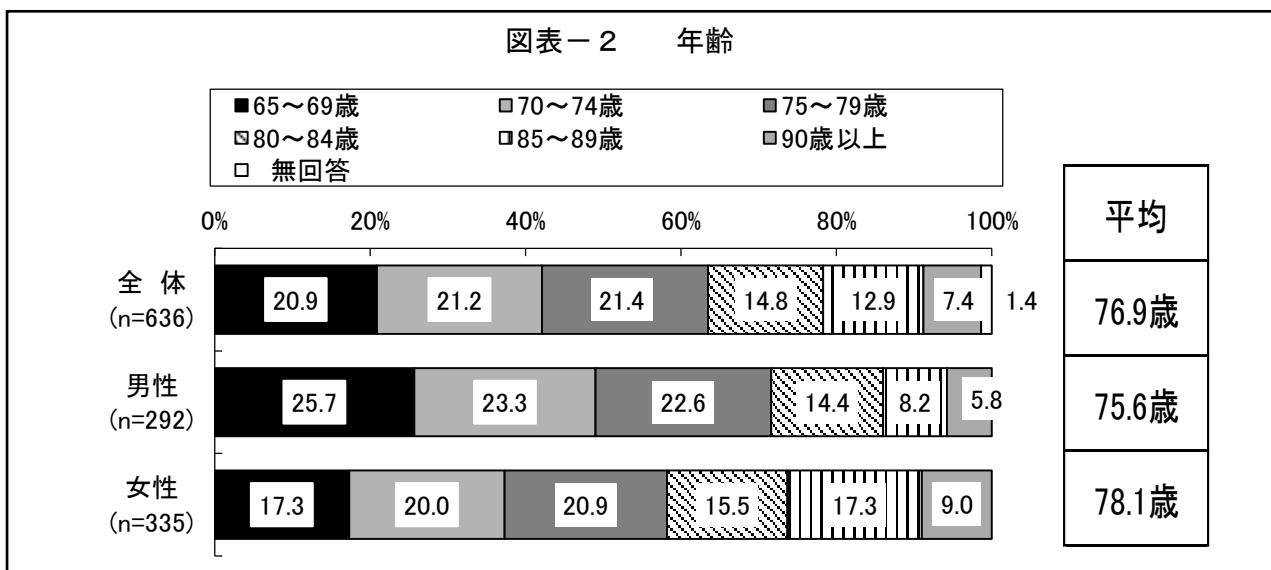
1. 回答者の基本属性

(1) 性別



回答者の性別は「男性」が 45.9%、「女性」が 52.7%である。

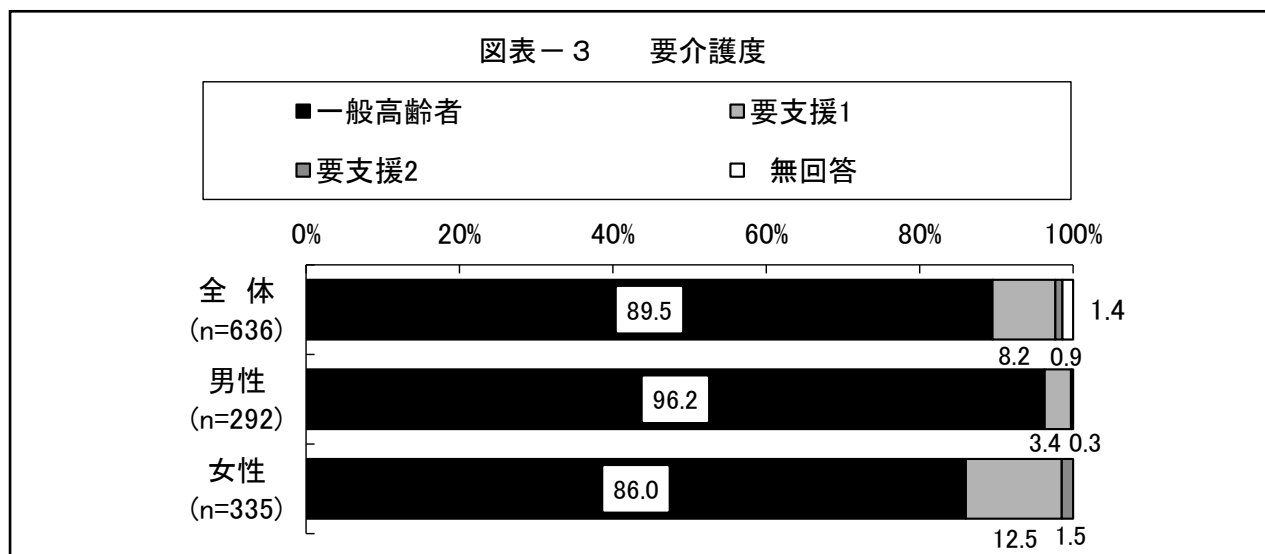
(2) 年齢



回答者の年齢は、「75～79歳」が 21.4%、次いで「70～74歳」が 21.2%、「65～69歳」が 20.9%である。

平均年齢は 76.9歳（男性 75.6歳、女性 78.1歳）である。

(3) 要介護度



回答者の要介護度別の内訳は、要介護（要支援）認定を受けていない高齢者（以下、「一般高齢者」という。）が 89.5%であり、次いで「要支援 1」が 8.2%、「要支援 2」が 0.9%である。

(4) 小学校区別基本属性

前述の基本属性を、小学校区別にみると以下のとおりである。

図表－4 小学校区別基本属性

(上段:実数、下段:%)

		全 体	性別			年齢							要介護度			
			男 性	女 性	無 回 答	6 5 5 6 9 歳	7 0 5 7 4 歳	7 5 7 9 歳	8 0 5 8 4 歳	8 5 5 8 9 歳	9 0 歳 以 上	無 回 答	一 般 高 齢 者	要 支 援 1	要 支 援 2	無 回 答
全 体		636 100.0	292 45.9	335 52.7	9 1.4	133 20.9	135 21.2	136 21.4	94 14.8	82 12.9	47 7.4	9 1.4	569 89.5	52 8.2	6 0.9	9 1.4
小 学 校 区 別	小郡小学校区	134 100.0	68 50.7	66 49.3	－	25 18.7	34 25.4	27 20.1	21 15.7	17 12.7	10 7.5	－	119 88.8	13 9.7	2 1.5	－
	大原小学校区	94 100.0	38 40.4	56 59.6	－	26 27.7	19 20.2	21 22.3	10 10.6	13 13.8	5 5.3	－	83 88.3	11 11.7	－	－
	三国小学校区	182 100.0	91 50.0	91 50.0	－	41 22.5	41 22.5	40 22.0	26 14.3	21 11.5	13 7.1	－	175 96.2	7 3.8	－	－
	立石小学校区	50 100.0	15 30.0	35 70.0	－	10 20.0	7 14.0	11 22.0	10 20.0	8 16.0	4 8.0	－	43 86.0	6 12.0	1 2.0	－
	御原小学校区	31 100.0	15 48.4	16 51.6	－	5 16.1	7 22.6	6 19.4	5 16.1	5 16.1	3 9.7	－	29 93.5	2 6.5	－	－
	味坂小学校区	34 100.0	15 44.1	19 55.9	－	8 23.5	7 20.6	6 17.6	6 17.6	6 17.6	1 2.9	－	31 91.2	2 5.9	1 2.9	－
	東野小学校区	62 100.0	32 51.6	30 48.4	－	9 14.5	14 22.6	18 29.0	8 12.9	8 12.9	5 8.1	－	53 85.5	8 12.9	1 1.6	－
	のぞみが丘小学校区	40 100.0	18 45.0	22 55.0	－	9 22.5	6 15.0	7 17.5	8 20.0	4 10.0	6 15.0	－	36 90.0	3 7.5	1 2.5	－

2. 要支援・要介護リスク評価項目別の結果

以下では、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から算出可能な高齢者の生活機能・日常生活・社会参加等に係る要支援・要介護リスク評価項目におけるリスク者の割合等をもとに、本市における高齢者の状況把握をおこなう。

(1) 運動器機能

〔1〕 評価方法

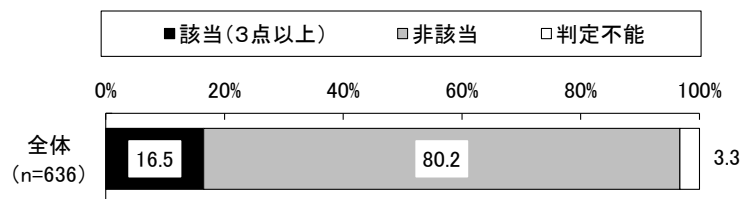
運動器機能に関する下記の設問5項目のうち、3項目（点）に該当する場合、「リスク者」（運動器機能の低下）と判定する。

図表－5 運動器機能の評価関連項目と回答結果

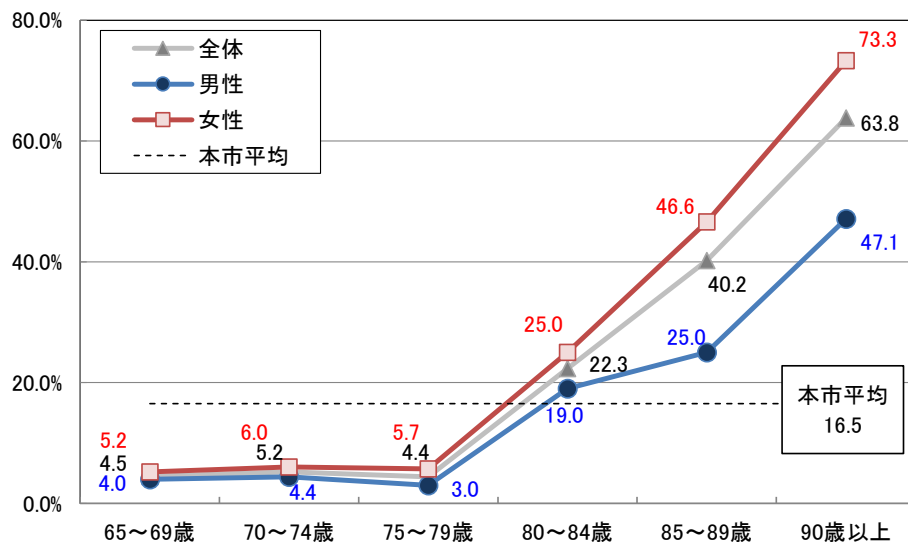
設問			該当する選択肢
問2	(1)	階段を手すりを使わずに昇っていますか	3. できない
問2	(2)	椅子に座った状態から何にもつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問2	(3)	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問2	(4)	過去一年に転んだ経験はありますか	1. 何度もある/2. 一度ある
問2	(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である/ 2. やや不安である

〔2〕 該当状況（全体及び性・年齢別）

図表－6 運動器機能の評価結果



図表－7 性・年齢別 運動器機能の評価結果（リスク者〔該当〕の割合）



運動器機能のリスク者の割合は16.5%である。

性・年齢別では、いずれの年齢階級でも女性の方が高い。男女ともに80歳以上の年齢階級で該当率が増加し、90歳以上では女性73.3%、男性47.1%に達する。男性は85歳以上の年齢階級で一度、増加幅が緩やかになる（男性80～84歳19.0%、男性85～89歳25.0%）。

(2) 低栄養

[1] 評価方法

低栄養リスクに関する下記の設問 2 項目のすべて (2 点) に該当する場合、「リスク者」(低栄養傾向) と判定する。

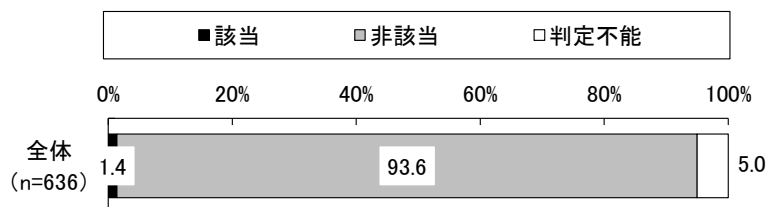
(※BMI=体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})

図表-8 低栄養の評価関連項目と回答結果

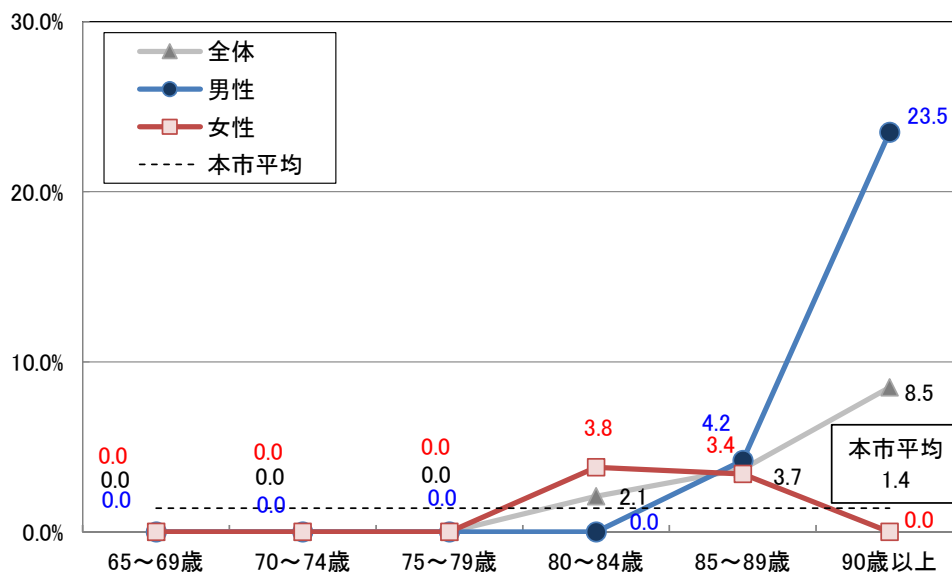
設問			該当する選択肢
問 3	(1)	身長・体重 BMI	BMI < 18.5
問 3	(8)	6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

[2] 該当状況 (全体及び性・年齢別)

図表-9 低栄養の評価結果



図表-10 性・年齢別 低栄養の評価結果 (リスク者 [該当] の割合)



低栄養リスク者の割合は1.4%である。

性・年齢別では、男女ともに79歳以下の年齢階級では0.0%である。女性は80~84歳で3.8%と最も高くなり、その後、減少し、90歳以上では0.0%である。男性は85~89歳から増加をはじめ4.2%、90歳以上では23.5%である (ただし、男性90歳以上のリスク該当者は4人であることに注意する必要がある)。

(3) そしゃく機能

[1] 評価方法

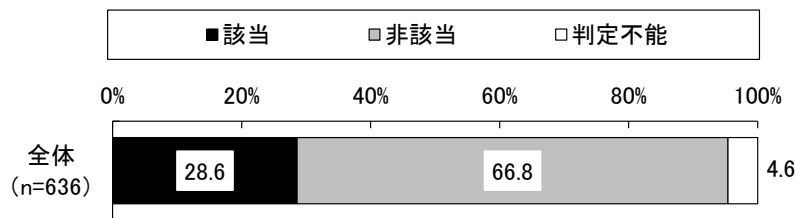
そしゃく機能に関する下記の設問に該当する場合、「リスク者」(そしゃく機能低下)と判定する。

図表－11 そしゃく機能の評価関連項目と回答結果

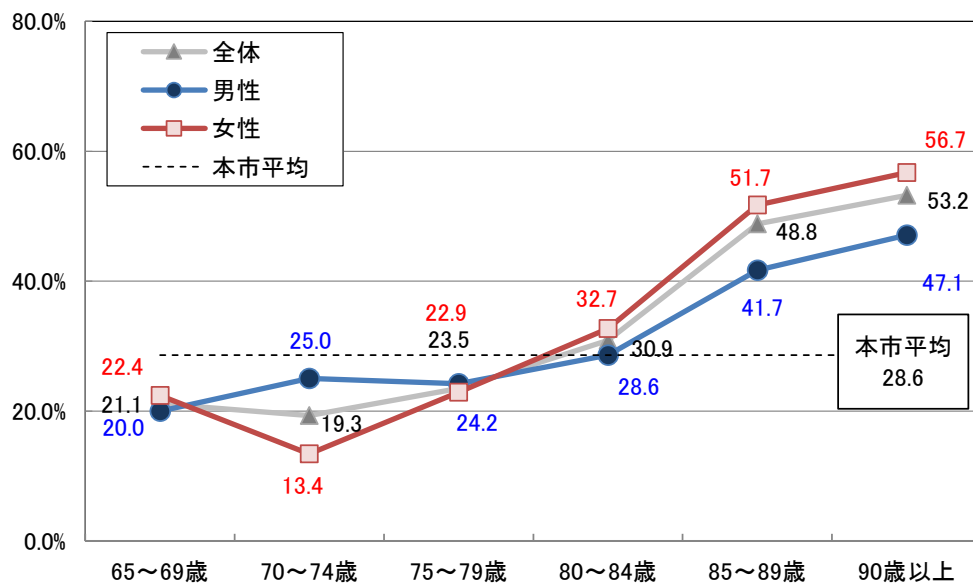
設問			該当する選択肢
問3	(2)	半年前に固いものが食べにくくなりましたか	1. はい

[2] 該当状況（全体及び性・年齢別）

図表－12 そしゃく機能の評価結果



図表－13 性・年齢別 そしゃく機能の評価結果（リスク者〔該当〕の割合）



そしゃく機能リスク者の割合は28.6%である。

性・年齢別では男女ともに80歳以上の年齢階級で増加しはじめ（男性80～84歳28.6%、男性85～89歳41.7%、女性80～84歳32.7%、女性85～89歳51.7%）、90歳以上では男性47.1%、女性56.7%である。

(4) 口腔機能

[1] 評価方法

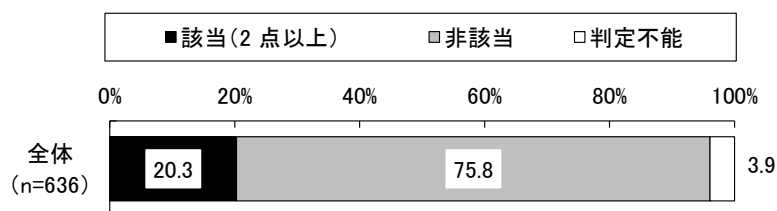
口腔機能に関する下記の設問3項目のうち、2項目(点)に該当する場合、「リスク者」(口腔機能低下)と判定する。

図表-14 口腔機能の評価関連項目と回答結果

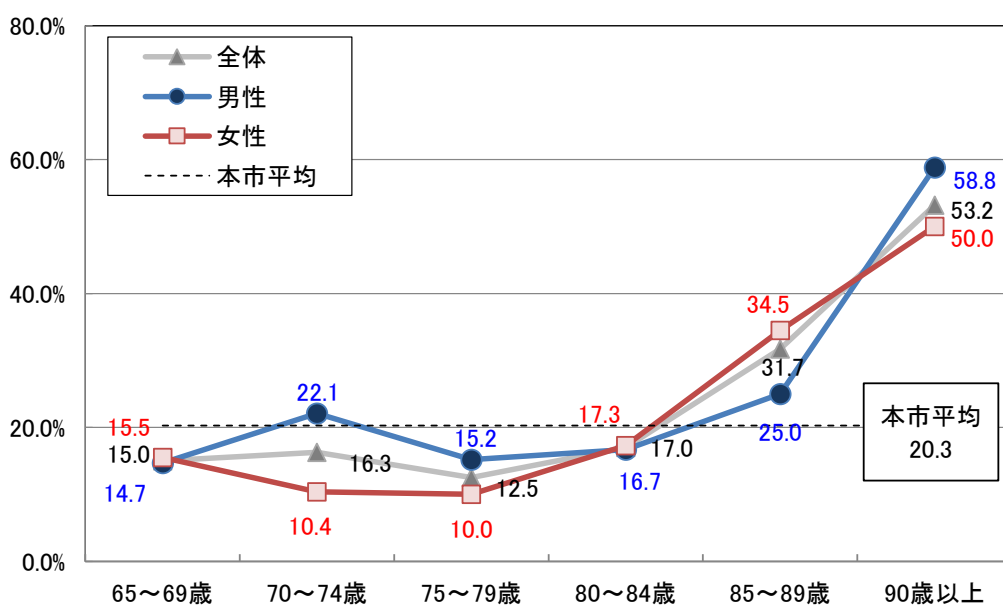
設問			該当する選択肢
問3	(2)	半年前に固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問3	(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問3	(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい

[2] 該当状況(全体及び性・年齢別)

図表-15 口腔機能の評価結果



図表-16 性・年齢別 口腔機能の評価結果(リスク者[該当]の割合)



口腔機能リスク者の割合は20.3%である。

性・年齢別では、男女とも80歳以上の年齢階級から増加しはじめる。女性は80歳以降、均一な増加傾向を示している(女性80~84歳17.3%、女性85~89歳34.5%、女性90歳以上50.0%)。一方、男性は80~84歳16.7%以降から増加がはじまり、85~89歳25.0%までは女性と比べ緩やかな増加となっているものの、90歳以上では58.8%と急激に増加している。

(5) 閉じこもり

〔1〕 評価方法

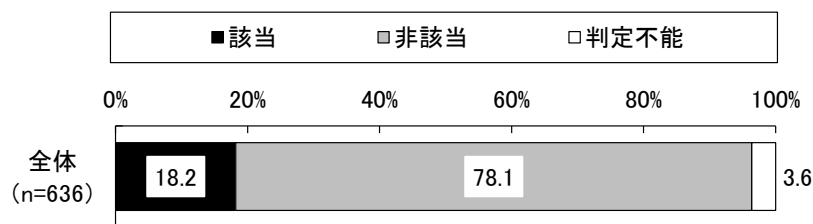
閉じこもり傾向に関する下記の設問に該当する場合、「リスク者」(閉じこもり傾向)と判定する。

図表－17 閉じこもりの評価関連項目と回答結果

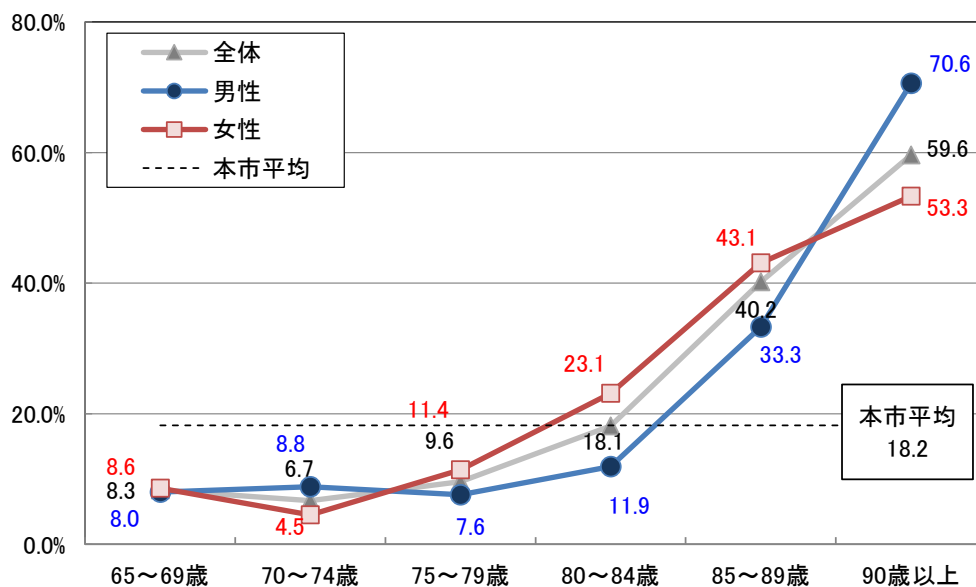
設問			該当する選択肢
問2	(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

〔2〕 該当状況（全体及び性・年齢別）

図表－18 閉じこもりの評価結果



図表－19 性・年齢別 閉じこもりの評価結果（リスク者〔該当〕の割合）



閉じこもりリスク者の割合は、全体で18.2%である。

性・年齢別では、女性は74歳以降、85～89歳の年齢階級まで一定の増加傾向にあり、90歳以上では53.3%である。男性は、84歳までは10%前後で推移し、85歳以降の年齢階級で増加する（男性85～89歳33.3%、男性90歳以上70.6%）。

(6) 認知機能

[1] 評価方法

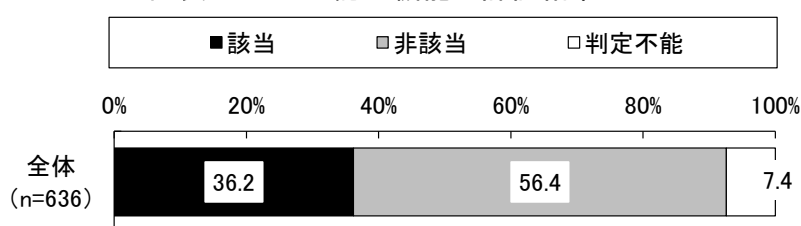
認知機能に関する下記の設問 3 項目のうち、1 項目 (点) に該当する場合、「リスク者」(認知機能低下) と判定する。

図表－20 認知機能の評価関連項目と回答結果

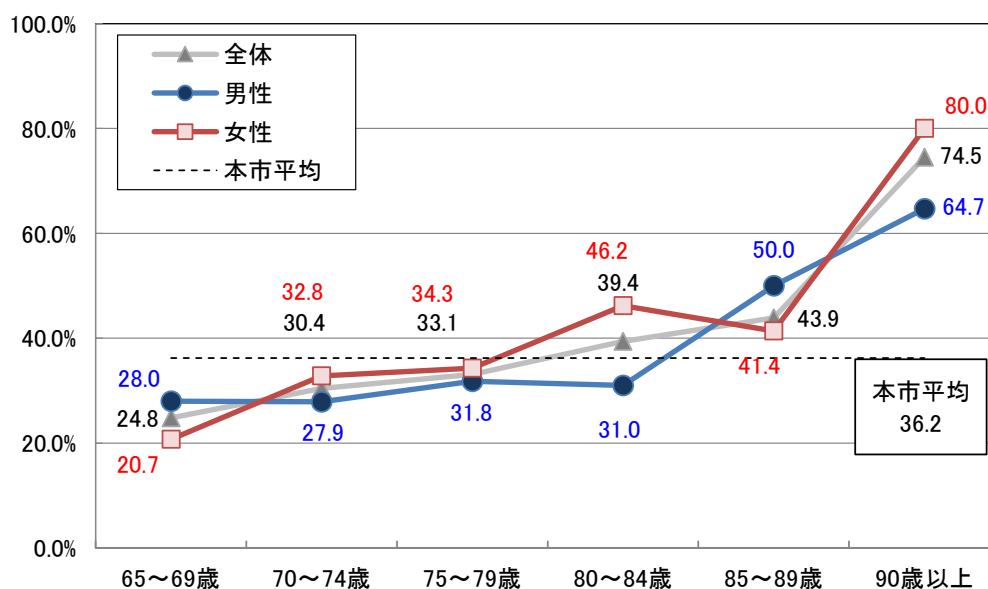
設問			該当する選択肢
問4	(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問4	(2)	自分で電話番号を調べて電話を掛けることをしていますか	2. いいえ
問4	(3)	今日が何月何日か分からないときがありますか	1. はい

[2] 該当状況 (全体及び性・年齢別)

図表－21 認知機能の評価結果



図表－22 性・年齢別 認知機能の評価結果 (リスク者 [該当] の割合)



認知機能低下リスク者の割合は、全体で 36.2%である。

性・年齢別では、65～69 歳、85～89 歳を除く年齢階級で女性の方が高くなっている (男性 65～69 歳 28.0%、女性 65～69 歳 20.7%、男性 85～89 歳 50.0%、女性 85～89 歳 41.4%)。

(7) うつ傾向

[1] 評価方法

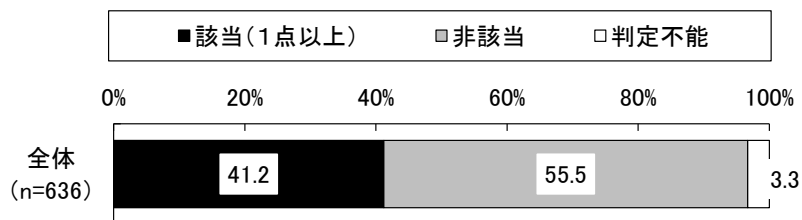
うつ傾向に関する下記の設問 2 項目のうち、いずれかに該当する場合、「リスク者」（うつ傾向）と判定する。

図表－2 3 うつ傾向の評価関連項目と回答結果

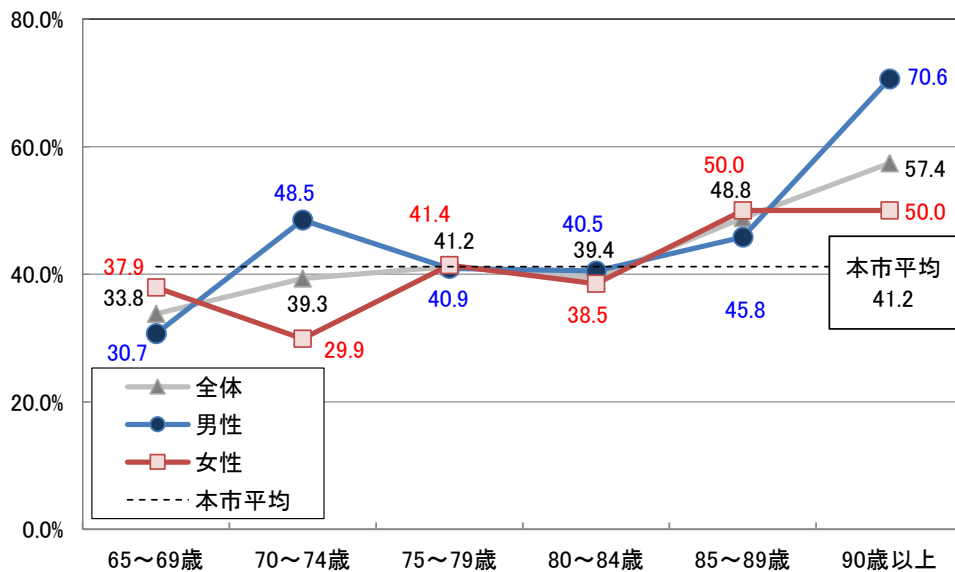
設問			該当する選択肢
問7	(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問7	(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

[2] 該当状況（全体及び性・年齢別）

図表－2 4 うつ傾向の評価結果



図表－2 5 性・年齢別 うつ傾向の評価結果（リスク者〔該当〕の割合）



うつ傾向リスク者の割合は41.2%である。

性・年齢別では、70～74歳、90歳以上を除く年齢階級では男女差はあまり大きくない。70～74歳では男性48.5%、女性29.9%で約20ポイント男性が高い。90歳以上でも男性70.6%、女性50.0%で男性の方が約20ポイント高い。

(8) 転倒リスク

[1] 評価方法

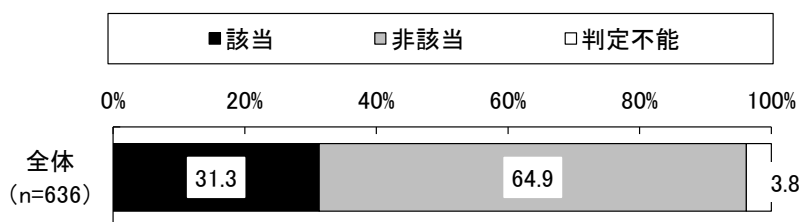
転倒リスクに関する下記の設問に該当する場合、「リスク者」(転倒リスク保有)と判定する。

図表－２６ 転倒リスクの評価関連項目と回答結果

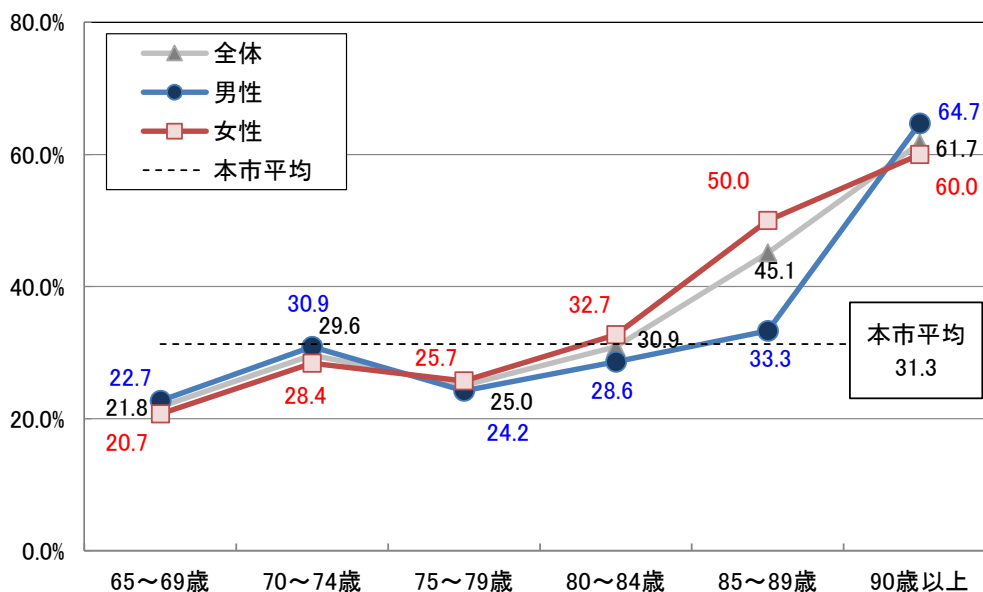
設問			該当する選択肢
問2	(4)	過去一年に転んだ経験はありますか	1. 何度もある 2. 一度ある

[2] 該当状況(全体及び性・年齢別)

図表－２７ 転倒リスクの評価結果



図表－２８ 性・年齢別 転倒リスクの評価結果(リスク者[該当]の割合)



転倒リスク者の割合は、全体で31.3%である。

性・年齢別では、75～79歳までは男女に大きな差はみられない。80～84歳、85～89歳では女性の方が高くなっている(男性80～84歳28.6%、女性80～84歳32.7%、男性85～89歳33.3%、女性85～89歳50.0%)。90歳以上では男性の方が高く、男性64.7%、女性60.0%である。

(9) IADL (手段的自立度)

[1] 評価方法

IADL に関する下記の設問 5 項目のうち、該当数が 3 項目 (点) 以下の場合、「リスク者」(IADL 低下) と判定する。

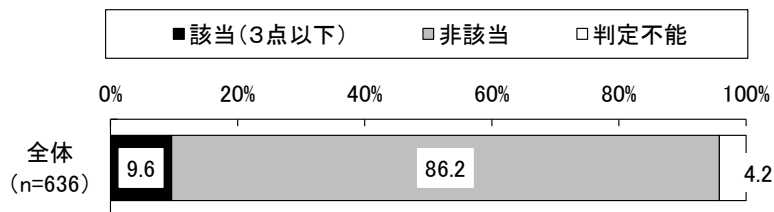
※5 点を「高い」、4 点を「やや低い」、3 点以下を「低い」(リスク者) と判定する。

図表-29 IADL の評価関連項目と回答結果

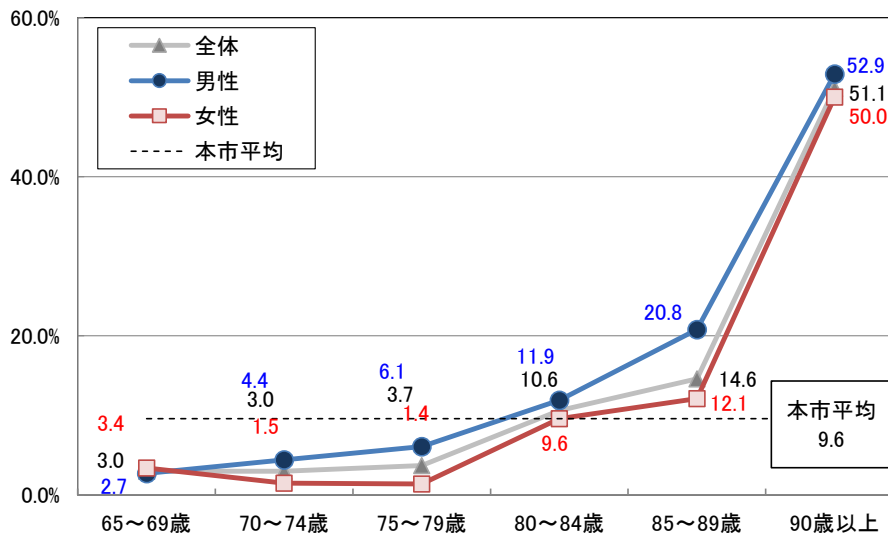
設問			該当する選択肢
問4	(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4	(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4	(6)	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4	(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4	(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない

[2] 該当状況 (全体及び性・年齢別)

図表-30 IADL の評価結果



図表-31 性・年齢別 IADL の評価結果 (リスク者 [該当] の割合)



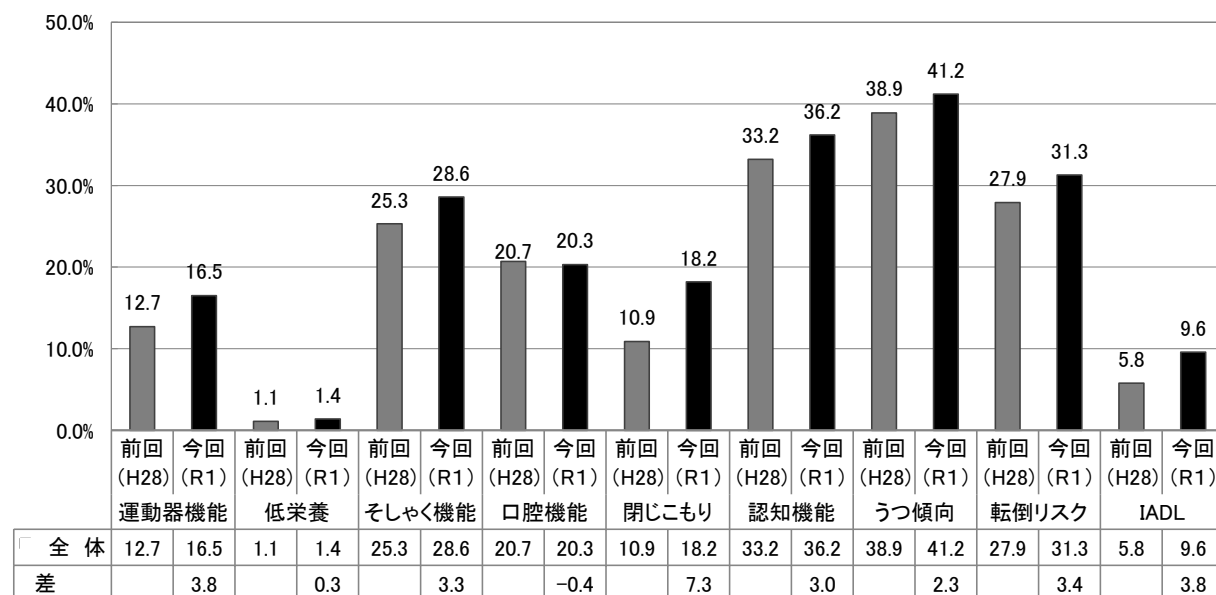
IADL 低下リスク者の割合は 9.6% である。

性・年齢別では、65~69 歳 (男性 2.7%、女性 3.4%) を除くすべての年齢階級で男性の方が高い。女性は 85~89 歳でやや増加傾向が緩やかになるものの (女性 80~84 歳 9.6%、女性 85~89 歳 12.1% で約 3 ポイントの増加)、90 歳以上では急激に増加する (女性 90 歳以上 50.0% で約 38 ポイントの増加)。

(10) 要支援・要介護リスク評価項目の経年比較

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から算出可能な高齢者の生活機能・日常生活・社会参加等に係る各評価項目リスク者割合の前回調査（平成 28 年度小郡市高齢者在宅介護実態調査結果報告書：H29 年（2017）3 月実施）との比較を行った。

図表－３２ 要支援・要介護リスク評価項目の前回調査との比較

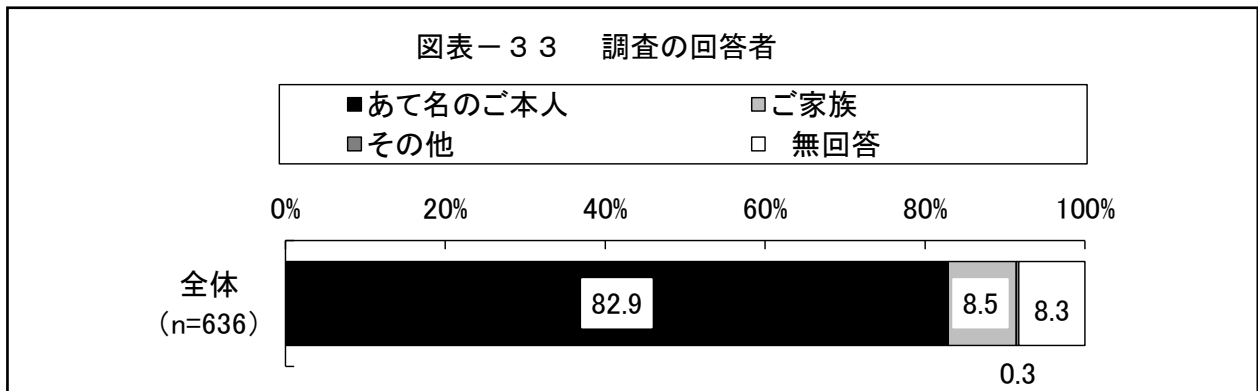


前回調査(H28)n=796、今回調査(R1)n=636

前回調査との比較では、最も前回調査との差が大きいのは「閉じこもり」であり、今回調査が18.2%、前回調査が10.9%で、+7.3ポイントである。次いで「運動器機能」、「IADL」が+3.8ポイント、「転倒リスク」が+3.4ポイントである。

3. 調査結果の詳細

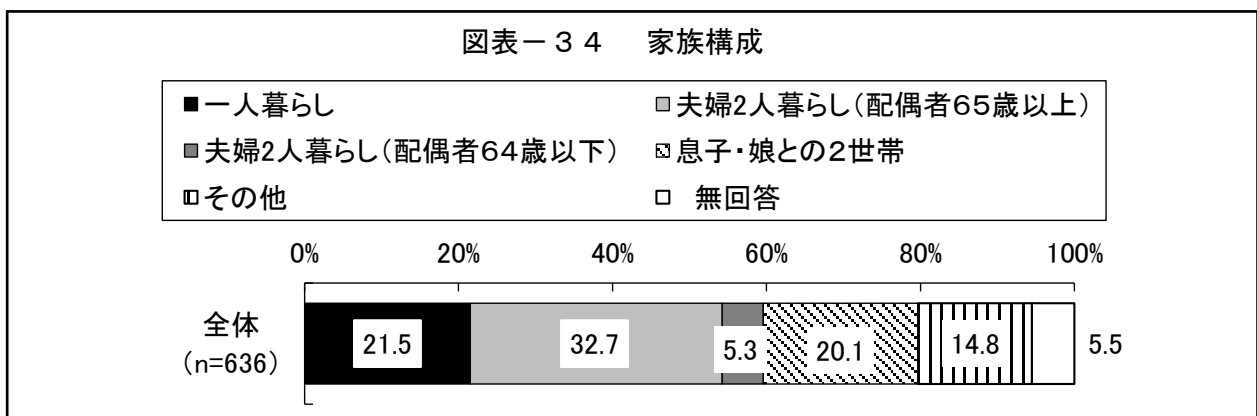
(1) 調査の回答者



調査の回答者は、「あて名のご本人」が最も高く 82.9%である。次いで「ご家族」が 8.5%である。

(2) ご家族や生活状況について【問1】

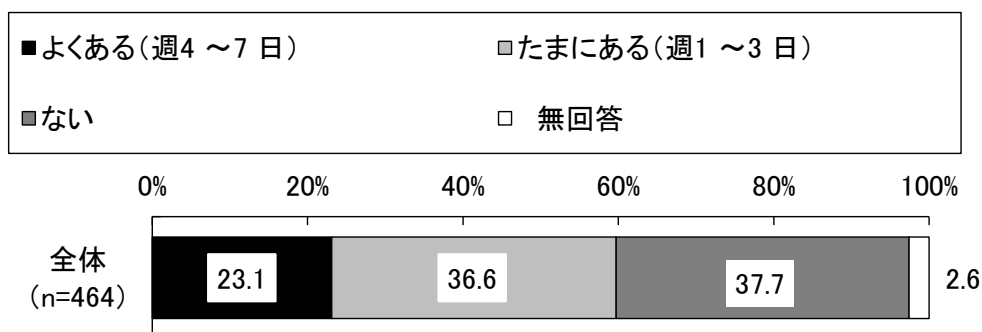
[1] 家族構成



家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が 32.7%で最も高く、次いで「一人暮らし」21.5%、「息子・娘との2世帯」20.1%である。

〔2〕 日中、一人になる時間の有無

図表－35 日中、一人になる時間の有無



日中一人になる時間の有無は、「ない」が37.7%で最も高く、次いで「たまにある(週1～3日)」が36.6%、「よくある(週4～7日)」が23.1%である。

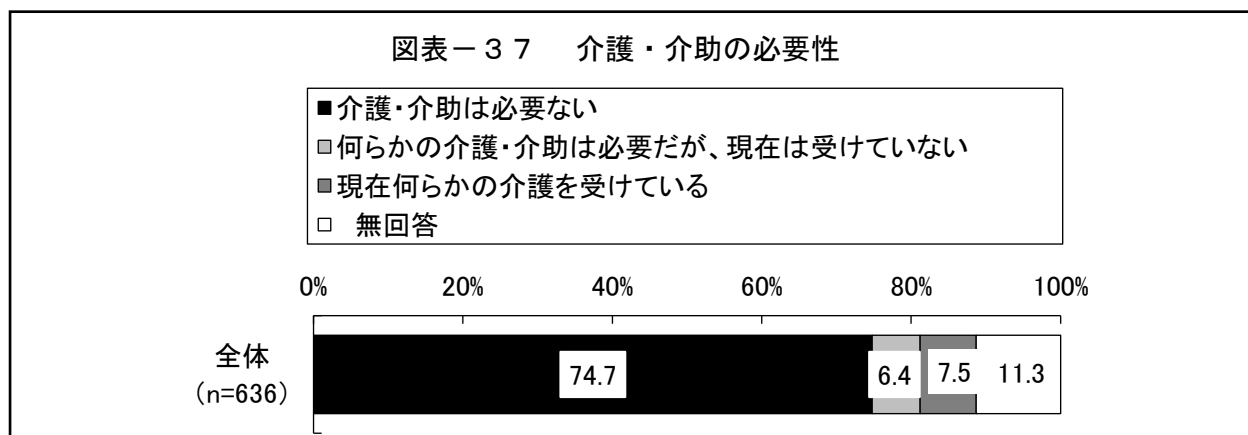
〔3〕 一人になる時間帯

図表－36 一人になる時間帯

		終了時間												
	0～9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21～24時	
開始時間	0～6時	19	1	1						1	1	2	1	
	7時		1				2		2	5	4	4	2	
	8時		2	3	8	2	6	2	3	9	8	8	7	1
	9時			3	12	2	4	3	10	13	4		3	1
	10時		1	4	16	5	3	3	13	6	3			2
	11時				2	2		4	3	2	1			1
	12時						1	4	6	3			1	
	13時							6	10	12	2	1		1
	14時							2	5	5	1			1
	15時								1	4	1			
	16時										3			2
	17時										1	1		2
	18～24時											2	2	3

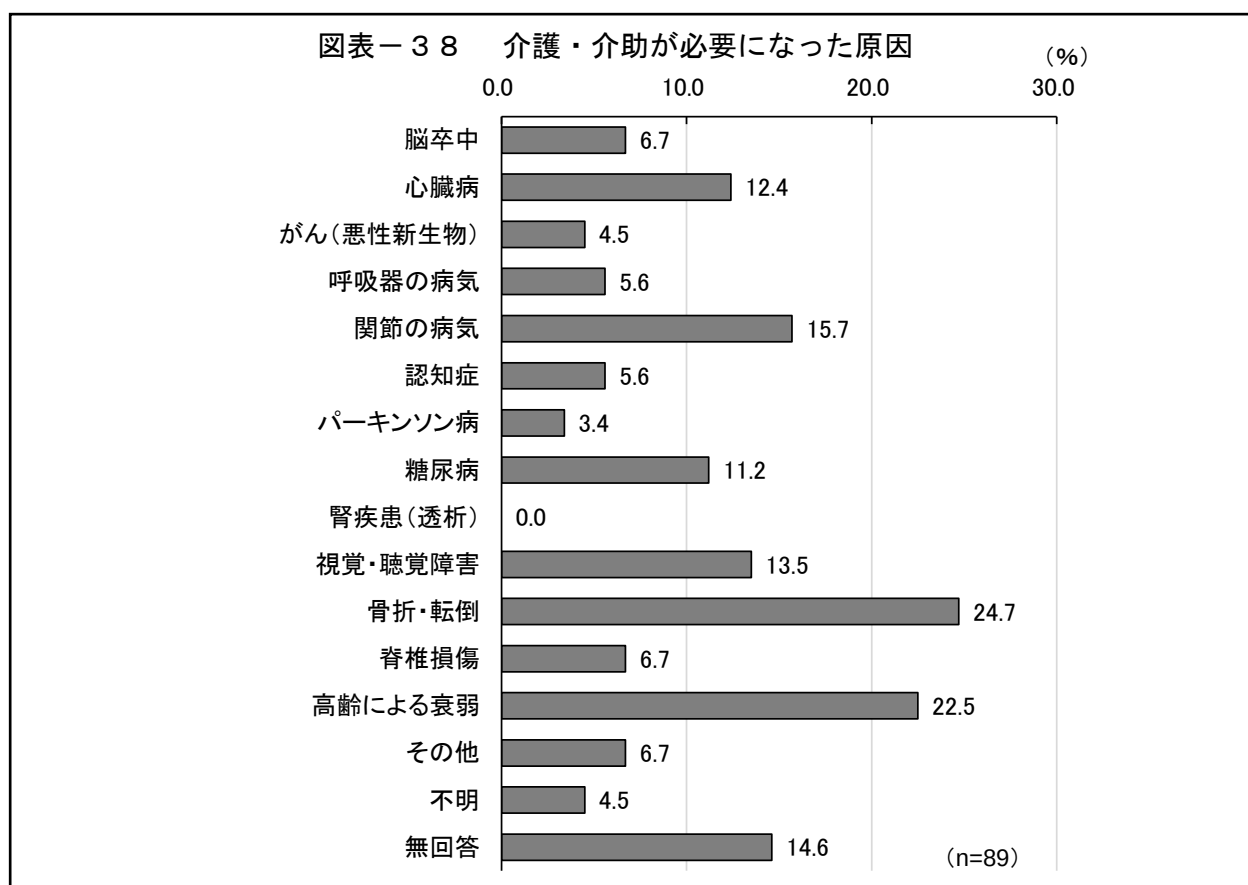
一人になる時間帯は、0～6時の間から一人になり、0～9時の間に家族が帰宅する家庭が最も多く、10時～12時の間が次いで多い、10時～16時、9時～17時なども多くなっている。

〔4〕 介護・介助の必要性



介護・介助の必要性は、「介護・介助は必要ない」74.7%が最も高い。次いで「現在何らかの介護を受けている」が7.5%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.4%である。

〔5〕 介護・介助が必要になった原因



「介護・介助の必要性」で「1. 介護・介助は必要ない」以外の回答をした人（89人）に「介護・介助が必要になった原因」を尋ねた（複数回答）。

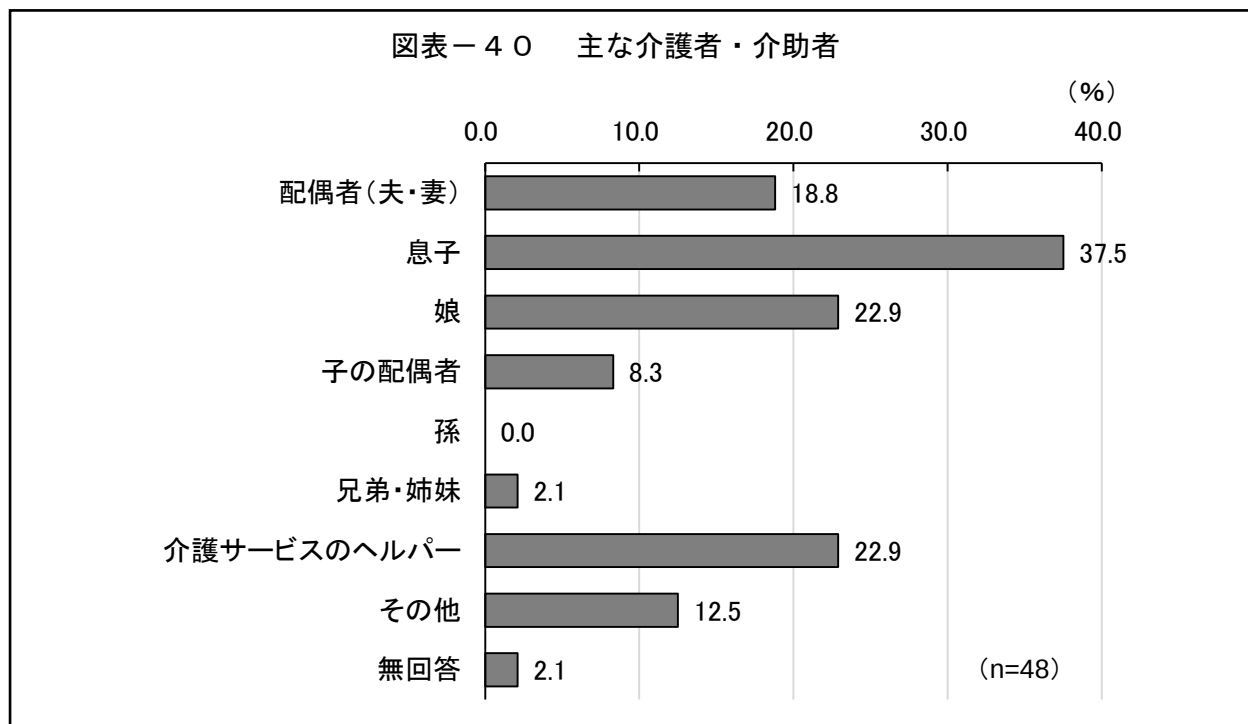
全体では、「骨折・転倒」24.7%が最も高く、次いで「高齢による衰弱」22.5%、「関節の病気」15.7%である。

図表－３９ 性・年齢別：介護・介助が必要になった原因（複数回答）

			(%)							
		全 体	脳 卒 中	心 臓 病	が ん	呼 吸 器 の 病 気	関 節 の 病 気	認 知 症	パ ー キン ソン 病	糖 尿 病
全 体		89	6.7	12.4	4.5	5.6	15.7	5.6	3.4	11.2
性・ 年 齢 別	男性全体	28	3.6	21.4	3.6	10.7	14.3	3.6	7.1	14.3
	男性65～69歳	3	－	－	－	－	－	33.3	－	－
	男性70～74歳	5	－	－	20.0	－	20.0	－	－	20.0
	男性75～79歳	2	50.0	－	－	－	－	－	－	－
	男性80～84歳	5	－	40.0	－	－	20.0	－	20.0	40.0
	男性85～89歳	5	－	20.0	－	20.0	20.0	－	－	－
	男性90歳以上	8	－	37.5	－	25.0	12.5	－	12.5	12.5
	女性全体	59	8.5	8.5	5.1	3.4	16.9	6.8	1.7	10.2
	女性65～69歳	3	66.7	－	－	－	－	－	－	－
	女性70～74歳	4	－	25.0	－	－	－	－	25.0	50.0
	女性75～79歳	4	－	25.0	－	－	－	－	－	－
	女性80～84歳	12	－	－	16.7	－	8.3	8.3	－	8.3
	女性85～89歳	17	5.9	－	5.9	5.9	35.3	5.9	－	11.8
	女性90歳以上	19	10.5	15.8	－	5.3	15.8	10.5	－	5.3
		全 体	腎 疾 患 （ 透 析 ）	視 覚 ・ 聴 覚 障 害	骨 折 ・ 転 倒	脊 椎 損 傷	高 齢 に よ る 衰 弱	そ の 他	不 明	無 回 答
全 体		89	－	13.5	24.7	6.7	22.5	6.7	4.5	14.6
性・ 年 齢 別	男性全体	28	－	21.4	14.3	10.7	32.1	3.6	－	17.9
	男性65～69歳	3	－	33.3	－	－	－	－	－	33.3
	男性70～74歳	5	－	－	－	20.0	20.0	20.0	－	40.0
	男性75～79歳	2	－	50.0	－	－	－	－	－	－
	男性80～84歳	5	－	20.0	－	20.0	－	－	－	20.0
	男性85～89歳	5	－	－	20.0	20.0	40.0	－	－	20.0
	男性90歳以上	8	－	37.5	37.5	－	75.0	－	－	－
	女性全体	59	－	10.2	30.5	5.1	16.9	8.5	5.1	13.6
	女性65～69歳	3	－	－	33.3	－	－	－	－	－
	女性70～74歳	4	－	25.0	50.0	－	－	－	－	25.0
	女性75～79歳	4	－	－	25.0	－	25.0	－	－	50.0
	女性80～84歳	12	－	－	33.3	8.3	8.3	25.0	－	8.3
	女性85～89歳	17	－	11.8	17.6	5.9	11.8	－	5.9	17.6
	女性90歳以上	19	－	15.8	36.8	5.3	31.6	10.5	10.5	5.3

性・年齢別では、男性は「高齢による衰弱」が最も高く 32.1%、女性は「骨折・転倒」が最も高く 30.5%である。

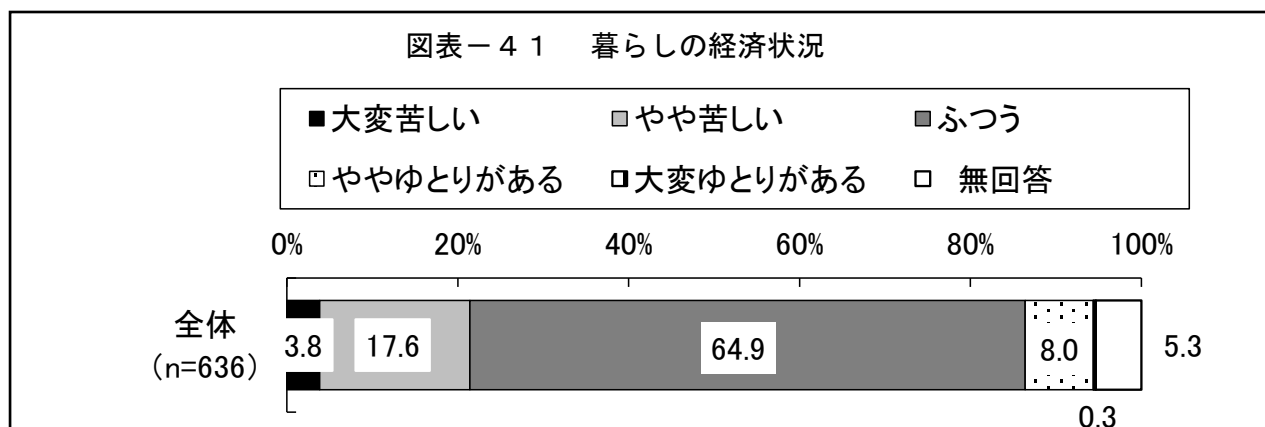
〔6〕 主な介護者・介助者



「介護・介助の必要性」で「3. 現在、何らかの介護・介助を受けている」と回答した回答者（48人）に「主な介護者・介助者」を尋ねた（複数回答）。

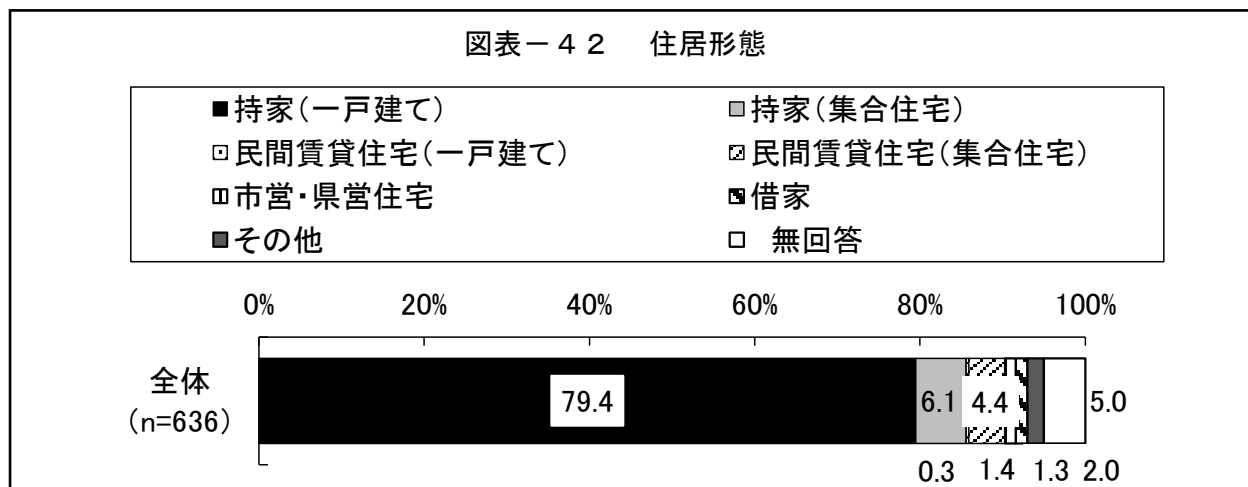
主な介護者・介助者は、「息子」37.5%が最も高く、次いで「娘」、「介護サービスのヘルパー」22.9%、「配偶者（夫・妻）」18.8%である。

〔7〕 暮らしの経済状況



暮らしの経済状況は、「ふつう」が64.9%で最も高く、次いで「やや苦しい」が17.6%、「ややゆとりがある」が8.0%である。

〔 8 〕 住居形態

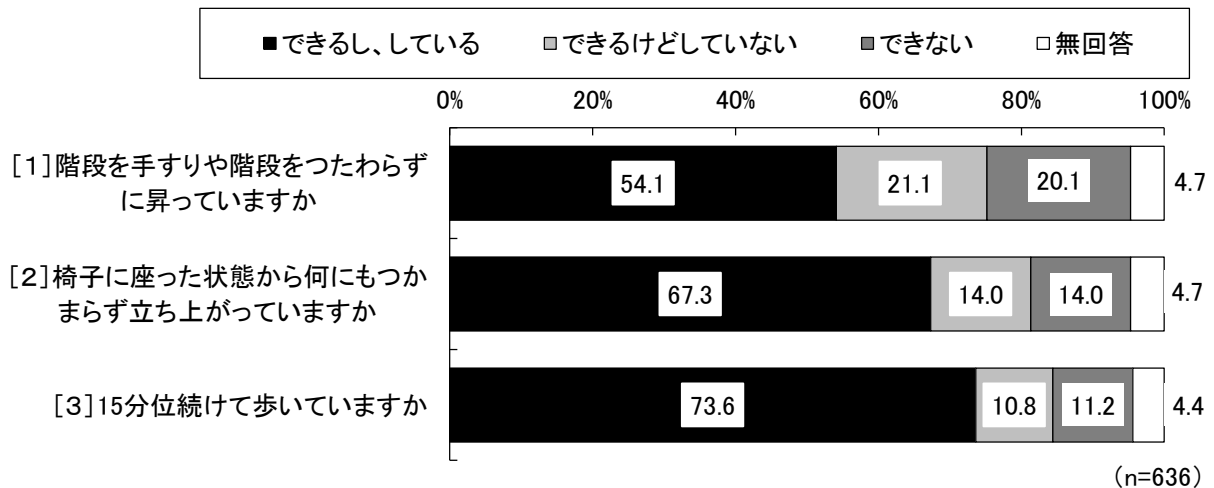


住居形態は、「持家（一戸建て）」が 79.4%で最も高い。次いで「持家（集合住宅）」6.1%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」4.4%である。

(3) からだを動かすことについて【問2】

- [1] 階段を手すりや壁をつたわず昇っていますか
[2] 椅子に座った状態から何にもつかまらず立ち上がっていますか
[3] 15分位続けて歩いていますか

図表－4 3 [1] ～ [3] 全体結果



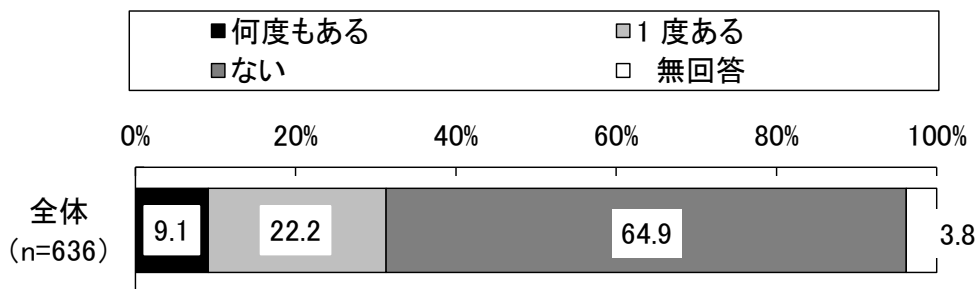
「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」は「できるし、している」が54.1%で最も高く、次いで「できるけど、していない」が21.1%である。

「椅子に座った状態から何にもつかまらず立ち上がっていますか」は「できるし、している」が67.3%で最も高く、次いで「できるけど、していない」、「できない」が14.0%である。

「15分位続けて歩いていますか」は「できるし、している」が73.6%で最も高く、次いで「できない」が11.2%である。

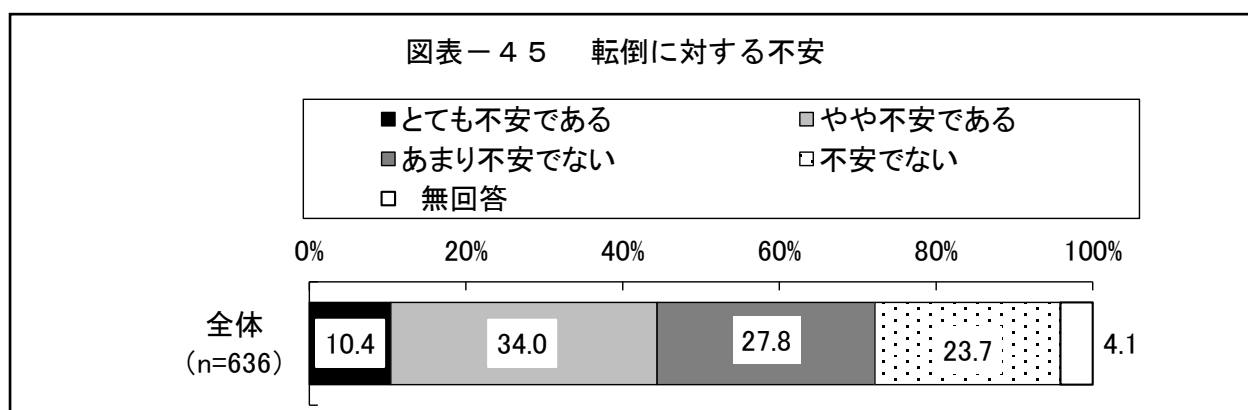
[4] 過去1年間に転んだ経験がありますか

図表－4 4 過去1年間に転んだ経験



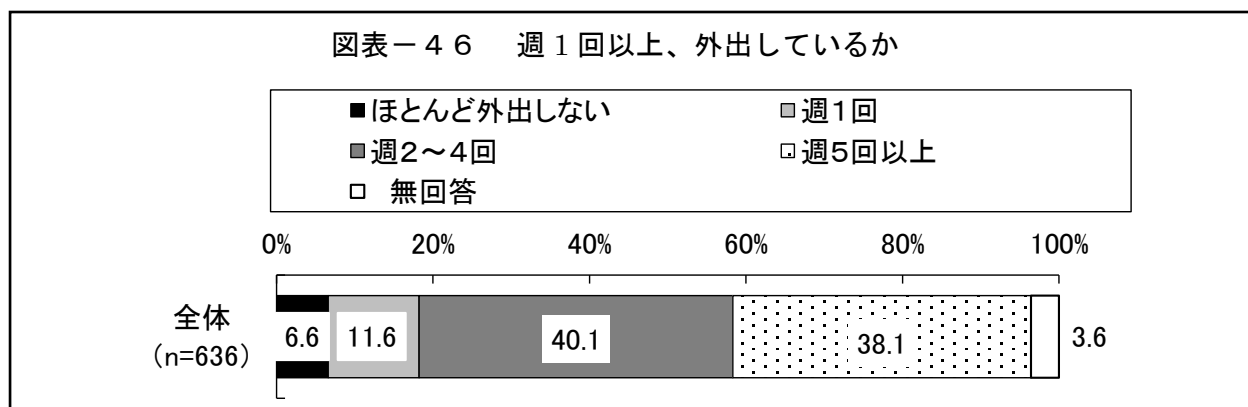
転倒経験については、「ない」が64.9%で最も高く、次いで「1度ある」が22.2%、「何度ある」が9.1%である。

〔５〕 転倒に対する不安は大きいですか



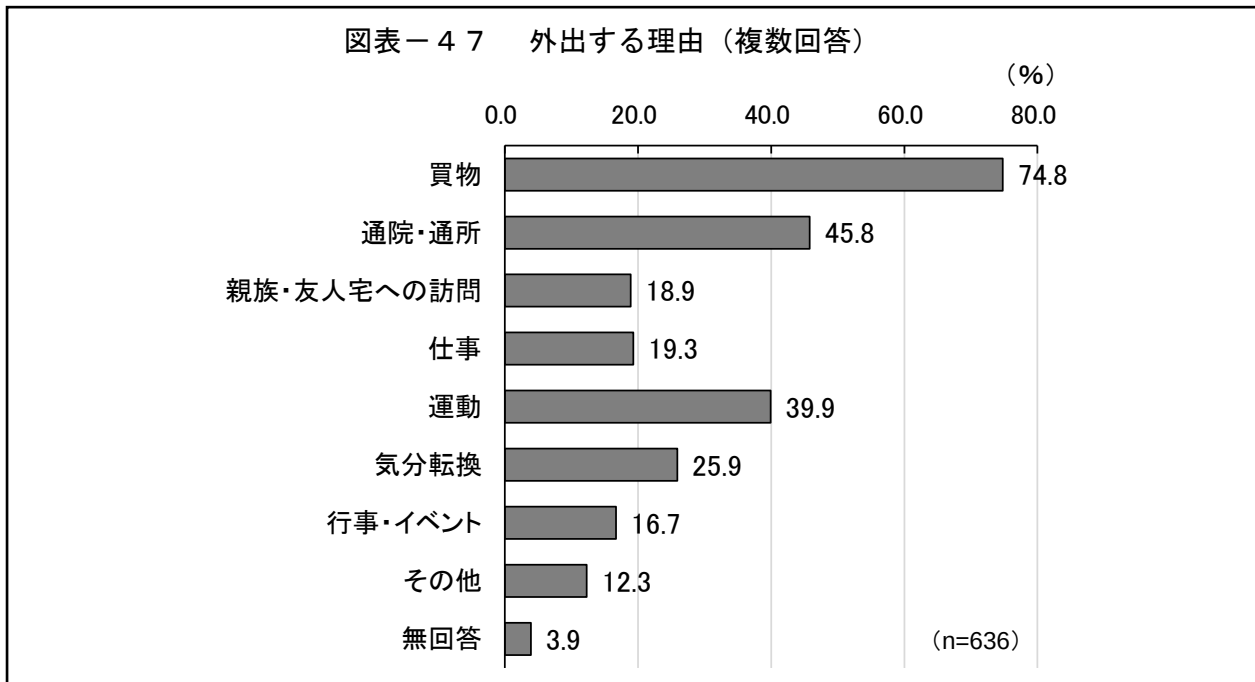
転倒に対する不安については、「やや不安」が 34.0%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が 27.8%、「不安でない」が 23.7%である。

〔６〕 週に１回以上は外出していますか



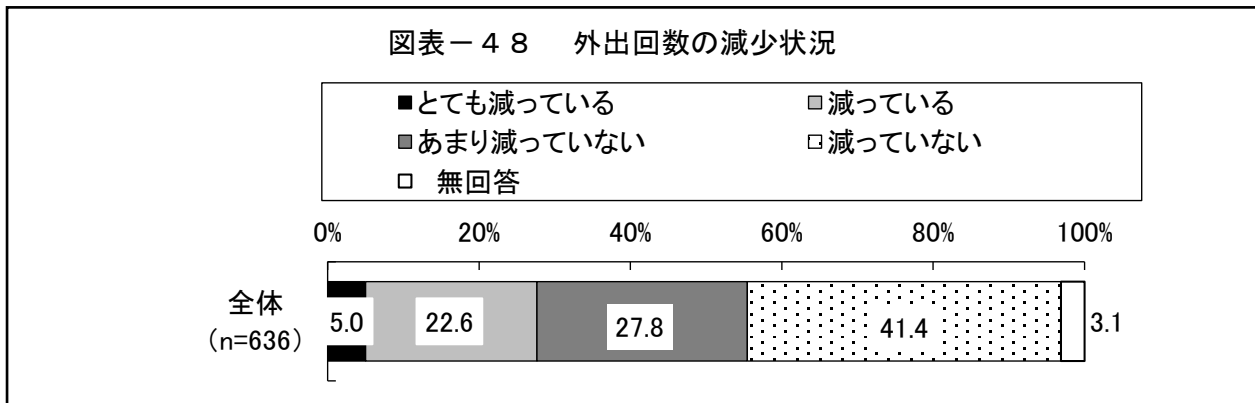
週の外出状況については、「週２～４回以上」が 40.1%で最も高く、次いで「週５回以上」が 38.1%、「週１回」が 11.6%である

〔7〕 外出する理由



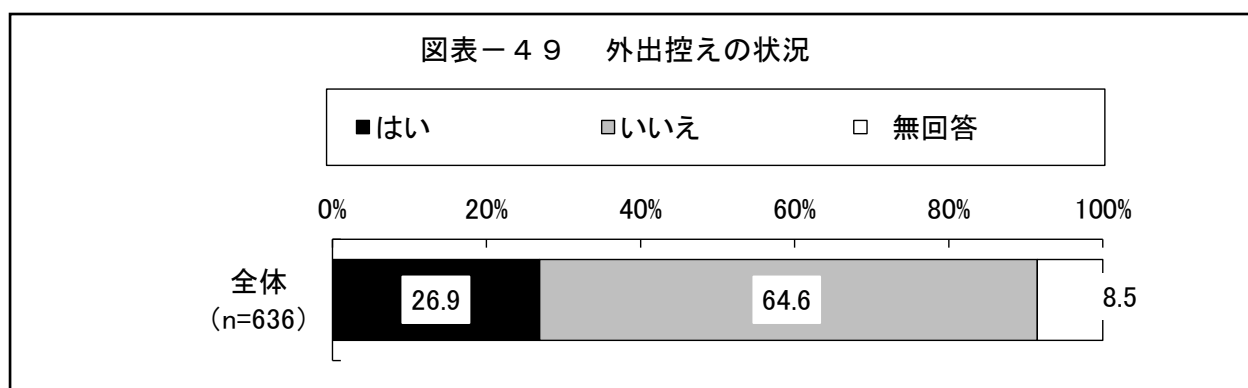
外出する理由については、「買物」74.8%が最も高く、次いで「通院・通所」が45.8%、「運動」が39.9%である。

〔8〕 昨年と比べて外出の回数が減っていますか



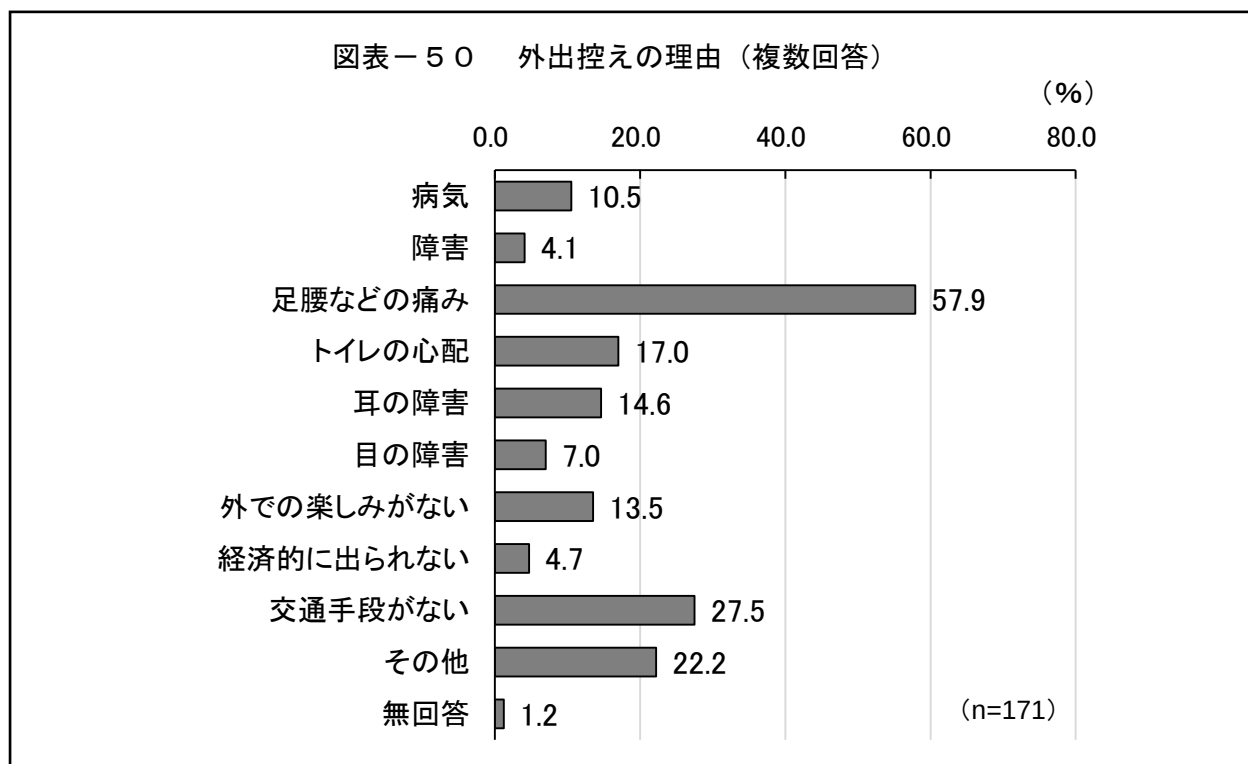
昨年と比べて外出回数の減少状況は、「減っていない」が41.4%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が27.8%、「減っている」が22.6%である。

〔 9 〕 外出を控えていますか



外出控えの状況は、「いいえ（控えていない）」が 64.6%で最も高い。「はい（控えている）」は 26.9%である。

〔 1 0 〕 外出を控えている理由



「外出控えの状況」で「1. はい（控えている）」と回答した回答者（171 人）に、「外出控えの理由」を尋ねた（複数回答）。

全体では「足腰などの痛み」が最も高く 57.9%である。次いで「交通手段がない」が 27.5%、「その他」が 22.2%である。

第3章 調査結果：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
3. 調査結果の詳細 (3) からだを動かすことについて【問2】

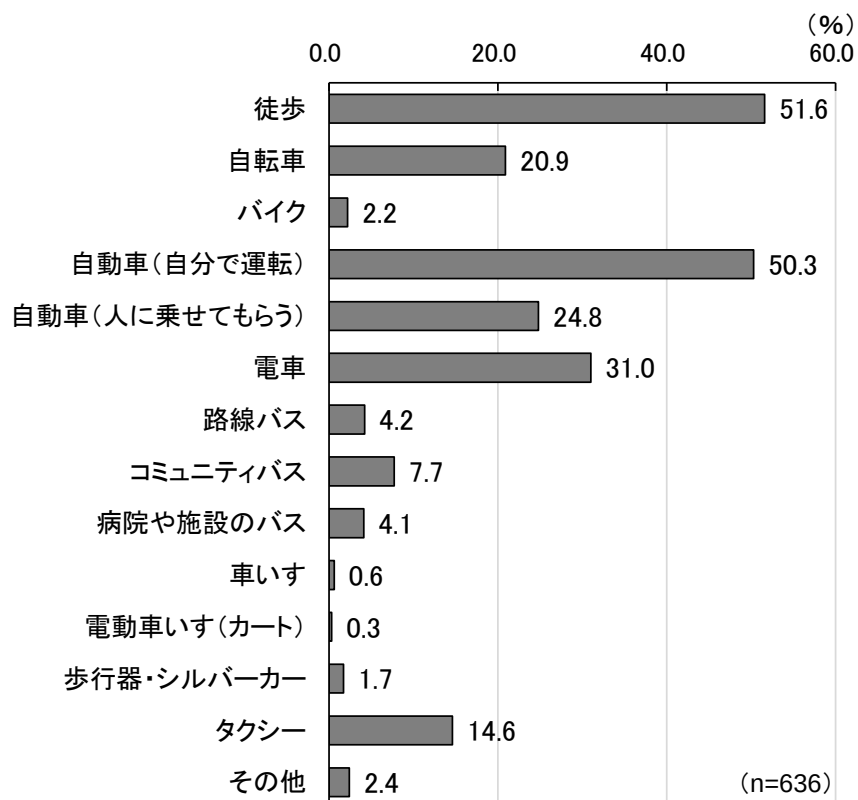
図表－51 性・年齢別：外出を控えている理由（複数回答）

		(%)											
		全 体	病 気	障害 (脳卒中の後遺症など)	足腰 などの 痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳の障害 (聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全 体		171	10.5	4.1	57.9	17.0	14.6	7.0	13.5	4.7	27.5	22.2	1.2
性・年 齢 別	男性全体	58	12.1	5.2	56.9	27.6	17.2	17.2	15.5	5.2	24.1	15.5	1.7
	男性65～69歳	3	－	33.3	66.7	－	－	－	33.3	33.3	－	－	－
	男性70～74歳	8	12.5	－	37.5	37.5	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5
	男性75～79歳	11	18.2	9.1	63.6	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	27.3	27.3	－
	男性80～84歳	10	10.0	－	60.0	40.0	10.0	40.0	－	－	20.0	20.0	－
	男性85～89歳	11	9.1	9.1	72.7	27.3	18.2	27.3	9.1	－	18.2	9.1	－
	男性90歳以上	15	13.3	－	46.7	33.3	33.3	6.7	26.7	－	40.0	13.3	－
	女性全体	106	7.5	3.8	58.5	12.3	13.2	1.9	13.2	4.7	30.2	26.4	0.9
	女性65～69歳	13	－	7.7	23.1	7.7	7.7	－	23.1	－	7.7	61.5	－
	女性70～74歳	11	9.1	9.1	36.4	9.1	－	－	27.3	9.1	9.1	54.5	－
	女性75～79歳	14	7.1	－	57.1	－	－	－	21.4	14.3	14.3	21.4	－
	女性80～84歳	19	10.5	－	78.9	15.8	5.3	－	－	10.5	42.1	15.8	－
	女性85～89歳	30	6.7	3.3	60.0	13.3	10.0	－	6.7	－	46.7	16.7	3.3
	女性90歳以上	19	10.5	5.3	73.7	21.1	47.4	10.5	15.8	－	31.6	15.8	－

性別では、男女ともに「足腰などの痛み」が最も高く、男性 56.9%、女性 58.5%である。また、性・年齢別では男女ともに 75 歳以降の年齢階級で「足腰の痛み」が約 20～30 ポイント増加し、約 60%に達している。

[1 1] 外出する際の移動手段

図表－５２ 外出時の移動手段（複数回答）



外出時の移動手段については、「徒歩」が最も高く 51.6%である。次いで「自動車（自分で運転）」が 50.3%、「電車」が 31.0%である。

第3章 調査結果：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
3. 調査結果の詳細 (3) からだを動かすことについて【問2】

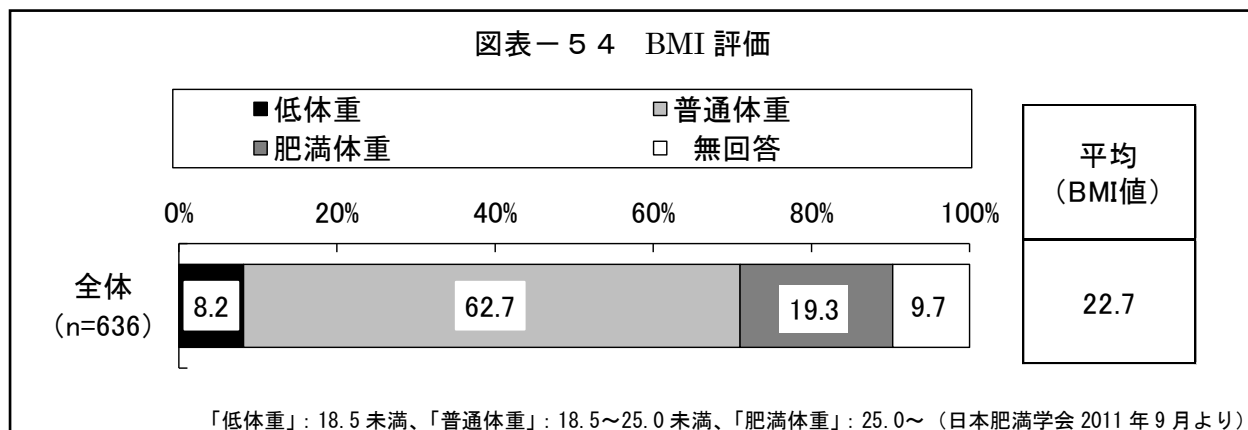
図表－53 年齢別・小学校区別：外出する際の移動手段（複数回答）

			(%)							
		全 体	徒 歩	自 転 車	バ イ ク	自 動 車 （自分 で運 転）	自 動 車 （人 に 乗 せ て も ら う）	電 車	路 線 バ ス	コ ミ ュ ニ テ ィ バ ス
全 体		636	51.6	20.9	2.2	50.3	24.8	31.0	4.2	7.7
年 齢 別	65～69歳	133	51.9	18.0	5.3	72.9	12.8	33.1	1.5	5.3
	70～74歳	135	44.4	17.0	3.0	74.8	19.3	34.1	3.7	3.7
	75～79歳	136	64.0	27.2	1.5	56.6	25.7	39.0	5.1	5.9
	80～84歳	94	55.3	30.9	1.1	35.1	30.9	26.6	6.4	10.6
	85～89歳	82	48.8	17.1	－	11.0	36.6	28.0	8.5	15.9
	90歳以上	47	31.9	10.6	－	－	38.3	8.5	－	6.4
小 学 校 区 別	小郡小学校区	134	52.2	24.6	3.0	50.7	23.9	33.6	6.7	5.2
	大原小学校区	94	67.0	27.7	1.1	44.7	29.8	36.2	1.1	5.3
	三国小学校区	182	53.3	14.3	1.1	56.0	19.2	36.8	4.4	7.1
	立石小学校区	50	36.0	18.0	4.0	52.0	36.0	8.0	6.0	－
	御原小学校区	31	45.2	25.8	3.2	45.2	16.1	16.1	3.2	22.6
	味坂小学校区	34	41.2	32.4	2.9	50.0	32.4	20.6	5.9	8.8
	東野小学校区	62	45.2	29.0	1.6	50.0	21.0	29.0	3.2	9.7
	のぞみが丘小学校区	40	47.5	2.5	5.0	42.5	32.5	37.5	2.5	12.5
		全 体	病 院 や 施 設 の バ ス	車 い す	電 動 車 い す （カ ー ト ）	歩 行 器 ・ シル バー カー	タ ク シ ー	そ の 他	無 回 答	
全 体		636	4.1	0.6	0.3	1.7	14.6	2.4	4.9	
年 齢 別	65～69歳	133	1.5	－	－	－	3.8	－	5.3	
	70～74歳	135	2.2	0.7	－	0.7	3.0	0.7	4.4	
	75～79歳	136	2.9	－	－	－	6.6	0.7	4.4	
	80～84歳	94	2.1	1.1	－	1.1	22.3	3.2	5.3	
	85～89歳	82	7.3	－	－	6.1	41.5	8.5	3.7	
	90歳以上	47	19.1	4.3	4.3	8.5	34.0	6.4	6.4	
小 学 校 区 別	小郡小学校区	134	3.0	0.7	－	1.5	17.9	－	4.5	
	大原小学校区	94	3.2	－	－	3.2	14.9	3.2	3.2	
	三国小学校区	182	2.2	－	0.5	0.5	11.5	2.2	4.9	
	立石小学校区	50	8.0	－	－	2.0	14.0	4.0	4.0	
	御原小学校区	31	－	－	－	－	12.9	9.7	12.9	
	味坂小学校区	34	11.8	2.9	－	5.9	14.7	2.9	2.9	
	東野小学校区	62	6.5	－	－	1.6	14.5	－	6.5	
	のぞみが丘小学校区	40	7.5	5.0	2.5	2.5	12.5	5.0	2.5	

年齢別では、75歳未満の年齢階級では「自動車（自分で運転）」が最も高く約70%、75歳以上90歳未満の年齢階級では「徒歩」が最も高く約55～65%、90歳以上の年齢階級では「自動車（人に乗せてもらう）」が38.3%で最も高い。

(4) 食べることにについて【問3】

[1] BMI (身長・体重)



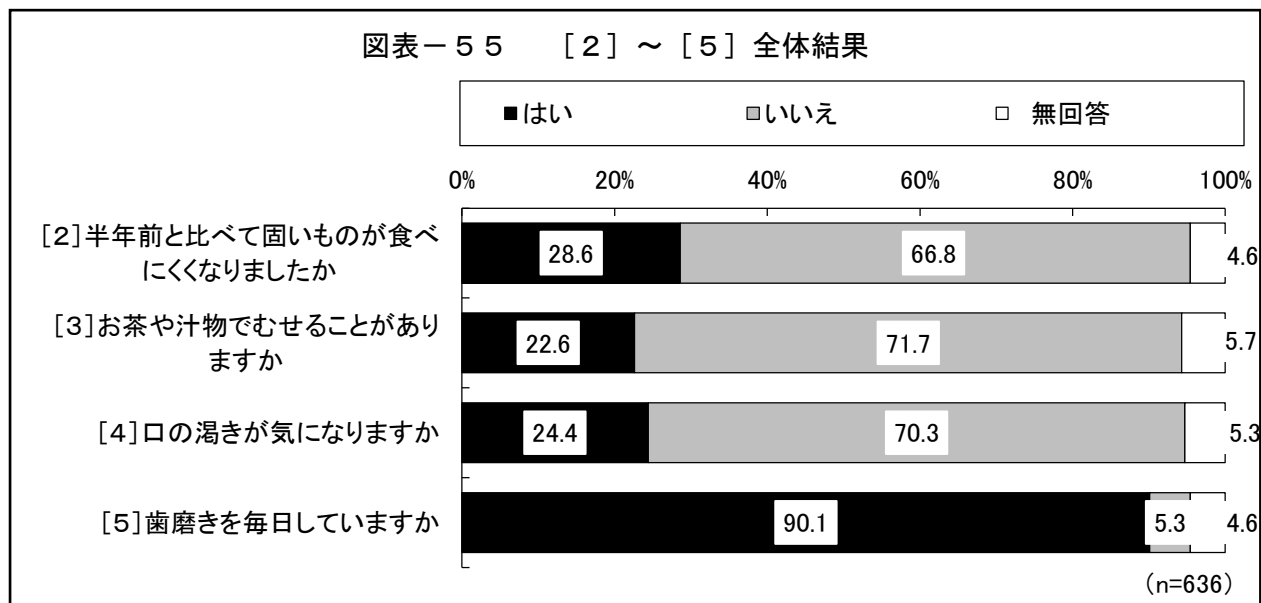
BMI 評価は、「普通体重」が 62.7%で最も高い。次いで「肥満体重」が 19.3%、「低体重」が 8.2%である。BMI 値の平均は 22.7 である。

[2] 半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか

[3] お茶や汁物でむせることがありますか

[4] 口の渇きが気になりますか

[5] 歯磨きを毎日していますか



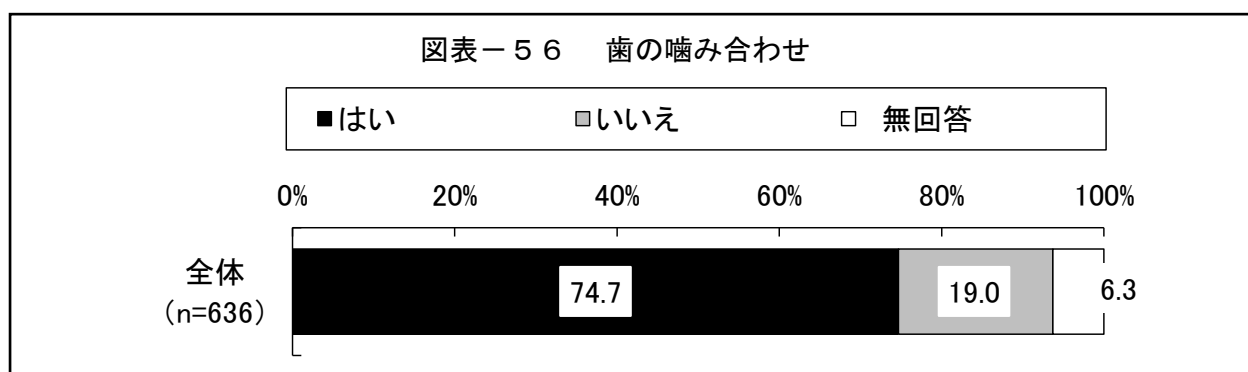
「半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか」は「いいえ」が 66.8%で最も高く、「はい」が 28.6%である。

「お茶や汁物でむせることがありますか」は「いいえ」が 71.7%で最も高く、「はい」が 22.6%である。

「口の渇きが気になりますか」は「いいえ」が 70.3%で最も高く、「はい」が 24.4%である。

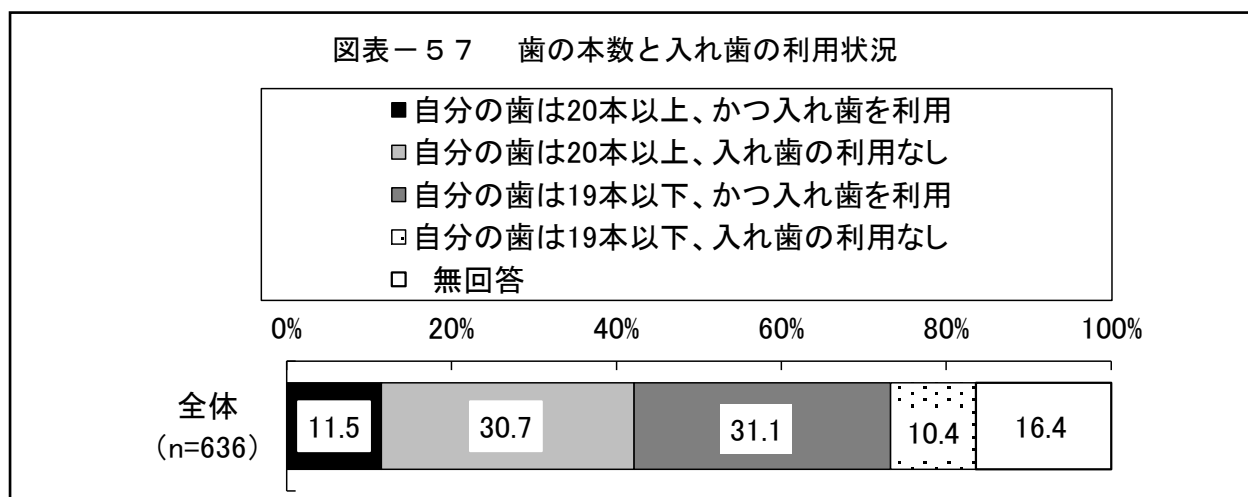
「歯磨きを毎日していますか」は「はい」が 90.1%で最も高く、「いいえ」が 5.3%である。

〔6〕 歯の噛み合わせは良いですか



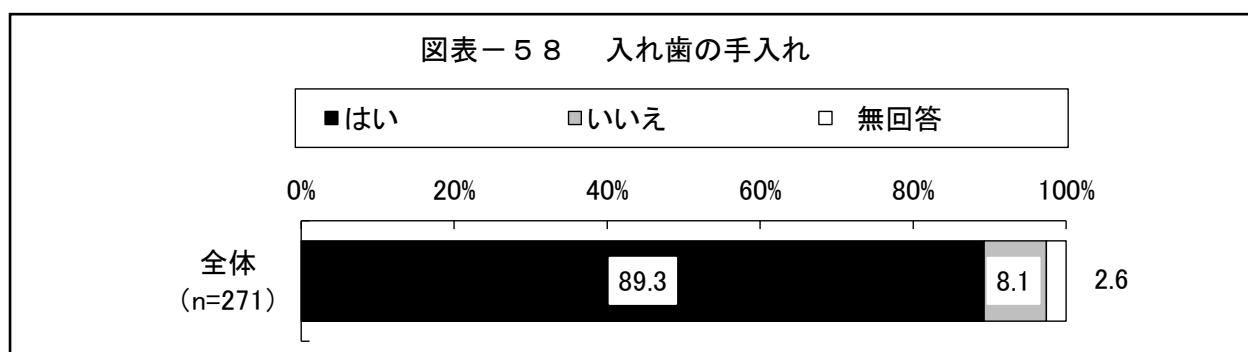
歯の噛み合わせの良さについては、「はい（良い）」が 74.7%、「いいえ（良くない）」が 19.0%である。

〔7〕 歯の本数と入れ歯の利用状況



歯の本数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高く 31.1%、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 30.7%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 11.5%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」が 10.4%である。

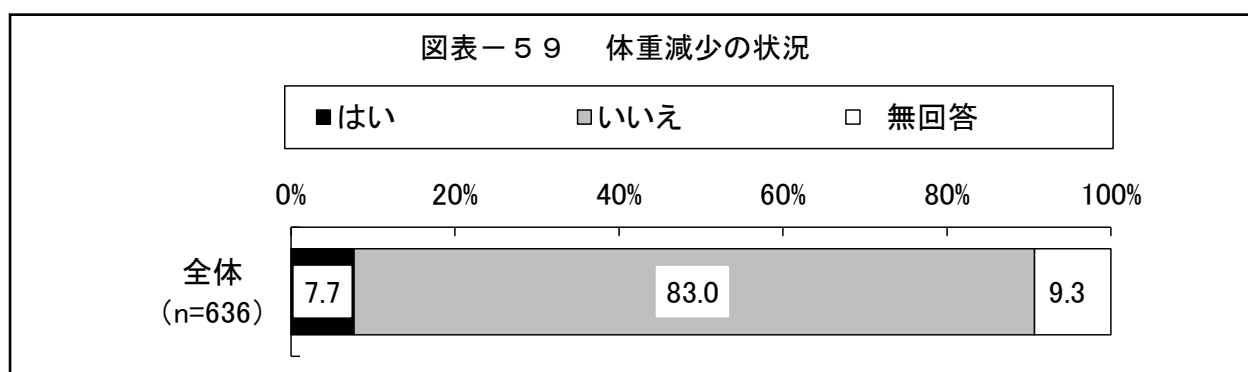
〔8〕 毎日入れ歯の手入れをしていますか



「歯の本数と入れ歯の使用状況」で「1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」、もしくは「3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した回答者（271 人）に「入れ歯の手入れの状況」を尋ねた。

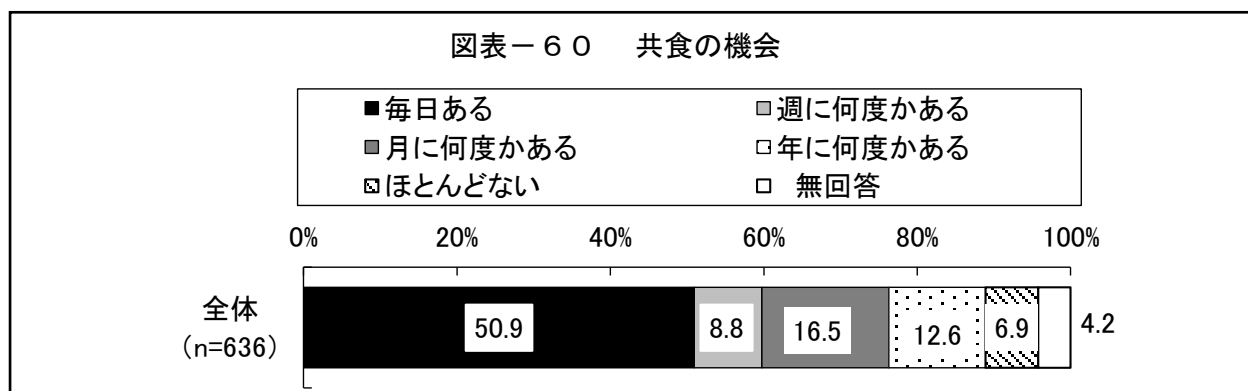
全体では、「はい（毎日している）」が 89.3%、「いいえ（毎日していない）」が 8.1%である。

〔9〕 6 か月で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか



6 か月間での 2～3kg の体重減少の有無については、「いいえ（なかった）」が 83.0%、「はい（あった）」が 7.7%である。

〔10〕 どなたかと食事をとにもする機会がありますか



共食の機会については、「毎日ある」50.9%が最も高く、次いで「月に何度かはある」が16.5%である。『月に1回以上はある（「毎日ある」＋「週に何度かある」＋「月に何度かある」）』は76.2%である。

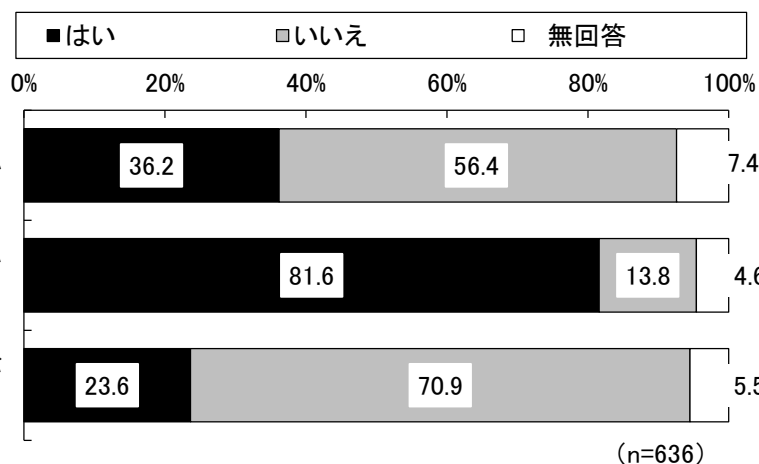
〔５〕 毎日の生活について【問４】

〔１〕 物忘れが多いと思いますか

〔２〕 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

〔３〕 今日が何月何日か分からない時がありますか

図表－６１ 〔１〕～〔３〕全体結果



「物忘れが多いと思いますか」は「いいえ」が 56.4%、「はい」が 36.2%である。

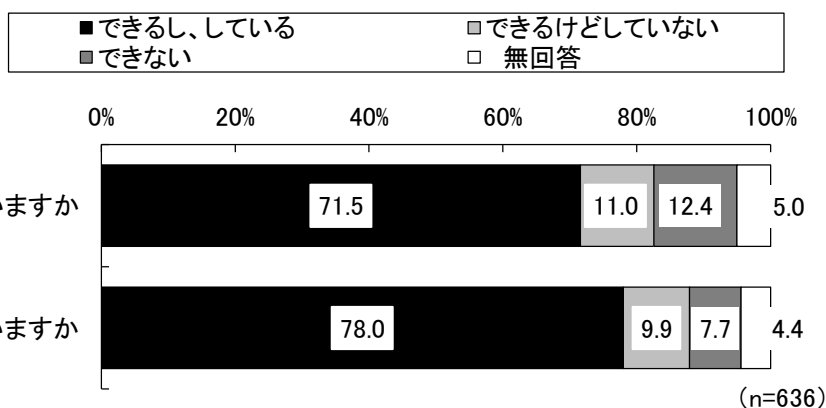
「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」は「はい」が 81.6%、「いいえ」が 13.8%である。

「今日が何月何日か分からない時がありますか」は「いいえ」が 70.9%、「はい」が 23.6%である。

〔４〕 バスなどを使って１人で外出していますか（自家用車でも可）

〔５〕 自分で食品・日用品の買物をしていますか

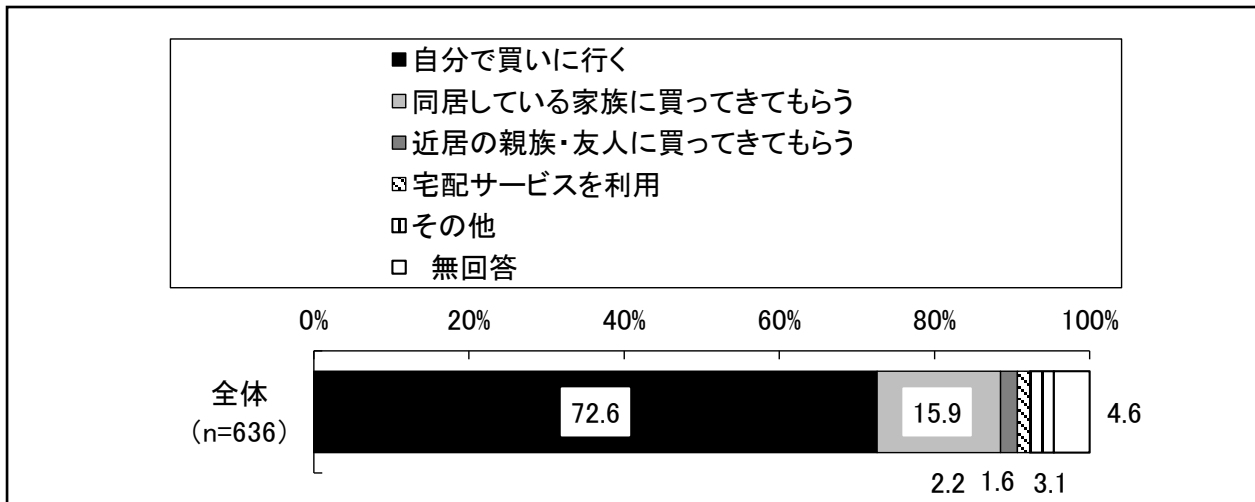
図表－６２ 〔４〕～〔５〕全体結果



「バスなどを使って１人で外出していますか」は「できるし、している」71.5%が最も高く、次いで「できない」が 12.4%である。

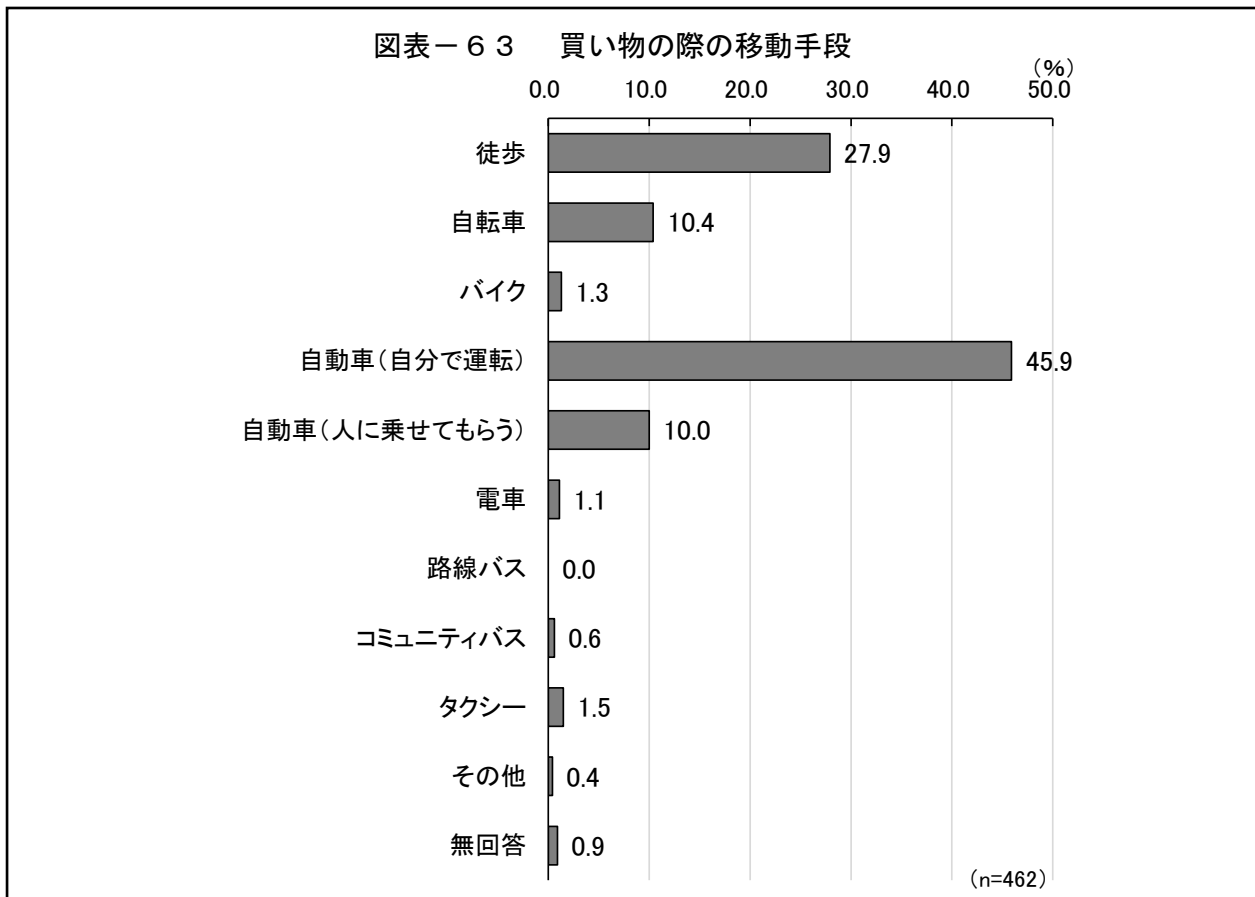
「自分で食品・日用品の買物をしていますか」は「できるし、している」78.0%が最も高く、次いで「できるけどしていない」が 9.9%である。

〔6〕 食品・日用品の主な入手方法



食品・日用品の主な入手方法については、「自分で買いに行く」72.6%が最も高く、次いで「同居している家族に買ってきてもらう」15.9%である。

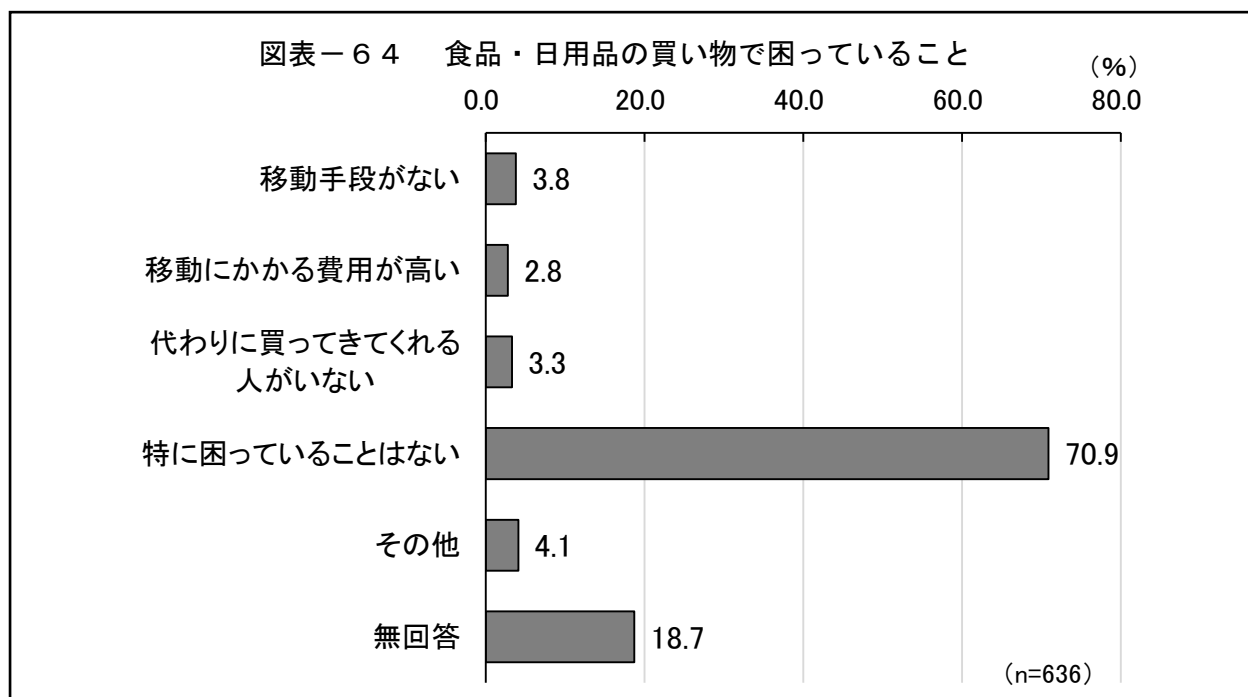
〔7〕 買い物の際の移動手段



「食品・日用品の主な入手方法」にて「1. 自分で買いに行く」と回答した人（462人）に、「買い物の際の移動手段」について尋ねた。

全体では「自動車（自分で運転）」45.9%が最も高く、次いで「徒歩」27.9%である。

〔 8 〕 食品・日用品の買い物で困っていること

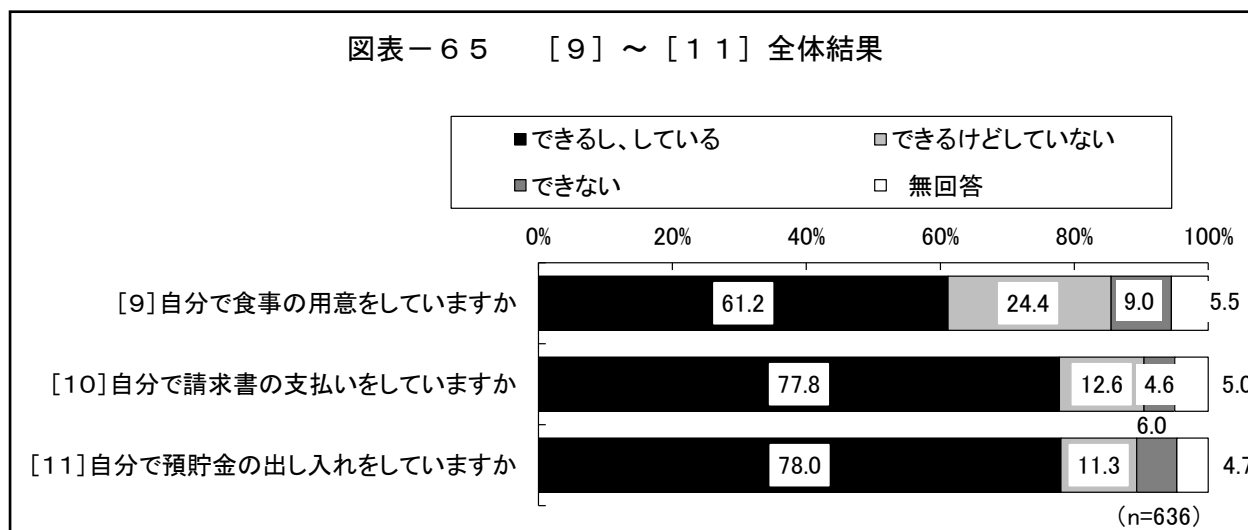


食品・日用品の買い物で困っていることについては、「特に困っていることはない」70.9%が最も高く、次いで「その他」4.1%である。

〔 9 〕 自分で食事の用意をしていますか

〔 1 0 〕 自分で請求書の支払いをしていますか

〔 1 1 〕 自分で預貯金の出し入れをしていますか



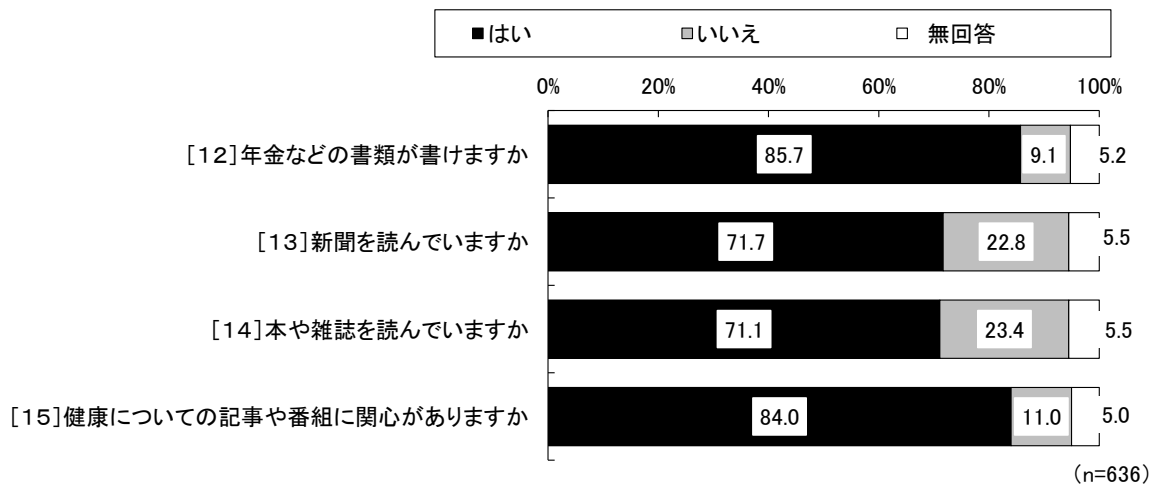
「自分で食事の用意をしていますか」は「できるし、している」が 61.2%、「できるけどしていない」が 24.4%である。

「自分で請求書の支払いをしていますか」は「できるし、している」が 77.8%、「できるけどしていない」が 12.6%である。

「自分で預貯金の出し入れをしていますか」は「できるし、している」が 78.0%、「できるけどしていない」が 11.3%である。

- [12] 年金などの書類が書けますか
[13] 新聞を読んでいますか
[14] 本や雑誌を読んでいますか
[15] 健康についての記事や番組に関心がありますか

図表－66 [12]～[15] 全体結果



「年金などの書類が書けますか」は「はい」が85.7%、「いいえ」が9.1%である。

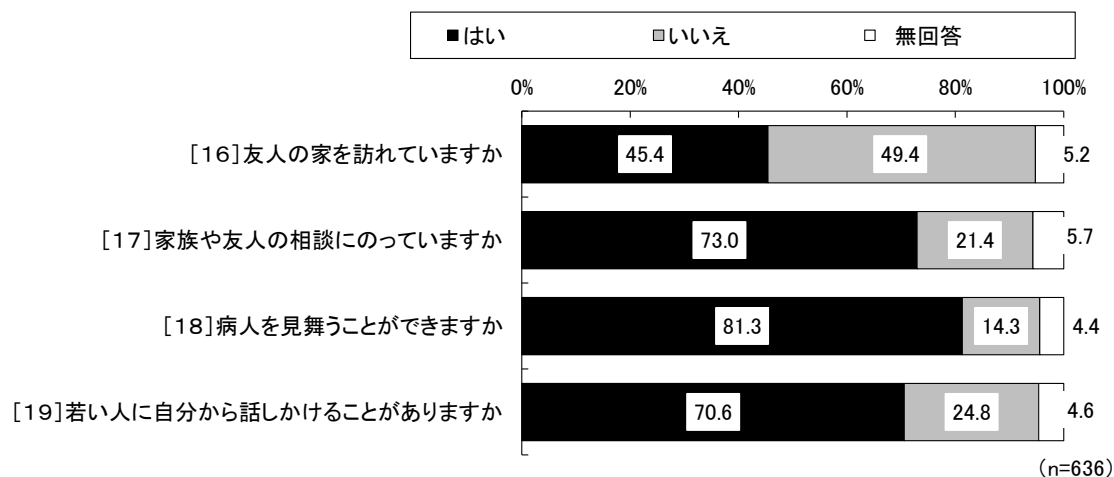
「新聞を読んでいますか」は「はい」が71.7%、「いいえ」が22.8%である。

「本や雑誌を読んでいますか」は「はい」が71.1%、「いいえ」が23.4%である。

「健康についての記事や番組に関心がありますか」は「はい」が84.0%、「いいえ」が11.0%である。

- [16] 友人の家を訪れていますか
 [17] 家族や友人の相談にのっていますか
 [18] 病人を見舞うことができますか
 [19] 若い人に自分から話しかけることがありますか

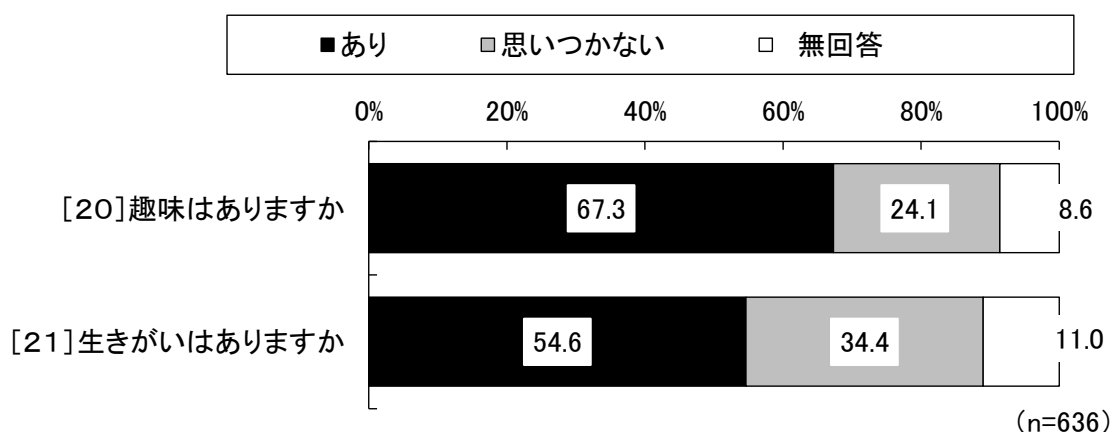
図表－６７ [16]～[19] 全体結果



「友人の家を訪れていますか」は「いいえ」が49.4%、「はい」が45.4%である。
 「家族や友人の相談にのっていますか」は「はい」が73.0%、「いいえ」が21.4%である。
 「病人を見舞うことができますか」は「はい」が81.3%で、「いいえ」が14.3%である。
 「若い人に自分から話しかけることがありますか」は「はい」が70.6%、「いいえ」が24.8%である。

- [20] 趣味はありますか
 [21] 生きがいがありますか

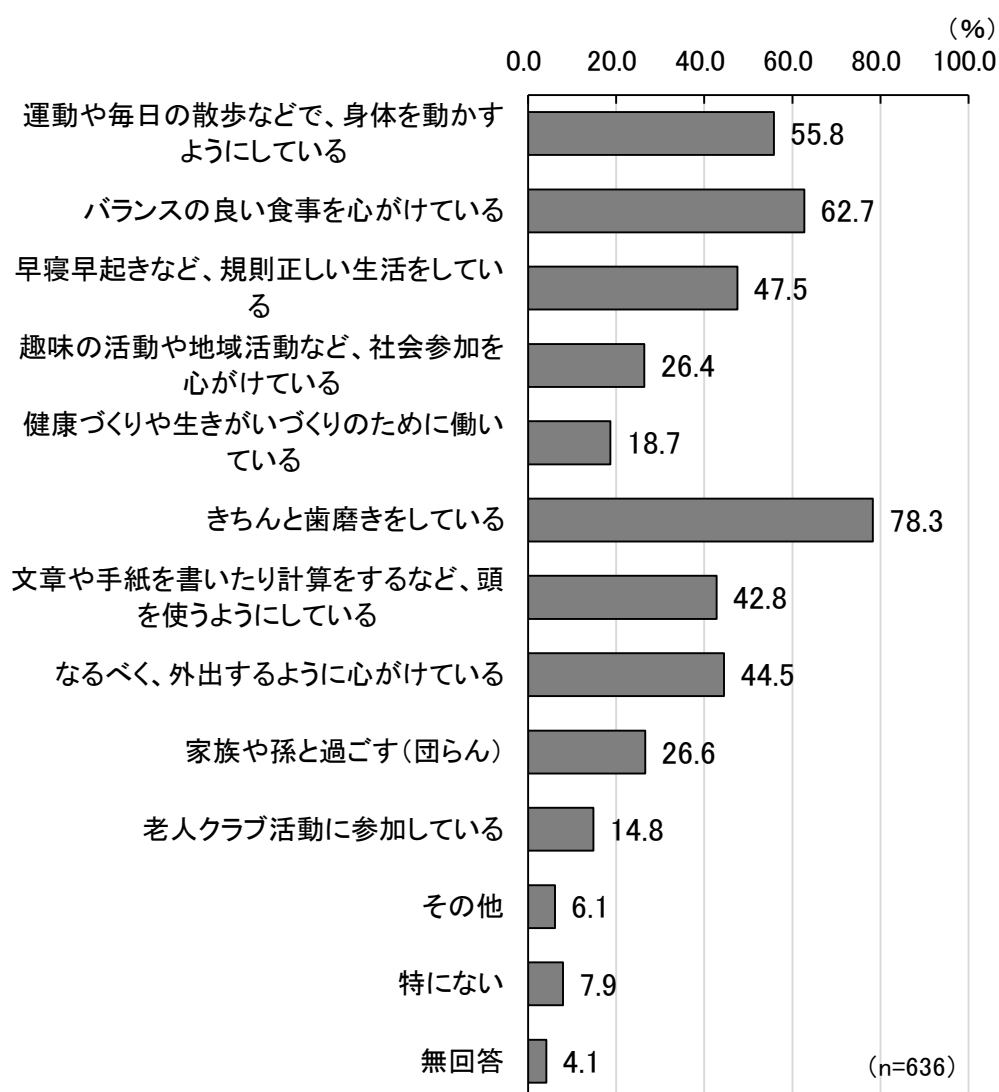
図表－６８ [20]～[21] 全体結果



「趣味はありますか」は、「趣味あり」が67.3%で、「思いつかない」が24.1%である。
 「生きがいがありますか」は、「生きがいあり」が54.6%で、「思いつかない」が34.4%である。

[22] 心身の健康のためにおこなっていること

図表－69 心身の健康のためにおこなっていること（複数回答）



心身の健康のためにおこなっていることについては、「きちんと歯磨きをしている」78.3%が最も高く、次いで「バランスの良い食事を心がけている」62.7%、「運動や毎日の散歩などで、身体を動かすようにしている」55.8%である。

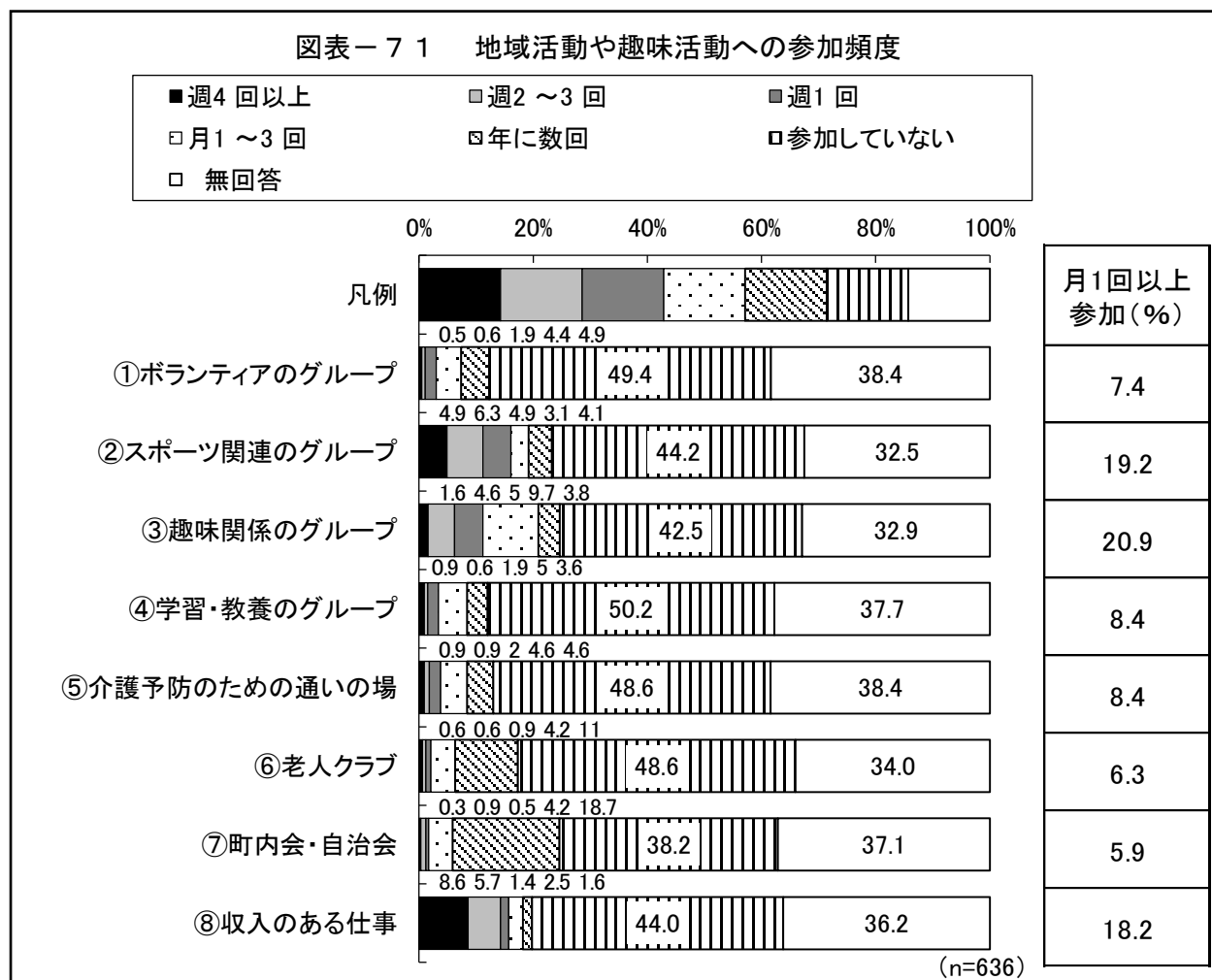
図表－７０ 性・年齢別：心身の健康のためにおこなっていること（複数回答）

		(%)																				
		全 体	に し て い る	運 動 や 毎 日 の 散 歩 な ど	心 が け て い る	バ ラ ン ス の 良 い 食 事 を	正 し い 生 活 を し て い る	早 寝 早 起 き な ど、 規 則	け て い る	趣 味 の 活 動 や 地 域 活 動	健 康 づ く り の た め に 働 き が い る	き ち ん と 歯 磨 き を し て い る	使 う よ う に し て い る	計 算 を す る な ど、 頭 を	文 章 や 手 紙 を 書 い た り	う に 心 が け て い る	な る べ く、 外 出 す る よ う に し て い る	家 族 や 孫 と 過 ご す （ 団 ら ん ）	老 人 ク ラ ブ 活 動 に 参 加 し て い る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		636	55.8	62.7	47.5	26.4	18.7	78.3	42.8	44.5	26.6	14.8	6.1	7.9	4.1							
性・年 齢 別	男性全体	292	61.3	56.8	45.9	28.4	20.5	74.7	36.6	45.9	25.3	13.7	7.5	8.2	4.1							
	男性65～69歳	75	53.3	48.0	42.7	18.7	26.7	70.7	30.7	40.0	24.0	－	8.0	6.7	4.0							
	男性70～74歳	68	67.6	61.8	48.5	35.3	29.4	76.5	38.2	58.8	36.8	8.8	4.4	4.4	4.4							
	男性75～79歳	66	72.7	57.6	51.5	31.8	21.2	84.8	48.5	53.0	18.2	16.7	13.6	6.1	3.0							
	男性80～84歳	42	69.0	59.5	42.9	38.1	7.1	71.4	31.0	38.1	28.6	23.8	7.1	14.3	4.8							
	男性85～89歳	24	45.8	66.7	50.0	33.3	8.3	83.3	50.0	37.5	20.8	33.3	4.2	16.7	4.2							
	男性90歳以上	17	29.4	52.9	29.4	－	5.9	41.2	5.9	23.5	11.8	29.4	－	11.8	5.9							
	女性全体	335	51.9	68.1	49.3	25.4	17.0	82.1	49.0	43.9	28.1	16.1	5.1	7.2	3.9							
	女性65～69歳	58	41.4	70.7	53.4	24.1	22.4	82.8	37.9	41.4	39.7	1.7	1.7	5.2	1.7							
	女性70～74歳	67	64.2	74.6	52.2	32.8	19.4	86.6	47.8	58.2	34.3	6.0	4.5	6.0	3.0							
	女性75～79歳	70	58.6	68.6	65.7	30.0	18.6	88.6	55.7	55.7	24.3	27.1	2.9	2.9	2.9							
	女性80～84歳	52	59.6	71.2	38.5	30.8	15.4	80.8	50.0	36.5	23.1	25.0	5.8	5.8	9.6							
	女性85～89歳	58	50.0	60.3	37.9	13.8	12.1	81.0	60.3	43.1	24.1	15.5	8.6	12.1	3.4							
	女性90歳以上	30	20.0	56.7	36.7	13.3	10.0	60.0	33.3	3.3	16.7	26.7	10.0	16.7	3.3							

性・年齢別では、男女ともに「きちんと歯磨きをしている」が最も高くなっている。男性は次いで「運動や毎日の散歩などで、身体を動かすようにしている」61.3%、女性は「バランスの良い食事を心がけている」68.1%である。

(6) 地域での活動について【問5】

[1] 地域活動や趣味活動について



「①ボランティアのグループ」は「参加していない」が49.4%で最も高く、次いで「年に数回」が4.9%である。

「②スポーツ関連のグループ」は「参加していない」が44.2%で最も高く、次いで「週2～3回」が6.3%である。

「③趣味関係のグループ」は「参加していない」が42.5%で最も高く、次いで「月1～3回」が9.7%である。

「④学習・教養のグループ」は「参加していない」が50.2%で最も高く、次いで「月1～3回」が5.0%である。

「⑤介護予防のための通いの場」は「参加していない」が48.6%で最も高く、次いで「月1～3回」、「年に数回」が4.6%である。

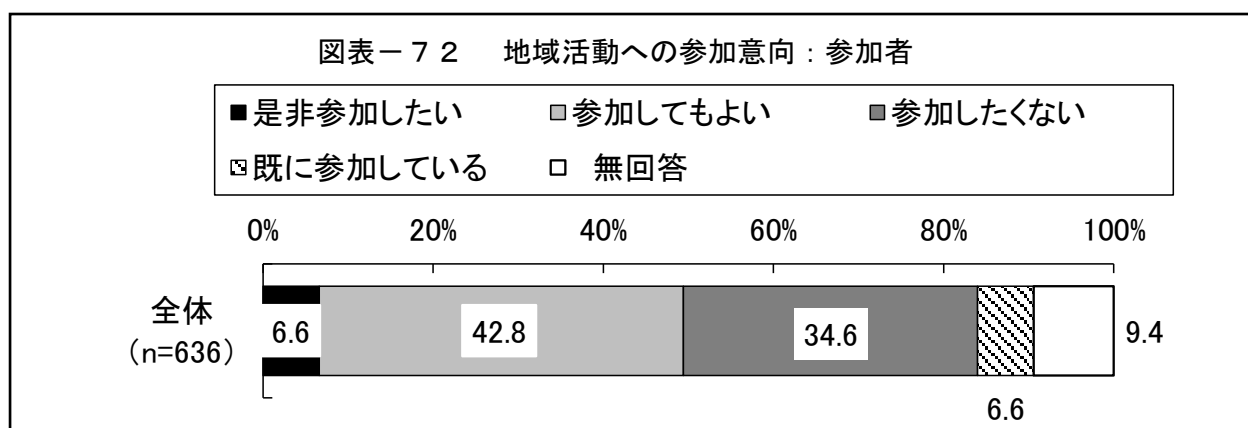
「⑥老人クラブ」は「参加していない」が48.6%で最も高く、次いで「年に数回」が11.0%である。

「⑦町内会・自治会」は「参加していない」が38.2%で最も高く、次いで「年に数回」が18.7%である。

「⑧収入のある仕事」は「参加していない」が44.0%で最も高く、次いで「週4回以上」が8.6%である。

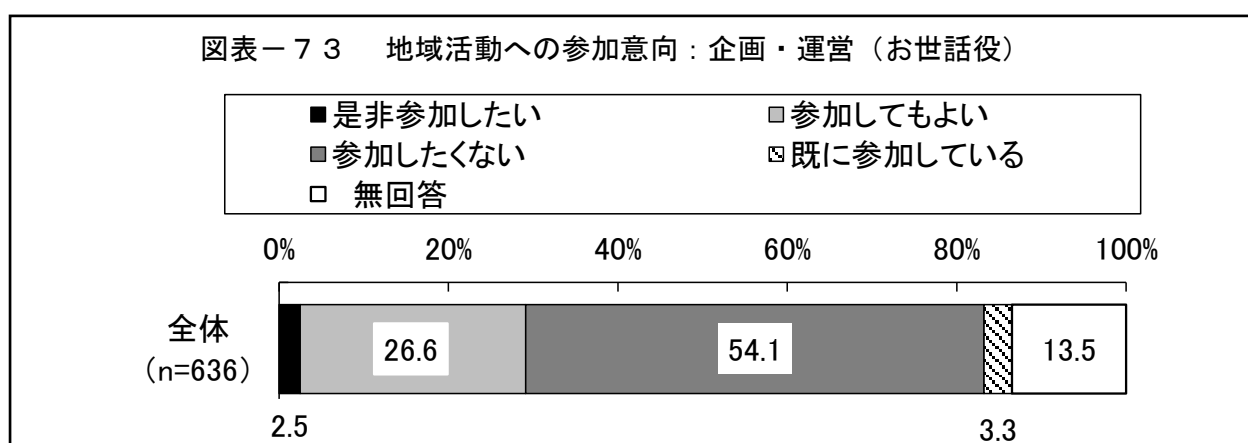
『月1回以上参加』が行われている地域活動は、「趣味関係のグループ」20.9%が最も高く、「スポーツ関連のグループ」が19.2%、「収入のある仕事」が18.2%である。

〔2〕 地域活動への参加者としての参加意向



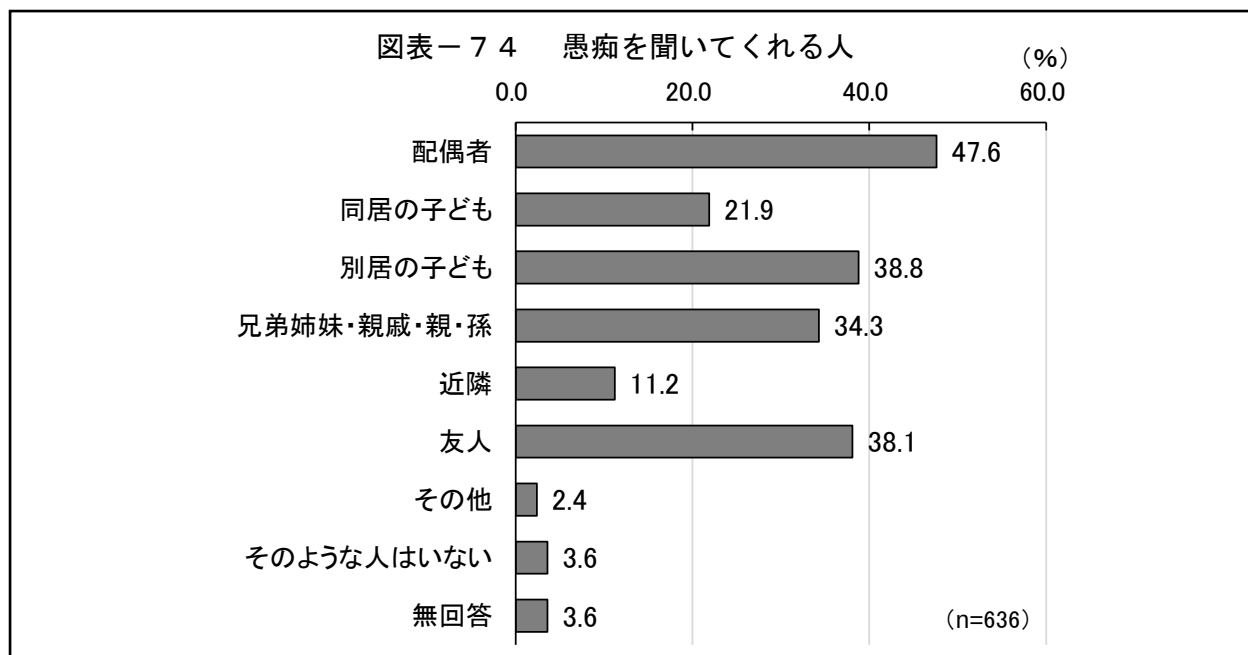
地域活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」が 42.8%で最も高い。次いで「参加したくない」が 34.6%、「是非参加したい」、「既に参加している」が 6.6%である。

〔3〕 地域活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向



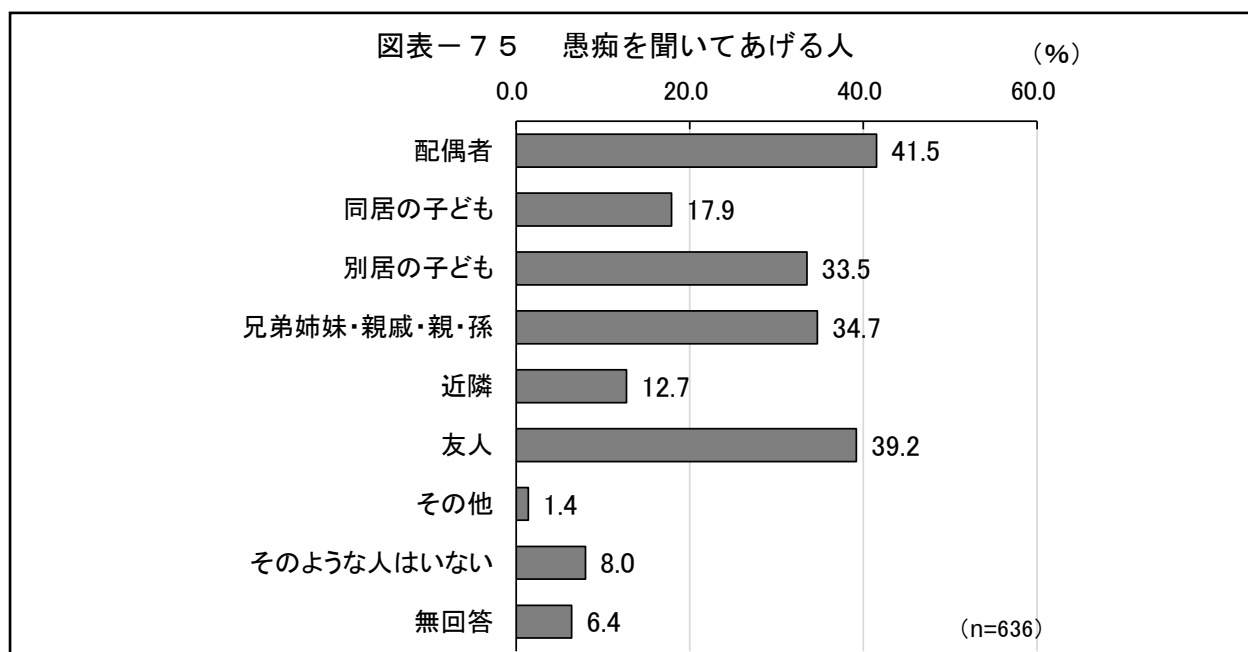
地域活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向は、「参加したくない」が 54.1%で最も高く、次いで「参加してもよい」が 26.6%、「既に参加している」が 3.3%である。

(7) たすけあいについて【問6】
[1] 心配事や愚痴を聞いてくれる人



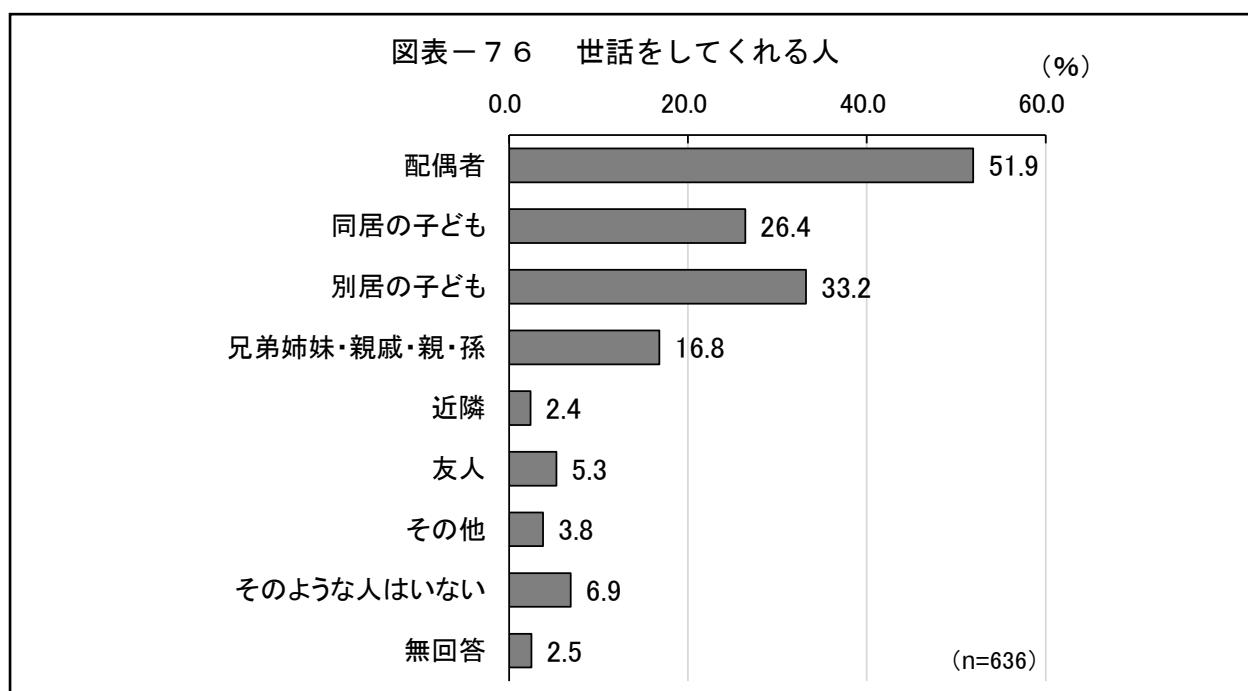
愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」47.6%が最も高い。次いで「別居の子ども」38.8%、「友人」38.1%である。

[2] 反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人



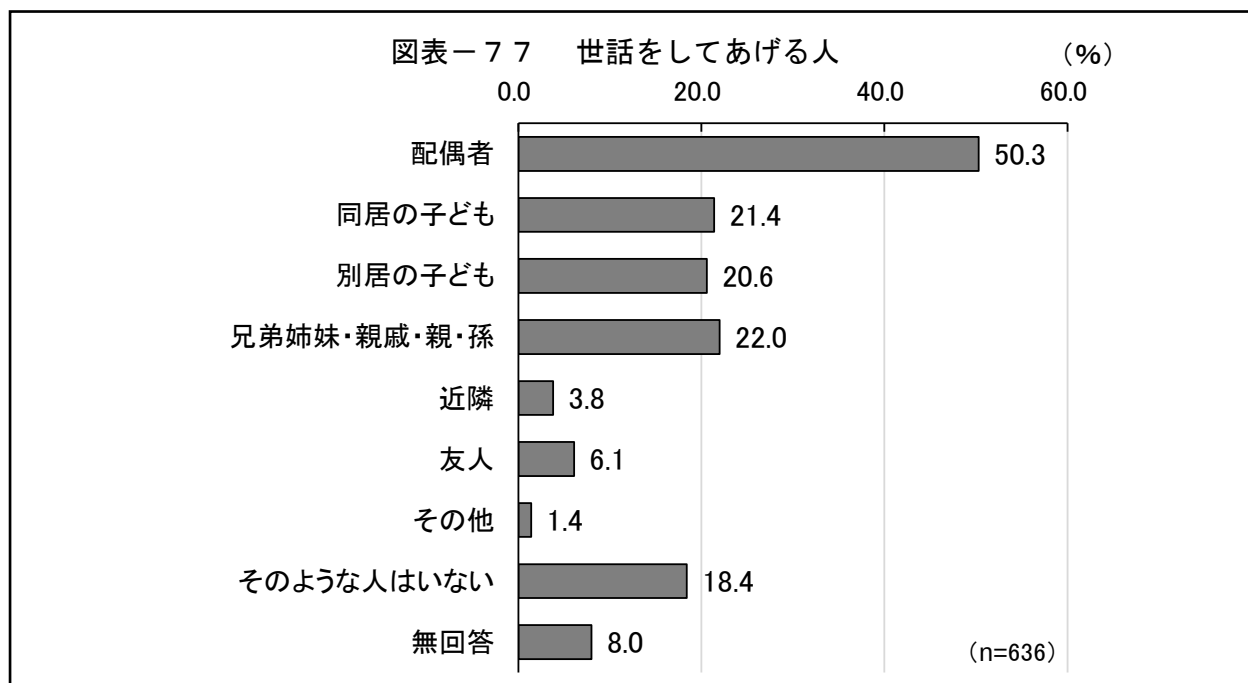
愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」41.5%が最も高く、次いで「友人」39.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」34.7%である。

〔３〕 看病や世話をしてくれる人



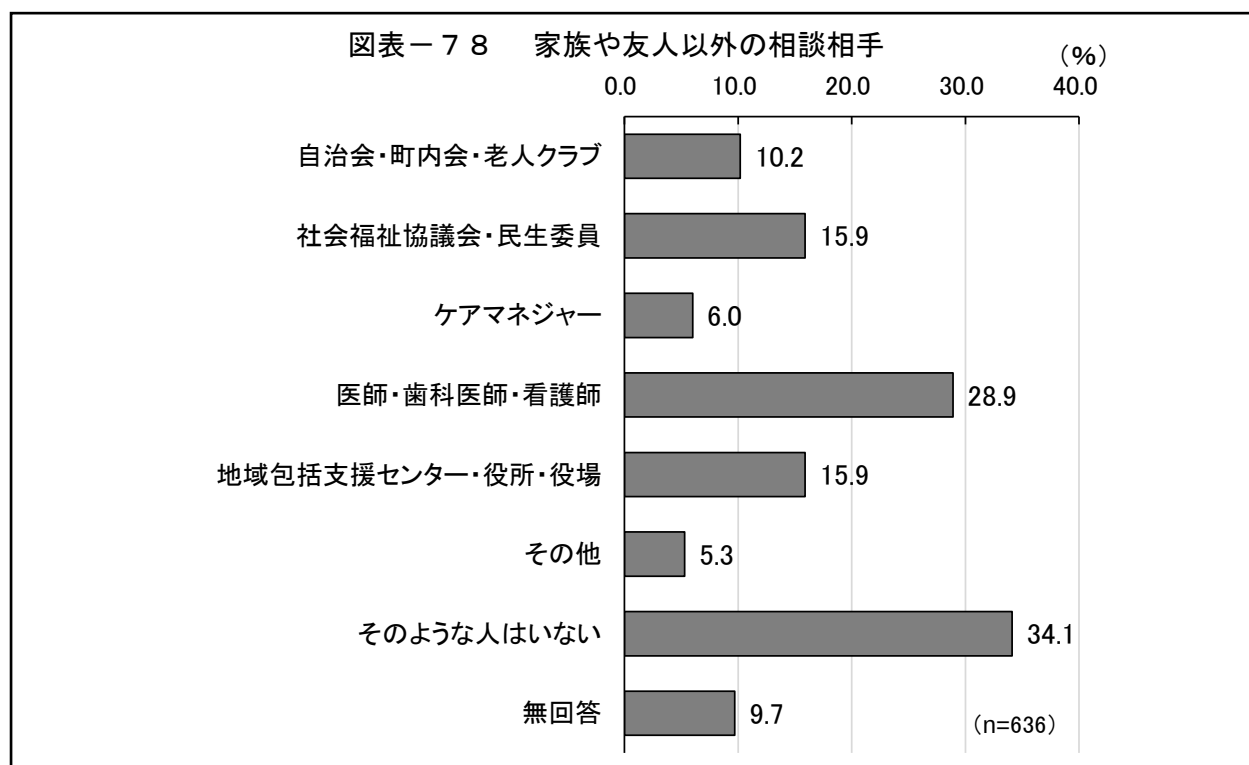
世話をしてくれる人は、「配偶者」51.9%が最も高く、次いで「別居の子ども」33.2%、「同居の子ども」26.4%である。

〔４〕 看病や世話をしあける人



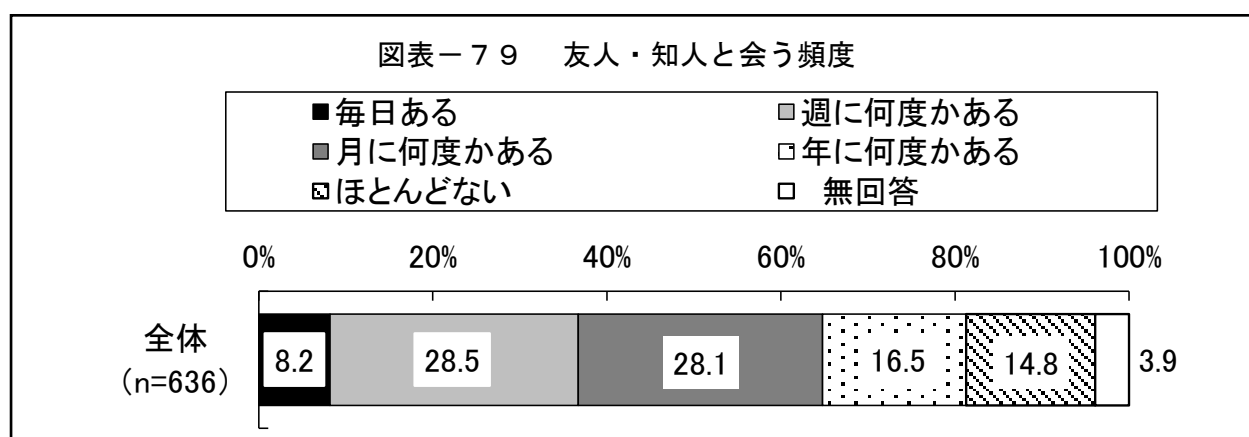
世話をしあける人は、「配偶者」50.3%が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」22.0%、「同居の子ども」21.4%である。

〔5〕 家族や友人・知人以外での相談する相手



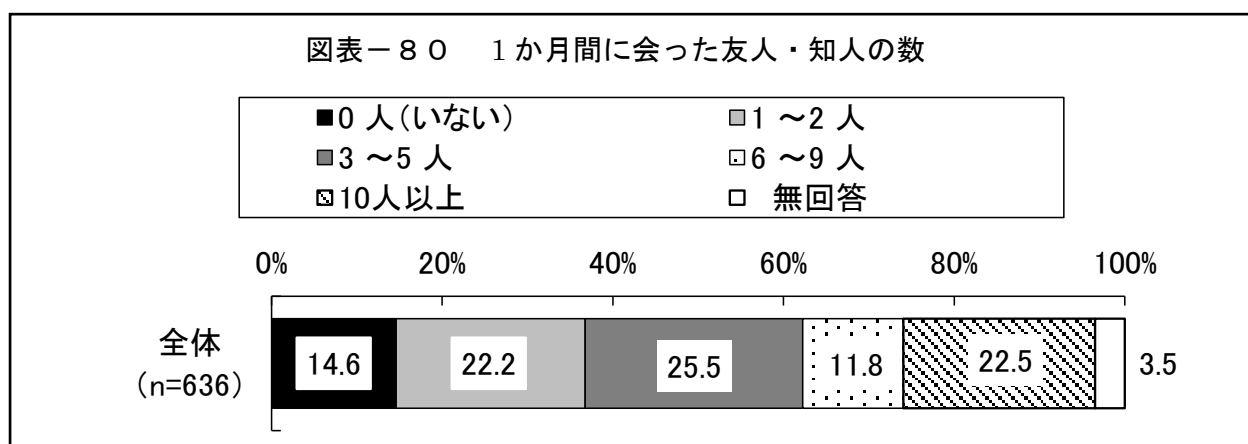
家族や友人以外の相談相手は、「そのような人はいない」34.1%が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」28.9%、「社会福祉協議会・民生委員」、「地域包括支援センター・役所・役場」15.9%である。

〔6〕 友人・知人と会う頻度



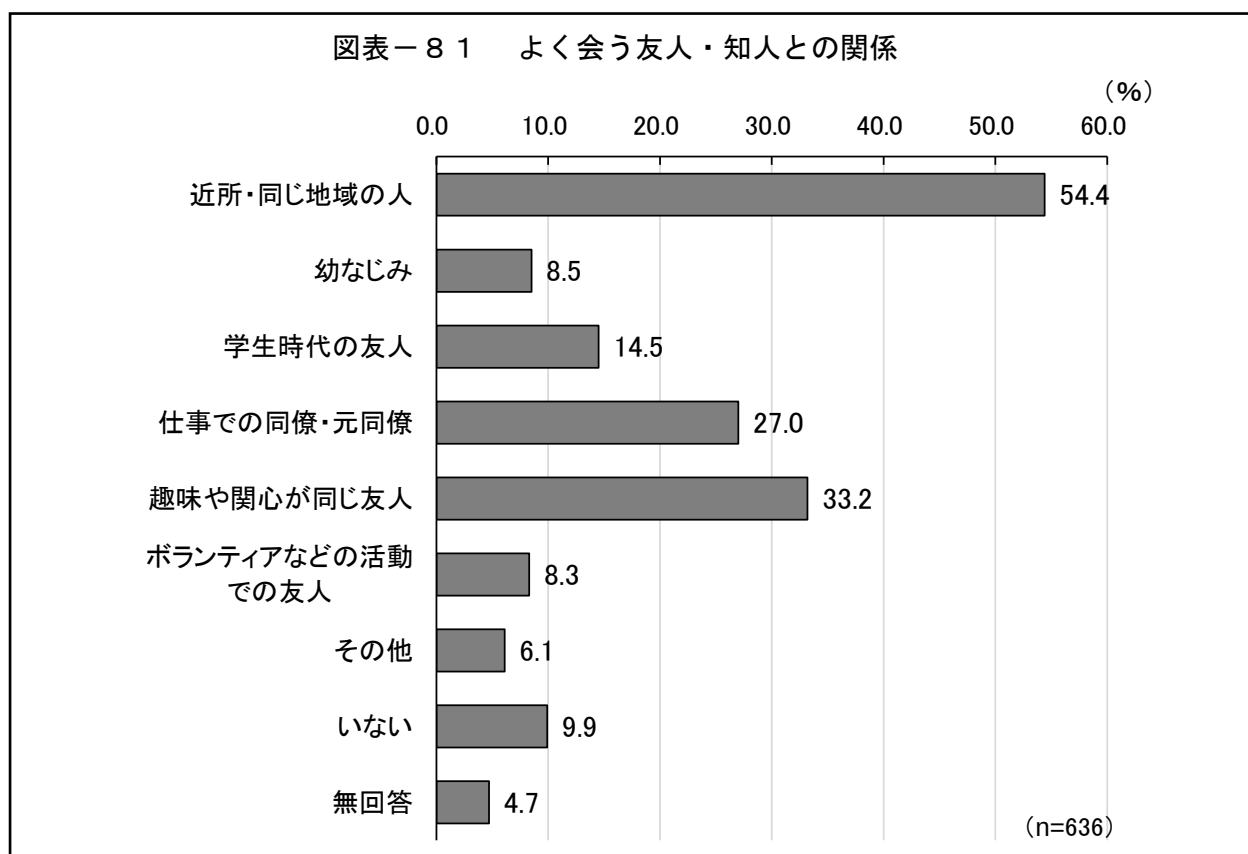
友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」28.5%が最も高く、次いで「月に何度かある」28.1%、「年に何度かある」16.5%である。

〔7〕 1 か月間に会った友人・知人の数



1 か月に会った友人・知人の数は、「3～5 人」25.5%が最も高く、次いで「10 人以上」が 22.5%、「1～2 人」22.2%である。

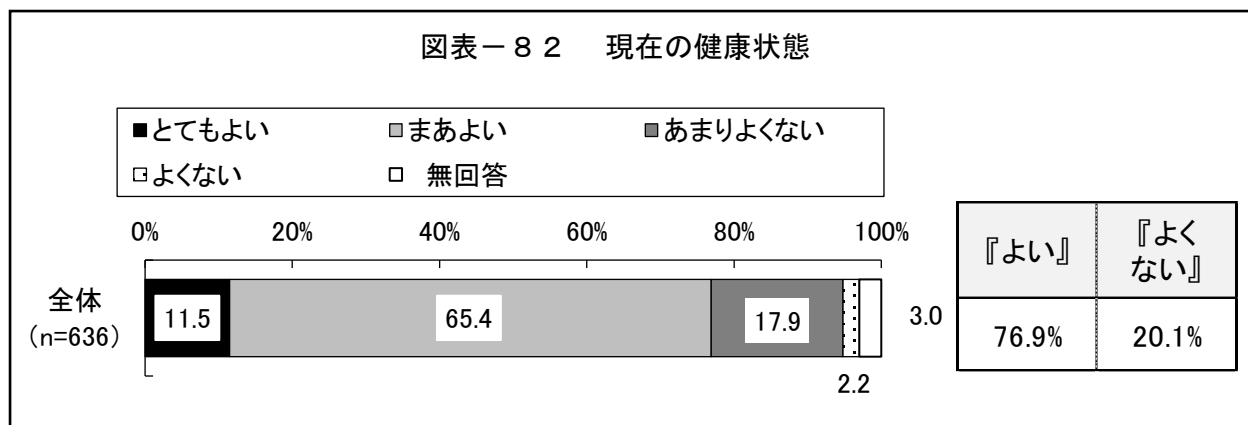
〔8〕 よく会う友人・知人との関係



よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」54.4%が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」33.2%、「仕事での同僚・元同僚」27.0%である。

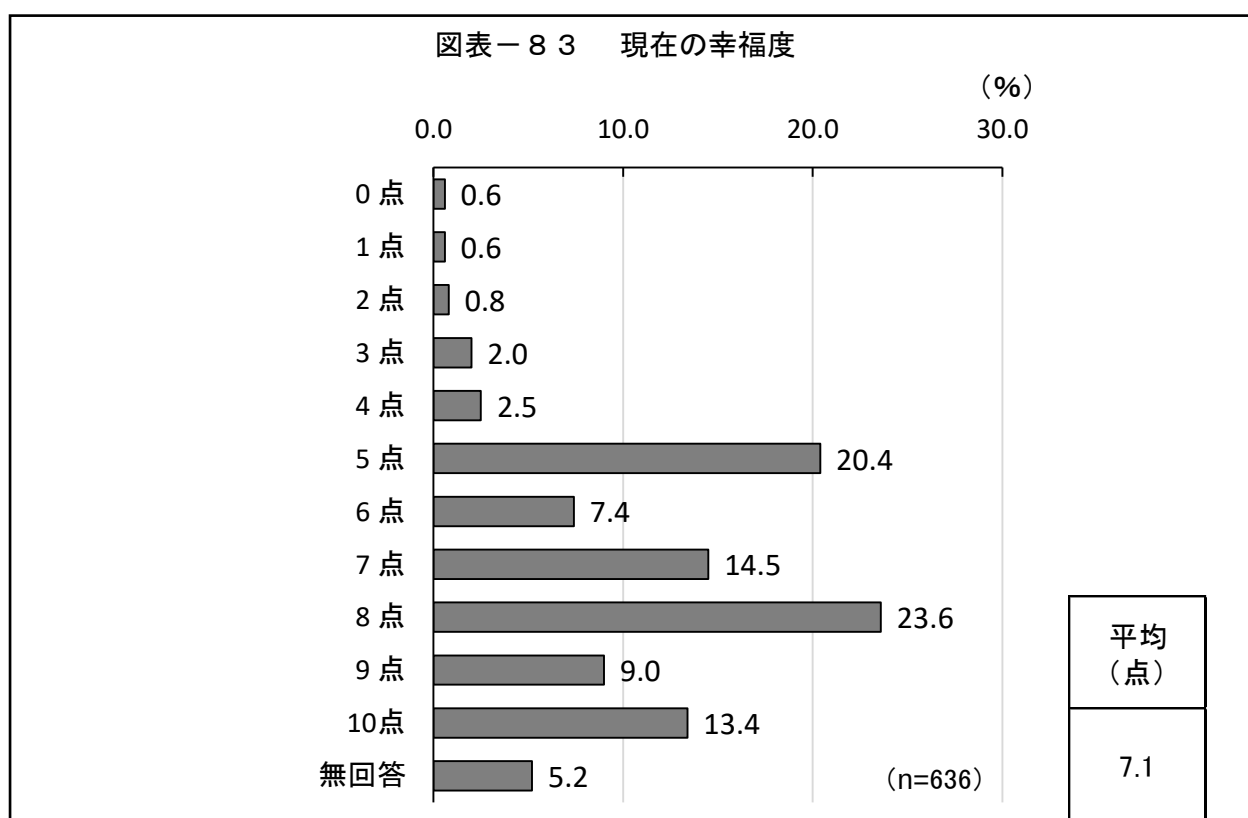
(8) 健康について【問7】

[1] 現在の健康状態



現在の健康状態は、「まあよい」が65.4%で最も高く、次いで「あまりよくない」17.9%、「とてもよい」11.5%である。『よい（「とてもよい」＋「まあよい」）』は76.9%、『よくない（「あまりよくない」＋「よくない」）』は20.1%である。

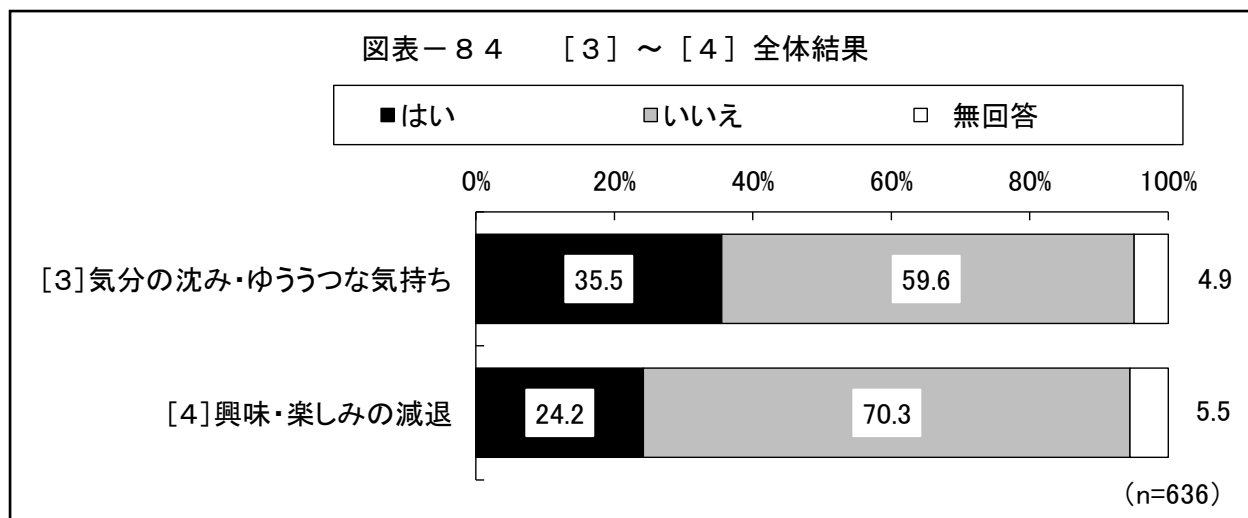
[2] 現在の幸福度



現在の幸福度は、「8点」が23.6%で最も高い。次いで「5点」が20.4%、「7点」が14.5%である。幸福度の平均点数は7.1点である。

〔3〕 この1か月での気分の沈み・ゆううつな気持ち

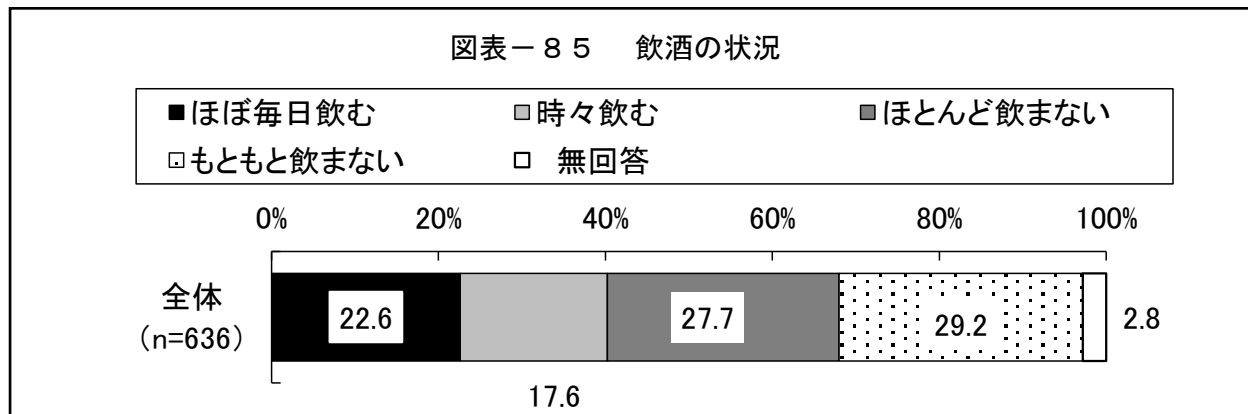
〔4〕 この1か月での興味・楽しみの減退



「この1か月での気分の沈み・ゆううつな気持ちの有無」は、「いいえ（ない）」は59.6%で最も高く、「はい（ある）」が35.5%である。

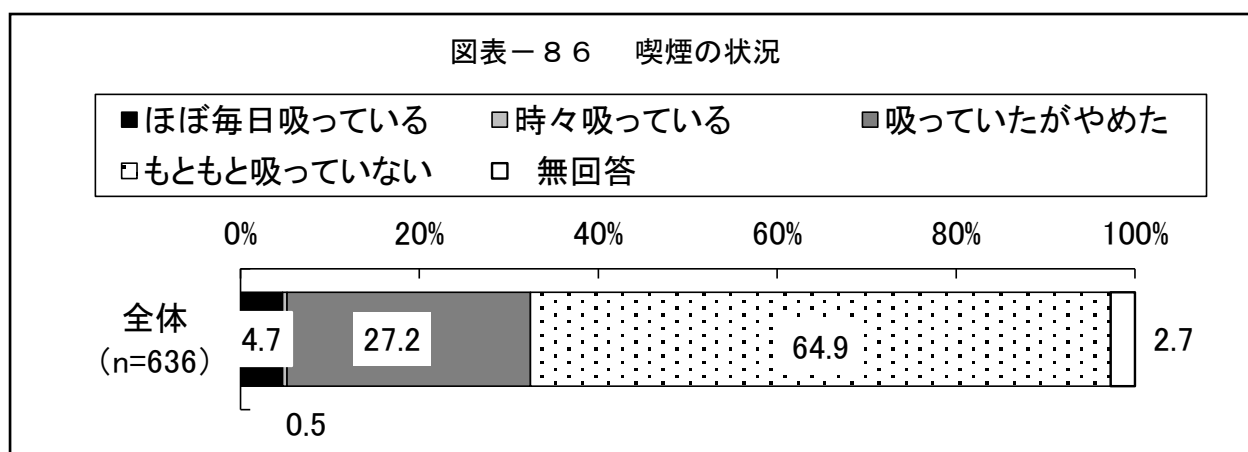
「この1か月での興味・楽しみの減退の有無」は、「いいえ（ない）」が70.3%で最も高く、「はい（ある）」が24.2%である。

〔5〕 飲酒の状況



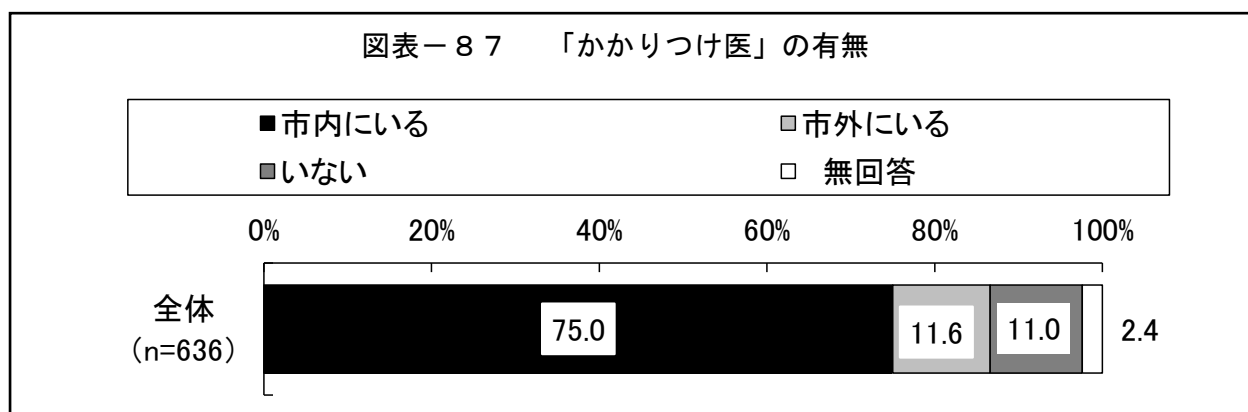
飲酒の状況は、「もともと飲まない」が29.2%で最も高い。次いで「ほとんど飲まない」27.7%、「ほぼ毎日飲む」22.6%である。

〔6〕 喫煙の状況



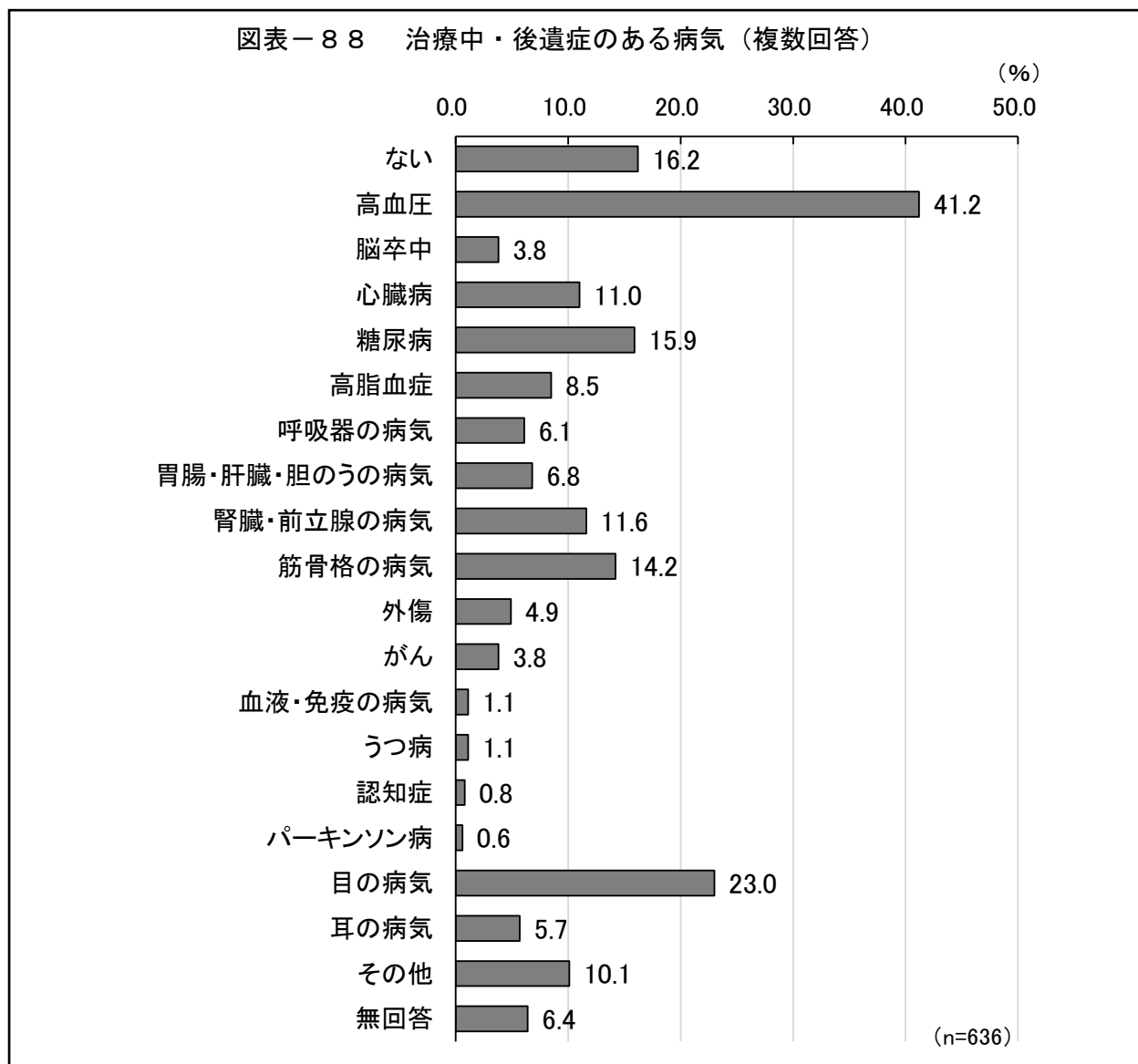
喫煙の状況は、「もともと吸っていない」64.9%が最も高い。次いで「吸っていたがやめた」27.2%、「ほぼ毎日吸っている」4.7%である。

〔7〕 「かかりつけ医」の有無



「かかりつけ医」の有無は、「市内にいる」75.0%が最も高く、次いで「市外にいる」11.6%である。

〔 8 〕 治療中、または後遺症のある病気



治療中・後遺症のある病気は「高血圧」41.2%が最も高い。次いで「目の病気」23.0%、「ない」16.2%、「糖尿病」15.9%である。

図表－89 性・年齢別：治療中・後遺症のある病気（複数回答）

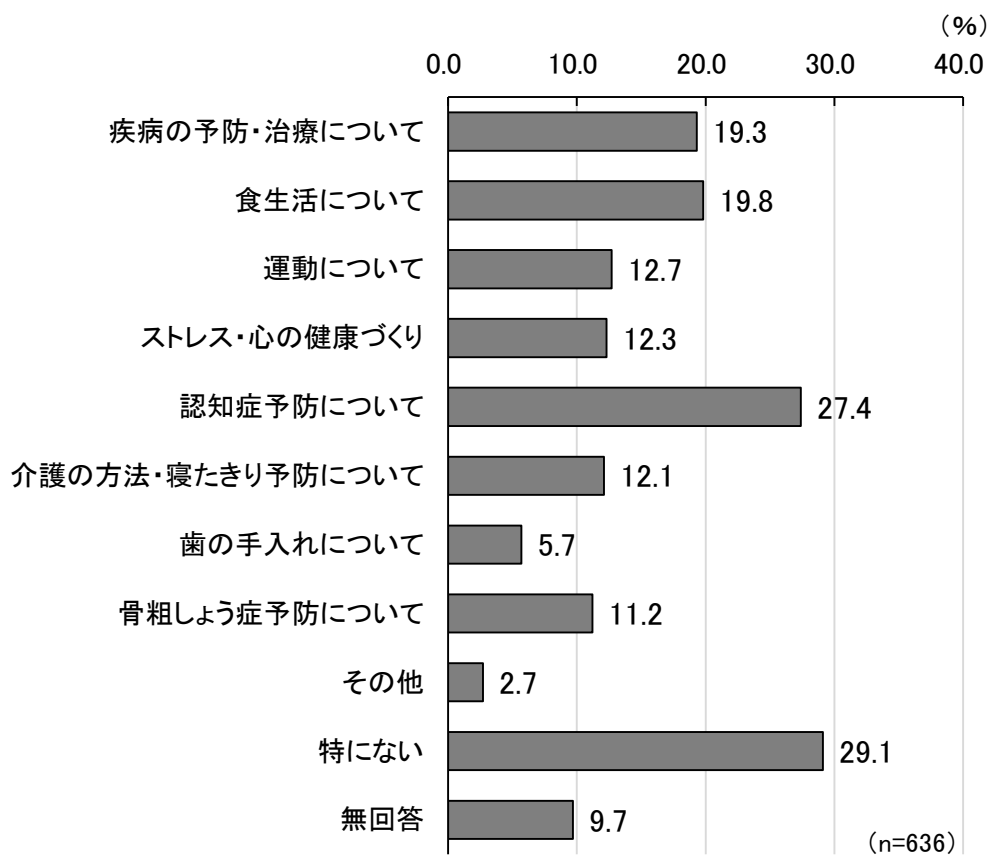
			(%)										
		全 体	ない	高血 圧	脳卒中 (脳出血・脳梗塞 など)	心臓 病	糖尿 病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病気 (肺炎や気 管支炎など)	胃腸・肝臓・胆のうの病 気	腎臓・前立腺の病 気	う 筋 骨 格 の 病 気 (骨折、 関節症など)	
全 体		636	16.2	41.2	3.8	11.0	15.9	8.5	6.1	6.8	11.6	14.2	
性・年 齢 別	男性全体	292	19.5	39.0	5.1	14.7	19.5	6.8	7.5	5.5	22.9	6.2	
	男性65～69歳	75	26.7	32.0	4.0	4.0	21.3	10.7	6.7	4.0	10.7	－	
	男性70～74歳	68	25.0	47.1	4.4	16.2	16.2	8.8	5.9	4.4	19.1	5.9	
	男性75～79歳	66	13.6	42.4	6.1	15.2	24.2	6.1	10.6	9.1	31.8	7.6	
	男性80～84歳	42	16.7	42.9	7.1	19.0	21.4	4.8	2.4	2.4	21.4	9.5	
	男性85～89歳	24	8.3	33.3	4.2	20.8	16.7	－	12.5	8.3	29.2	8.3	
	男性90歳以上	17	11.8	23.5	5.9	35.3	5.9	－	11.8	5.9	52.9	17.6	
	女性全体	335	13.7	42.7	2.7	7.5	12.8	10.1	5.1	7.5	1.8	21.2	
	女性65～69歳	58	25.9	34.5	3.4	3.4	12.1	8.6	1.7	5.2	－	10.3	
	女性70～74歳	67	19.4	40.3	1.5	7.5	19.4	23.9	6.0	7.5	－	13.4	
	女性75～79歳	70	14.3	38.6	1.4	7.1	11.4	10.0	2.9	4.3	2.9	20.0	
	女性80～84歳	52	7.7	42.3	1.9	5.8	9.6	－	7.7	9.6	3.8	32.7	
	女性85～89歳	58	5.2	55.2	3.4	12.1	12.1	8.6	5.2	10.3	1.7	25.9	
	女性90歳以上	30	3.3	50.0	6.7	10.0	10.0	3.3	10.0	10.0	3.3	33.3	
		全 体	外傷 (転倒・骨折など)	がん (悪性新生物)	血液・免疫の病 気	うつ病	認知症 (アルツハイマー 病など)	パーキンソン病	目の病 気	耳の病 気	その他	無回 答	
全 体		636	4.9	3.8	1.1	1.1	0.8	0.6	23.0	5.7	10.1	6.4	
性・年 齢 別	男性全体	292	3.1	4.1	1.0	1.0	1.0	1.0	18.8	4.5	8.6	5.1	
	男性65～69歳	75	1.3	6.7	1.3	1.3	1.3	－	10.7	1.3	10.7	6.7	
	男性70～74歳	68	1.5	4.4	－	1.5	－	1.5	17.6	2.9	8.8	1.5	
	男性75～79歳	66	4.5	3.0	－	－	－	－	25.8	6.1	6.1	4.5	
	男性80～84歳	42	－	4.8	4.8	2.4	－	2.4	16.7	4.8	7.1	4.8	
	男性85～89歳	24	12.5	－	－	－	4.2	－	29.2	8.3	16.7	4.2	
	男性90歳以上	17	5.9	－	－	－	5.9	5.9	23.5	11.8	－	17.6	
	女性全体	335	6.6	3.3	1.2	1.2	0.6	0.3	26.3	6.9	11.3	7.5	
	女性65～69歳	58	5.2	5.2	－	1.7	－	－	19.0	1.7	12.1	10.3	
	女性70～74歳	67	3.0	1.5	1.5	4.5	－	1.5	23.9	1.5	7.5	3.0	
	女性75～79歳	70	7.1	2.9	－	－	－	－	30.0	8.6	21.4	10.0	
	女性80～84歳	52	1.9	3.8	3.8	－	1.9	－	34.6	7.7	11.5	9.6	
	女性85～89歳	58	10.3	5.2	1.7	－	－	－	31.0	10.3	6.9	5.2	
	女性90歳以上	30	16.7	－	－	－	3.3	－	13.3	16.7	3.3	6.7	

性・年齢別では男女ともに「高血圧」が最も高く、男性 39.0%、女性 42.7%である。また、男性は女性に比べ「腎臓・前立腺の病気」の割合が高い（男性 22.9%、女性 1.8%）。

また、男性は年齢階級が上がると 70～74 歳 47.1%をピークに「高血圧」の割合が減少する傾向にあるものの、女性は年齢階級が上がると、「高血圧」が増加し、85～89 歳で 55.2%と最も高くなる。

〔9〕 健康について知りたいこと

図表－90 健康について知りたいこと（複数回答）



健康について知りたいことは、「特にない」29.1%が最も高く、次いで「認知症予防について」27.4%、「食生活について」19.8%、「疾病の予防・治療について」19.3%である。

図表－91 性・年齢別：健康について知りたいこと（複数回答）

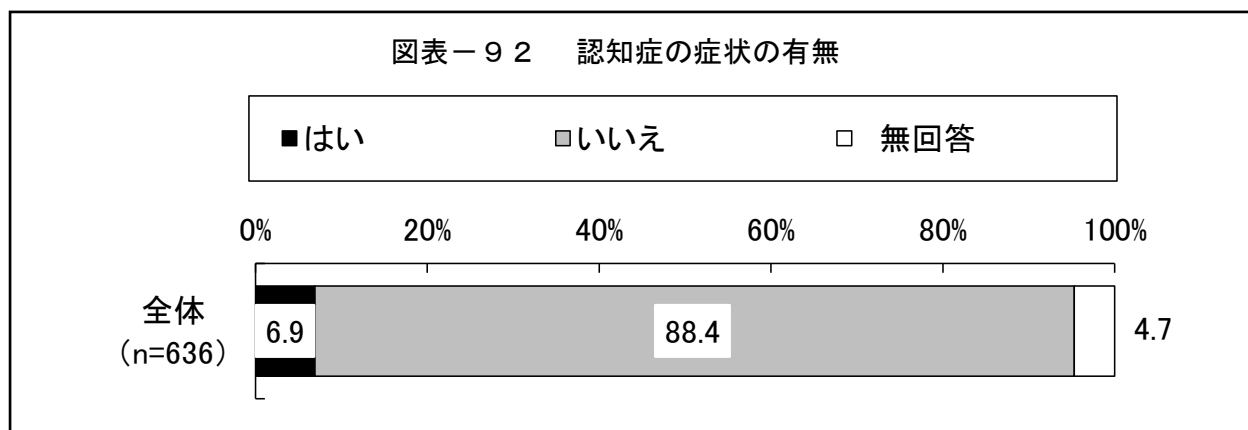
			(%)										
		全 体	疾 病 の 予 防 ・ 治 療 に 関 心 が あ る	食 生 活 に 関 心 が あ る	運 動 に 関 心 が あ る	づ す と リ ス ・ 心 の 健 康	認 知 症 予 防 に 関 心 が あ る	介 護 の 方 法 ・ 寝 た き 方 に 関 心 が あ る	歯 の 手 入 れ に 関 心 が あ る	骨 粗 鬆 症 予 防 に 関 心 が あ る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		636	19.3	19.8	12.7	12.3	27.4	12.1	5.7	11.2	2.7	29.1	9.7
性・年 齢 別	男性全体	292	22.9	18.8	14.4	10.3	20.9	10.3	5.5	4.1	2.4	34.2	8.2
	男性65～69歳	75	22.7	14.7	20.0	10.7	18.7	9.3	2.7	4.0	2.7	37.3	6.7
	男性70～74歳	68	22.1	16.2	10.3	8.8	14.7	4.4	11.8	5.9	1.5	44.1	4.4
	男性75～79歳	66	25.8	22.7	10.6	16.7	22.7	6.1	6.1	3.0	6.1	30.3	4.5
	男性80～84歳	42	21.4	23.8	19.0	9.5	28.6	23.8	4.8	4.8	－	23.8	7.1
	男性85～89歳	24	29.2	20.8	4.2	4.2	25.0	8.3	－	4.2	－	29.2	20.8
	男性90歳以上	17	11.8	17.6	23.5	－	23.5	23.5	－	－	－	29.4	29.4
	女性全体	335	15.8	20.6	11.0	14.3	33.7	13.4	5.7	17.3	3.0	24.8	11.0
	女性65～69歳	58	15.5	19.0	12.1	12.1	22.4	10.3	8.6	13.8	3.4	31.0	8.6
	女性70～74歳	67	19.4	22.4	11.9	17.9	28.4	9.0	3.0	7.5	－	32.8	7.5
	女性75～79歳	70	18.6	25.7	12.9	18.6	44.3	20.0	7.1	18.6	2.9	20.0	7.1
	女性80～84歳	52	9.6	21.2	15.4	17.3	40.4	13.5	7.7	19.2	7.7	13.5	15.4
	女性85～89歳	58	19.0	22.4	6.9	12.1	32.8	10.3	3.4	20.7	1.7	24.1	19.0
	女性90歳以上	30	6.7	3.3	3.3	－	33.3	20.0	3.3	33.3	3.3	26.7	10.0

性・年齢別では、男性は「特にない」34.2%が最も高く、女性は「認知症予防について」33.7%が最も高い。

また、男性はいずれの年齢階級でも「疾病の予防・治療について」が女性より高く、男性90歳以上の年齢階級を除いて約20%である。女性は75～79歳、80～84歳で「認知症予防について」が40%を超えて高い。

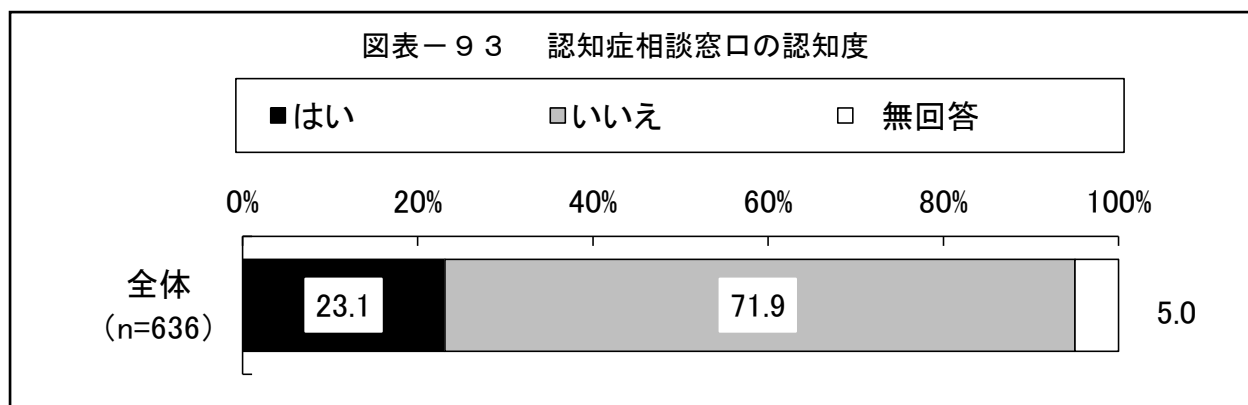
(9) 認知症にかかる相談窓口の把握について【問8】

[1] 認知症の症状の有無



認知症の症状の有無は「いいえ（ない）」が88.4%で、「はい（ある）」が6.9%である。

[2] 認知症の相談窓口の認知度



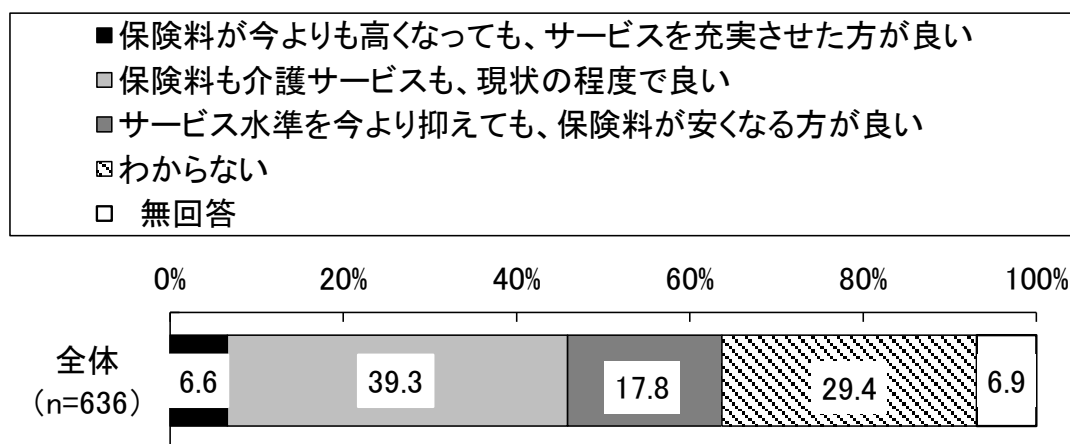
認知症相談窓口の認知度は、「いいえ（知らない）」が最も高く71.9%、「はい（知っている）」は23.1%である。

3. 調査結果の詳細 (10) 高齢者の福祉や介護の施策に関する考え方について【問9】

(10) 高齢者の福祉や介護の施策に関する考え方について【問9】

〔1〕 介護保険料と介護サービスのあり方について

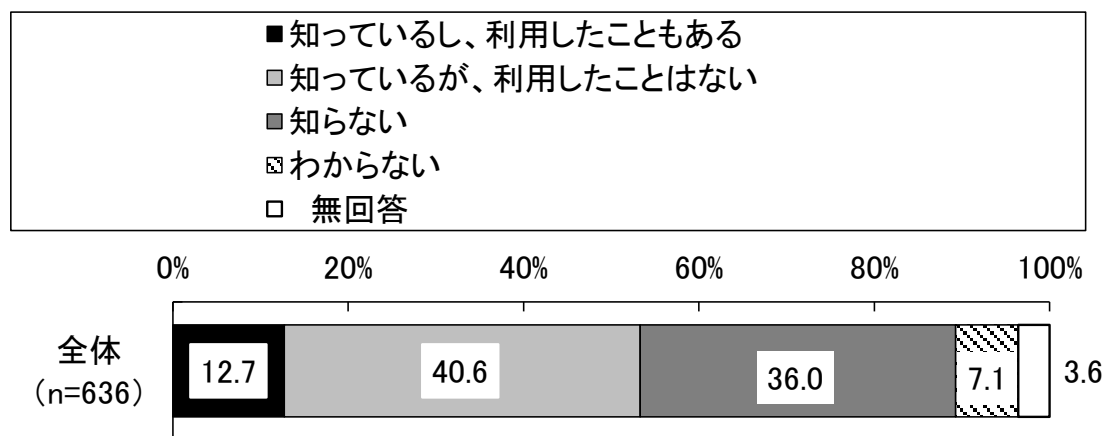
図表－94 介護保険料と介護サービスのあり方について



介護保険料と介護サービスのあり方については「保険料も介護サービスも、現状の程度で良い」39.3%が最も高く、次いで「わからない」が29.4%、「サービス水準を今より抑えても、保険料が安くなる方が良い」17.8%である。

〔2〕 「小郡市地域包括支援センター」の認知度

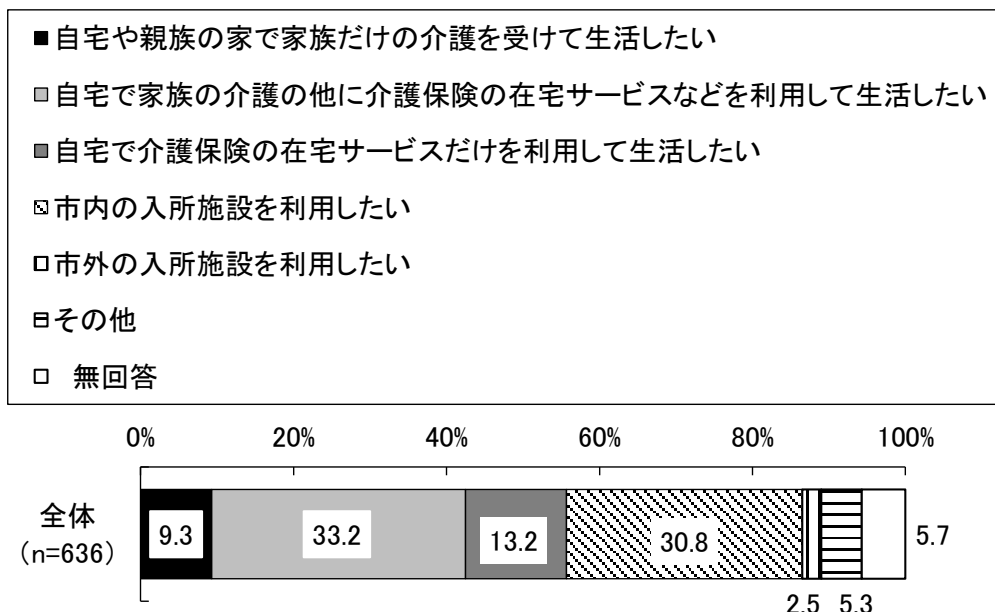
図表－95 「小郡市地域包括支援センター」の認知度



「小郡市地域包括支援センター」の認知度は「知っているが、利用したことはない」40.6%が最も高く、次いで「知らない」36.0%である。

〔３〕 介護が必要となった際、生活したい場所

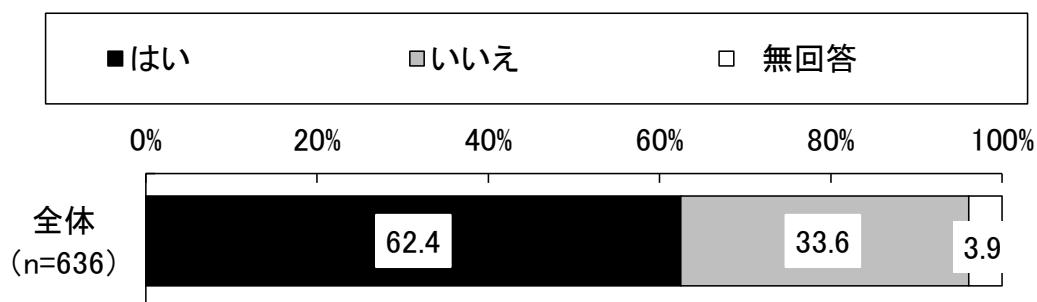
図表－９６ 介護が必要となった際、生活したい場所



介護が必要となった際、生活したい場所は、「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスを利用して生活したい」33.2%が最も高く、次いで「市内の入所施設を利用したい」30.8%、「自宅で介護保険の在宅サービスだけを利用して生活したい」13.2%である。

〔４〕 「もしもの時」を考えたことがありますか

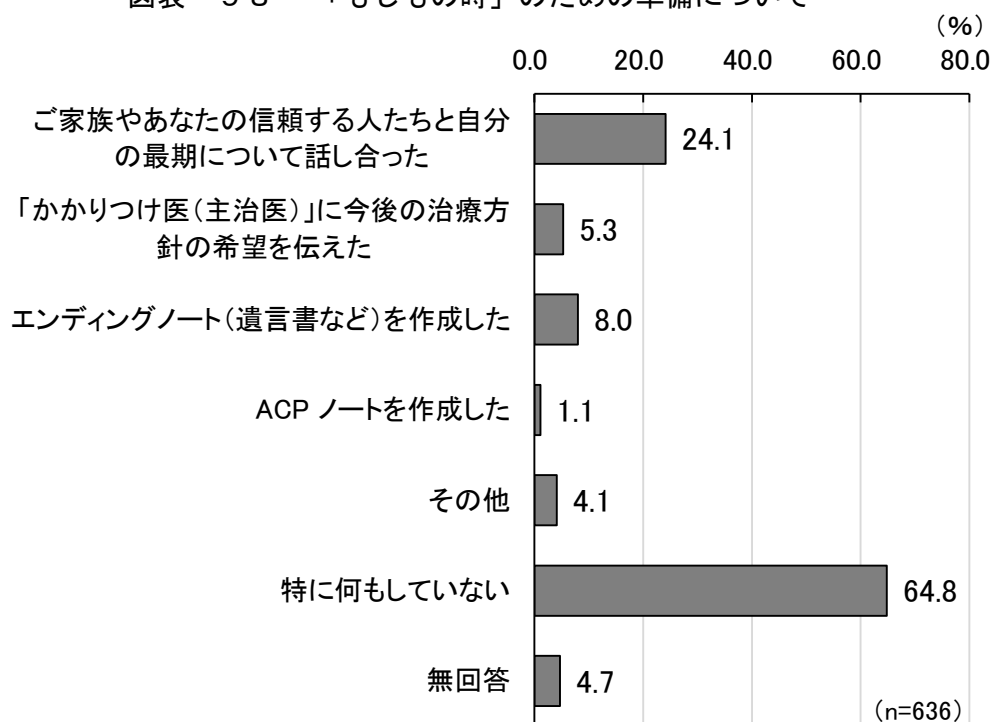
図表－９７ 「もしもの時」を考えたことがありますか



「もしもの時（病状が悪くなり、回復の見込みがなくなった時など）」のことを考えたことがあるかについては、「はい（考えたことがある）」62.4%が最も高く、次いで「いいえ（考えたことがない）」33.6%である。

〔5〕 「もしもの時」のための準備について

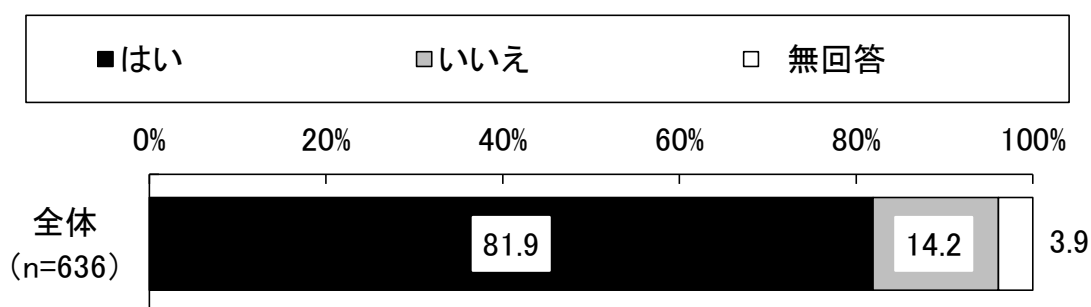
図表－98 「もしもの時」のための準備について



「もしもの時」の準備については、「特に何もしていない」64.8%が最も高く、次いで「ご家族やあなたの信頼する人たちと自分の最期について話し合った」24.1%、「エンディングノート（遺言書など）を作成した」8.0%である。

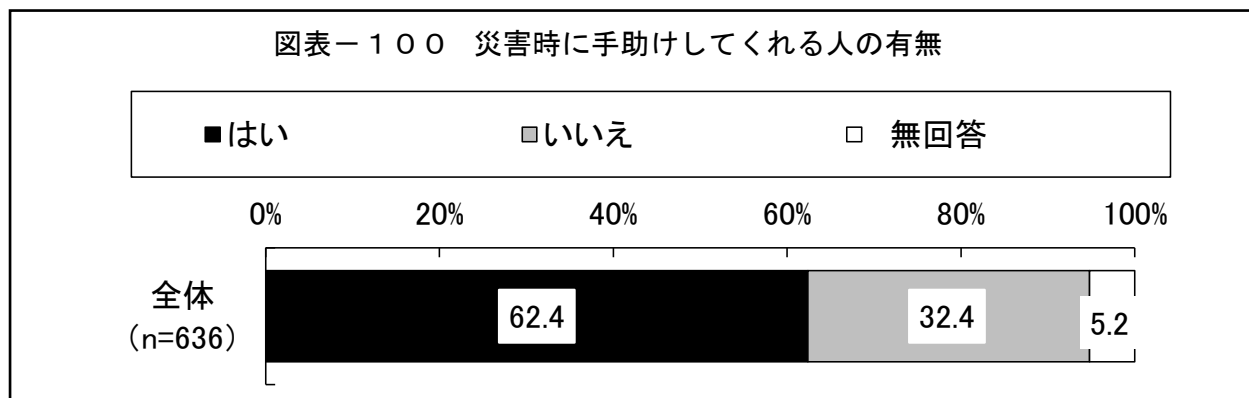
〔6〕 災害時の避難場所の認知度

図表－99 災害時の避難場所の認知度



災害時の避難場所については「はい（知っている）」81.9%が最も高く、次いで「いいえ（知らない）」14.2%である。

〔 7 〕 災害時に手助けしてくれる人の有無



災害時に手助けしてくれる人の有無については、「はい（いる）」は 62.4%、「いいえ（いない）」が 32.4%である。

3. 調査結果の詳細 (10) 高齢者の福祉や介護の施策に関する考え方について【問9】

〔8〕小郡市の高齢者施策へのご意見・ご要望（自由記述）

図表－101 小郡市の高齢者施策へのご意見・ご要望（自由記述）

【上位項目の主な内容】(原文ママ)

分類	件数	日常生活・経済状況について
日常生活・経済状況について	20	・数年後、十年後のことを考えると生活（日常の買物、通院等）に不安を感じます。地域の特性に合った支援をお願いしたいと思います。
交通について	20	・年1回の市の健康診断は、毎月かかりつけの病院で行なっており、癌検診を無償が無理だったら一部負担でもよいから追加してほしい。
地域活動などについて	20	・妻に先立たれたら食事のことは何も出来ない。又、自分が先立っても妻の事が気掛かりで年をとるにつれ心細くなる。
交流、情報窓口・発信について	14	交通について
介護施設等について	10	・仕事を朝はやくいって来たかたがあったらデイケアがバスがむかえにきてくれる時があればいいです。
健康のための取り組みについて	7	・安心、安全な福祉環境づくりの一つに、道路・交通問題が有ります。自転車での歩道逆走、無灯火飛び出し等、ここ数年特に外国人に目立ちます。教育・指導をテッテイして下さい。
災害について	5	・コミュニティバス以外は、買物に便利な市内バスが全くない。すべてアステラスに向いていて、老人はタクシーに頼る以外に手段がない。自動車の型は小さくて良いので、考えて欲しい。
その他	34	地域活動などについて
		・区や町内会の行事への参加がない。方法が判らない。町内のコミュニケーションが薄い。市としても活発な企画を望みます。
		・小郡市の人口、地域構成を考慮すると行政、地域活動を通じ目配りの出来る状況と考えます。一段のまちづくりに努力していきましょう。
		・町内の班に若い人が入って来ないので、世話をする人の高齢が進ん場合、どういった事をどこまでするか決め事があった方がやり易いと思う。
		交流、情報窓口・発信について
		・「暮らしの便利帳」があったのを思い出して読みました。もっと身近においてくり返し再確認したいと思います。
		・独りぐらしの老人に、定期的（週一回）な訪問をお願いしたい。一要望を聞いてもらいたい。
		・公民館の場所で高齢者の生活実態とか介護予防について、セミナーを開催していただければ今よりも理解を深めることができると思うし関心も持つようになるのではないのでしょうか。
		介護施設等について
		・高齢者社会で十分な在宅サービスを受けられるだろうか、そして施設入居者がパンク状態になり入居出来なくなるか心配です。
		・高齢者にとって住み慣れた自宅で介護を受けながら生活するのが理想だと思いますが、私個人としては介護サービスを受けながらも現実、老々介護は厳しいと思います。介護はプロ、精神的支えは家族等、役割分担ができる入所施設が増えると安心かなあと思います。

小郡市の高齢者施策についてのご意見・ご要望を自由記述形式で尋ねたところ、計104件の回答が得られた。

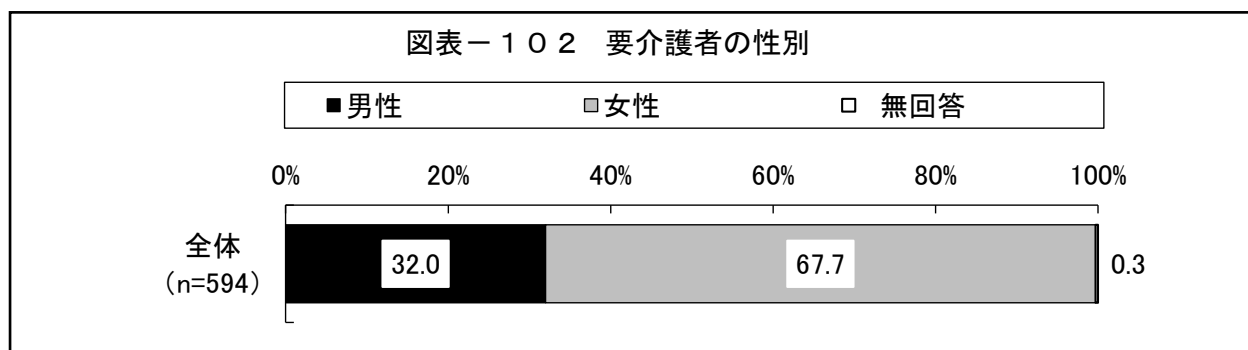
回答を大まかに分類（分類間の重複あり）すると、「日常生活・経済状況について」、「交通について」、「地域活動について」が20件で最も多い。次いで「交流、情報窓口・発信について」が14件、「介護施設等について」が10件であった。

第3章 調査結果：在宅介護実態調査

1. 基本属性

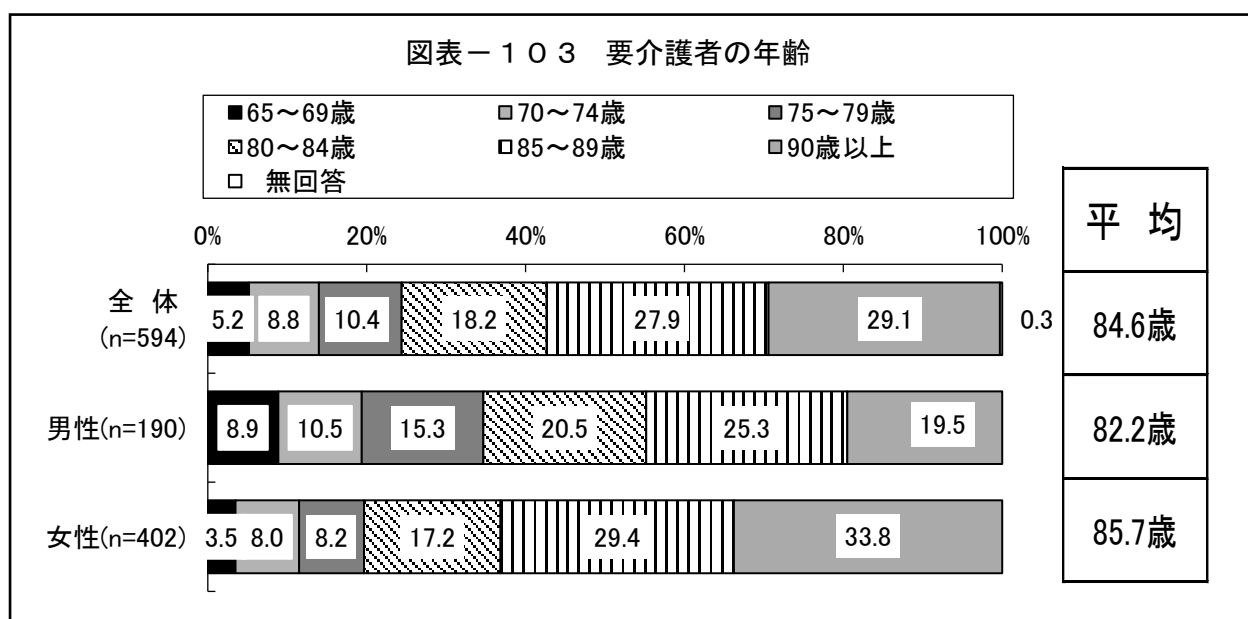
(1) 要介護者の基本属性

[1] 性別



要介護者の性別は女性 67.7%、男性 32.0%で、女性の方が高い。

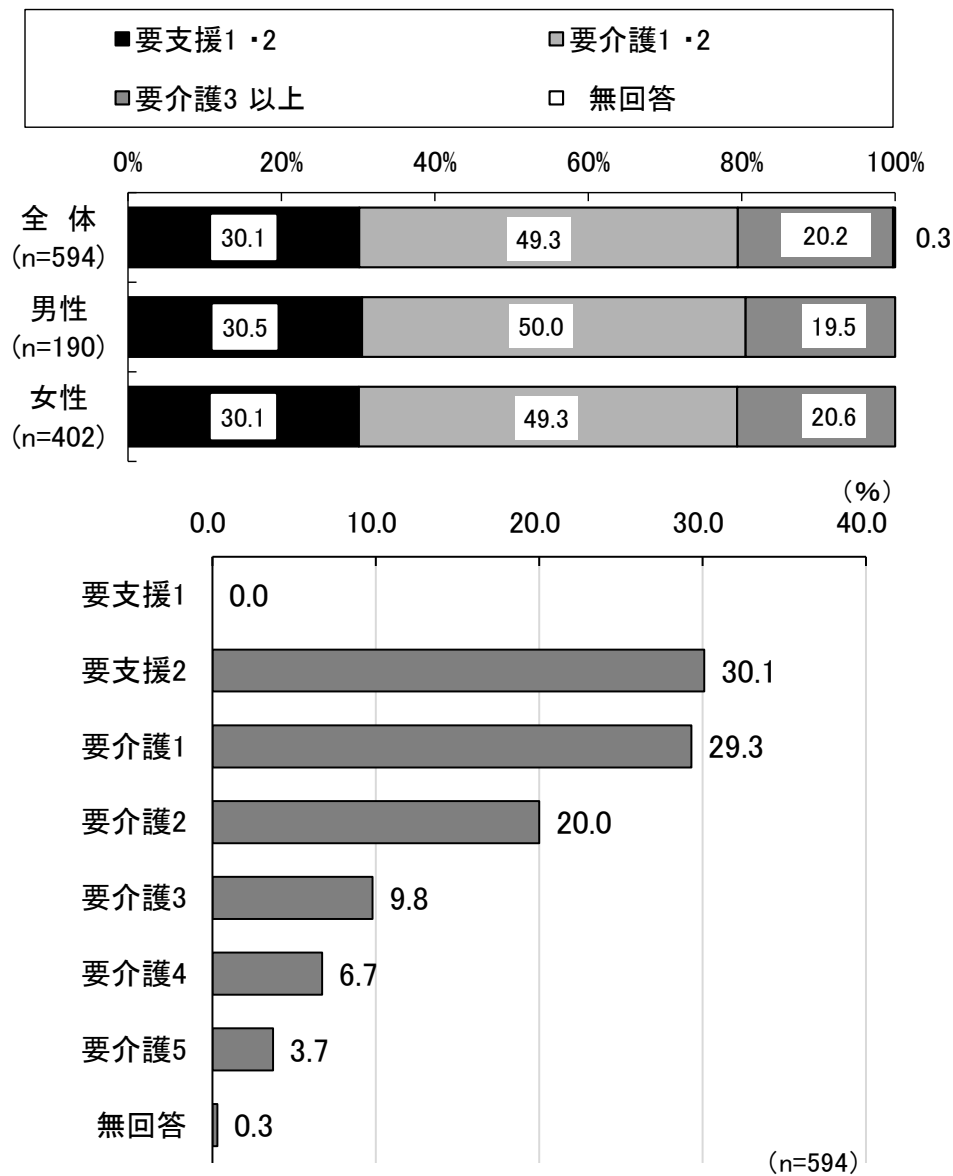
[2] 年齢



要介護者の年齢は、「90歳以上」29.1%が最も高い。次いで、「85～89歳」27.9%、「80～84歳」18.2%である。要介護者の平均年齢は84.6歳で、男性では82.2歳、女性では85.7歳である。

[3] 要介護認定

図表－１０４ 要介護者の要介護認定度



要介護認定度は「要支援2」30.1%が最も高い。次いで「要介護1」29.3%、「要介護2」20.0%である。

〔４〕 小学校区別基本属性

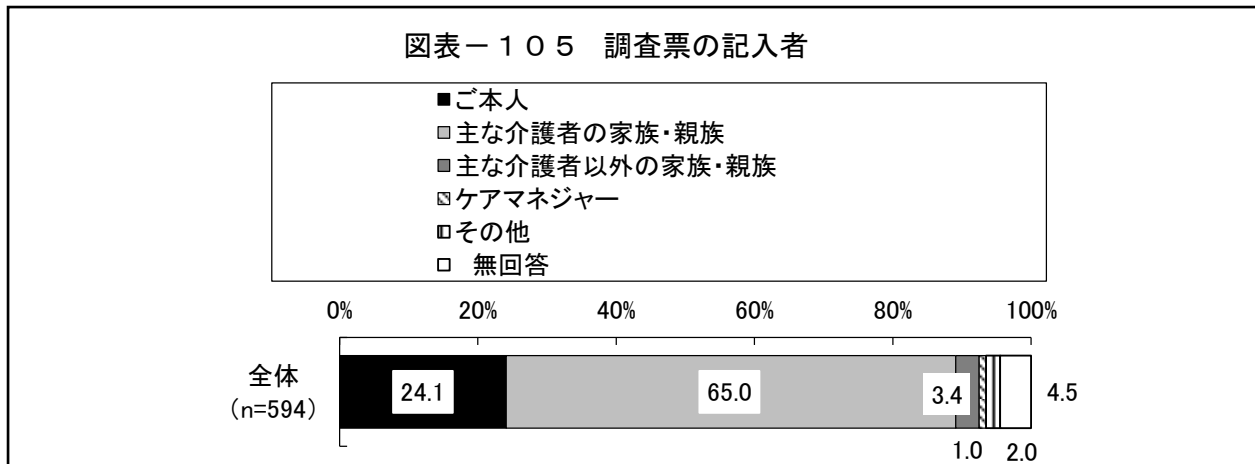
小学校区別の基本属性は以下のようになっている。

(上段：実数、下段：％)

(単位：人数、1校：10)													
		全 体	性別		年 齢 別						要介護度別		
			男 性	女 性	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 ～ 7 9 歳	8 0 ～ 8 4 歳	8 5 ～ 8 9 歳	9 0 歳 以上	要 支 援 1 ・ 2	要 介 護 1 ・ 2	要 介 護 3 以上
全 体		594 100.0	190 32.0	402 67.7	31 5.2	52 8.8	62 10.4	108 18.2	166 27.9	173 29.1	179 30.1	293 49.3	120 20.2
小 学 校 区 別	小郡小学校区	131 100.0	43 32.8	88 67.2	6 4.6	9 6.9	21 16.0	23 17.6	37 28.2	35 26.7	41 31.3	65 49.6	25 19.1
	大原小学校区	83 100.0	29 34.9	54 65.1	7 8.4	12 14.5	4 4.8	13 15.7	21 25.3	26 31.3	21 25.3	48 57.8	14 16.9
	三国小学校区	162 100.0	46 28.4	116 71.6	5 3.1	13 8.0	22 13.6	30 18.5	41 25.3	51 31.5	50 30.9	83 51.2	29 17.9
	立石小学校区	61 100.0	21 34.4	40 65.6	2 3.3	4 6.6	4 6.6	16 26.2	18 29.5	17 27.9	18 29.5	31 50.8	12 19.7
	御原小学校区	38 100.0	13 34.2	25 65.8	2 5.3	3 7.9	3 7.9	7 18.4	10 26.3	13 34.2	12 31.6	18 47.4	8 21.1
	味坂小学校区	35 100.0	9 25.7	26 74.3	2 5.7	2 5.7	1 2.9	6 17.1	10 28.6	14 40.0	11 31.4	18 51.4	6 17.1
	東野小学校区	68 100.0	25 36.8	43 63.2	6 8.8	8 11.8	4 5.9	10 14.7	26 38.2	14 20.6	21 30.9	23 33.8	24 35.3
	のぞみが丘小学校区	14 100.0	4 28.6	10 71.4	1 7.1	1 7.1	3 21.4	3 21.4	3 21.4	3 21.4	5 35.7	7 50.0	2 14.3

2. 調査結果の詳細

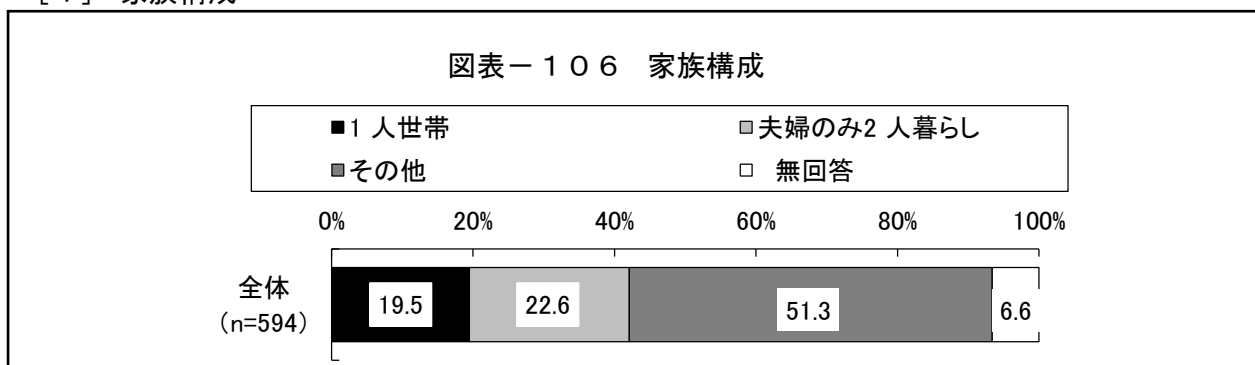
[1] 調査票の記入者



調査票の記入者は「主な介護者の家族・親族」65.0%が最も高い。次いで「ご本人」24.1%である。

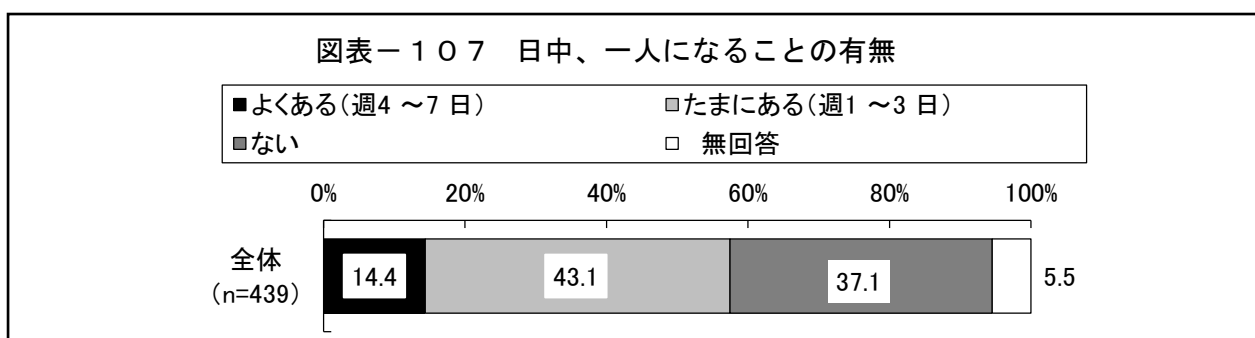
(1) A票：調査結果

[1] 家族構成



家族構成は「その他」世帯が最も高く 51.3%である。次いで「夫婦のみ2人暮らし」22.6%、「1人世帯」19.5%である。

[2] 日中、一人になることの有無



「家族構成」で「2. 夫婦のみ2人暮らし」、「3. その他」と回答した人(439人)に「日中、一人になることがあるか」尋ねた。

全体では、「たまにある(週1～3日)」43.1%が最も高い。次いで、「ない」37.1%である。

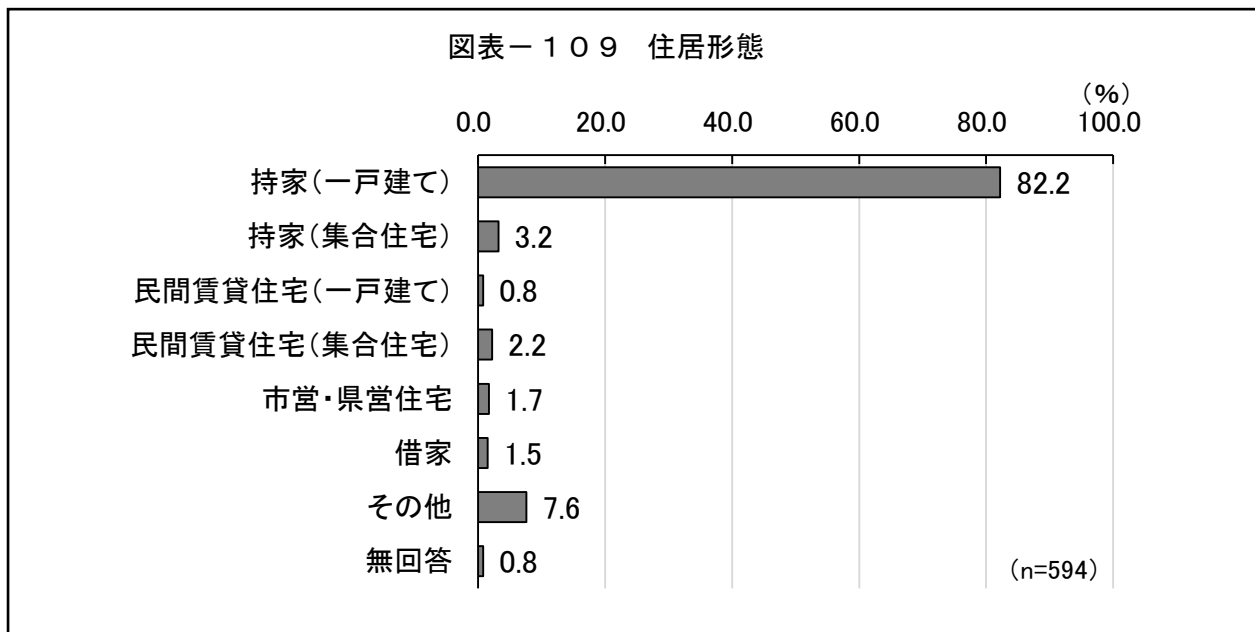
[3] 一人になる時間帯

図表－１０８ 一人になる時間帯

開始時間	終了時間												
	0～9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21～24時
0～6時	1	2		1		2	3	8	5	7	1		3
7時	2	1		2		1				2	5	3	1
8時		1	2	9		1	4	2	7	10	3	1	2
9時		1	4	12	3	3	5	6	10	5		2	1
10時			8	23	4	2	7	8	6	2		1	
11時				3	3		1		1		1		1
12時					1		2		1	1			3
13時						3	8	7	12	2			1
14時							5	13	5		1		
15時								1	4				1
16時									1		1	1	2
17時												1	1
18～24時										1		3	1

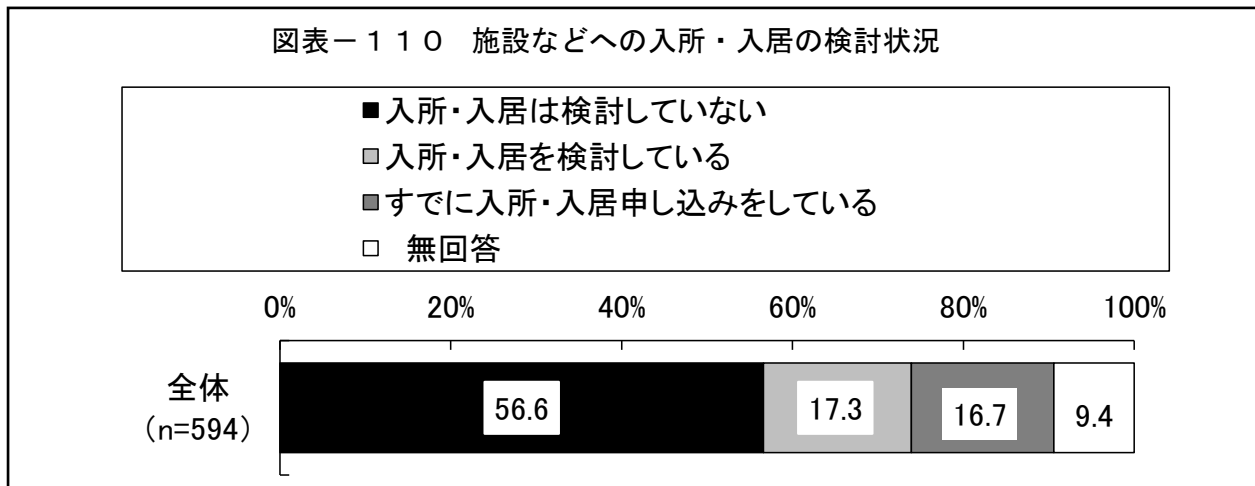
一人になる時間帯は「10～12 時」の間が最も多く、次いで「14～16 時」の間である。

〔4〕 住居形態



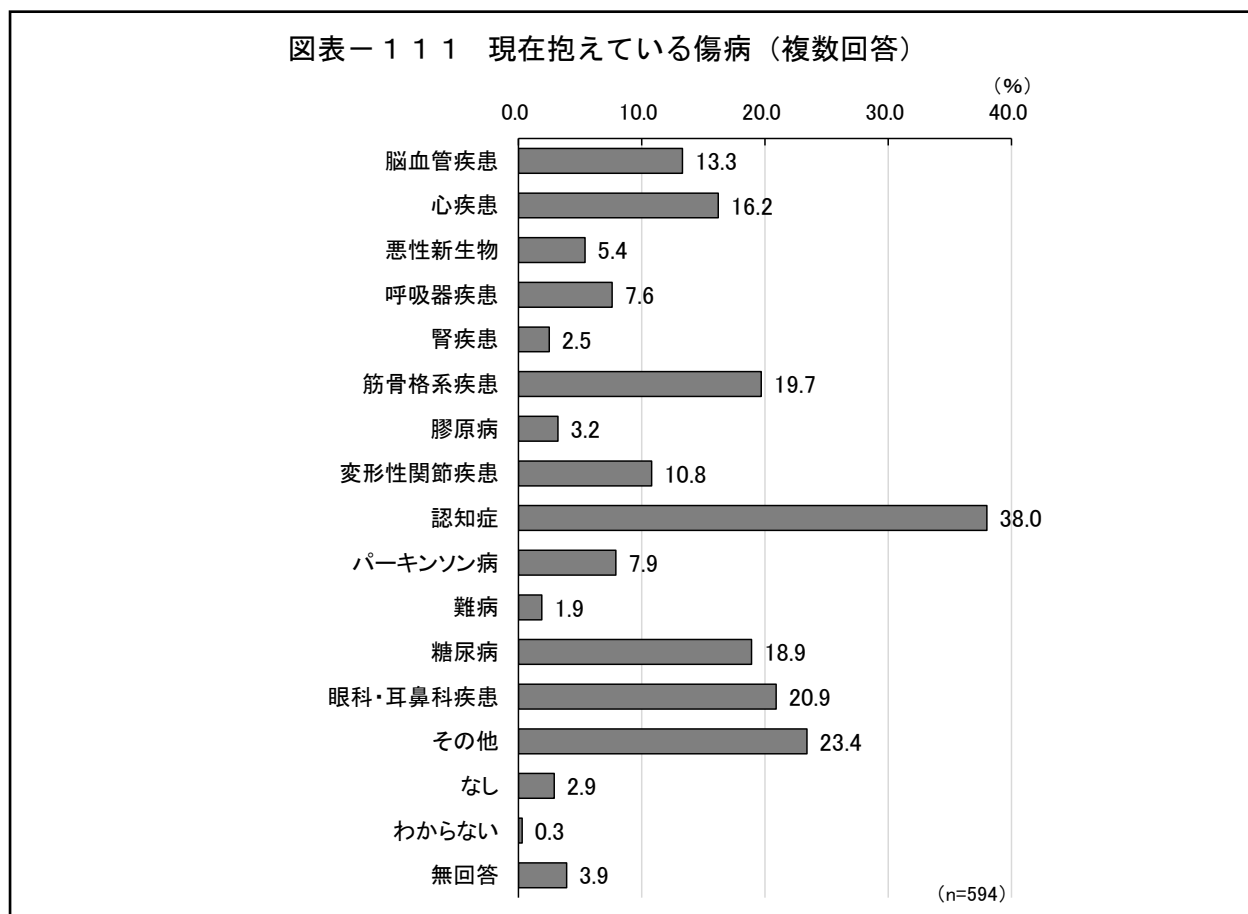
住居形態は、「持家（一戸建て）」82.2%が最も高く、次いで「その他」7.6%、「持家（集合住宅）」3.2%である。

〔5〕 施設などへの入所・入居の検討状況



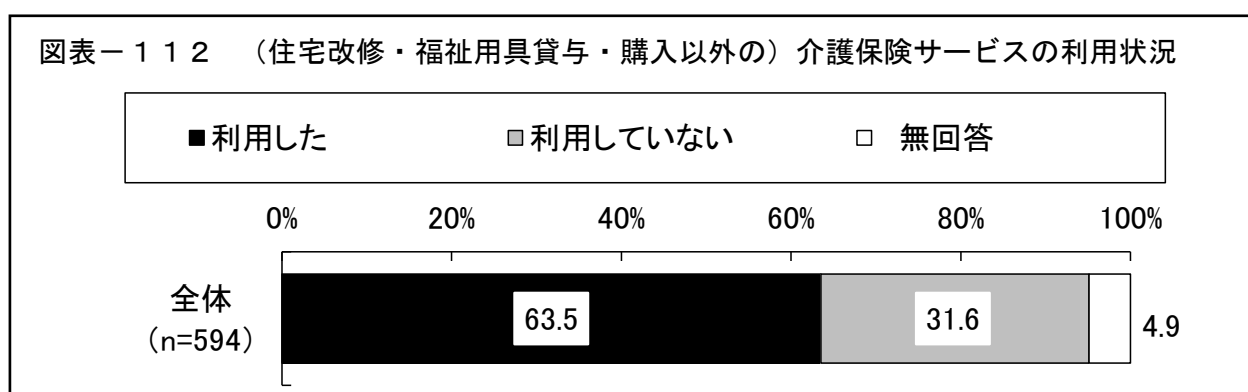
施設などへの入所・入居の検討状況は、「入所・入居は検討していない」56.6%が最も高く、次いで「入所・入居を検討している」17.3%である。「すでに入所・入居申し込みをしている」は16.7%である。

〔6〕 現在抱えている傷病



現在抱えている傷病については、「認知症」38.0%が最も高く、次いで「その他」23.4%、「眼科・耳鼻科疾患」20.9%である。僅差で「筋骨格系疾患」19.7%、「糖尿病」18.9%なども高くなっている。

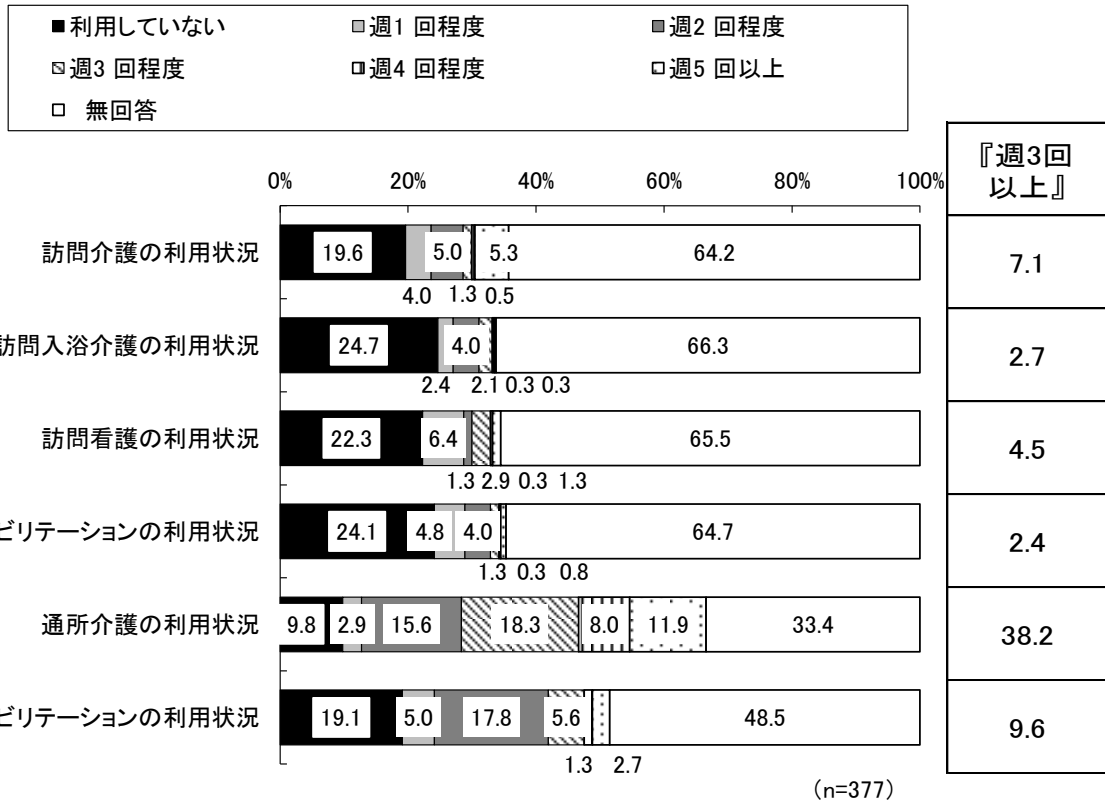
〔7〕 （住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況



（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況については、「利用した」63.5%が最も高く、次いで「利用していない」31.6%である。

〔8〕 介護保険サービスの利用状況

図表ー113 A. 訪問看護～F. 通所リハビリテーション（デイケア）



介護保険サービスの利用状況（「A. 訪問介護」、「B. 訪問入浴看護」、「C. 訪問看護」、「D. 訪問リハビリテーション」、「E. 通所介護」、「F. 通所リハビリテーション」）について尋ねた。

訪問介護の利用状況は、「利用していない」19.6%が最も高い。次いで、「週5回以上」5.3%、「週2回程度」5.0%である。

訪問入浴介護の利用状況は、「利用していない」24.7%が最も高く、次いで「週2回程度」4.0%、「週1回程度」2.4%である。

訪問看護の利用状況は、「利用していない」22.3%が最も高く、「週1回程度」6.4%、「週3回程度」2.9%である。

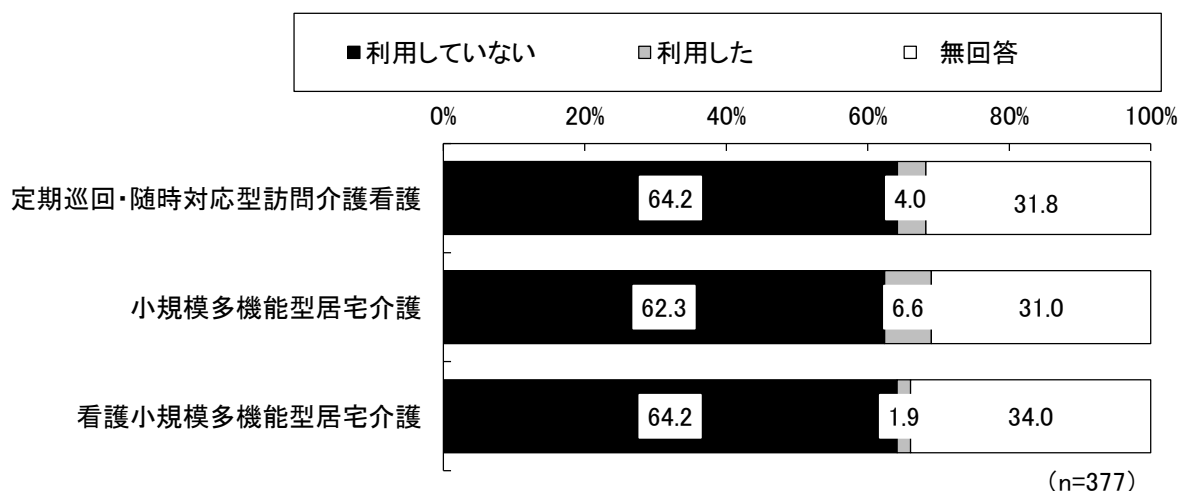
訪問リハビリテーションの利用状況は、「利用していない」24.1%、「週1回程度」4.8%、「週2回程度」4.0%である。

通所介護の利用状況は、「週3回程度」18.3%が最も高く、次いで「週2回程度」15.6%、「週5回以上」11.9%である。

通所リハビリテーションの利用状況は、「利用していない」19.1%が最も高く、次いで「週2回程度」17.8%、「週3回程度」5.6%である。

『週3回以上』の利用が最も高いのは「通所介護」38.2%である。次いで「通所リハビリテーション」9.6%、「訪問介護」7.1%である。

図表－１１４ G. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護～I. 看護小規模多機能型居宅介護

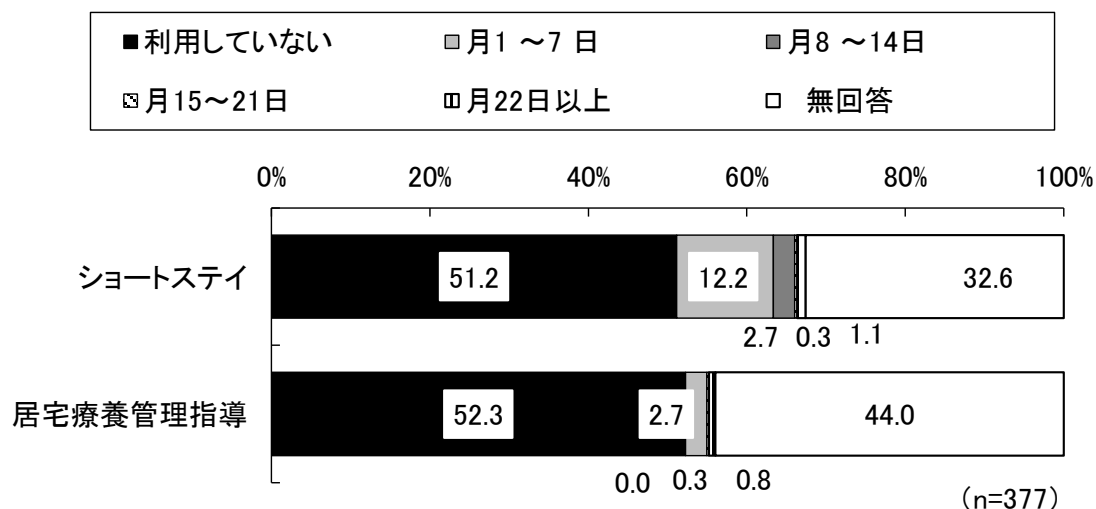


定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用状況は、「利用していない」が 64.2%、「利用した」が 4.0%である。

小規模多機能型居宅介護の利用状況は、「利用していない」が 62.3%で、「利用した」が 6.6%である。

看護小規模多機能型居宅介護の利用状況は「利用していない」が 64.2%、「利用した」が 1.9%である。

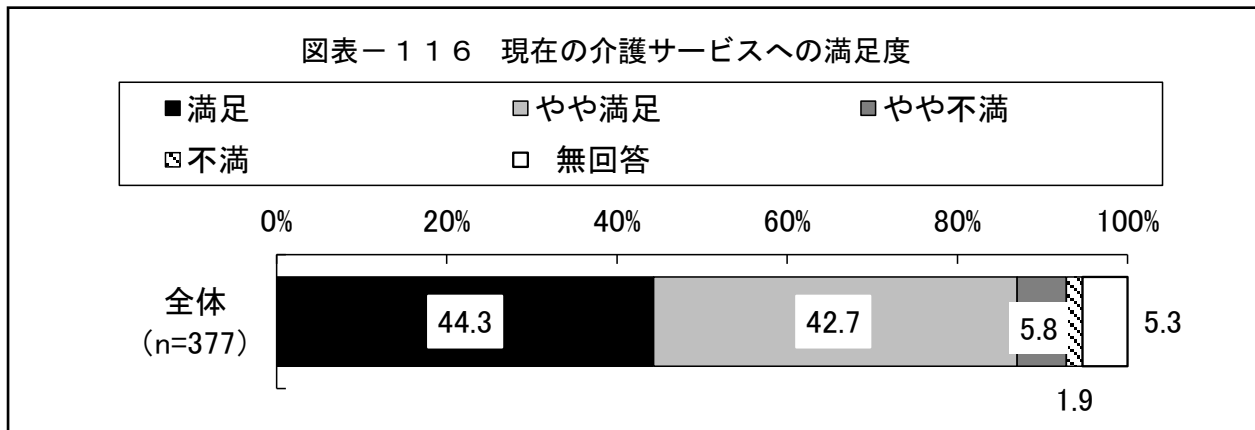
図表－１１５ J. ショートステイ（短期入所）～K. 居宅療養管理指導



ショートステイの利用状況は、「利用していない」が 51.2%である。次いで「月 1～7 日」が 12.2%、「月 8～14 日」が 2.7%である。

居宅療養管理指導の利用状況は、「利用していない」が 52.3%である。次いで「月 1～7 日」が 2.7%である。

〔9〕現在の介護サービスへの満足度



「(住宅改修、福祉用具貸与、購入以外の) 介護保険サービスの利用状況」において、「1. 利用した」と回答した人(377人)に「現在の介護サービスへの満足度」を尋ねた。

全体では「満足」44.3%が最も高く、次いで「やや満足」42.7%、「やや不満」5.8%である。

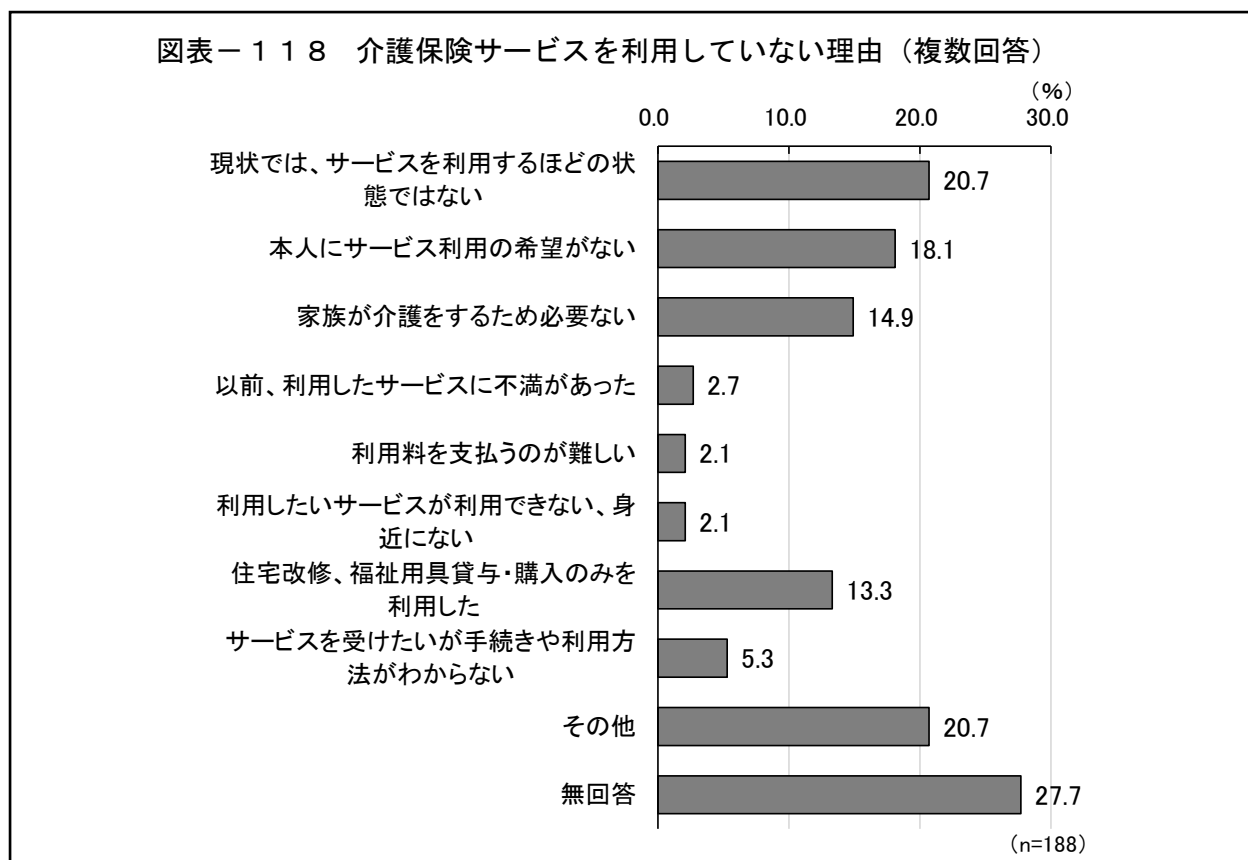
図表－１１７ 小学校区別・要介護度別：現在の介護サービスへの満足度 (%)

		全 体	満 足	やや 満 足	やや 不 満	不 満	無 回 答
全 体		377	44.3	42.7	5.8	1.9	5.3
小 学 校 区 別	小郡小学校区	79	45.6	45.6	1.3	2.5	5.1
	大原小学校区	50	36.0	52.0	8.0	4.0	—
	三国小学校区	106	47.2	36.8	7.5	0.9	7.5
	立石小学校区	40	40.0	42.5	5.0	2.5	10.0
	御原小学校区	28	57.1	35.7	3.6	—	3.6
	味坂小学校区	22	54.5	45.5	—	—	—
	東野小学校区	40	35.0	42.5	15.0	2.5	5.0
	のぞみが丘小学校区	11	36.4	54.5	—	—	9.1
要 介 護 度 別	要支援1	—	—	—	—	—	—
	要支援2	99	45.5	39.4	6.1	3.0	6.1
	要介護1	105	49.5	39.0	6.7	1.0	3.8
	要介護2	85	42.4	47.1	5.9	1.2	3.5
	要介護3	44	40.9	50.0	4.5	2.3	2.3
	要介護4	27	29.6	44.4	3.7	—	22.2
	要介護5	16	43.8	43.8	6.3	6.3	—

小学校区別では「満足」は御原小学校区 57.1%、味坂小学校区 54.5%で高い。

要介護度別では、要介護4は「満足」が 29.6%で他介護度より約 10 ポイント低い。

[1 0] 介護保険サービスを利用していない理由

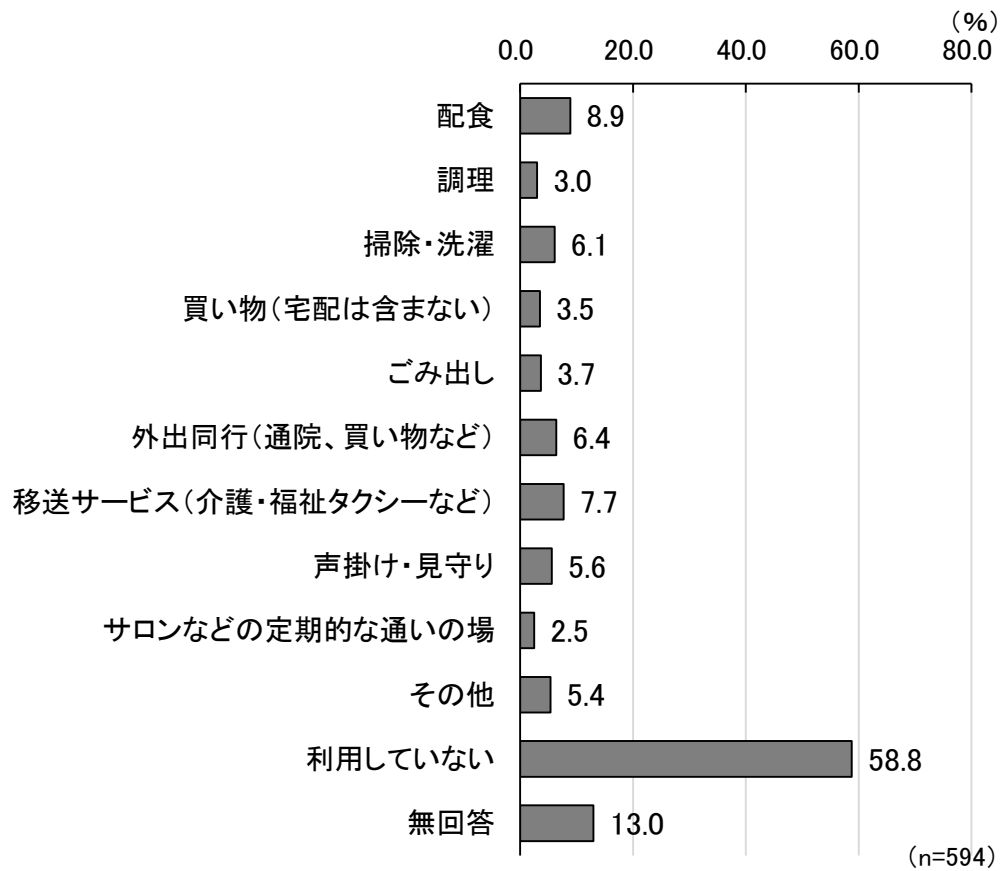


「(住宅改修、福祉用具貸与、購入以外の) 介護保険サービスの利用状況」において、「2. 利用していない」と回答した人(188人)に「その理由」を尋ねた。

全体では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「その他」20.7%が最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」18.1%である。

[11] 「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況

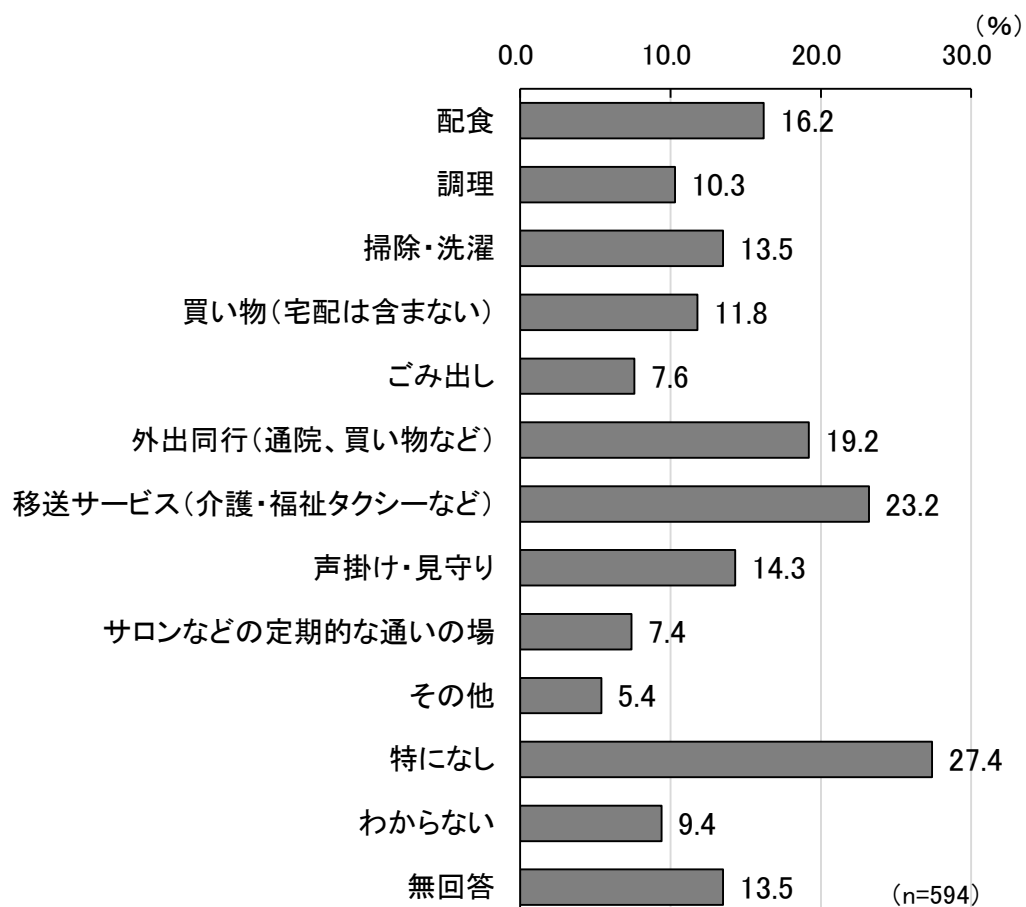
図表－119 「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況（複数回答）



「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況は、「利用していない」58.8%が最も高い。次いで「配食」8.9%、「移送サービス（介護・福祉タクシー）」7.7%である。

[1 2] 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

図表－１２０ 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）

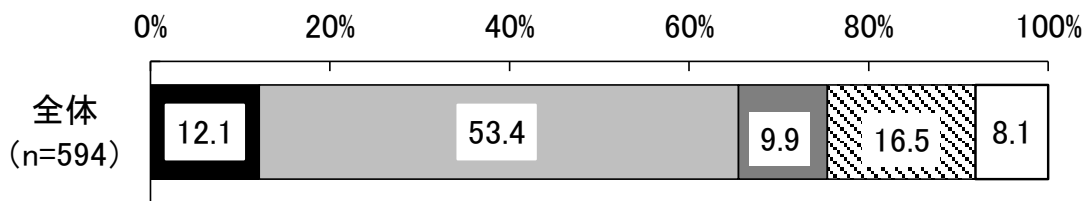


在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「特になし」27.4%が最も高い。次いで「移送サービス（介護・福祉タクシーなど）」23.2%、「外出同行（通院、買い物など）」19.2%である。

[13] 介護保険料と介護サービスのあり方について

図表－121 介護保険料と介護サービスのあり方について

- 保険料が今よりも高くなっても、サービスを充実させたほうが良い
- 保険料も介護サービスも、現状の程度で良い
- サービス水準を今よりも抑えても、保険料が安くなるほうが良い
- ▨ わからない
- 無回答

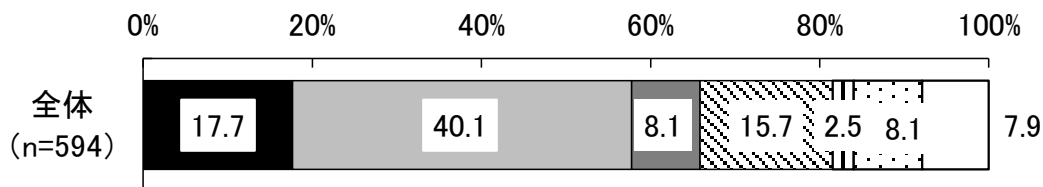


介護保険料と介護サービスのあり方については、「保険料も介護サービスも、現状の程度で良い」53.4%が最も高い。次いで「わからない」16.5%、「保険料が今よりも高くなっても、サービスを充実させたほうが良い」12.1%である。

[14] 今後の生活場所の希望

図表－122 今後の生活場所の希望

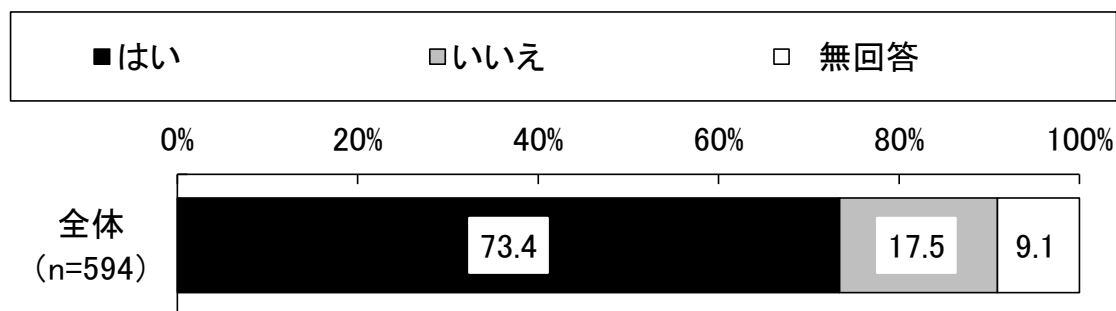
- 自宅や親族の家で家族だけの介護を受けて生活したい
- 自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい
- 自宅で介護保険の在宅サービスだけを利用して生活したい
- ▨ 市内の入所施設を利用したい
- 市外の入所施設を利用したい
- その他
- 無回答



今後の生活場所の希望については、「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」40.1%が最も高く、次いで「自宅や親族の家で家族だけの介護を受けて生活したい」17.7%、「市内の入所施設を利用したい」15.7%である。

〔15〕 「もしもの時」を考えたことがありますか

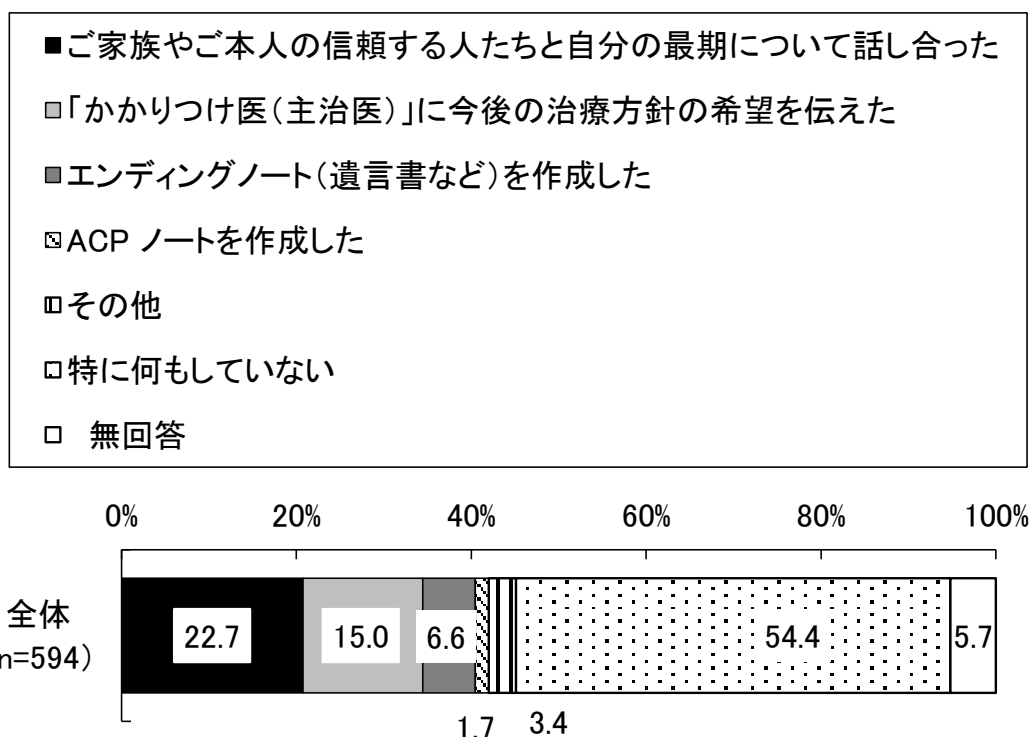
図表－123 「もしもの時」を考えたことがありますか



「もしもの時（病状が悪くなり、回復の見込みがなくなった時など）」を考えたことがあるかについては、「はい（考えたことがある）」が 73.4%で最も高く、「いいえ（考えたことがない）」が 17.5%である。

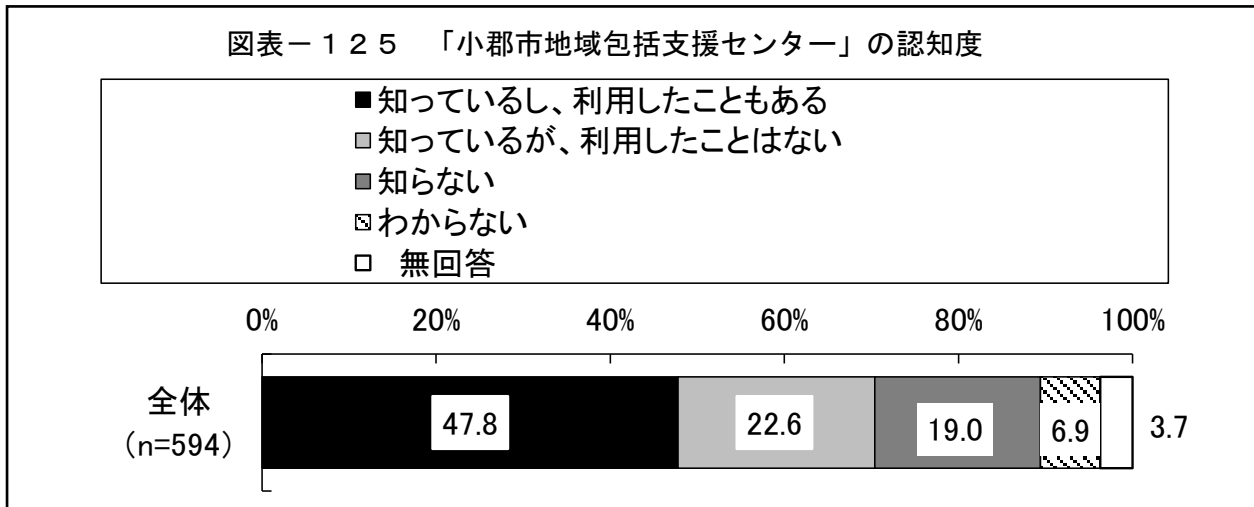
〔16〕 「もしもの時」のための準備について

図表－124 「もしもの時」のための準備について（複数回答）



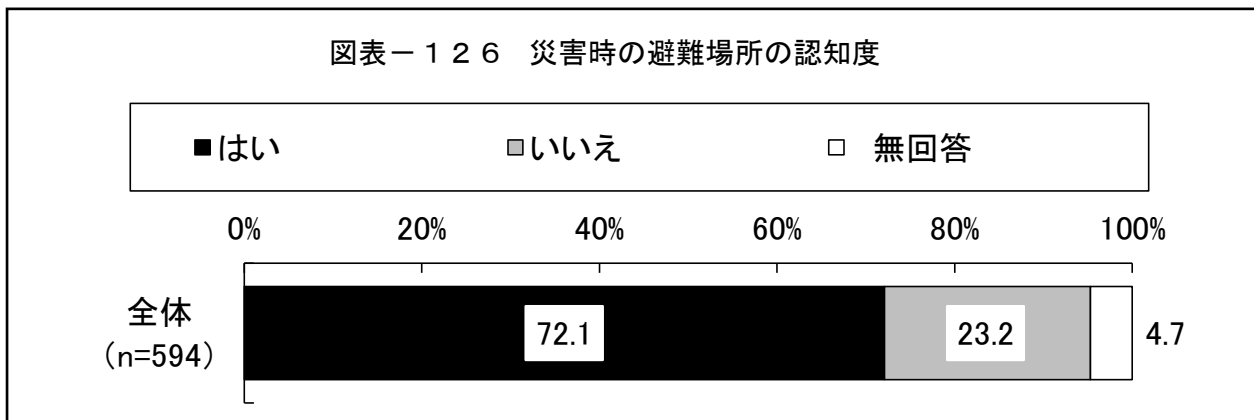
「もしもの時」の準備状況については、「特に何もしていない」54.4%が最も高い。次いで、「ご家族やご本人の信頼する人たちと自分の最期について話し合った」22.7%、「「かかりつけ医（主治医）」に今後の治療方針の希望を伝えた」15.0%である。

[1 7] 「小郡市地域包括支援センター」の認知度



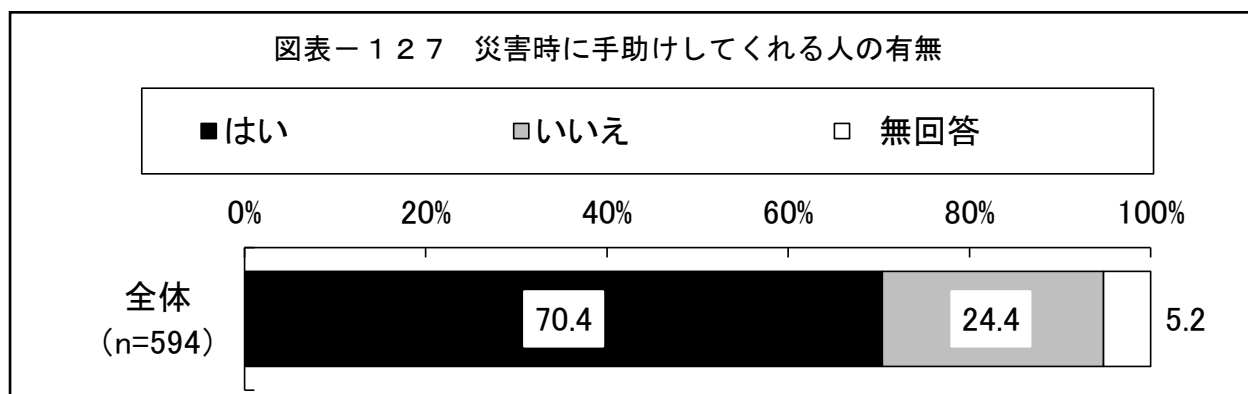
「小郡市地域包括支援センター」の認知度については、「知っているし、利用したこともある」が47.8%、で最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」が22.6%、「知らない」が19.0%である。

[1 8] 災害時の避難場所の認知度



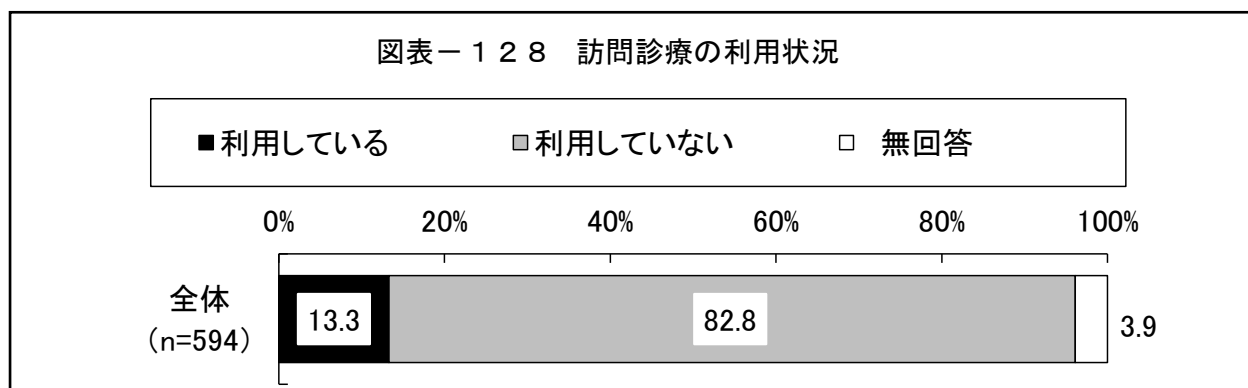
災害時避難場所の認知度は、「はい（知っている）」が72.1%、「いいえ（知らない）」が23.2%である。

〔 1 9 〕 災害時に手助けしてくれる人の有無



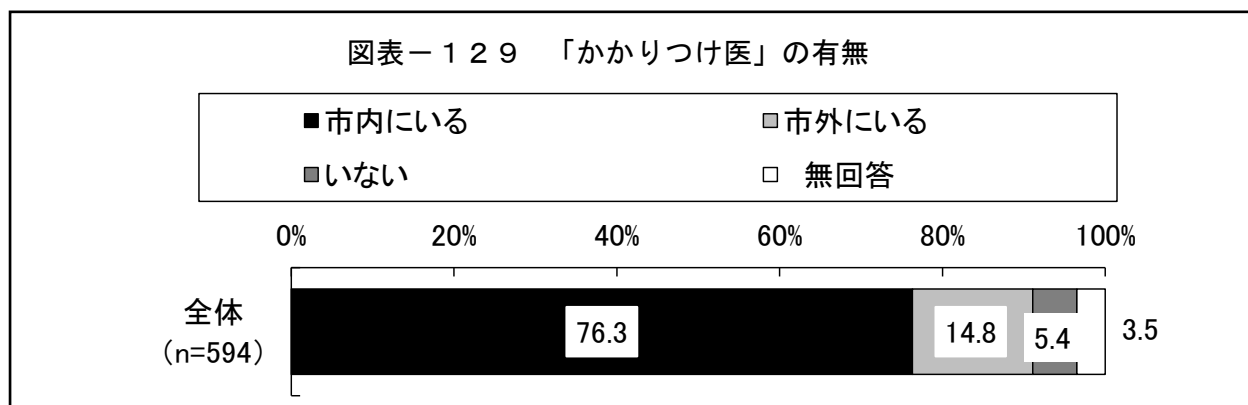
災害時に手助けをしてくれる人の有無については、「はい (いる)」が 70.4%、「いいえ (いない)」が 24.4%である。

〔 2 0 〕 訪問診療の利用状況



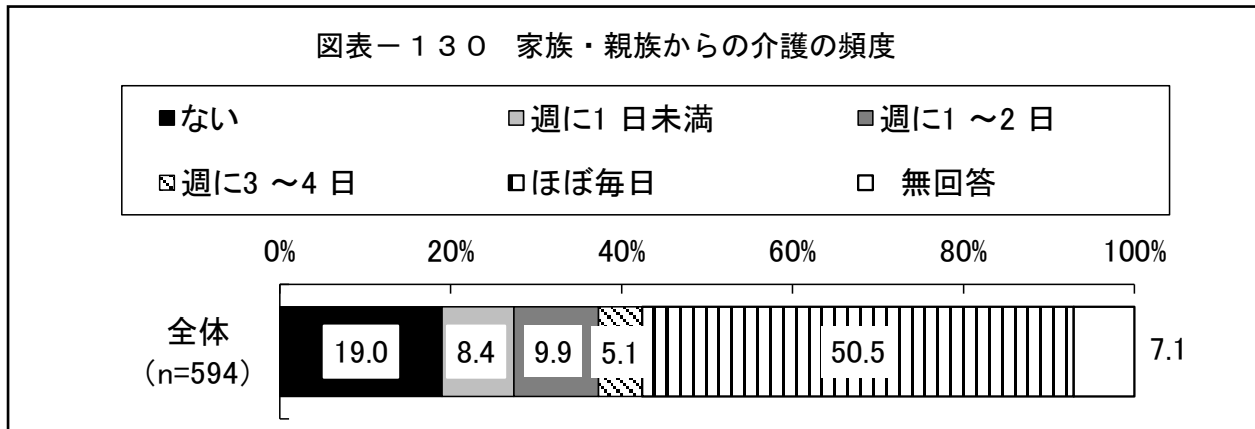
訪問診療の利用状況については、「利用していない」82.8%が最も高い。次いで「利用している」13.3%である。

〔 2 1 〕 「かかりつけ医」の有無



「かかりつけ医」の有無については、「市内にいる」76.3%が最も高く、次いで「市外にいる」14.8%、「いない」5.4%である。

[22] 家族・親族からの介護の頻度

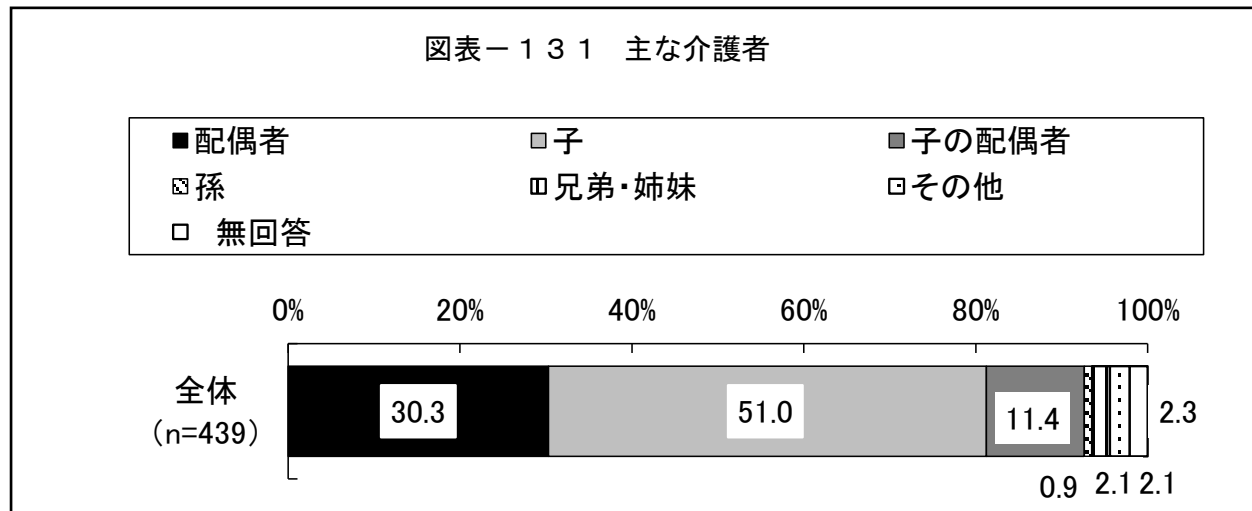


家族・親族からの介護の頻度は、「ほぼ毎日」50.5%が最も高い。次いで「ない」19.0%、「週に1～2日」9.9%である。

(2) B 票：調査結果

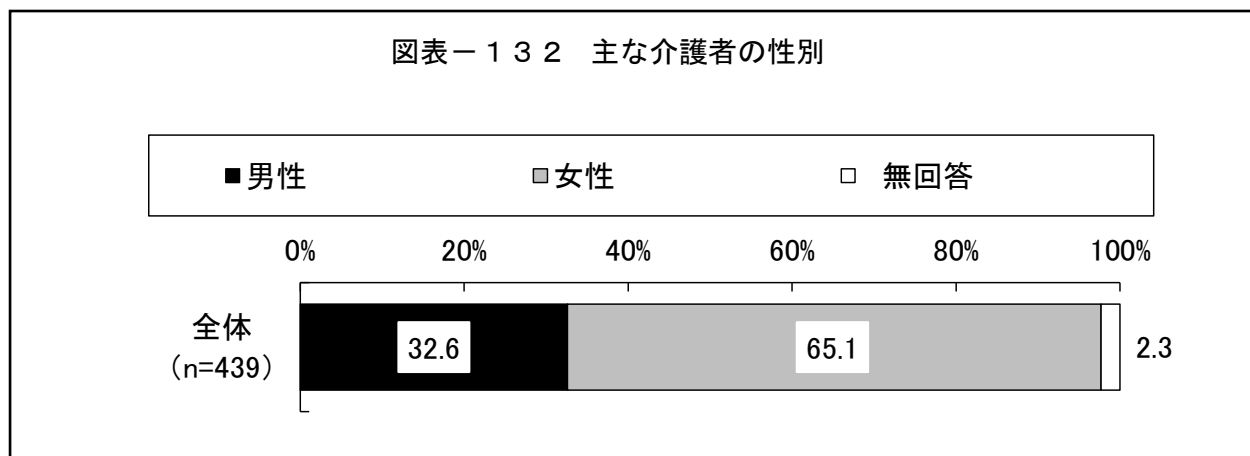
「家族・親族からの介護の頻度」で「2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」～「5. ほぼ毎日ある」を選択した方（439人）に以下の設問を尋ねた。

[1] 主な介護者



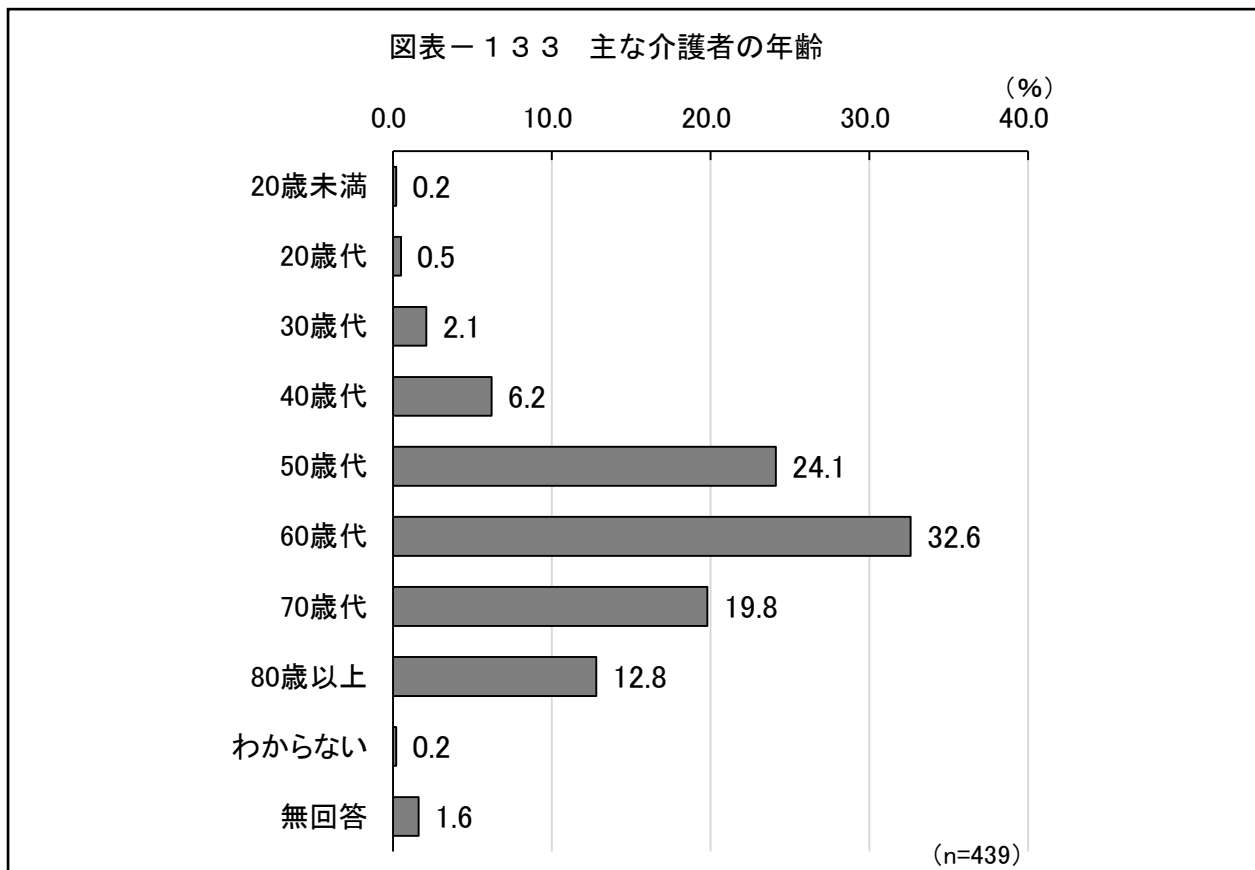
主な介護者は、「子」51.0%が最も高く、次いで「配偶者」30.3%、「子の配偶者」11.4%である。

[2] 主な介護者の性別



主な介護者の性別は、「女性」65.1%、「男性」32.6%である。

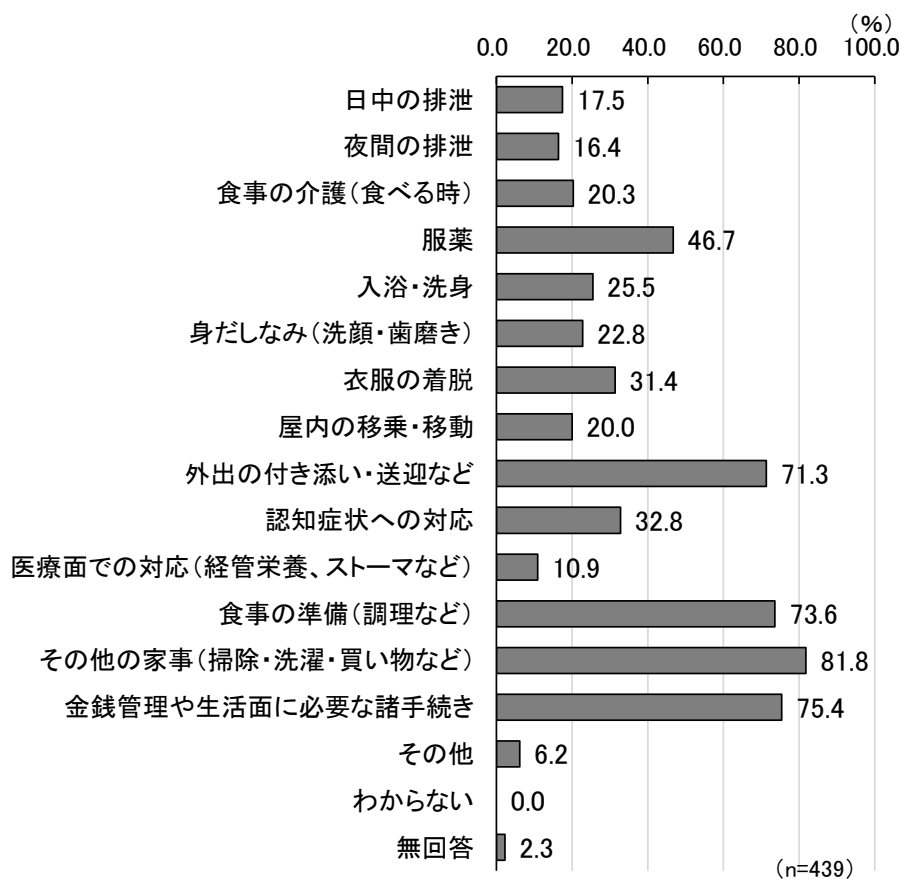
〔3〕 主な介護者の年齢



主な介護者の年齢は、「60歳代」32.6%が最も高く、次いで「50歳代」24.1%、「70歳代」19.8%である。

〔４〕 主な介護者が行う介護

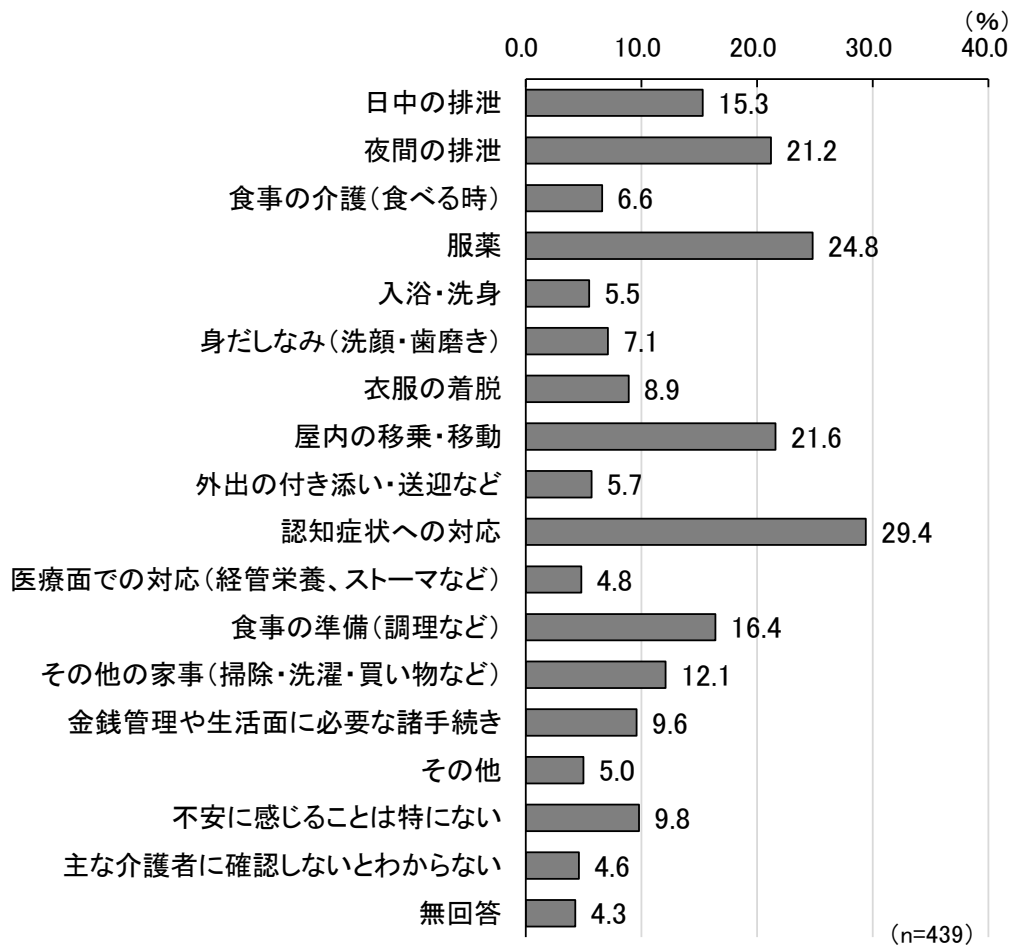
図表－１３４ 主な介護者が行う介護（複数回答）



主な介護者が行っている介護については、「その他の家事（掃除・洗濯・買い物など）」81.8%が最も高い。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」75.4%、「食事の準備（調理など）」73.6%である

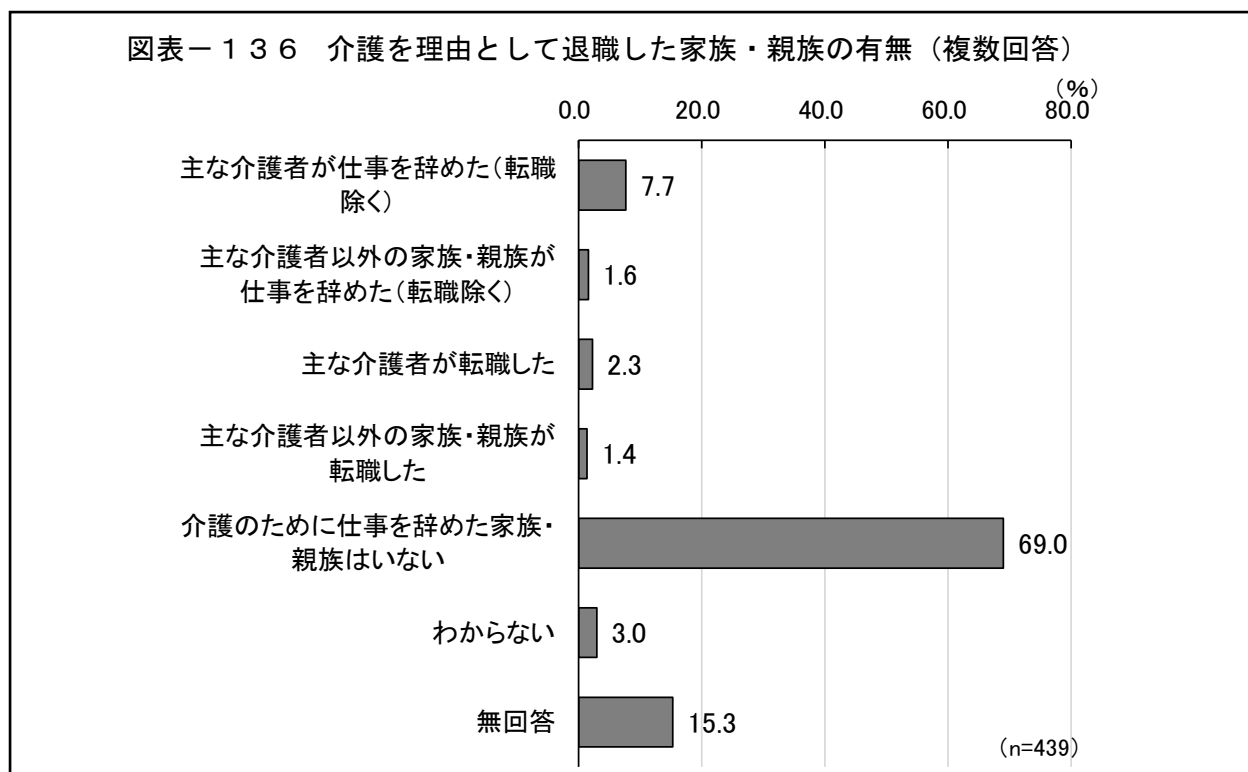
〔5〕 主な介護者が不安に感じる介護

図表－135 主な介護者が不安に感じる介護（3つまで）



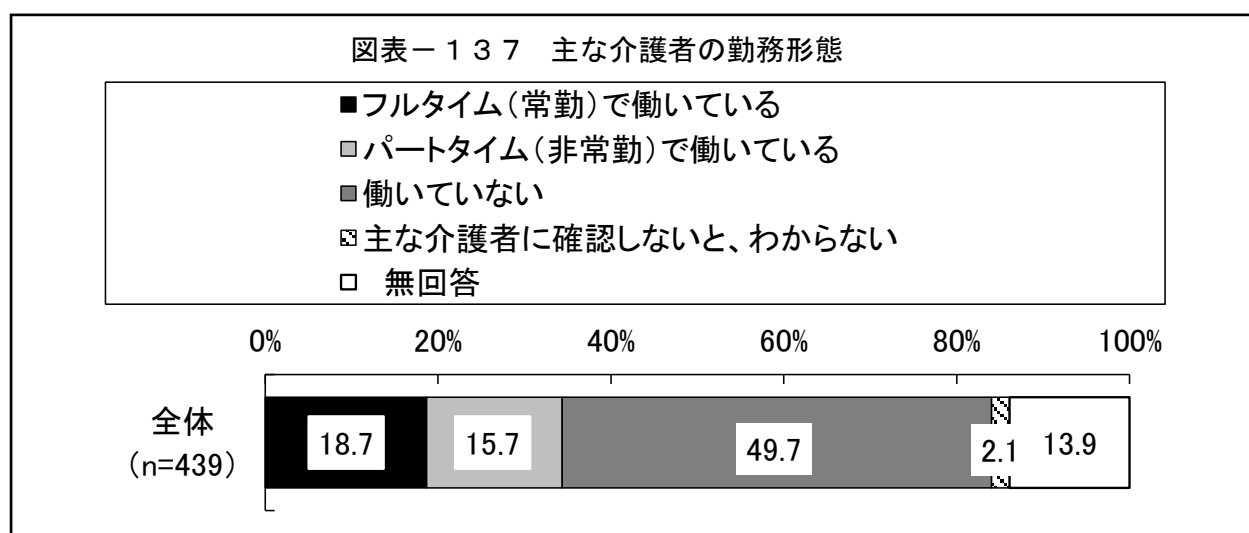
主な介護者が不安に感じる介護については、「認知症状への対応」29.4%が最も高く、次いで「服薬」24.8%、「屋内の移乗・移動」21.6%である。

〔6〕 介護を理由として退職した家族・親族の有無



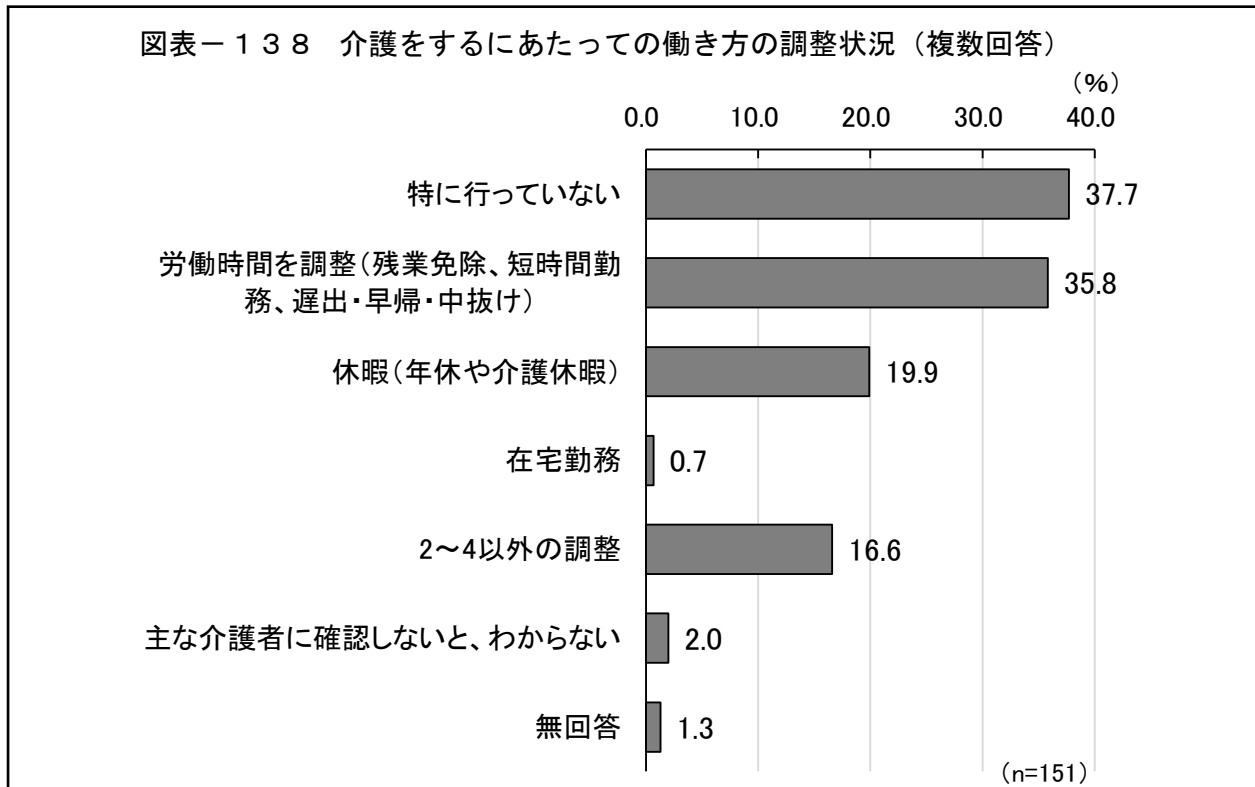
介護を理由として退職した家族・親族の有無については「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が69.0%で最も高い。次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」7.7%、「わからない」3.0%である。

〔7〕 主な介護者の勤務形態



主な介護者の勤務形態については、「働いていない」49.7%が最も高い。次いで「フルタイム（常勤）で働いている」18.7%、「パートタイム（非常勤）で働いている」15.7%である。

〔8〕 介護をするにあたっての働き方の調整状況

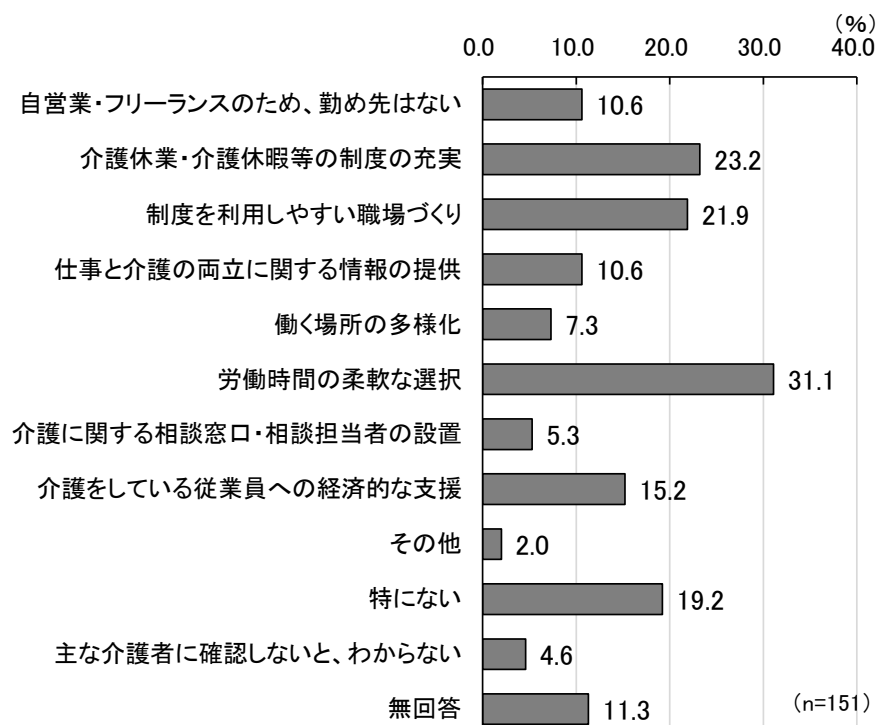


「主な介護者の勤務形態」において「1. フルタイム（常勤）で働いている」、もしくは「2. パートタイム（非常勤）で働いている」と回答した人（151人）に働き方の調整状況について尋ねた（複数回答）。

全体では、「特に行っていない」37.7%が最も高く、次いで「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け）」が35.8%、「休暇（年休や介護休暇）」が19.9%である。

〔 9 〕 仕事と介護の両立に効果的な支援

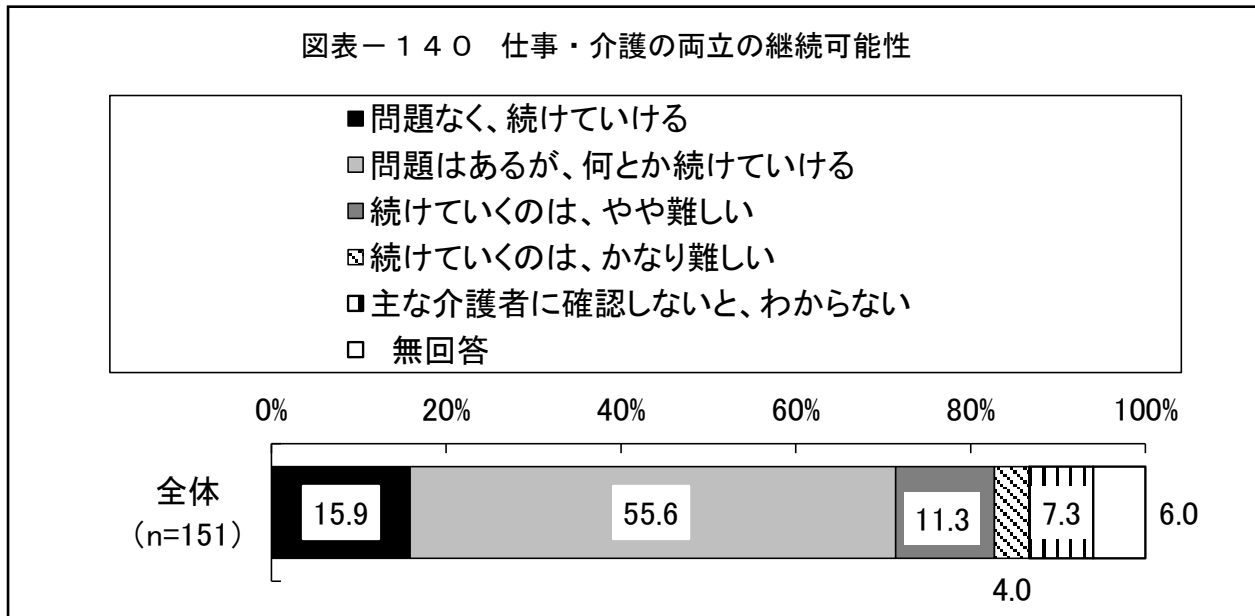
図表－ 1 3 9 仕事と介護の両立に効果的な支援（3 つまで）



「主な介護者の勤務形態」において「1. フルタイム（常勤）で働いている」、もしくは「2. パートタイム（非常勤）で働いている」と回答した人（151 人）に働き方の調整状況について尋ねた（3 つまで）。

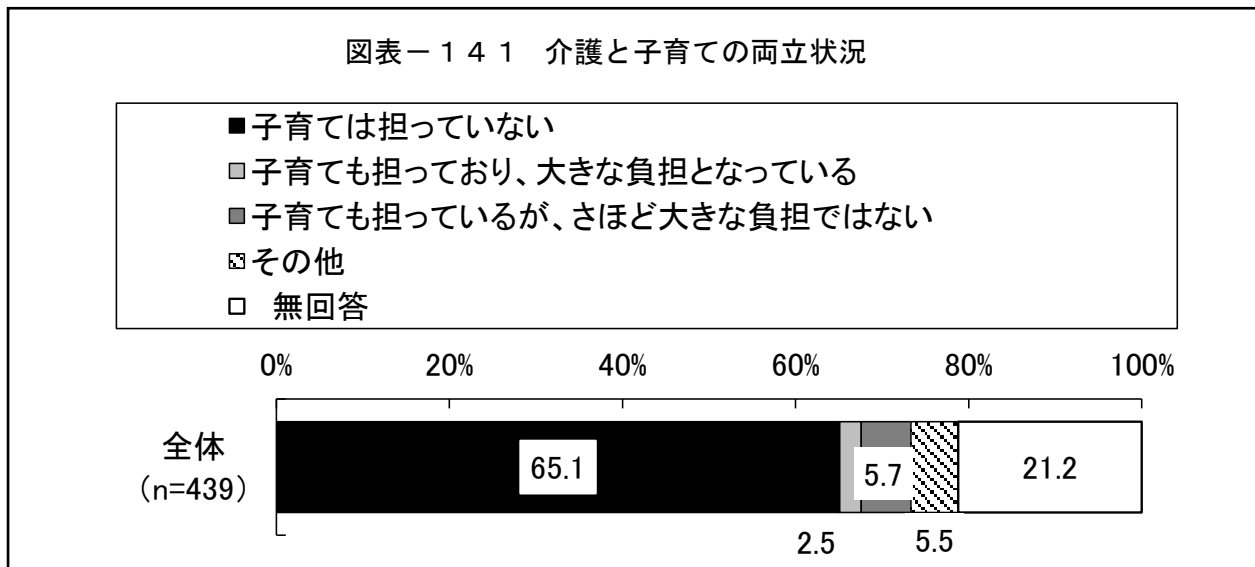
全体では、「労働時間の柔軟な選択」31.1%が最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」23.2%、「制度を利用しやすい職場づくり」21.9%である。

[10] 仕事・介護の両立の継続可能性



仕事・介護両立の継続可能性については、「問題はあるが、何とか続けていける」が 55.6%で最も高く、次いで「問題なく、続けている」15.9%、「続けていくのは、やや難しい」11.3%である。

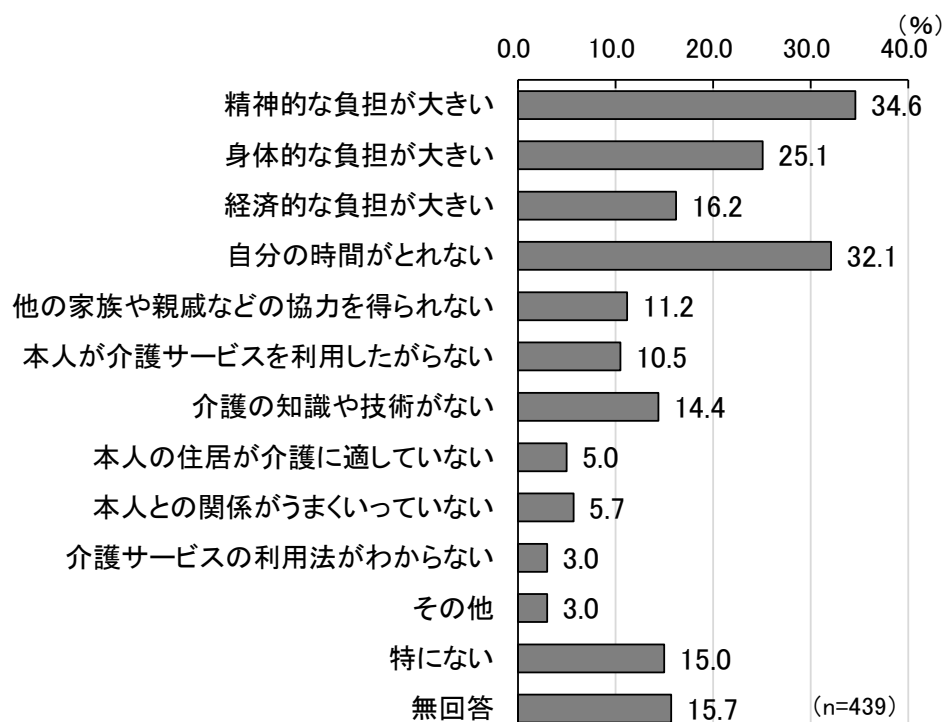
[11] 介護と子育ての両立状況



介護と子育ての両立状況については、「子育ては担っていない」が 65.1%で最も高く、次いで「子育ても担っているが、さほど大きな負担ではない」5.7%、「その他」5.5%である。

〔１２〕 介護のうえで困っていること

図表－１４２ 介護のうえで困っていること（複数回答）



介護のうえで困っていることは、「精神的な負担が大きい」34.6%が最も高く、次いで「自分の時間がとれない」が32.1%、「身体的な負担が大きい」25.1%である。

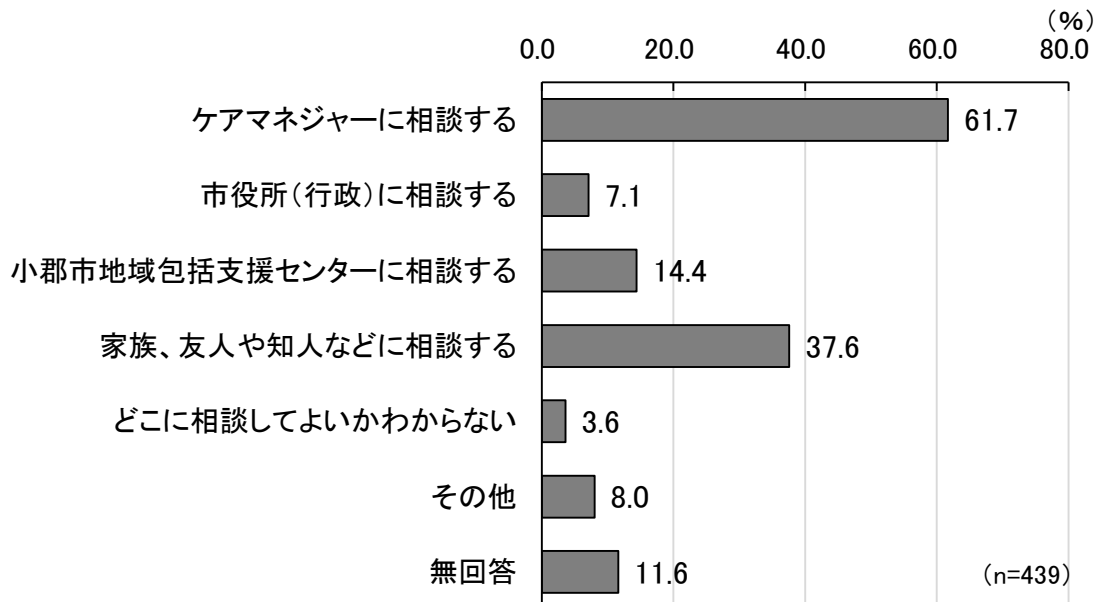
図表－１４３ 要介護度別：介護のうえで困っていること（複数回答）

		(%)														
		全 体	精神的な負担が大きい	身体的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	自分の時間がとれない	他の家族や親戚などの協力を得られない	本人が介護サービスを利用したがない	介護の知識や技術がない	介護に適していない	本人の住居が	本人との関係がない	介護サービスの利用法がわからない	その他	特にない	無回答
全 体		439	34.6	25.1	16.2	32.1	11.2	10.5	14.4	5.0	5.7	3.0	3.0	15.0	15.7	
要介護度別	要支援1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	要支援2	121	19.8	17.4	11.6	19.8	10.7	6.6	14.9	4.1	3.3	2.5	1.7	24.8	25.6	
	要介護1	137	40.9	23.4	19.0	32.1	10.9	16.1	16.8	5.8	6.6	3.6	4.4	12.4	10.2	
	要介護2	94	40.4	24.5	18.1	38.3	11.7	9.6	14.9	4.3	7.4	3.2	－	13.8	13.8	
	要介護3	44	50.0	36.4	11.4	40.9	13.6	9.1	9.1	4.5	6.8	2.3	6.8	4.5	11.4	
	要介護4	26	34.6	42.3	19.2	34.6	11.5	7.7	11.5	3.8	7.7	3.8	3.8	11.5	15.4	
	要介護5	15	20.0	46.7	26.7	53.3	－	6.7	6.7	13.3	－	－	6.7	6.7	13.3	

要介護認定度別では、「身体的な負担が大きい」、「自分の時間がとれない」は、一部例外はあるものの要介護度が重度化するほど、割合が増加していく傾向にある。特に「自分の時間がとれない」は要介護5で53.3%と、要介護4よりも約20ポイント増加している。

[13] 介護に困ったときの対処法

図表－144 介護に困ったときの対処法（複数回答）



介護に困ったときの対処法は、「ケアマネジャーに相談する」61.7%が最も高く、次いで「家族、友人や知人などに相談する」37.6%、「小郡市地域包括支援センターに相談する」14.4%である。

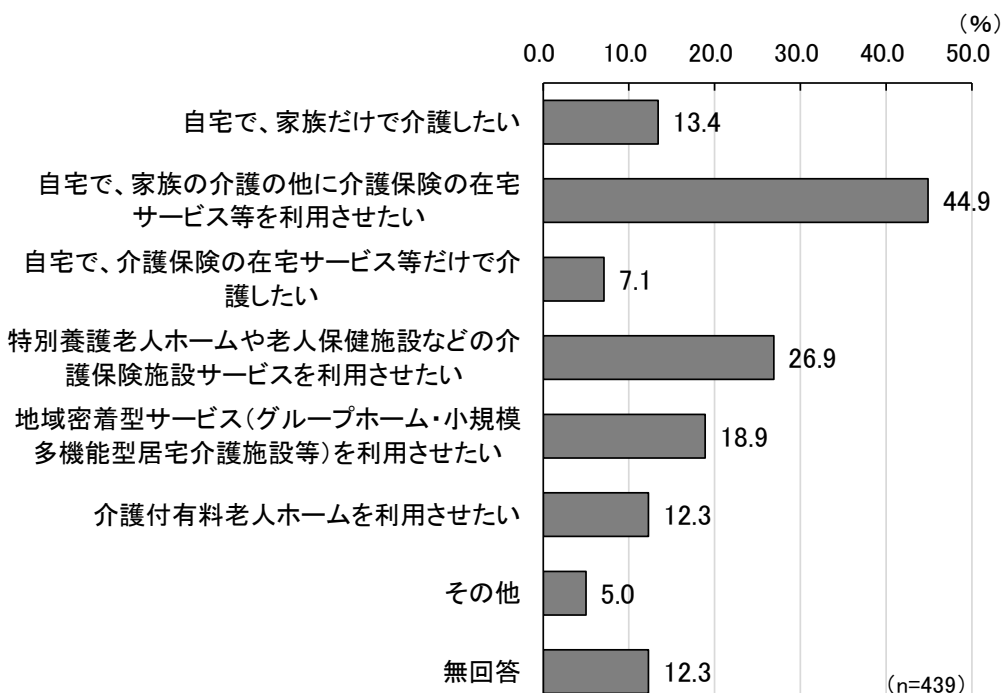
図表－145 小学校区別：介護に困ったときの対処法

		(%)							
		全 体	ケ ア マ ネ ジ ャ ー に 相 談 す る	市 役 所 （ 行 政 ） に 相 談 す る	小 郡 市 地 域 相 包 括 支 援 セ ン タ ー に 相 談 す る	家 族 、 友 人 や 知 人 な ど に 相 談 す る	ど こ に 相 談 し て よ い か わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体		439	61.7	7.1	14.4	37.6	3.6	8.0	11.6
小 学 校 区 別	小郡小学校区	85	51.8	4.7	11.8	41.2	7.1	4.7	14.1
	大原小学校区	66	62.1	6.1	16.7	39.4	4.5	6.1	15.2
	三国小学校区	127	61.4	5.5	15.0	35.4	3.1	10.2	11.0
	立石小学校区	45	60.0	11.1	8.9	44.4	2.2	2.2	13.3
	御原小学校区	27	66.7	18.5	14.8	44.4	－	14.8	7.4
	味坂小学校区	24	45.8	4.2	8.3	41.7	－	16.7	16.7
	東野小学校区	51	80.4	5.9	21.6	29.4	2.0	3.9	3.9
	のぞみが丘小学校区	12	83.3	16.7	16.7	16.7	8.3	25.0	－

小学校区別では、どの小学校区でも「ケアマネジャーに相談する」が最も高くなっているものの、味坂小学校区は「ケアマネジャーに相談する」が45.8%と他小学校区と比べ、約15ポイント低い。

〔１４〕 介護が必要となった際、生活したい場所

図表－１４６ 介護が必要となった際、生活したい場所（複数回答）



介護が必要になった際、生活したい場所については、「自宅で、家族の介護の他に介護保険の在宅サービス等を利用させたい」44.9%が最も高く、次いで「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設サービスを利用させたい」26.9%、「地域密着型サービス（グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設等）を利用させたい」18.9%である。

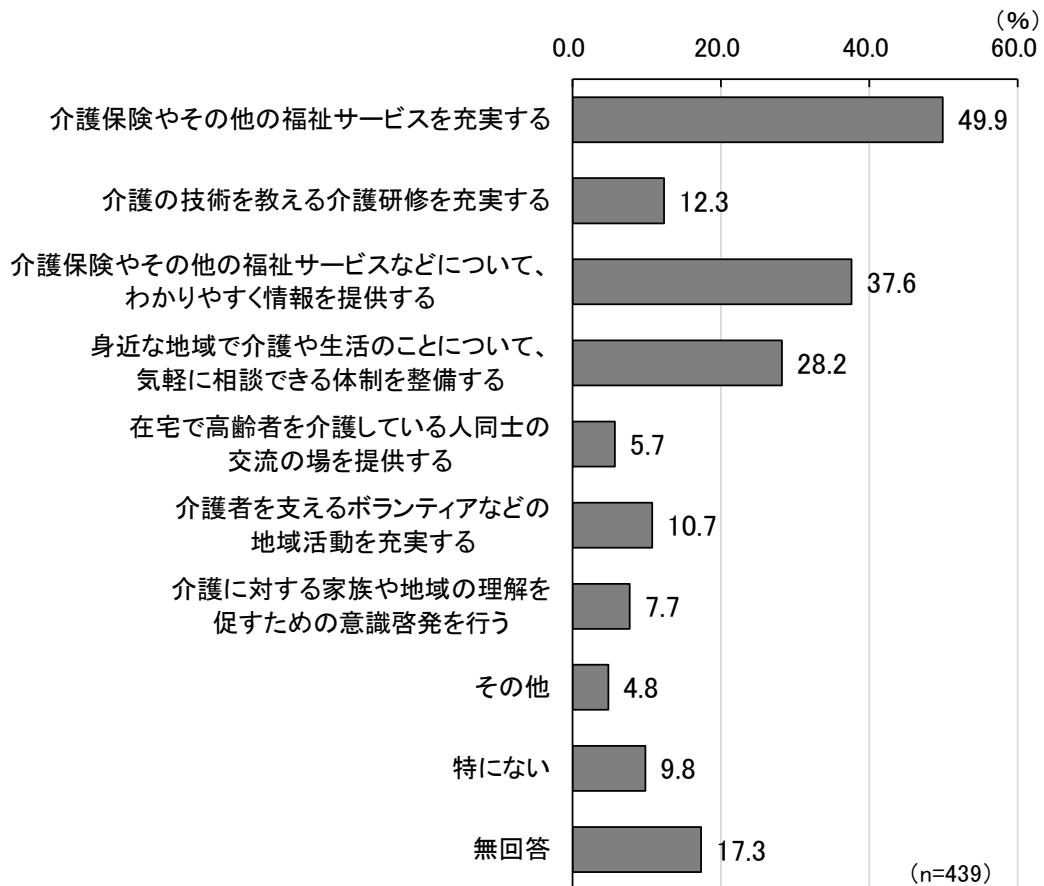
図表－１４７ 要介護度別：介護が必要になった際、生活したい場所（複数回答）

(%)										
		全 体	自 宅 で、 家 族 だ け で 介 護 し た い	自 宅 で、 家 族 の 介 護 の 他 に 介 護 保 険 の 在 宅 サ ー ビ ス 等 を 利 用 さ せ た い	自 宅 で、 介 護 保 険 の 在 宅 サ ー ビ ス 等 だ け で 介 護 し た い	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム や 老 人 保 健 施 設 な ど の 介 護 保 険 施 設 サ ー ビ ス を 利 用 さ せ た い	地 域 密 着 型 サ ー ビ ス を 利 用 さ せ た い	介 護 付 有 料 老 人 ホ ー ム を 利 用 さ せ た い	そ の 他	無 回 答
全 体		439	13.4	44.9	7.1	26.9	18.9	12.3	5.0	12.3
要 介 護 度 別	要支援1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	要支援2	121	14.9	47.1	9.1	15.7	9.9	8.3	1.7	23.1
	要介護1	137	11.7	47.4	5.1	29.2	25.5	16.1	6.6	8.0
	要介護2	94	13.8	39.4	6.4	36.2	23.4	16.0	4.3	7.4
	要介護3	44	20.5	36.4	2.3	29.5	20.5	6.8	6.8	9.1
	要介護4	26	7.7	46.2	19.2	26.9	11.5	11.5	11.5	3.8
	要介護5	15	6.7	60.0	6.7	33.3	13.3	6.7	—	13.3

要介護度別では、すべての要介護度で「自宅で、家族の介護の他に介護保険の在宅サービスを利用させたい」が最も高い。

[15] 在宅介護継続のための必要な支援

図表－148 在宅介護継続のための必要な支援（複数回答）



在宅介護継続のための必要な支援については、「介護保険やその他の福祉サービスを充実する」49.9%が最も高く、次いで「介護保険やその他の福祉サービスなどについて、わかりやすく情報を提供する」37.6%、「身近な地域で介護や生活のことについて、気軽に相談できる体制を整備する」28.2%である。

図表－１４９ 要介護度別：在宅介護継続のために必要な支援（複数回答）

(%)												
		全 体	介護保険やその他の福祉サービスを充実する	介護の技術を教える介護研修を充実する	介護保険やその他の福祉サービスなどについて、わかりやすく情報を提供する	身近な地域で介護や生活のことについて、気軽に相談できる体制を整備する	在宅で高齢者を介護している人との交流の場を提供する	介護者を支えるボランティアなどの地域活動を充実する	介護に対する家族や地域の理解を促すための意識啓発を行う	その他	特 に な い	無 回 答
全 体		439	49.9	12.3	37.6	28.2	5.7	10.7	7.7	4.8	9.8	17.3
要 介 護 度 別	要支援1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	要支援2	121	45.5	11.6	35.5	27.3	6.6	9.9	7.4	1.7	8.3	27.3
	要介護1	137	56.2	13.1	43.8	29.9	6.6	16.1	9.5	5.8	6.6	11.7
	要介護2	94	45.7	9.6	35.1	24.5	4.3	3.2	6.4	5.3	12.8	13.8
	要介護3	44	50.0	11.4	31.8	34.1	4.5	9.1	2.3	6.8	13.6	15.9
	要介護4	26	50.0	19.2	38.5	30.8	3.8	23.1	11.5	3.8	11.5	15.4
	要介護5	15	53.3	20.0	26.7	20.0	6.7	-	13.3	13.3	20.0	13.3

要介護度別では、すべての要介護度で「介護保険やその他の福祉サービスを充実する」が最も高く、約 45～50%である。次いで、要介護 3 を除くすべての介護度で「介護保険やその他の福祉サービスなどについて、わかりやすく情報を提供する」、「身近な地域で介護や生活のことについて、気軽に相談できる体制を整備する」となっている。

「各種福祉サービスの充実」、「情報提供」、「地域での相談体制」の 3 つは介護度を問わず必要とされていることがわかる。

[16] 小郡市の高齢者施策へのご意見・ご要望（自由記述）

図表－150 小郡市の高齢者施策へのご意見・ご要望（自由記述）

分類	件数
介護施設・介護サービス等について	60
日常生活・経済状況について	46
交流、情報窓口・発信について	33
交通について	19
地域活動などについて	10
災害について	3
終末期について	3
仕事との両立	2
健康のための取り組みについて	1
その他	20

【上位項目の主な内容】(原文ママ)

介護施設・介護サービス等について

・特養を考えていても、金銭的(本人が課税取得者のため)に困っている。(家のローンをかかえている為)私達のように、世間から見れば、大丈夫と思われるけれども、本当は大変な思いをしている事を(個々によって悩みは違うので)もう少し行政はわかっていたほしいです。
・誰もが高齢者になって行くので介護の負担が少しでも減らせるように助け合える地域にしたいです。私自身も初任者研修の受講の申込みをしていて先々何かの形で役に立ちたいと思っています。初任者研修の受講料がちょっとお高いと思ったので補助金が出るといいなあと思いました。
・認知症状のある高齢者をかかえる家族の経済的な負担は大きく、精神的な負担は思った以上に大きいです。老人ホームやグループホームなど認知症高齢者をもっと気がるに入所できるように数をふやしてほしいと思います。

日常生活・経済状況について

・自宅介護の場合は、家族の負担は、かなりかかります。介護する方の年齢も高くなるとともに体調面が不安になります。
・要介護3～に紙パンツ、パットの支給が変更になっているが、低所得世帯には前年度通り継続してほしい。毎日の事なので出費に大きく影響してくるだろう。
・今まで人ごとだと思っていましたが、現実、老老介護になると不安がいっぱいです。ケアマネジャーの自宅訪問は、心強いです。

交流、情報窓口・発信について

・認知症や介護に対する偏見をなくす取り組みがもっと必要ではないかと思えます。
・介護サービスを知らない、どう手続きして良いかわからない人たちに指導して欲しい。
・お年を召した方が、いつでも行って話しができる、いこいの場所が近くにあればと思います。

交通について

・コミュニティバスを利用していたが、バスの本数が減って、大変不便です。タクシーを使って経済的負担も大きくなりました。市バスもないのに、大変不便なところです。
・高齢者にとっては、道路状態が非常に悪い。
・信号機、横断歩道を増やす必要があると思います。昔、道がなかったところに交通量の多い道が作られたために、危険な横断を目にすることが頻繁にあります。

地域活動などについて

・高齢者のイベントを増やしてほしい。年を取ると会話する事が減るので行事やボランティアなど参加してみたい。介護の疲れを取りたいそんな何かがあると嬉しい。
・男性は特に近所の方とつながりがないので、心配だった。

小郡市の高齢者施策についてのご意見・ご要望を自由記述形式で尋ねたところ、計131件の回答が得られた。

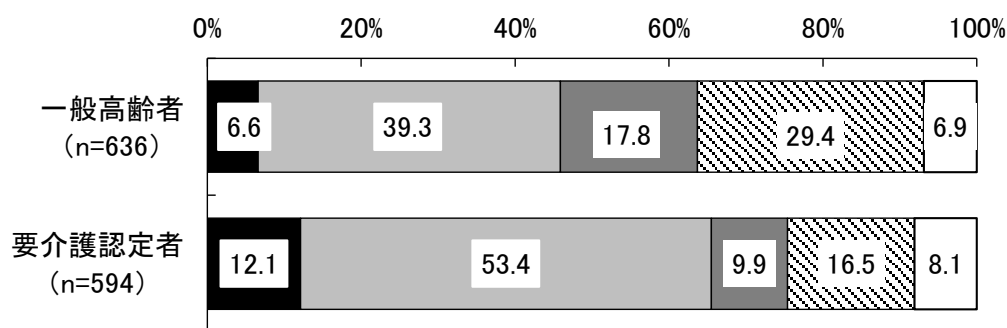
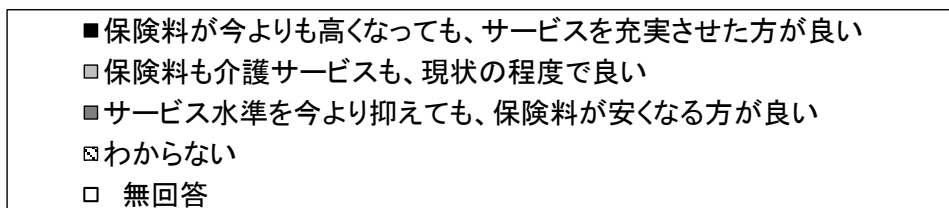
回答を大まかに分類(分類間の重複あり)すると、「介護施設・介護サービス等について」が60件で最も多い。次いで「日常生活・経済状況について」46件、「交流、情報窓口・発信について」33件、「交通について」19件、「地域活動などについて」10件であった。

第4章 共通項目（一般高齢者と要介護認定者の比較）

一般高齢者（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の対象者（要介護認定を受けていない 65 歳以上の方））と要介護認定者（在宅介護実態調査の対象者（要介護認定を受けている 65 歳以上の方））に共通の設問項目を尋ねた。

〔1〕 介護保険料と介護サービスのあり方について

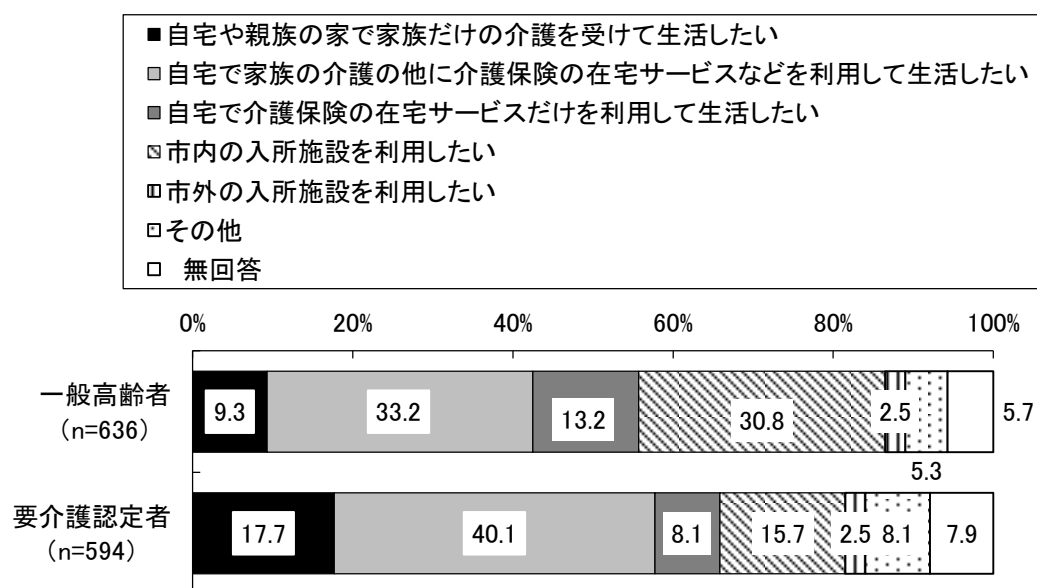
図表－151 介護保険料と介護サービスのあり方について



介護保険料と介護サービスのあり方については、要介護認定者は一般高齢者よりも「保険料も介護サービスも、現状の程度で良い」が約 14 ポイント高くなっている（一般高齢者 39.3%、要介護認定者 53.4%）。また、「保険料が今より高くなっても、サービスを充実させた方が良い」も要介護認定者が約 6 ポイント高い（一般高齢者 6.6%、要介護認定者 12.1%）。

〔2〕 介護が必要になった際、生活したい場所

図表－１５２ 介護が必要になった際、生活したい場所



介護が必要になった際、生活したい場所について、一般高齢者は「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」33.2%が最も高く、次いで「市内の入所施設を利用したい」30.8%、「自宅で介護保険の在宅サービスだけを利用して生活したい」13.2%である。

一方、要介護認定者は「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」40.1%が最も高いのは一般高齢者と共通するものの、以降の順位には差異がみられ、「自宅や親族の家で家族だけの介護を受けて生活したい」17.7%、「市内の入所施設を利用したい」15.7%となっている。

図表－１５３ 性・年齢別：介護が必要になった際、生活したい場所

		(%)								(%)							
		一般高齢者								要介護認定者							
		全 体	自 宅 で 生 活 し た い	自 宅 で 家 族 の 介 護 の 他 に 介 護 保 険 の 在 宅 サ ー ビ ス な ど を 利 用 し て 生 活 し た い	自 宅 で 介 護 保 険 の 在 宅 サ ー ビ ス だ け を 利 用 し て 生 活 し た い	市 内 の 入 所 施 設 を 利 用 し た い	市 外 の 入 所 施 設 を 利 用 し た い	そ の 他	無 回 答	全 体	自 宅 で 生 活 し た い	自 宅 で 家 族 の 介 護 の 他 に 介 護 保 険 の 在 宅 サ ー ビ ス な ど を 利 用 し て 生 活 し た い	自 宅 で 介 護 保 険 の 在 宅 サ ー ビ ス だ け を 利 用 し て 生 活 し た い	市 内 の 入 所 施 設 を 利 用 し た い	市 外 の 入 所 施 設 を 利 用 し た い	そ の 他	無 回 答
全 体		636	9.3	33.2	13.2	30.8	2.5	5.3	5.7	594	17.7	40.1	8.1	15.7	2.5	8.1	7.9
性・年齢別	男性全体	292	12.7	37.3	12.0	28.1	1.4	5.5	3.1	190	20.0	43.7	6.8	15.3	2.1	6.8	5.3
	男性65～69歳	75	13.3	36.0	9.3	34.7	1.3	5.3	—	17	17.6	47.1	17.6	5.9	—	5.9	5.9
	男性70～74歳	68	7.4	44.1	14.7	20.6	1.5	8.8	2.9	20	20.0	45.0	5.0	15.0	5.0	5.0	5.0
	男性75～79歳	66	12.1	34.8	15.2	30.3	1.5	1.5	4.5	29	17.2	48.3	6.9	13.8	—	10.3	3.4
	男性80～84歳	42	14.3	35.7	11.9	31.0	—	2.4	4.8	39	20.5	38.5	5.1	17.9	5.1	10.3	2.6
	男性85～89歳	24	20.8	33.3	12.5	20.8	4.2	4.2	4.2	48	16.7	43.8	4.2	16.7	—	6.3	12.5
	男性90歳以上	17	17.6	35.3	—	23.5	—	17.6	5.9	37	27.0	43.2	8.1	16.2	2.7	2.7	—
	女性全体	335	6.6	29.6	14.6	33.1	3.6	5.1	7.5	402	16.4	38.3	8.7	15.9	2.7	8.7	9.2
	女性65～69歳	58	—	43.1	15.5	20.7	6.9	5.2	8.6	14	21.4	42.9	7.1	14.3	—	7.1	7.1
	女性70～74歳	67	3.0	40.3	17.9	23.9	4.5	6.0	4.5	32	9.4	34.4	9.4	12.5	9.4	9.4	15.6
	女性75～79歳	70	4.3	24.3	21.4	40.0	2.9	2.9	4.3	33	12.1	39.4	9.1	15.2	3.0	9.1	12.1
	女性80～84歳	52	15.4	25.0	9.6	30.8	1.9	3.8	13.5	69	15.9	44.9	4.3	14.5	1.4	5.8	13.0
	女性85～89歳	58	12.1	17.2	12.1	48.3	1.7	1.7	6.9	118	19.5	38.1	13.6	13.6	2.5	5.9	6.8
	女性90歳以上	30	6.7	23.3	3.3	36.7	3.3	16.7	10.0	136	16.2	35.3	6.6	19.9	2.2	12.5	7.4

○一般高齢者

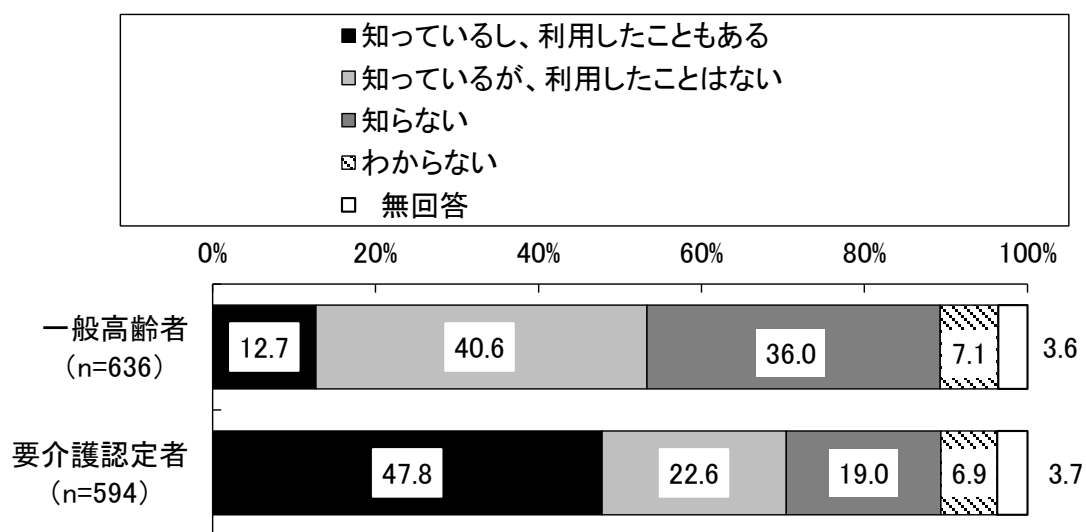
性・年齢別では、男性 70～74 歳、女性 65～74 歳で「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」が、40%を超え、他の年齢階級よりも高くなっている（男性 70～74 歳 44.1%、女性 65～69 歳 43.1%、女性 70～74 歳 40.3%）。

○要介護認定者

性・年齢別では、男女ともにすべての年齢階級で「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」が最も高くなっている。また、「自宅で介護保険の在宅サービスだけを利用して生活したい」は男性 65～69 歳 17.6%、女性 85～89 歳 13.6%などでやや高くなっている。

〔3〕 「小郡市地域包括支援センター」の認知度

図表－154 「小郡市地域包括支援センター」の認知度



「小郡市地域包括支援センター」の認知度については、一般高齢者は「知っているし、利用したこともある」が12.7%にとどまるのに対し、要介護認定者では47.8%と一般高齢者よりも約35ポイント高い。

要介護認定を受けると、地域包括支援センターの利用経験が増加する傾向にある。

図表－１５５ 年齢別・小学校区別：「小郡市地域包括支援センター」の認知度

		一般高齢者						要介護認定者					
		全 体	知 っ て い る し 、 利 用 し た こ と も あ る	知 っ て い る が 、 利 用 し た こ と は な い	知 ら な い	わ か ら な い	無 回 答	全 体	知 っ て い る し 、 利 用 し た こ と も あ る	知 っ て い る が 、 利 用 し た こ と は な い	知 ら な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		636	12.7	40.6	36.0	7.1	3.6	594	47.8	22.6	19.0	6.9	3.7
	65～69歳	133	12.8	37.6	42.9	3.8	3.0	31	51.6	22.6	19.4	6.5	－
	70～74歳	135	10.4	45.9	33.3	9.6	0.7	52	44.2	26.9	15.4	5.8	7.7
	75～79歳	136	8.8	50.0	32.4	3.7	5.1	62	50.0	19.4	19.4	6.5	4.8
	80～84歳	94	13.8	40.4	35.1	7.4	3.2	108	47.2	23.1	18.5	9.3	1.9
	85～89歳	82	19.5	32.9	35.4	7.3	4.9	166	52.4	21.7	16.3	6.6	3.0
	90歳以上	47	19.1	19.1	40.4	14.9	6.4	173	42.8	23.1	23.1	6.4	4.6
	小郡小学校区	134	12.7	41.8	36.6	6.7	2.2	131	46.6	19.1	21.4	9.9	3.1
	大原小学校区	94	12.8	42.6	36.2	6.4	2.1	83	49.4	22.9	19.3	6.0	2.4
	三国小学校区	182	12.1	39.6	36.3	8.8	3.3	162	49.4	22.2	17.9	6.2	4.3
	立石小学校区	50	18.0	42.0	24.0	6.0	10.0	61	41.0	24.6	21.3	9.8	3.3
	御原小学校区	31	6.5	32.3	54.8	－	6.5	38	57.9	21.1	15.8	5.3	－
	味坂小学校区	34	17.6	35.3	32.4	8.8	5.9	35	40.0	28.6	14.3	5.7	11.4
	東野小学校区	62	14.5	41.9	35.5	6.5	1.6	68	44.1	25.0	22.1	4.4	4.4
	のぞみが丘小学校区	40	10.0	42.5	40.0	5.0	2.5	14	64.3	28.6	7.1	－	－

○一般高齢者

年齢別では、「知っているが、利用したことはない」は75～79歳50.0%で最も高くなり、それ以降の年齢階級では割合が低下する。一方、「知っているし、利用したこともある」は75～79歳8.8%で最も低くなり、それ以降の年齢階級では（90歳以上ではわずかに減少するものの）増加していく傾向にある。

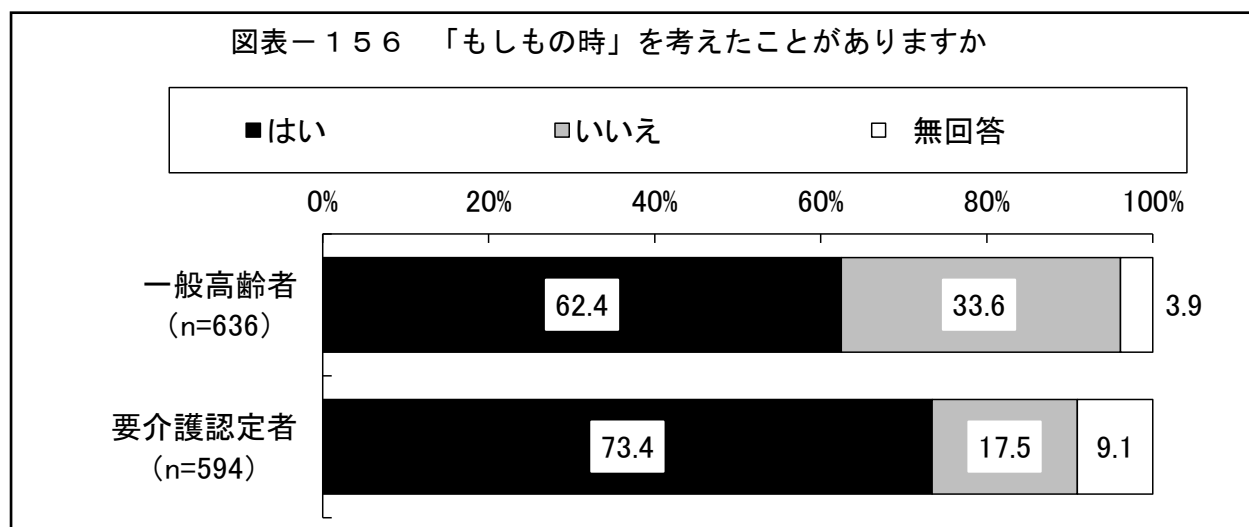
小学校区別では、御原小学校区は「知らない」54.8%が他小学校区よりも約20ポイント高くなっている。

○要介護認定者

年齢別では大きな差はみられないが、90歳以上では「知らない」が他年齢階級よりもやや高く20%を超えている。

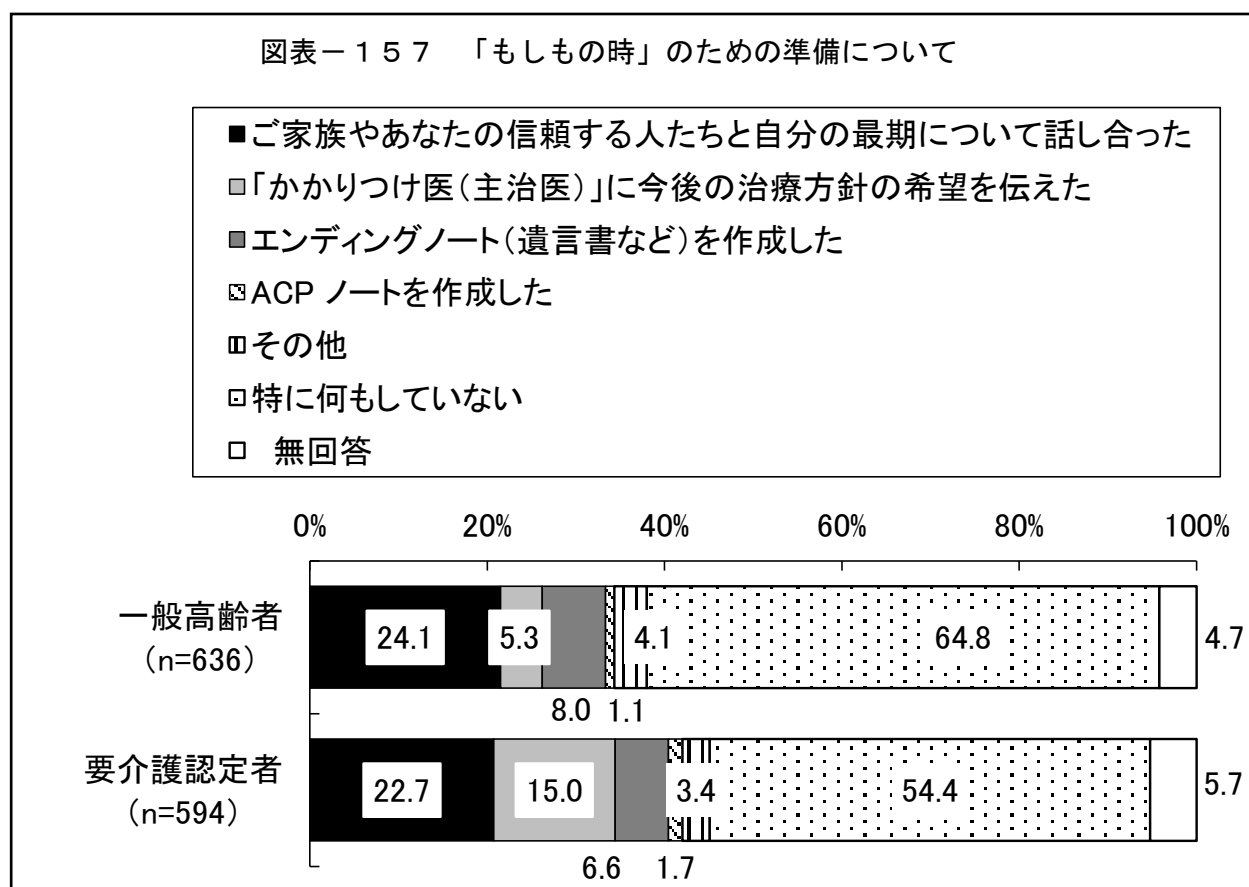
小学校区別では、のぞみが丘小学校区は「知っているし、利用したこともある」64.3%が他小学校区よりも約20ポイント高い。

[4] 「もしもの時」を考えたことがありますか



「もしもの時」を考えたことがあるかについては、一般高齢者の「はい（ある）」62.4%であるのに対し、要介護認定者は73.4%であり、11ポイント増加している。

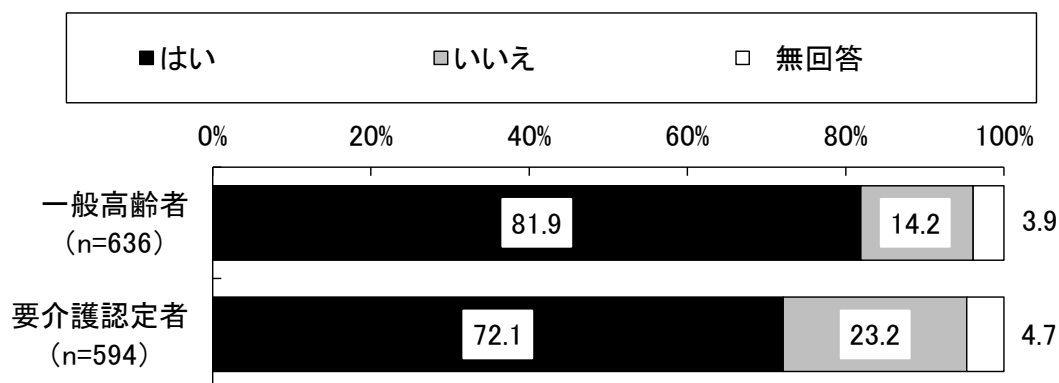
[5] 「もしもの時」のための準備について



「もしもの時」のための準備状況については、要介護認定者は「「かかりつけ医（主治医）」に今後の治療方針の希望を伝えた」の割合が15.0%と、一般高齢者5.3%よりも約10ポイント高い。

〔 6 〕 災害時の避難場所の認知度

図表－１５８ 災害時の避難場所の認知度



災害時の避難場所の認知度については、一般高齢者の「はい（知っている）」が 81.9%であるのに対し、要介護認定者は 72.1%であり、一般高齢者よりも約 10 ポイント低い。

図表－１５９ 小学校区別：災害時の避難場所の認知度

		(%)				(%)			
		一般高齢者				要介護認定者			
		全 体	はい	いい え	無 回 答	全 体	はい	いい え	無 回 答
全 体		636	81.9	14.2	3.9	594	72.1	23.2	4.7
小 学 校 区 別	小郡小学校区	134	85.1	12.7	2.2	131	67.2	28.2	4.6
	大原小学校区	94	83.0	16.0	1.1	83	73.5	24.1	2.4
	三国小学校区	182	80.2	15.9	3.8	162	70.4	22.8	6.8
	立石小学校区	50	76.0	16.0	8.0	61	72.1	23.0	4.9
	御原小学校区	31	80.6	9.7	9.7	38	81.6	15.8	2.6
	味坂小学校区	34	88.2	2.9	8.8	35	77.1	11.4	11.4
	東野小学校区	62	85.5	11.3	3.2	68	76.5	22.1	1.5
	のぞみが丘小学校区	40	80.0	17.5	2.5	14	71.4	28.6	—

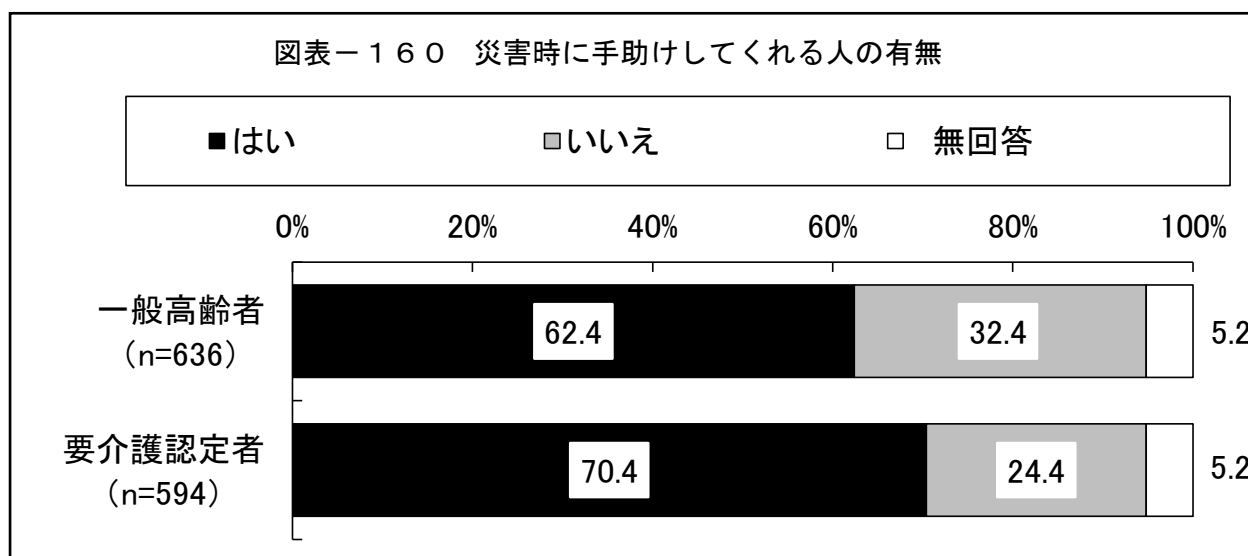
○一般高齢者

小学校区別では、「いいえ（知らない）」は、のぞみが丘小学校区 17.5%で最も高く、次いで立石小学校区、大原小学校区 16.0%である。

○要介護認定者

小学校区別では、「いいえ（知らない）」は、のぞみが丘小学校区 28.6%で最も高い。次いで、小郡小学校区 28.2%である。

〔7〕 災害時に手助けしてくれる人の有無



災害時に手助けしてくれる人の有無については、一般高齢者は「はい（いる）」が 62.4%であるのに対し、要介護認定者は 70.4%であり、要介護認定者は一般高齢者よりも 8 ポイント高い。

図表－１６１ 性・年齢別・小学校区別：災害時に手助けしてくれる人の有無

		(%)				(%)			
		一般高齢者				要介護認定者			
		全 体	は い	い い え	無 回 答	全 体	は い	い い え	無 回 答
全 体		636	62.4	32.4	5.2	594	70.4	24.4	5.2
性・年齢別	男性全体	292	58.2	37.7	4.1	190	59.5	35.3	5.3
	男性65～69歳	75	60.0	40.0	—	17	58.8	41.2	—
	男性70～74歳	68	72.1	26.5	1.5	20	50.0	40.0	10.0
	男性75～79歳	66	48.5	42.4	9.1	29	55.2	37.9	6.9
	男性80～84歳	42	40.5	52.4	7.1	39	51.3	46.2	2.6
	男性85～89歳	24	62.5	33.3	4.2	48	62.5	29.2	8.3
	男性90歳以上	17	70.6	23.5	5.9	37	73.0	24.3	2.7
	女性全体	335	66.0	28.1	6.0	402	75.6	19.2	5.2
	女性65～69歳	58	75.9	22.4	1.7	14	71.4	21.4	7.1
	女性70～74歳	67	76.1	20.9	3.0	32	78.1	12.5	9.4
	女性75～79歳	70	68.6	27.1	4.3	33	87.9	9.1	3.0
	女性80～84歳	52	57.7	34.6	7.7	69	66.7	27.5	5.8
	女性85～89歳	58	51.7	37.9	10.3	118	77.1	20.3	2.5
	女性90歳以上	30	60.0	26.7	13.3	136	75.7	17.6	6.6
小学校区別	小郡小学校区	134	57.5	38.1	4.5	131	73.3	25.2	1.5
	大原小学校区	94	66.0	30.9	3.2	83	63.9	28.9	7.2
	三国小学校区	182	59.3	36.8	3.8	162	70.4	24.1	5.6
	立石小学校区	50	66.0	22.0	12.0	61	73.8	16.4	9.8
	御原小学校区	31	48.4	38.7	12.9	38	63.2	31.6	5.3
	味坂小学校区	34	82.4	11.8	5.9	35	80.0	14.3	5.7
	東野小学校区	62	64.5	30.6	4.8	68	70.6	23.5	5.9
	のぞみが丘小学校区	40	70.0	27.5	2.5	14	64.3	35.7	—

○一般高齢者

性・年齢別では、「いいえ（いない）」は男性 80～84 歳 52.4%で最も高くなっている。次いで男性 75～79 歳 42.4%、男性 65～69 歳 40.0%である。

小学校区別では、御原小学校区 38.7%、小郡小学校区 38.1%、三国小学校区 36.8%で「いいえ（いない）」が高くなっている。

○要介護認定者

性・年齢別では、「いいえ（いない）」は男性 80～84 歳 46.2%で最も高く、次いで男性 65～69 歳 41.2%、男性 70～74 歳 40.0%である。

小学校区別では、のぞみが丘小学校区 35.7%、御原小学校区 31.6%で「いいえ（いない）」が 30%を超え高くなっている。

第5章 調査結果：介護保険サービス事業所調査

以下の調査結果については、国が公表している自動集計ソフトを用いた分析結果から主要なものを抜粋し掲載している。

1. 在宅生活改善調査

本章で用いる「自宅等」とは、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホーム以外のものをさす。

(1) ケアマネジャーの数・利用者数

[1] 所属するケアマネジャーの人数

図表－162 所属するケアマネジャーの人数

(上段:実数、下段:%)

全 体	1人	2～3人	4人以上	無回答	平均
n=10 (事業所)	2 20.0	4 40.0	4 40.0	0 0.0	3.3人

所属するケアマネジャーの人数は1事業所あたり平均3.3人であり、「2～3人」、「4人以上」40.0%の割合が最も高く、次いで「1人」20.0%である。

[2] 利用者数

図表－163 自宅等に住んでいる利用者数

(上段:実数、下段:%)

全 体	10人以下	11～30人以下	31～50人以下	51人以上	無回答	平均
n=10 (事業所)	1 10.0	3 30.0	2 20.0	4 40.0	0 0.0	53.8人

図表－164 サ高住、住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホームに住んでいる利用者数

(上段:実数、下段:%)

全 体	10人以下	11～30人以下	31～50人以下	51人以上	無回答	平均
n=10 (事業所)	6 60.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	16.5人

自宅等に住んでいる利用者数は1事業所あたり平均53.8人であり、「51人以上」40.0%の割合が最も高い。

サービス付き高齢者住宅や住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホームに住んでいる利用者数は1事業所あたり平均16.5人であり、「10人以下」60.0%の割合が最も高い。

(2) 過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者の状況

[1] 過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行き先

図表－１６５ 過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	0人 0.0%	2人 3.5%	2人 3.5%
住宅型有料老人ホーム	8人 14.0%	1人 1.8%	9人 15.8%
軽費老人ホーム	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サービス付き高齢者向け住宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
グループホーム	9人 15.8%	0人 0.0%	9人 15.8%
特定施設	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地域密着型特定施設	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護老人保健施設	15人 26.3%	1人 1.8%	16人 28.1%
療養型・介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特別養護老人ホーム	11人 19.3%	1人 1.8%	12人 21.1%
地域密着型 特別養護老人ホーム	1人 1.8%	0人 0.0%	1人 1.8%
その他	6人 10.5%	0人 0.0%	6人 10.5%
行先を把握していない			2人 3.5%
合計	50人 87.7%	5人 8.8%	57人 100.0%

過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者（死亡者除く）は、記入のあった 10 事業所全体で 57 人であった。

行先の内訳をみると、「介護老人保健施設（市内）」が 26.3%（15 人）で最も高い。

〔2〕 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度

図表－166 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳

自宅からの 居所変更者の 要介護認定度	(n=57) (自宅からの 居所変更者)
要支援1	0.0%
要支援2	1.8%
要介護1	26.3%
要介護2	17.5%
要介護3	31.6%
要介護4	19.3%
要介護5	3.5%
合計	100.0%

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者（死亡・未記入除く）の要介護度は、「要介護3」31.6%が最も高く、次いで「要介護1」26.3%である。

（3）現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者の状況

〔1〕現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者数

図表－167 現在のサービスでは生活の維持が難しくなっている利用者

(n=703) (全回答事業所 の利用者総数)	自宅等に居住／生活 上の問題はない	自宅等に居住／生活 の維持が難しい	サ高住・住宅型有料・軽 費老人ホームに居住／生 活の維持が難しい	サ高住・住宅型有料・ 軽費老人ホームに居住 ／生活上の問題はない	合計
	67.6%	9.0%	1.6%	21.9%	100.0%

回答の得られた10事業所の総利用者（703人※）のうち、現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者の割合は、自宅等に居住している人では9.0%で、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホームに居住している人では1.6%である。

※事業所票に設けられた「事業所の利用者数」を訪ねた設問の合計値。回答の得られた10事業所の総利用者数が703人である（p.107、図表・175中「在宅生活者数」についても同様）。

〔２〕現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者の属性等

図表－１６８ 現在のサービスでは生活の維持が難しくなっている利用者の属性（上位３つ）

順位	回答数	割合	世帯類型				居所			要介護度	
			独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	自宅等（持ち家）	自宅等（借家）	サ高住・住宅型有料・軽費	介２以下	介３以上
１	１５人	２０.３％	★				★			★	
１	１５人	２０.３％		★			★			★	
３	１０人	１３.５％				★	★			★	
上記以外	３４人	４５.９％									
合計	７４人	１００.０％									

現在のサービスでは生活の維持が難しくなっている利用者の属性は、「独居世帯・自宅等（持ち家）・要介護２以下」と「夫婦のみ世帯・自宅等（持ち家）・要介護２以下」が最も高く 20.3%（15人）である。次いで、「その他世帯・自宅等（持ち家）・要介護２以下」が 13.5%（10人）である。

〔３〕現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（本人の状態）

図表－１６９ 生活の維持が難しい理由
（本人の状態に属する理由、複数回答）

	必要な生活支援の発生・増大	必要な身体介護の増大	認知症の症状の悪化	医療的ケア・医療処置の必要性の高まり	その他、本人の状態等の悪化	本人の状態等の改善	該当なし	無回答
合計(n=74)	56.8%	52.7%	62.2%	16.2%	23.0%	0.0%	1.4%	0.0%
要支援1～要介護2(n=55)	60.0%	45.5%	63.6%	14.5%	23.6%	0.0%	1.8%	0.0%
要介護3～要介護5(n=19)	47.4%	73.7%	57.9%	21.1%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%

現在のサービスでは生活の維持が難しい理由のうち、本人の状態に属する理由では、「認知症の症状の悪化」62.2%が最も高い。次いで「必要な生活支援の発生・増大」が56.8%である。

要介護度別では、要支援１～要介護２は「認知症の症状の悪化」63.6%が最も高く、次いで「必要な生活支援の発生・増大」が60.0%である。要介護３～要介護５は「必要な身体介護の増大」が73.7%で最も高く、次いで「認知症の症状の悪化」が57.9%である。

〔4〕 「必要な身体介護の増大」の具体的な内容

図表－１７０ 「必要な身体介護の増大」の具体的な内容（複数回答）

	見守り・付き添い	移乗・移動	食事摂取	排泄(日中)	排泄(夜間)	入浴	更衣・整容	その他	無回答
合計(n=39)	51.3%	66.7%	35.9%	59.0%	56.4%	74.4%	53.8%	17.9%	0.0%
要支援1～ 要介護2(n=25)	56.0%	52.0%	32.0%	52.0%	44.0%	76.0%	44.0%	20.0%	0.0%
要介護3～ 要介護5(n=14)	42.9%	92.9%	42.9%	71.4%	78.6%	71.4%	71.4%	14.3%	0.0%

「現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（本人の状態）」で「2. 必要な身体介護の増大」を選択した回答者（39人）に「「必要な身体介護の増大」の具体的な内容」を尋ねた。

全体では、「入浴」74.4%が最も高い。次いで「移乗・移動」66.7%である。

要介護度別では、要支援1～要介護2は「入浴」76.0%が最も高く、次いで「見守り・付き添い」56.0%である。要介護3～要介護5では「移乗・移動」92.9%が最も高く、次いで「排泄（夜間）」78.6%である。

〔５〕 「認知症の症状の悪化」の具体的な内容

図表－１７１ 「認知症の症状の悪化」の具体的な内容（複数回答）

	家事に支障がある	一人での 外出が困難	薬の 飲み忘れ	金銭管理が困難	意欲の低下	徘徊がある
合計(n=46)	54.3%	63.0%	73.9%	65.2%	45.7%	15.2%
要支援1～ 要介護2(n=35)	68.6%	68.6%	80.0%	71.4%	45.7%	11.4%
要介護3～ 要介護5(n=11)	9.1%	45.5%	54.5%	45.5%	45.5%	27.3%
	暴言・暴力などが ある	強い介護拒否が ある	深夜の対応	近隣住民等との トラブル	その他	無回答
合計(n=46)	19.6%	23.9%	13.0%	4.3%	19.6%	6.5%
要支援1～ 要介護2(n=35)	11.4%	28.6%	11.4%	5.7%	25.7%	5.7%
要介護3～ 要介護5(n=11)	45.5%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%

「現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（本人の状態）」で「3. 認知症の症状の悪化」を選択した回答者（46人）に「「認知症の症状の悪化」の具体的な内容」を尋ねた。

全体では、「薬の飲み忘れ」73.9%が最も高く、次いで「金銭管理が困難」が65.2%である。

要介護度別では、要支援1～要介護2は「薬の飲み忘れ」80.0%で最も高く、次いで「金銭管理が困難」が71.4%である。要介護3～要介護5は「薬の飲み忘れ」54.5%が最も高く、次いで「一人での外出が困難」、「金銭管理が困難」、「意欲の低下」、「暴言・暴力などがある」が45.5%である。

〔6〕 「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」の具体的な内容

図表－１７２ 「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」の具体的な内容（複数回答）

	点滴の 管理	中心静脈 栄養	透析	スーマの 処置	酸素療法	レスピレーター	気管切開 の処置	疼痛の 看護
合計(n=12)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%
要支援1～ 要介護 2(n=8)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%
要介護3～ 要介護 5(n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	経管栄養	モニター測定	褥瘡の 処置	カテーテル	喀痰吸引	インスリン 注射	その他	無回答
合計(n=12)	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%	8.3%	50.0%	0.0%
要支援1～ 要介護 2(n=8)	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	50.0%	0.0%
要介護3～ 要介護 5(n=4)	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%

「現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（本人の状態）」で「4. 医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選択した回答者（12人）に「「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」の具体的な内容」を尋ねた。

全体では、「その他」50.0%が最も高く、次いで「喀痰吸引」が25.0%である。

要介護度別では要支援1～要介護2は「その他」50.0%が最も高く、次いで「酸素療法」、「疼痛の看護」が25.0%である。要介護3～要介護5は「喀痰吸引」、「その他」が50.0%で最も高く、次いで「経管栄養」、「インスリン注射」が25.0%である。

〔 7 〕 現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（本人の意向）

図表－１７３ 生活の維持が難しい理由
（本人の意向に属する理由、複数回答）

	本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから	生活不安が大きいため	居住環境が不便だから	本人が介護者の負担の軽減を望むから	費用負担が重いから	その他、本人の意向等があるから	該当なし	無回答
合計(n=74)	31.1%	27.0%	13.5%	8.1%	12.2%	27.0%	17.6%	1.4%
要支援1～要介護2(n=55)	32.7%	29.1%	12.7%	3.6%	7.3%	30.9%	16.4%	1.8%
要介護3～要介護5(n=19)	26.3%	21.1%	15.8%	21.1%	26.3%	15.8%	21.1%	0.0%

現在のサービスでは生活の維持が難しい理由のうち、本人の意向に属する理由は「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」31.1%が最も高く、次いで「生活不安が大きいため」、「その他、本人の意向等があるから」27.0%である。

要介護度別では、要支援1～要介護2は「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」32.7%が最も高く、次いで「その他、本人の意向等があるから」が30.9%である。要介護3～要介護5は「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」、「費用負担が重いから」26.3%が最も高く、次いで「生活不安が大きいため」、「本人が介護者の負担の軽減を望むから」、「該当なし」21.1%である。

〔 8 〕 現在のサービスでは生活の維持が難しい理由（家族等介護者の意向・負担）

図表－１７４ 生活の維持が難しい理由
（家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答）

	介護者の介護に係る不安・負担量の増大	介護者が、一部の居宅サービスの利用を望まないから	家族等の介護等技術では対応が困難	費用負担が重いから	家族等の就労継続が困難になり始めたから	本人と家族等の関係性に課題があるから	その他、家族等介護者の意向等があるから	該当なし	無回答
合計(n=74)	64.9%	18.9%	18.9%	9.5%	13.5%	23.0%	9.5%	9.5%	1.4%
要支援1～要介護2(n=55)	63.6%	20.0%	10.9%	7.3%	14.5%	23.6%	12.7%	5.5%	1.8%
要介護3～要介護5(n=19)	68.4%	15.8%	42.1%	15.8%	10.5%	21.1%	0.0%	21.1%	0.0%

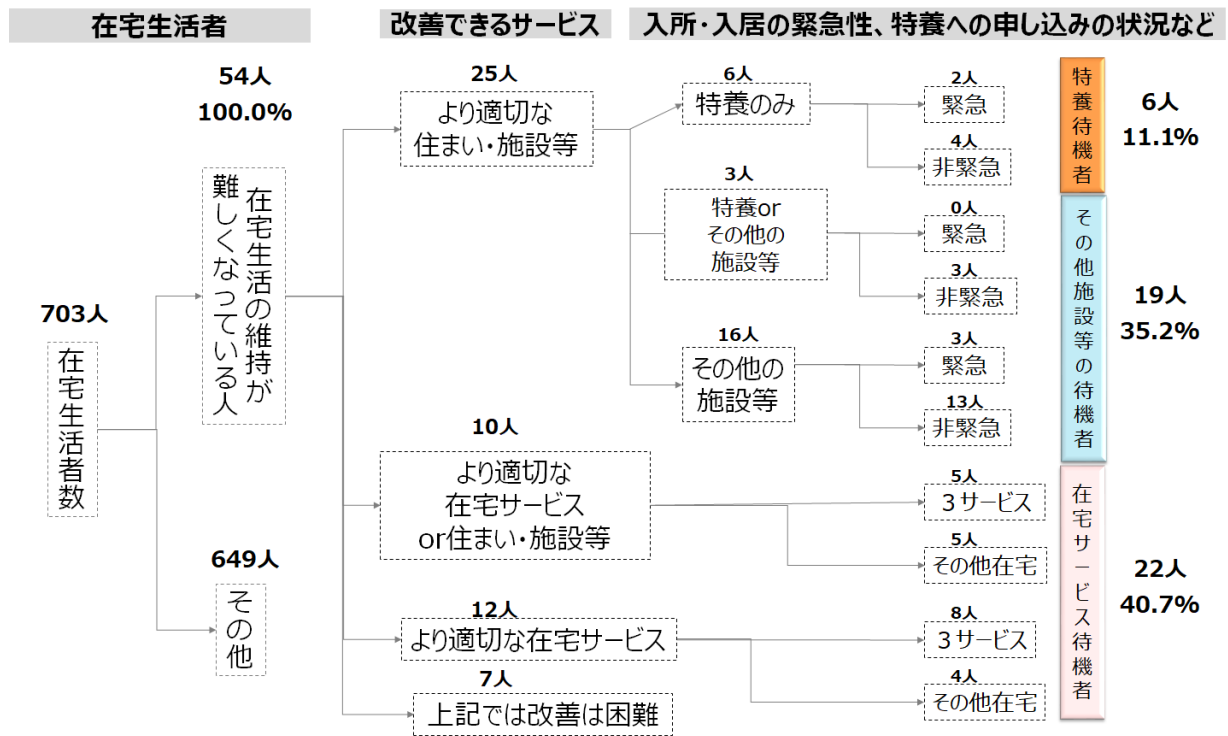
現在のサービスでは生活の維持が難しい理由のうち、家族等の意向・負担は「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」64.9%が最も高く、次いで「本人と家族等の関係性に課題があるから」23.0%である。

要介護度別では、要支援1～要介護2は「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」63.6%が最も高く、次いで「本人と家族等の関係性に課題があるから」が23.6%である。要介護3～要介護5は「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」68.4%が最も高く、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」が42.1%である。

(4) 状況改善のために必要なサービス

[1] 生活の維持が難しい利用者が状況を改善するために必要なサービス

図表－175 「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス



※「より適切な在宅サービス or 住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるサービスとして、「在宅サービス待機者」に分類している。
 ※ここでは、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている人」の合計74人のうち、上記の分類が可能なすべての設問に回答があった54人について分類をしている（分類不可能な場合は「その他」に参入している）。割合（%）は54人を母数として算出したもの。
 ※「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた回答者と無回答を含めている

在宅生活者（703人）のうち、生活の維持が難しくなっている人（54人）の生活の改善に必要なサービス変更について尋ねた。

全体では「より適切な住まい・施設等」（25人）が最も多く、次いで「より適切な在宅サービス」（12人）である。

〔2〕生活改善に必要なサービス

図表－１７６ 「その他施設等の待機者」「在宅サービス待機者」の生活改善に必要なサービス（複数回答）

生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(19人)			在宅サービス待機者(22人)		
住まい・施設等	住宅型有料	5人	26.3%	住宅型有料	9人	40.9%
	サ高住	1人	5.3%	サ高住	1人	4.5%
	軽費老人ホーム	0人	0.0%	軽費老人ホーム	0人	0.0%
	グループホーム	17人	89.5%	グループホーム	13人	59.1%
	特定施設	1人	5.3%	特定施設	1人	4.5%
	介護老人保健施設	3人	15.8%	介護老人保健施設	2人	9.1%
	療養型・介護医療院	0人	0.0%	療養型・介護医療院	2人	9.1%
	特別養護老人ホーム	3人	15.8%	特別養護老人ホーム	5人	22.7%
在宅サービス	—			ショートステイ	5人	22.7%
				訪問介護、訪問入浴	5人	22.7%
				夜間対応型訪問介護	0人	0.0%
				訪問看護	3人	13.6%
				訪問リハ	3人	13.6%
				通所介護、通所リハ、認知症対応型通所	11人	50.0%
				定期巡回サービス	4人	18.2%
				小規模多機能	8人	36.4%
				看護小規模多機能	6人	27.3%

生活の改善に向けて、代替が可能

※割合（％）は、それぞれ、その他施設等の待機者（19人）、在宅サービス待機者（22人）を100%としたもの。
 ※在宅サービス待機者について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」もしくは「在宅サービス」と両方を回答している場合は、代替が可能と捉える。

「その他の施設等の待機者」（19人）の生活改善に必要なサービスは、「グループホーム」89.5%が最も高く、次いで「在宅型有料」26.3%である。

「在宅サービスの待機者」（22人）の生活改善に必要なサービスは、「グループホーム」59.1%が最も高く、次いで「通所介護、通所リハ、認知症対応型通所」50.0%である。

〔3〕 特養に入所できていない理由

図表－１７７ 特養に入所できていない理由（改善に必要なサービスで、特養を選択した人）

	申込をしていない	空きがない	希望の施設に空きがない	医療処置を理由に入所できない	その他	無回答
合計(n=14)	50.0%	7.1%	0.0%	0.0%	21.4%	21.4%
要支援1～要介護2(n=5)	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	40.0%
要介護3～要介護5(n=9)	66.7%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%

生活改善のためにより適切だと思われる具体的なサービスとして「特別養護老人ホーム」を選択された利用者（14人）が、なぜ特別養護老人ホームに入所できていないのかを尋ねた。

特別養護老人ホームに入所できていない理由は「申込をしていない」50.0%が最も高く、次いで「その他」が21.4%である。

要介護度別では、要支援1～要介護2は「その他」40.0%が最も高く、次いで「申込をしていない」が20.0%である。要介護3～要介護5は「申込をしていない」66.7%が最も高く、次いで「空きがない」、「その他」が11.1%である。

〔4〕 特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由

図表－１７８ 特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由
（改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人）

	申込をしていない	空きがない	希望の住まい・施設等に空きがない	医療処置を理由に入所・入居できない	その他	無回答
合計(n=40)	60.0%	22.5%	0.0%	0.0%	7.5%	10.0%
要支援1～要介護2(n=33)	57.6%	27.3%	0.0%	0.0%	6.1%	9.1%
要介護3～要介護5(n=7)	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%

生活改善のためにより適切だと思われる具体的なサービスとして「特別養護老人ホーム」以外の施設・住まいを選択された利用者（40人）が、なぜ特別養護老人ホームに入所できていないのかを尋ねた。

特別養護老人ホーム以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由は、「申込をしていない」60.0%が最も高く、次いで「空きがない」が22.5%である。

要介護度別では、要支援1～要介護2は「申込をしていない」57.6%が最も高く、次いで「空きがない」が27.3%である。要介護3～要介護5は「申込をしていない」71.4%が最も高く、次いで「その他」が14.3%である。

2. 居所変更実態調査

(1) 施設等の概要

[1] 各施設等の定員等と入所・入居者数

図表－１７９ 定員等と入所・入居者数

	調査数 (事業所)	定員数等		入所・入居者数		
		合計(人)	平均(人)	合計(人)	平均(人)	入所・ 入居率 (%)
住宅型有料老人ホーム	n=4	268	67.0	258	64.5	96.3
軽費老人ホーム(特定施設除く)	n=2	69	34.5	68	34.0	98.6
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	n=0	－	－	－	－	－
グループホーム	n=10	144	14.4	141	14.1	97.9
特定施設	n=1	50	50.0	49	49.0	98.0
特定施設	n=1	50	50.0	49	49.0	98.0
地域密着型特定施設	n=0	－	－	－	－	－
介護老人保健施設	n=2	200	100.0	190	95.0	95.0
介護医療型医療施設・介護医療院	n=2	92	46.0	90	45.0	97.8
特別養護老人ホーム	n=3	179	59.7	175	58.3	97.8
特別養護老人ホーム	n=2	150	75.0	146	73.0	97.3
地域密着型特別養護老人ホーム	n=1	29	29.0	29	29.0	100.0

本調査の回答事業所は 24 事業所であり、グループホームが 10 件で最も多く、次いで住宅型有料老人ホームが 4 件である。

[2] 自施設等の待機者数

図表－１８０ 自施設等の待機者数

	調査数 (事業所)	合計(人)	平均(人)
住宅型有料老人ホーム	n=4	11	2.8
軽費老人ホーム(特定施設除く)	n=2	11	5.5
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	n=0	－	－
グループホーム	n=10	20	2.0
特定施設	n=1	3	3.0
特定施設	n=1	3	3.0
地域密着型特定施設	n=0	－	－
介護老人保健施設	n=2	9	4.5
介護医療型医療施設・介護医療院	n=2	2	1.0
特別養護老人ホーム	n=3	36	12.0
特別養護老人ホーム	n=2	36	18.0
地域密着型特別養護老人ホーム	n=1	0	0.0

自施設等の待機者数は、特別養護老人ホームで 1 施設平均 18.0 人と最も多く、次いで、軽費老人ホーム(特定施設除く)が 1 施設平均 5.5 人となっている。

[3] 特別養護老人ホームの待機者数（申込者数）

図表－１８１ 特別養護老人ホームの待機者数（申込者数）

	調査数 (事業所)	合計(人)	平均(人)
住宅型有料老人ホーム	n=4	0	0.0
軽費老人ホーム(特定施設除く)	n=2	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	n=0	－	－
グループホーム	n=10	2	0.2
特定施設	n=1	0	0.0
特定施設	n=1	0	0.0
地域密着型特定施設	n=0	－	－
介護老人保健施設	n=2	13	6.5
介護医療型医療施設・介護医療院	n=2	2	1.0
特別養護老人ホーム	n=3	－	－
特別養護老人ホーム	n=2	－	－
地域密着型特別養護老人ホーム	n=1	－	－

特別養護老人ホーム以外の施設における、特別養護老人ホームの待機者数は、介護老人保健施設が1施設平均6.5人で最も多い。

(2) 入所・入居者の状況

[1] 入所・入居者の要介護度

図表－１８２ 居所変更者の要介護度

サービス 種別	自立	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	申請中	合計
住宅型有料	1人	2人	1人	5人	3人	10人	3人	0人	0人	25人
(n=4)	4.0%	8.0%	4.0%	20.0%	12.0%	40.0%	12.0%	0.0%	0.0%	100.0%
軽費	2人	1人	3人	4人	1人	1人	0人	0人	0人	12人
(n=2)	16.7%	8.3%	25.0%	33.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
GH	0人	0人	0人	5人	3人	1人	11人	5人	0人	25人
(n=10)	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	12.0%	4.0%	44.0%	20.0%	0.0%	100.0%
特定	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
老健	0人	0人	0人	15人	25人	29人	30人	20人	0人	119人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	12.6%	21.0%	24.4%	25.2%	16.8%	0.0%	100.0%
療養型・介護 医療院	0人	0人	0人	0人	1人	3人	9人	12人	0人	25人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	12.0%	36.0%	48.0%	0.0%	100.0%
特養	0人	0人	0人	0人	0人	1人	7人	10人	0人	18人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	38.9%	55.6%	0.0%	100.0%
地密特養	0人	0人	0人	0人	0人	4人	11人	7人	0人	22人
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	50.0%	31.8%	0.0%	100.0%
合計	3人	3人	4人	29人	33人	49人	72人	54人	0人	247人
(n=24)	1.2%	1.2%	1.6%	11.7%	13.4%	19.8%	29.1%	21.9%	0.0%	100.0%

※回答事業所がない施設は省略

入所・入居者の要介護度別の人数をみると、要介護3～要介護5の重度者の人数が多いのは、特定施設、療養型・介護医療院、特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホームである。住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホーム（特定施設除く）は幅広い要介護度の高齢者を受け入れている。

〔2〕 入所・入居者の医療処置の状況

図表－183 入所・入居者の医療処置の状況

サービス種別	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	スーマの処置	酸素療法	レスピレーター	気管切開の処置
住宅型有料	0人	0人	2人	0人	1人	0人	0人
(n=4)	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
軽費	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
GH	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=10)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特定	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老健	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
療養型・介護医療院(n=2)	15人	1人	0人	2人	0人	0人	0人
	16.7%	1.1%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
特養	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地密特養	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	15人	1人	2人	2人	2人	0人	0人
(n=24)	1.5%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
サービス種別	疼痛の看護	経管栄養	モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	喀痰吸引	インスリン注射
住宅型有料	0人	2人	0人	2人	5人	0人	7人
(n=4)	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	1.9%	0.0%	2.7%
軽費	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
GH	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人
(n=10)	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
特定	0人	3人	0人	2人	2人	1人	3人
(n=1)	0.0%	6.1%	0.0%	4.1%	4.1%	2.0%	6.1%
老健	0人	7人	0人	2人	0人	12人	5人
(n=2)	0.0%	3.7%	0.0%	1.1%	0.0%	6.3%	2.6%
療養型・介護医療院(n=2)	0人	48人	3人	7人	1人	14人	5人
	0.0%	53.3%	3.3%	7.8%	1.1%	15.6%	5.6%
特養	1人	10人	0人	4人	3人	2人	1人
(n=2)	0.7%	6.8%	0.0%	2.7%	2.1%	1.4%	0.7%
地密特養	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	1人	70人	3人	18人	11人	29人	21人
(n=24)	0.1%	7.2%	0.3%	1.9%	1.1%	3.0%	2.2%

※回答事業所がない施設は省略

全入所・入居者に占める各医療処置の人数をみると、「経管栄養」（70人）が最も多く、「喀痰吸引」が29人、「インスリン注射」が21人である。

(3) 過去1年間の入所・入居、退去の状況

〔1〕 過去1年間の新規入所・入居者の以前の居場所

各施設の新規入所・入居者の以前の居場所（市内・市外別）を尋ねた。

施設ごとの結果は下表のとおりである。

※回答事業所がなかった施設・居場所については省略している。

図表－184 過去1年間の新規入所・入居者の以前の居場所（施設別） 1

過去1年間の住宅型有料老人ホームの入居の流れ

入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	14人	22人	36人
	17.9%	28.2%	46.2%
住宅型有料	0人	4人	4人
	0.0%	5.1%	5.1%
サ高住	0人	1人	1人
	0.0%	1.3%	1.3%
老健	2人	6人	8人
	2.6%	7.7%	10.3%
療養型・ 介護医療院	1人	2人	3人
	1.3%	2.6%	3.8%
その他	20人	6人	26人
	25.6%	7.7%	33.3%
合計	37人	41人	78人
	47.4%	52.6%	100.0%

過去1年間の軽費老人ホームの入居の流れ

入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	9人	0人	9人
	60.0%	0.0%	60.0%
住宅型有料	1人	2人	3人
	6.7%	13.3%	20.0%
サ高住	0人	3人	3人
	0.0%	20.0%	20.0%
合計	10人	5人	15人
	66.7%	33.3%	100.0%

過去1年間のグループホームの入所の流れ

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	23人	0人	23人
	76.7%	0.0%	76.7%
住宅型有料	1人	0人	1人
	3.3%	0.0%	3.3%
軽費	1人	0人	1人
	3.3%	0.0%	3.3%
療養型・ 介護医療院	1人	0人	1人
	3.3%	0.0%	3.3%
特養	1人	0人	1人
	3.3%	0.0%	3.3%
その他	2人	0人	2人
	6.7%	0.0%	6.7%
把握していない			1人
			3.3%
合計	29人	0人	30人
	96.7%	0.0%	100.0%

過去1年間の特定施設の入所の流れ

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	1人	0人	1人
	12.5%	0.0%	12.5%
特養	0人	1人	1人
	0.0%	12.5%	12.5%
地密特養	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
その他	5人	1人	6人
	62.5%	12.5%	75.0%
合計	6人	2人	8人
	75.0%	25.0%	100.0%

図表－185 過去1年間の新規入所・入居者の以前の居場所（施設別）2

過去1年間の介護老人保健施設の入所の流れ

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	23人 15.9%	30人 20.7%	53人 36.6%
住宅型有料	4人 2.8%	11人 7.6%	15人 10.3%
GH	0人 0.0%	1人 0.7%	1人 0.7%
老健	0人 0.0%	2人 1.4%	2人 1.4%
地密特養	4人 2.8%	0人 0.0%	4人 2.8%
その他	52人 35.9%	18人 12.4%	70人 48.3%
合計	83人 57.2%	62人 42.8%	145人 100.0%

過去1年間の介護療養型医療施設・介護医療院の入所の流れ

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	1人 2.2%	0人 0.0%	1人 2.2%
特養	3人 6.5%	1人 2.2%	4人 8.7%
その他	28人 60.9%	13人 28.3%	41人 89.1%
合計	32人 69.6%	14人 30.4%	46人 100.0%

過去1年間の特別養護老人ホームの入所の流れ

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	15人 30.6%	4人 8.2%	19人 38.8%
GH	2人 4.1%	0人 0.0%	2人 4.1%
特定	1人 2.0%	0人 0.0%	1人 2.0%
老健	4人 8.2%	2人 4.1%	6人 12.2%
療養型・ 介護医療院	2人 4.1%	3人 6.1%	5人 10.2%
特養	1人 2.0%	0人 0.0%	1人 2.0%
その他	11人 22.4%	4人 8.2%	15人 30.6%
合計	36人 73.5%	13人 26.5%	49人 100.0%

過去1年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所の流れ

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	5人 20.0%	0人 0.0%	5人 20.0%
住宅型有料	2人 8.0%	0人 0.0%	2人 8.0%
老健	5人 20.0%	0人 0.0%	5人 20.0%
療養型・ 介護医療院	13人 52.0%	0人 0.0%	13人 52.0%
合計	25人 100.0%	0人 0.0%	25人 100.0%

〔２〕 過去１年間の退去者の状況

各施設の退所・退去者の変更後の居場所（市内・市外別）を尋ねた。

施設ごとの結果は下表のとおりである。

※回答事業所がなかった施設・居場所については省略している。

図表－１８６ 過去１年間の退去者の退去先１

過去１年間の住宅型有料老人ホームの退居の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	２人	１人	３人
	４.０%	２.０%	６.０%
住宅型有料	１人	１人	２人
	２.０%	２.０%	４.０%
GH	０人	１人	１人
	０.０%	２.０%	２.０%
特定	１人	０人	１人
	２.０%	０.０%	２.０%
老健	１人	１人	２人
	２.０%	２.０%	４.０%
療養型・ 介護医療院	２人	０人	２人
	４.０%	０.０%	４.０%
その他の 医療機関	１３人	０人	１３人
	２６.０%	０.０%	２６.０%
特養	３人	０人	３人
	６.０%	０.０%	６.０%
その他	１８人	１人	１９人
	３６.０%	２.０%	３８.０%
把握していない			４人
			８.０%
合計	４１人	５人	５０人
	８２.０%	１０.０%	１００.０%
居所変更			５０人
			８４.７%
死亡			９人
			１５.３%
総計			５９人
			１００.０%

過去１年間の軽費老人ホームの退居の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
住宅型有料	０人	１人	１人
	０.０%	８.３%	８.３%
GH	１人	０人	１人
	８.３%	０.０%	８.３%
老健	１人	１人	２人
	８.３%	８.３%	１６.７%
療養型・ 介護医療院	３人	１人	４人
	２５.０%	８.３%	３３.３%
その他の 医療機関	２人	１人	３人
	１６.７%	８.３%	２５.０%
特養	１人	０人	１人
	８.３%	０.０%	８.３%
合計	８人	４人	１２人
	６６.７%	３３.３%	１００.０%
居所変更			１２人
			７０.６%
死亡			５人
			２９.４%
総計			１７人
			１００.０%

第5章 介護保険サービス事業所調査
2. 居所変更実態調査

図表－187 過去1年間の退去者の退去先2

過去1年間のグループホームの退所の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
住宅型有料	0人	1人	1人
	0.0%	4.0%	4.0%
GH	0人	1人	1人
	0.0%	4.0%	4.0%
老健	1人	0人	1人
	4.0%	0.0%	4.0%
療養型・ 介護医療院	7人	0人	7人
	28.0%	0.0%	28.0%
その他の 医療機関	4人	0人	4人
	16.0%	0.0%	16.0%
特養	2人	1人	3人
	8.0%	4.0%	12.0%
その他	7人	0人	7人
	28.0%	0.0%	28.0%
把握していない			1人
			4.0%
合計	21人	3人	25人
	84.0%	12.0%	100.0%
居所変更			25人
			83.3%
死亡			5人
			16.7%
総計			30人
			100.0%

過去1年間の特定施設の退所の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
特定	1人	0人	1人
	100.0%	0.0%	100.0%
合計	1人	0人	1人
	100.0%	0.0%	100.0%
居所変更			1人
			20.0%
死亡			4人
			80.0%
総計			5人
			100.0%

過去1年間の介護老人保健施設の退所の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	19人	28人	47人
	16.0%	23.5%	39.5%
住宅型有料	11人	17人	28人
	9.2%	14.3%	23.5%
GH	1人	0人	1人
	0.8%	0.0%	0.8%
特養	5人	0人	5人
	4.2%	0.0%	4.2%
地密特養	5人	0人	5人
	4.2%	0.0%	4.2%
その他	25人	8人	33人
	21.0%	6.7%	27.7%
合計	66人	53人	119人
	55.5%	44.5%	100.0%
居所変更			119人
			85.6%
死亡			20人
			14.4%
総計			139人
			100.0%

過去1年間の介護療養型医療施設・介護医療院の退所の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	2人	1人	3人
	8.0%	4.0%	12.0%
住宅型有料	0人	1人	1人
	0.0%	4.0%	4.0%
老健	0人	4人	4人
	0.0%	16.0%	16.0%
特養	1人	2人	3人
	4.0%	8.0%	12.0%
地密特養	3人	0人	3人
	12.0%	0.0%	12.0%
その他	9人	2人	11人
	36.0%	8.0%	44.0%
合計	15人	10人	25人
	60.0%	40.0%	100.0%
居所変更			25人
			36.8%
死亡			43人
			63.2%
総計			68人
			100.0%

図表－１８８ 過去１年間の退去者の退去先３

過去１年間の特別養護老人ホームの退所の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
GH	1人	0人	1人
	5.6%	0.0%	5.6%
療養型・ 介護医療院	3人	3人	6人
	16.7%	16.7%	33.3%
その他の 医療機関	11人	0人	11人
	61.1%	0.0%	61.1%
合計	15人	3人	18人
	83.3%	16.7%	100.0%
居所変更			18人
			38.3%
死亡			29人
			61.7%
総計			47人
			100.0%

過去１年間の地域密着型特別養護老人ホームの退所の流れ

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
老健	4人	0人	4人
	18.2%	0.0%	18.2%
療養型・ 介護医療院	15人	0人	15人
	68.2%	0.0%	68.2%
その他の 医療機関	3人	0人	3人
	13.6%	0.0%	13.6%
合計	22人	0人	22人
	100.0%	0.0%	100.0%
居所変更			22人
			100.0%
死亡			0人
			0.0%
総計			22人
			100.0%

(4) 入所・入居者の退去理由

図表－189 居所変更した理由1

居所変更した理由(第1位)

	必要な支援 の発生・増 大	必要な身体 介護の発 生・増大	認知症の症 状の悪化	医療的ケ ア・医療処 置の必要性 の高まり	上記以外の 状態像の悪 化	状態等の改 善	必要な居宅 サービスを 望まなかつ たため	費用負担が 重くなった	その他	無回答	合計
住宅型有料 (n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
軽費(n=2)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
GH(n=10)	0.0%	20.0%	0.0%	70.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	100.0%
特定(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
老健(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
療養型・介 護医療院 (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
特養(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
地密特養 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計(n=24)	0.0%	16.7%	0.0%	66.7%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	100.0%

居所変更した理由(第2位)

	必要な支援 の発生・増 大	必要な身体 介護の発 生・増大	認知症の症 状の悪化	医療的ケ ア・医療処 置の必要性 の高まり	上記以外の 状態像の悪 化	状態等の改 善	必要な居宅 サービスを 望まなかつ たため	費用負担が 重くなった	その他	無回答	合計
住宅型有料 (n=4)	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
軽費(n=2)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
GH(n=10)	0.0%	40.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.0%	100.0%
特定(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
老健(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
療養型・介 護医療院 (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
特養(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
地密特養 (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計(n=24)	0.0%	20.8%	25.0%	4.2%	4.2%	12.5%	0.0%	8.3%	8.3%	16.7%	100.0%

※回答事業所がない施設は省略

図表－１９０ 居所変更した理由 ２

居所変更した理由（第3位）

	必要な支援 の発生・増 大	必要な身体 介護の発 生・増大	認知症の症 状の悪化	医療的ケ ア・医療処 置の必要性 の高まり	上記以外の 状態像の悪 化	状態等の改 善	必要な居宅 サービスを 望まなかつ たため	費用負担が 重くなった	その他	無回答	合計
住宅型有料 (n=4)	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	100.0%
軽費(n=2)	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
GH(n=10)	0.0%	0.0%	30.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	100.0%
特定(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
老健(n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
療養型・介 護医療院 (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%
特養(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
地密特養 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計(n=24)	4.2%	4.2%	20.8%	8.3%	8.3%	4.2%	4.2%	20.8%	8.3%	16.7%	100.0%

居所変更した理由（順位不問、複数回答）

	必要な支援 の発生・増 大	必要な身体 介護の発 生・増大	認知症の症 状の悪化	医療的ケ ア・医療処 置の必要性 の高まり	上記以外の 状態像の悪 化	状態等の改 善	必要な居宅 サービスを 望まなかつ たため	費用負担が 重くなった	その他
合計	1	10	11	19	3	5	1	7	7

自施設等の入所・入居者が退去する理由について上位 3 つを尋ねた。

第 1 位は「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」66.7%が最も高く、次いで「必要な身体介護の発生・増大」16.7%である。

第 2 位は「認知症の症状の悪化」25.0%、次いで「必要な身体介護の発生・増大」20.8%である。

第 3 位は「認知症の症状の悪化」、「費用負担が重くなった」20.8%である。

資料編（各種調査票）

（１）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第 8 期

お ぐ お り し こ う れ い し ゃ せ い か つ じ っ た い ち ょ う さ

小郡市高齢者生活実態調査

か い ご 予 防 に ち じ ょ う せ い か つ け ん い き ち ょ う さ
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

ひ ぐ ろ お ぐ お り し か い ご ほ け ん じ ゅ う こ う れ い し ゃ ふ く し じ ゅ う り か い き ょ う り よ く た ま わ ま こ と
日頃から小郡市の介護保険事業や高齢者福祉事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

へ い せ い ね ん か い ご ほ け ん せ い ど か い し い こ う ね ん こ う れ い し ゃ ふ く し け い か く か い ご ほ け ん じ ゅ う け い か く
さて、平成12年の介護保険制度開始以降、3年ごとに「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を
さ く て い た び お ぐ お り し だ い き れ い わ ね ん ど け い か く さ く て い む じ っ た い ち ょ う さ
策定しています。この度、小郡市では「第8期（令和3～5年度）計画」の策定に向けて実態調査を
じ っ し
実施することになりました。

た い し ょ う じ ゃ に ん こ う れ い し ゃ か た む さ く い ち ょ う し ゅ つ
【対象者…1,000人の高齢者の方（無作為抽出）】

ち ょ う さ じ ゅ う せ い ち ょ う さ ね ん だ け い か く さ く て い む じ っ た い ち ょ う さ
この調査は、住民の皆様の状況やご意見をおうかがいし、高齢者福祉施策の充実、介護保険
じ ゅ う え ん か つ じ っ し む さ ん こ う し り ょ う
事業の円滑な実施に向けた参考資料とするものです。

か い と う と う け い じ ょ う し り ょ う り ょ う
回答は統計上の資料としてのみ利用させていただきます。

ち ょ う さ も く て き が い し ょ う あ ん し ん き に ゅ う
また、調査の目的以外には使用いたしませんので、安心してご記入ください。

ち ょ う さ し ゅ し り か い き ょ う り よ く ね が も う あ
調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

れ い わ ね ん が つ お ぐ お り し ち ょ う か じ り ょ う こ う
令和2年3月 小郡市長 加地 良光

て い し ゅ つ
〈提出について〉

て い し ゅ つ ほう ほう ち ょ う き ひ ょ う ど う ふう へ ん し ゚ ょ う ふう と う き っ て ふ ょ う い
提出方法 調査票を同封の返信用封筒（切手不要）に入れてください

て い し ゅ つ き げ ん が つ に ち か ょ う び
提出期限 3月24日（火）

＜ご記入に当たってのお願い＞

- 1 ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。
- 2 回答が「その他」に当てはまる場合は、() 内に具体的な内容を記入してください。
- 3 この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。

「**介護**」：介護保険サービスを受けている場合、又は
 常時ご家族などに身の回りの世話等の援助を受けている状態

「**介助**」：ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

- 4 この調査票に関するご質問は、下記までお問い合わせください。

小郡市 市民福祉部 介護保険課
 電話：0942 (72) 2111 (内線454)

きにゆうび 記入日	れいわ 令和	ねん 年	がつ 月	にち 日
ちょうさひょう きにゆう 調査票を記入されたのはどなたですか。 ○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入 2. ご家族が記入 (あて名のご本人からみた続柄) 3. その他				

1

ご本人のことにについて

(1) 家族構成について（1つに○）

1. 1人暮らし (3)へ
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他 ()

(2)へ

(2) 日中、一人だけになることがありますか（1つに○）

1. よくある（週 4～7日） 2. たまにある（週 1～3日） 3. ない

(2-1) 一人だけになる時間帯は何時から何時までですか

() 時～() 時まで、() 時～() 時まで、

(3) 普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（1つに○）

1. 介護・介助は必要ない (5)へ
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
- 【介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む】

(4)へ

(4) 要介護状態の区分について（1つに○）

1. 要支援 1 2. 要支援 2 3. 要介護認定は受けていない

(4-1) 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (いくつでも)

- | | | |
|---------------------|-------------------|---------------|
| 1. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) | 2. 心臓病 | 3. がん (悪性新生物) |
| 4. 呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等) | 5. 関節の病気 (リウマチなど) | |
| 6. 認知症 (アルツハイマー病など) | 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 |
| 9. 腎疾患 (透析) | 10. 視覚・聴覚障害 | 11. 骨折・転倒 |
| 12. 脊椎損傷 | 13. 高齢による衰弱 | 14. その他 () |
| 15. 不明 | | |

【(3) で「3」の方のみ】

(4-2) 主にどなたの介護、介助を受けていますか (いくつでも)

- | | | |
|----------------|------------|----------|
| 1. 配偶者 (夫・妻) | 2. 息子 | 3. 娘 |
| 4. 子の配偶者 | 5. 孫 | 6. 兄弟・姉妹 |
| 7. 介護サービスのヘルパー | 8. その他 () | |

(5) 現在の暮らしの状況を経済的にみて、どう感じていますか (1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

(6) お住まいは下記のうちのどれになりますか (1つに○)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 持家 (一戸建て) | 2. 持家 (集合住宅) |
| 3. 民間賃貸住宅 (一戸建て) | 4. 民間賃貸住宅 (集合住宅) |
| 5. 市営・県営住宅 | 6. 借家 |
| 7. その他 | |

2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（1つに○）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか
（1つに○）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 15分位続けて歩くことができますか（1つに○）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか（1つに○）

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか（1つに○）

1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか（1つに○）

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(6-1) 外出する主な理由について（いくつでも）

- | | | |
|------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 買い物 | 2. 通院・通所 | 3. 親族・友人宅への訪問 |
| 4. 仕事 | 5. 運動 | 6. 気分転換 |
| 7. 行事・イベント | 8. その他（ ） | |

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（1つに○）

1. とても減っている 2. 減っている
3. あまり減っていない 4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか (1つに○)

1. はい

2. いいえ (9)へ

(8-1) 外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)

1. 病気

2. 障害 (脳卒中の後遺症など)

3. 足腰などの痛み

4. トイレの心配 (失禁など)

5. 耳の障害 (聞こえの問題など)

6. 目の障害

7. 外での楽しみがない

8. 経済的に出られない

9. 交通手段がない

10. その他 ()

(9) 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)

1. 徒歩

2. 自転車

3. バイク

4. 自動車 (自分で運転)

5. 自動車 (人に乗せてもらう)

6. 電車

7. 路線バス

8. コミュニティバス

9. 病院や施設のバス

10. 車いす

11. 電動車いす (カート)

12. 歩行器・シルバーカー

13. タクシー

14. その他 ()

3 食べることについて

(1) 身長・体重

身長 cm

体重 kg

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

1. はい

2. いいえ

(3) お茶や汁物などでむせることがありますか

1. はい

2. いいえ

（４）口の渇きが気になりますか

1. はい

2. いいえ

（５）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

1. はい

2. いいえ

（６）歯の噛み合わせは良いですか

1. はい

2. いいえ

（７）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（１つに○）

【成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です】

1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用 ⇒ (7-1)へ

2. 自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし ⇒ (8)へ

3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用 ⇒ (7-1)へ

4. 自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし ⇒ (8)へ

（７－１）入れ歯の手入れ（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

1. はい

2. いいえ

（８）6 か月間で 2 ～ 3 kg 以上の体重減少がありましたか

1. はい

2. いいえ

（９）どなたかと食事をとる機会がありますか（１つに○）

1. 毎日ある

2. 週に何度かある

3. 月に何度かある

4. 年に何度かある

5. ほとんどない

4

まいにち せいかつ
毎日の生活について

(1) 物のわすれが多いと感じますか

1. はい

2. いいえ

(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

1. はい

2. いいえ

(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか

1. はい

2. いいえ

(4) バスや電車、自家用車を使って一人で外出していますか

1. できるし、している

2. できるけどしていない

3. できない

(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

1. できるし、している

2. できるけどしていない

3. できない

(5-1) 食品・日用品の主な入手方法は何ですか

1. 自分で買いに行く → (5-2)へ

2. 同居している家族に買ってきてもらう

3. 近居の親族・友人に買ってきてもらう

4. 宅配サービスを利用

5. その他 ()

【(5-1)「1」の方のみ】

(5-2) 買物の際の移動手段は何ですか (1つに○)

1. 徒歩

2. 自転車

3. バイク

4. 自動車 (自分で運転)

5. 自動車 (人に乗せてもらう)

6. 電車

7. 路線バス

8. コミュニティバス

9. タクシー

10. その他 ()

(5-3) 食品や日用品の買物で困っていることは何ですか (いくつでも)		
1. 移動手段がない	2. 移動にかかる費用が高い	
3. 代わりに買ってしてくれる人がいない	4. 特に困っていることはない	
5. その他 ()		
(6) 自分で食事の用意をしていますか (1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか (1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(9) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか		
1. はい	2. いいえ	
(10) 新聞を読んでいますか		
1. はい	2. いいえ	
(11) 本や雑誌を読んでいますか		
1. はい	2. いいえ	
(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか		
1. はい	2. いいえ	
(13) 友人の家を訪ねていますか		
1. はい	2. いいえ	

(14) 家族や友人の相談にのっていますか	
1. はい	2. いいえ
(15) 病人を見舞うことができますか	
1. はい	2. いいえ
(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか	
1. はい	2. いいえ
(17) 趣味はありますか	
1. 趣味あり（具体的に	）
2. 思いつかない	
(18) 生きがいはありますか	
1. 生きがいあり（具体的に	）
2. 思いつかない	
(19) 心身の健康づくりのためにおこなっていることがありますか（いくつでも）	
1. 運動や毎日の散歩などで、身体を動かすようにしている	
2. バランスの良い食事を心がけている	
3. 早寝早起きなど、規則正しい生活をしている	
4. 趣味の活動や地域活動など、社会参加を心がけている	
5. 健康づくりや生きがいづくりのために働いている	
6. きちんと歯磨きをしている	
7. 文章や手紙を書いたり計算をするなど、頭を使うようにしている	
8. なるべく、外出するように心がけている	
9. 家族や孫と過ごす（団らん）	
10. 老人クラブ活動に参加している	
11. その他（	
12. 特にない	

5 ち い き かつ どう 地域での活動について						
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか ※① - ⑧それぞれに回答してください						
	しゅう かい 週 4回 いじょう 以上	しゅう かい 週 2 ～3回	しゅう かい 週 1回	つき 月 1 かい ～3回	ねん 年に すうかい 数回	さんか 参加して いない
① ボランティアの グループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係の グループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係の グループ	1	2	3	4	5	6
④ 学 習 ・ 教 養 サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 介護予防のための 通いの場 (地域の健康教室や ふれあいサロンなど)	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある 仕事	1	2	3	4	5	6
(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、 いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に<u>参加者として</u>参加し てみたいと思いますか						
1. ぜ ひ さんか 2. さんか 3. さんか 4. す で さんか 是非参加したい 参加してもよい 参加したくない 既に参加している						

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない 4. 既に参加している

6

助け合いについて

ご本人とまわりの人の「助け合い」についておうかがいします

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(2) 反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
7. その他（ ） 8. そのような人はいない

（４）反対に、看病や世話を^{はんたい}してあげる人^{かんびょう}（いくつでも）^{せ わ} ^{ひと}

- | | | |
|--|---------------------------|---------------------------|
| 1. ^{はいぐうしや} 配偶者 | 2. ^{どうきょ} 同居の子ども | 3. ^{べっきょ} 別居の子ども |
| 4. ^{きょうだい} 兄弟姉妹・ ^{しんせき} 親戚・ ^{おや} 親・ ^{まご} 孫 | 5. ^{きんりん} 近隣 | 6. ^{ゆうじん} 友人 |
| 7. その他（ ） 8. ^{ひと} そのような人はいない | | |

（５）家族や友人・知人以外で、何かあったときに、相談する場所や相手^{かぞく}を^{ゆうじん}教えて^{ちじん}ください^{いがい}（いくつでも）^{なに} ^{そうだん} ^{ばしょ} ^{あいて}

- | | |
|--|--|
| 1. ^{じち} 自治会・ ^{ちやうないかい} 町内会・ ^{ろうじん} 老人クラブ | 2. ^{しゃかいふくしきやうぎかい} 社会福祉協議会・ ^{みんせいいいん} 民生委員 |
| 3. ケアマネジャー | 4. ^{いし} 医師・ ^{しかいし} 歯科医師・ ^{かんごし} 看護師 |
| 5. ^{ちいきほうかつしえん} 地域包括支援センター・ ^{やくしよ} 役所・ ^{やくば} 役場 | 6. ^た その他 |
| 7. ^{ひと} そのような人はいない | |

（６）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（１つに○）^{ゆうじん} ^{ちじん} ^あ ^{ひんど}

- | | | |
|--|---|--|
| 1. ^{まいにち} 毎日ある | 2. ^{しゅう} 週に ^{なんど} 何度かある | 3. ^{つき} 月に ^{なんど} 何度かある |
| 4. ^{ねん} 年に ^{なんど} 何度かある | 5. ^{ほとんどない} ほとんどない | |

（７）この１か月間、何人の友人・知人と会いましたか（１つに○）^{げつかん} ^{なんにん} ^{ゆうじん} ^{ちじん} ^あ
 【同じ人には何度会っても一人と数えることとします】^{おな} ^{ひと} ^{なんど} ^あ ^{ひとり} ^{かぞ}

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|-----------------------|
| 1. ^{にん} ０人（いない） | 2. ^{にん} １～２人 | 3. ^{にん} ３～５人 |
| 4. ^{にん} ６～９人 | 5. ^{にんいじょう} １０人以上 | |

（８）よく会う友人・知人はどんな人ですか（いくつでも）^あ ^{ゆうじん} ^{ちじん} ^{ひと}

- | | | |
|--|--|---|
| 1. ^{きんじょ} 近所・ ^{おな} 同じ ^{ちいき} 地域 ^{ひと} の人 | 2. ^{おさな} 幼なじみ | 3. ^{がくせいじだい} 学生時代の友人 ^{ゆうじん} |
| 4. ^{しごと} 仕事での ^{どうりよう} 同僚・ ^{もとうりよう} 元同僚 | 5. ^{しゆみ} 趣味や ^{かんしん} 関心が ^{おな} 同じ友人 ^{ゆうじん} | |
| 6. ボランティアなどの活動 ^{かつどう} での友人 ^{ゆうじん} | | |
| 7. ^た その他（ ） 8. ^{いない} いない | | |

7

健康について

(1) 現在の健康状態はいかがですか (1つに○)

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) 現在の程度幸せですか (1つに○)

【「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください】

0点 1点 2点 3点 4点 5点 6点 7点 8点 9点 10点

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

(5) お酒は飲みますか (1つに○)

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない
4. もともと飲まない

(6) タバコは吸っていますか (1つに○)

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

(7) 治療や健康について相談する「かかりつけ医」がいますか (1つに○)

1. 市内にいる 2. 市外にいる 3. いない

(8) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

- | | | |
|----------------------|--------------------------|-------------------|
| 1. ない | 2. 高血圧 | 3. 脳卒中（脳出血・脳梗塞など） |
| 4. 心臓病 | 5. 糖尿病 | 6. 高脂血症（脂質異常） |
| 7. 呼吸器の病気（肺炎や気管支炎など） | 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | |
| 9. 腎臓・前立腺の病気 | 10. 筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症など） | |
| 11. 外傷（転倒・骨折など） | 12. がん（悪性新生物） | 13. 血液・免疫の病気 |
| 14. うつ病 | 15. 認知症（アルツハイマー病など） | 16. パーキンソン病 |
| 17. 目の病気 | 18. 耳の病気 | 19. その他（ ） |

(9) 健康について、どのようなことが知りたいですか（いくつでも）

- | | | |
|---------------------|--------------|-----------|
| 1. 疾病の予防・治療について | 2. 食生活について | 3. 運動について |
| 4. ストレス・心の健康づくり | 5. 認知症予防について | |
| 6. 介護の方法・寝たきり予防について | 7. 歯の手入れについて | |
| 8. 骨粗しょう症予防について | 9. その他（ ） | 10. 特にない |

8

認知症にかかる相談窓口について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

9

高齢者の福祉や介護の施策に関する考えについて

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について、考え方に最も近いものはどれですか (1つに○)

1. 保険料が今より高くなっても、サービスを充実させたほうが良い
2. 保険料も介護サービスも、現状の程度で良い
3. サービス水準を今より抑えても、保険料が安くなるほうが良い
4. わからない

(2) 「小郡市地域包括支援センター」を知っていますか (1つに○)

1. 知っているし、利用したこともある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない
4. わからない

(3) 今後、介護が必要になったときは、どこで生活していきたいですか (1つに○)

1. 自宅や親族の家で家族だけの介護を受けて生活したい
2. 自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい
3. 自宅で介護保険の在宅サービスだけを利用して生活したい
4. 市内の入所施設を利用したい
5. 市外の入所施設を利用したい
6. その他 ()

(4) 「もしもの時」(病状が悪くなり、回復の見込みがなくなった時など)を考えたことがありますか?

1. はい
2. いいえ

（５）「もしもの時^{とき}」について、どんな準備^{じゆんび}をされていますか？
（いくつでも○）

1. ご家族^{かぞく}やあなたの信頼^{しんらい}する人^{ひと}たちと自分の最期^{さいご}について話し合^{はな}った
2. 「かかりつけ医^い（主治医^{しゅじい}）」に今後の治療方針^{ちりょうほうしん}の希望^{きぼう}を伝^{つた}えた
3. エンディングノート（遺言書^{ゆいごんしょ}など）を作成^{さくせい}した
4. ACP（※）ノート^{さくせい}を作成^{さくせい}した
5. その他（）
6. 特に何も^{とく なに}していない

（※）アドバンス・ケア・プランニング^{りやく}（Advance Care Planning）の略^{りやく}＝「人生会議^{じんせいかいぎ}」

本人^{ほんにん}の望^{のぞ}む医療^{いりよう}やケアについて、本人^{ほんにん}の信頼^{しんらい}を寄^よせる人^{ひと}たちと話し合^{はな}うこと。

誰^{だれ}でも、命^{いのち}に関^{かか}わる大^{おお}きな病^{びょう}気^きやケガ^{けが}をする可^か能^{のう}性^{せい}があり、命^{いのち}の危^き険^{けん}が迫^{せま}った状^{じょう}態^{たい}では、

約^{やく} 7 割^{わり}の方^{かた}が医療^{いりよう}やケアについて自^じ己^こ決^け定^{てい}がで^できな^なく^くな^なります。

本人^{ほんにん}の価^か値^ち観^{かん}や気^き持^もちをよ^よく知^しる家^か族^{ぞく}など^{せい}が生^い活^{りよう}・医^い療^{りよう}・ケ^けアにつ^ついて話^{はな}し合^あうと^ときに

重^{じゅう}要^{よう}な助^{たす}けとな^なります。

（６）災害^{さいがい}時^じに避難^{ひなん}する場^ば所^{しょ}を知^しっていますか

1. はい
2. いいえ

（７）災害^{さいがい}時^じに手^て助^{だす}けをし^してく^くれ^れる人^{ひと}はいますか

1. はい
2. いいえ

「^{ち い き}地域^{さ さ}で^あともに^{こうれいしや}支え^{おごおりし}合う^高齢^に者^にに^{やさ}しい^{まち}まち^{づく}り」をすすめていくため、小郡市に
^{たい}対^いする^{けん}ご^{じゆう}意見^かなどがありましたら、ご自由にお書きください。

■■■■^{いじよう}以上^{ちょうさ}で^{しゅうりよう}調査^{きようりよく}は^{しゅうりよく}終^り了^{です}です。ご協^{きようりよく}力^{あり}あり^がと^うご^ざい^まし^た■■■■

^{ちょうさひよう}調^み査^お票^はは^{みつ}三^おつ^に折^しり^にに^しし
^{どうふう}同^{へんしんようふうとう}封^{きってふよう}の^{きってふよう}返^{きってふよう}信^{きってふよう}用^{きってふよう}封^{きってふよう}筒^{きってふよう}（^{きってふよう}切^{きってふよう}手^{きってふよう}不^{きってふよう}要^{きってふよう}）に^{きってふよう}入^{きってふよう}れ
^{がつ}3^{にち}月^{かようび}2^{にち}4^{かようび}日^{にち}（^{かようび}火^{にち}）^{まで}ま^でに^{まで}ご^{まで}投^{とうかん}函^{まで}く^{まで}だ^{まで}さ^{まで}い^{まで}。

（２）在宅介護実態調査

第 8 期

お ご お り し こ う れ い し ゃ ざ い た く か い ご じ っ た い ち ょ う さ
小 郡 市 高 齢 者 在 宅 介 護 実 態 調 査

ひ ご ろ お ご お り し か い ご ほ け ん じ ぎ ょ う こ う れ い し ゃ ふ く し じ ぎ ょ う り か い き ょ う り よ く た ま わ ま こ と
 日頃から小郡市の介護保険事業や高齢者福祉事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます
 ございます。

さ て、平 成 1 2 年 の 介 護 保 険 制 度 開 始 以 降、3 年 ご と に「高 齢 者 福 祉 計 画 ・ 介 護 保 険 事 業 計 画」を
 さ ぐ て い た び お ご お り し だ い き れ い わ ね ん ど け い か く さ ぐ て い む じ っ た い ち ょ う さ
 策定しています。この度、小郡市では「第 8 期（令和 3～5 年度）計画」の策定に向けて実態調査を
 じ っ し
 実施することになりました。

【 対 象 者 …1,000 人 の 要 支 援 お よ び 要 介 護 認 定 を お 持 ち の 方（無 作 為 抽 出）】

ち ょ う さ じ ゅ う み ん み な さ ま じ ょ う き ょ う い け ん こ う れ い し ゃ ふ く し し さ く じ ゅ う じ つ か い ご ほ け ん
 この調査は、住 民 の 皆 様 の 状 況 や ご 意 見 を お う か が い し、高 齢 者 福 祉 施 策 の 充 実、介 護 保 険
 じ ぎ ょ う え ん か つ じ っ し む さ ん こ う し り ょ う
 事業の円滑な実施に向けた参考資料とするものです。

か い ど う と う け い じ ょ う し り ょ う り ょ う
 回答は統計上の資料としてのみ利用させていただきます。

ま た、調 査 の 目 的 以 外 に は 使 用 い た し ま せ ん の で、安 心 し て ご 記 入 く だ さ い。

ち ょ う さ し ゅ し り か い き ょ う り よ く ね が も う あ
 調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

れ い わ ね ん が つ お ご お り し ち ょ う か じ り ょ う こ う
 令和 2 年 3 月 小 郡 市 長 加 地 良 光

て い し ゅ つ
 〈 提 出 に つ い て 〉

て い し ゅ つ ほ う ほう ち ょ う さ ひ ょ う ど う ぶ う へ ん し ん よ う ふう と う き っ て ふ よ う い
 提 出 方 法 調 査 票 を 同 封 の 返 信 用 封 筒（切 手 不 要）に 入 れ て く だ さ い

て い し ゅ つ き げ ん が つ に ち か よ う び
 提 出 期 限 3 月 2 4 日（火）

＜ご記入に当たってのお願い＞

- 1 ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。
- 2 回答が「その他」に当てはまる場合は、() 内に具体的な内容を記入してください。
- 3 この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。

「介護」： 介護保険サービスを受けている場合、又は
 常時ご家族などに身の回りの世話等の援助を受けている状態

「介助」： ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

- 4 この調査票に関するご質問は、下記までお問い合わせください。

小郡市 市民福祉部 介護保険課

電話：0942（72）2111（内線452、453）

き 記 入 日	れい 和	ねん 年	が つ 月	に ち 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. 主な介護者となっている家族・親族が記入 （あて名のご本人からみた続柄）				
3. 主な介護者以外の家族・親族が記入 （あて名のご本人からみた続柄）				
4. 調査対象者のケアマネジャー				
5. その他（ ）				

ひょう A 票 ほんにん ご本人のことについて	
とい 問1 か ぞく こうせい 家族構成について（1つに○）	
ひとりせたい 1. 1人世帯 問3へ	問2へ
ふう ふ ふたり ぐ 2. 夫婦のみ2人暮らし	
た 3. その他（ ）	
とい 問2 ほんにん にっちゅう ひとり ご本人は、日中、一人だけになることがありますか（1つに○）	
しゅう にち 1. よくある（週 4～7日）	しゅう にち 2. たまにある（週 1～3日）
3. ない	
とい 問2-1 ひとり じかんたい なんじ なんじ 一人だけになる時間帯は何時から何時までですか	
（ ）時～（ ）時まで、（ ）時～（ ）時まで、	
とい 問3 ようかいごと 要介護度について（1つに○）	
ようしえん 1. 要支援1	ようしえん 2. 要支援2
ようかいご 3. 要介護1	ようかいご 4. 要介護2
ようかいご 5. 要介護3	ようかいご 6. 要介護4
ようかいご 7. 要介護5	8. わからない
とい 問4 す か き お住まいは下記のうちのどれになりますか（1つに○）	
もちいえ いっこだ 1. 持家（一戸建て）	もちいえ しゅうごうじゅうたく 2. 持家（集合住宅）
みんかんちんたいじゅうたく いっこだ 3. 民間賃貸住宅（一戸建て）	みんかんちんたいじゅうたく しゅうごうじゅうたく 4. 民間賃貸住宅（集合住宅）
しえい けんえいじゅうたく 5. 市営・県営住宅	しゃくや 6. 借家
7. その他（ ）	

問5 施設などへの入所・入居の検討状況について（1つに○）

1. 入所・入居は検討していない 2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

問6 現在抱えている傷病について（いくつでも）

1. 脳血管疾患（脳卒中） 2. 心疾患（心臓病）
3. 悪性新生物（がん） 4. 呼吸器疾患
5. 腎疾患（透析） 6. 筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症など）
7. 膠原病（関節リウマチ含む） 8. 変形性関節疾患
9. 認知症 10. パーキンソン病
11. 難病（パーキンソン病を除く） 12. 糖尿病
13. 眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの） 14. その他（ ）
15. なし 16. わからない

問7 令和元年12月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか（1つに○）

1. 利用した ➡ 問8へ 2. 利用していない ➡ 問10へ

【問7で「1」と回答した方のみ】

問8 以下の介護保険サービスについて、令和元年12月の1か月間の利用状況について
（それぞれ1つに○）

	1週間あたりの利用回数(それぞれ1つに○)					
	利用して いない	1回 程度	2回 程度	3回 程度	4回 程度	5回 以上
(※回答例) ●●●サービス	利用して いない	1回	2回	3回	4回	5回 以上
A. 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	利用して いない	1回	2回	3回	4回	5回 以上
B. 訪問入浴介護	利用して いない	1回	2回	3回	4回	5回 以上
C. 訪問看護	利用して いない	1回	2回	3回	4回	5回 以上
D. 訪問リハビリテーション	利用して いない	1回	2回	3回	4回	5回 以上
E. 通所介護 (デイサービス)	利用して いない	1回	2回	3回	4回	5回 以上
F. 通所リハビリテーション (デイケア)	利用して いない	1回	2回	3回	4回	5回 以上

	利用の有無(1つに○)	
G. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1. 利用していない	2. 利用した
H. 小規模多機能型居宅介護	1. 利用していない	2. 利用した
I. 看護小規模多機能型居宅介護	1. 利用していない	2. 利用した

	1か月あたりの利用日数(1つに○)				
	利用して いない	1～7日 程度	8～14日 程度	15～21日 程度	22日 以上
J. ショートステイ(短期入所)	利用して いない	1～7日	8～14日	15～21日	22日 以上
K. 居宅療養管理指導	利用して いない	1～7日	8～14日	15～21日	22日 以上

【問7で「1」と回答した方のみ】

問9 現在の介護サービスに満足していますか。(1つに○)

1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満

【問7で「2」と回答した方のみ】

問10 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（いくつでも）

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
2. 本人にサービス利用の希望がない
3. 家族が介護をするため必要ない
4. 以前、利用していたサービスに不満があった
5. 利用料を支払うのが難しい
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用した
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない
9. その他（ ）

ここから再び、全員の方におたずねします。

問11 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて（いくつでも）

1. 配食
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物（宅配は含まない）
5. ごみ出し
6. 外出同行（通院、買い物など）
7. 移送サービス（介護・福祉タクシーなど）
8. 声かけ、見守り
9. サロンなどの定期的な通いの場
10. その他（ ）
11. 利用していない

とい 問12 今後の在宅生活の継続に必要とを感じる支援・サービスについて（いくつでも）

- | | | |
|------------------------|------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物（宅配は含まない） | 5. ごみ出し | 6. 外出同行（通院、買い物など） |
| 7. 移送サービス（介護・福祉タクシーなど） | 8. 声かけ、見守り | |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場 | 10. その他（ | ） |
| 11. 特になし | 12. わからない | |

とい 問13 介護保険料と介護サービスのあり方について、ご本人の考え方に最も近いものはどれですか（1つに○）

1. 保険料が今より高くなっても、サービスを充実させたほうが良い
2. 保険料も介護サービスも、現状の程度で良い
3. サービス水準を今より抑えても、保険料が安くなるほうが良い
4. わからない

とい 問14 ご本人は、今後、どこで生活していきたいですか（1つに○）

1. 自宅や親族の家で家族だけの介護を受けて生活したい
2. 自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい
3. 自宅で介護保険の在宅サービスだけを利用して生活したい
4. 市内の入所施設を利用したい
5. 市外の入所施設を利用したい
6. その他（

問15 ご本人の「もしもの時」(病 状が悪くなり、回復の見込みがなくなった時など)を考えたことがありますか？

1. はい 2. いいえ

問16 ご本人の「もしもの時」について、どんな準備をされていますか？
(いくつでも○)

1. ご家族やご本人の信頼する人たちと自分の最期について話し合った
2. 「かかりつけ医(主治医)」に今後の治療方針の希望を伝えた
3. エンディングノート(遺言書など)を作成した
4. ACP(※) ノートを作成した
5. その他()
6. 特に何もしていない

(※) アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning) の略 = 「人生会議」

本人の望む医療やケアについて、本人の信頼を寄せる人たちと話し合うこと。

誰でも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があり、命の危険が迫った状態では、

約7割の方が医療やケアについて自己決定ができなくなります。

本人の価値観や気持ちをよく知る家族などが生活・医療・ケアについて話し合うときに

重要な助けとなります。

問17 「小郡市地域包括支援センター」を知っていますか(1つに○)

1. 知っているし、利用したこともある 2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らない 4. わからない

問18 災害時に避難する場所を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

問19 災害時に手助けをしてくれる人はいますか？

1. はい

2. いいえ

問20 現在、訪問診療を利用していますか

1. 利用している

2. 利用していない

問21 治療や健康について相談する「かかりつけ医」がいますか

（1つに○）

1. 市内にいる

2. 市外にいる

3. いない

問22 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか

（1つだけ○）

【同居していない子どもや親族などからの介護を含みます】

1. ない

→ ご協力ありがとうございました。よろしければ最終ページの自由記述欄にもお答えください。

2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない

3. 週に1～2日ある

4. 週に3～4日ある

5. ほぼ毎日ある

→ B票へすすんでください

B 票 主な介護者の方のことについて、おたずねします

A 票の問22で「2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」、「3. 週に1～2日ある」、「4. 週に3～4日ある」、「5. ほぼ毎日ある」を選択された場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いします。

「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人がご回答・ご記入をお願いします（ご本人のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です）。

問1 主な介護者は、どなたですか（1つに○）

- | | | | |
|----------|--------|----------|------|
| 1. 配偶者 | 2. 子 | 3. 子の配偶者 | 4. 孫 |
| 5. 兄弟・姉妹 | 6. その他 | | |

問2 主な介護者の性別について

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3 主な介護者の年齢について（1つに○）

- | | | | | |
|----------|---------|----------|----------|---------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 | 5. 50歳代 |
| 6. 60歳代 | 7. 70歳代 | 8. 80歳以上 | 9. わからない | |

問4 現在、主な介護者が行っている介護等について（いくつでも）

- | | | | |
|--------------------------|----------------------|----------------|-------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 | 3. 食事の介助（食べる時） | 4. 服薬 |
| 5. 入浴・洗身 | 6. 身だしなみ（洗顔・歯磨きなど） | 7. 衣服の着脱 | |
| 8. 屋内の移乗・移動 | 9. 外出の付き添い、送迎など | 10. 認知症状への対応 | |
| 11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマなど） | 12. 食事の準備（調理など） | | |
| 13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物など） | 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | | |
| 15. その他（ | 16. わからない | | |

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護などについて（3つまで○）

- | | | | |
|---------------------------|----------------------|----------------|----------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 | 3. 食事の介助（食べる時） | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ（洗顔・歯磨きなど） | 6. 衣服の着脱 | 7. 屋内の移乗・移動 | |
| 8. 外出の付き添い、送迎など | 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 | |
| 11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ など） | 12. 食事の準備（調理など） | | |
| 13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物 など） | 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | | |
| 15. その他（ ） | 16. 不安に感じることは、特にない | | |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | | | |

問6 ご家族やご親族のなかで、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（いくつでも）

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く） | |
| 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く） | |
| 3. 主な介護者が転職した | 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した |
| 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない | 6. わからない |

問7 現在の勤務形態について（1つだけ○）

1. フルタイム（常勤）で働いている
2. パートタイム（非常勤）で働いている
3. 働いていない

→ 問8へ

→ 問11へ

4. 主な介護者に確認しないと、わからない

ご協力ありがとうございました。
よろしければ最終ページの
自由記述欄にもお答えください。

【問7で「1」「2」と回答した方のみ】

問8 介護をするにあたって、何か働き方についての調整などを行っていますか（いくつでも）

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

【問7で「1」「2」と回答した方のみ】

問9 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると
おもいますか（3つまで○）

- | | |
|--|---|
| 1. 自営業・フリーランスなどのため、勤め先はない | 2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実 |
| 3. 制度を利用しやすい職場づくり | 4. 仕事と介護の両立に関する情報の提供 |
| 5. 働く場所の多様化
(在宅勤務・テレワーク※ ¹ など) | 6. 労働時間の柔軟な選択
(フレックスタイム制※ ² など) |
| 7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置 | 8. 介護をしている従業員への経済的な支援 |
| 9. その他（ | 10. 特になし |
| 11. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

※1 テレワーク: 勤労形態の一種で、パソコンやインターネットなどの情報通信機器を活用し、
時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働くことができる形態をいいます

※2 フレックスタイム制: 労働者自身が一定の定められた時間帯のなかで、始業および終業
の時刻を決定することができる変形労働時間制のひとつです

【問7で「1」「2」と回答した方のみ】

問10 今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つだけ○）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 問題なく、続けていける | 2. 問題はあるが、何とか続けていける |
| 3. 続けていくのは、やや難しい | 4. 続けていくのは、かなり難しい |
| 5. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

問11 現在、介護と子育ての両方を担っている状況にありますか（1つだけ○）

1. 子育ては担っていない
2. 子育ても担っており、大きな負担となっている
3. 子育ても担っているが、さほど大きな負担ではない
4. その他（ ）

問12 介護の上で困っていることは何ですか（いくつでも）

1. 精神的な負担が大きい ⇒（具体的に ）
2. 身体的な負担が大きい ⇒（具体的に ）
3. 経済的な負担が大きい
4. 自分の時間がとれない
5. 他の家族や親戚などの協力を得られない
6. 本人が介護サービスを利用しながら
7. 介護の知識や技術がない
8. 本人の住居が介護に適していない
9. 本人との関係がうまくいっていない
10. 介護サービスの利用法がわからない
11. その他（ ）
12. 特にない

問13 介護に困ったときにどう対処されていますか（いくつでも）

1. ケアマネジャーに相談する
2. 市役所（行政）に相談する
3. 小郡市地域包括支援センターに相談する
4. 家族、友人や知人などに相談する
5. どこに相談してよいかわからない
6. その他（ ）

問14 今後どのように介護していきたいとおもいますか（いくつでも）

1. 自宅で、家族だけで介護したい
2. 自宅で、家族の介護の他に介護保険の在宅サービス等を利用させたい
3. 自宅で、介護保険の在宅サービス等だけで介護したい
4. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設サービスを利用させたい
5. 地域密着型サービス（グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設等）を利用させたい
6. 介護付有料老人ホームを利用させたい
7. その他（ ）

問15 今後も在宅で介護を続けるには、どのような支援が必要ですか（いくつでも）

1. 介護保険やその他の福祉サービスを充実する
2. 介護の技術を教える介護研修などを充実する
3. 介護保険やその他の福祉サービスなどについて、わかりやすく情報を提供する
4. 身近な地域で介護や生活のことについて、気軽に相談できる体制を整備する
5. 在宅で高齢者を介護している人同士の交流の場を提供する
6. 介護者を支えるボランティアなどの地域活動を充実する
7. 介護に対する家族や地域の理解を促すための意識啓発を行う
8. その他（ ）
9. 特にない

「地域でともに支え合う 高齢者にやさしいまちづくり」をすすめていくため、小郡市に
対するご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

■■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■■

(3) 在宅生活改善調査

(在宅生活改善調査／依頼状)

調査ご協力のお願い

[小郡市在宅生活改善調査]

皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃から小郡市の介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

小郡市では、「第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を令和2年度中に策定いたします。

来年度の計画策定にあたり、介護サービス等の見込みの精度を高めること等を目的に、介護サービス事業所を対象とした実態調査の実施を国が推奨しています。

本市においても国が推奨する調査趣旨等を勘案し、介護サービス事業所を対象に2種類のアンケート調査を実施することといたしました。

このうち、本調査は、「在宅生活改善調査」として、小郡市内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所を対象に行うものです。

調査結果は、来年度の計画策定及び介護保険事業の推進に役立てると同時に市政等に広く活用させていただきます。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

なお、回答の内容につきましては、情報の保護に十分な注意を払い、回答結果の統計的な処理にのみ活用するものであり、本事業の目的以外では使用しません。

令和2年3月

小郡市 市民福祉部 介護保険課

<実施主体>

小郡市 市民福祉部 介護保険課
〒838-0198 福岡県小郡市小郡 255-1
電話：0942-72-2111(内線：452)

<協力事業者>

株式会社サーベイリサーチセンター九州事務所
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目6番26号
電話：092-411-8811

（在宅生活改善調査／調査要項）

調 査 要 綱

1 ご回答にあたって

- ・今回実施する介護サービス事業所を対象としたアンケート調査は2種類あります（下表参照）。
- ・このうち、本調査は「在宅生活改善調査」であり、本調査票は小郡市内の全ての居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所を対象に送付しております。
- ・ご回答いただいた内容を、貴事業所の許可なしに、貴事業所が特定される形で公表することはありません。

【参考】介護サービス事業所に対するアンケート調査（2種類）

調査名	調査対象
在宅生活改善調査	・居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所 ・上記に所属するケアマネジャー
居所変更実態調査	・施設・居住系サービス事業所（住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅を含む）

2 本調査の回答者

「事業所票」については、管理者の方にご回答をお願いしております。

「利用者票」については、貴事業所に所属する全てのケアマネジャーの方にご回答をお願いしております（非常勤の方も含みます）。

3 調査票のご回答方法

この度お送りしたアンケート調査では、以下の2種類の調査票が同封されています。

【事業所票（※A4）】（※1枚のみ同封されています）

- 各事業所の、管理者の方を対象とした調査票です。管理者の方はご回答をお願いします。

【利用者票（※A3）】（※複数枚同封されています）

- 各ケアマネジャーのご担当の利用者のうち、「（自宅等にお住いの方で）現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」についての調査票です。
- 次のページのフローにしたがって対象者を抽出し、対象となる利用者の方について「利用者票」にご回答をお願いします。本調査票は、ケアマネジャーの方がご回答ください。
- 利用者票が不足する場合は、たいへん恐縮ですがコピーにて対応くださいますよう、お願いいたします。

(在宅生活改善調査／調査要綱)

4 調査票の提出方法

・管理者の方は、回答済みの調査票すべてを、同封の返信用封筒(切手不要)にまとめて封入していただき、

令和2年3月24日(火)までにポストにご投函いただきますよう、お願い申し上げます。

5 「利用者票」の対象者の抽出方法

「利用者票」は、ケアマネジャーの視点からみた「(自宅等にお住まいの方)現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」の実態を把握し、地域に不足する介護サービスを検討することを目的としています。

各ケアマネジャーの方は、ご担当の利用者のうち、調査への回答の対象となる利用者を以下のフローにしたがって抽出し、「利用者票」の各設問にご回答ください。

＜回答の対象となる要支援者・要介護者の抽出方法＞

本調査は、地域に不足する介護サービスを検討することを目的としています。

ステップ1

ご担当の利用者のうち、

- ① 自宅
- ② サービス付き高齢者向け住宅
- ③ 住宅型有料老人ホーム
- ④ 軽費老人ホーム

のいずれかにお住まいの要支援者・要介護者の人を選んでください。

ステップ2

さらに、その中から、

「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」

を、ケアマネジャーとしての判断に基づいて選んでください。

例えば、

○ADLの低下に伴い、頻回な身体介護が必要となったため、現在の訪問介護の利用では対応が困難であり、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用がより適切と思われる利用者

○認知症に伴う周辺症状の悪化により、介護者の負担が重くなったため、グループホームへの入居がより適切と思われる利用者

などのケースが該当します。

ステップ3

選ばれた利用者全員について、調査票の各設問にご回答ください。

（在宅生活改善調査／事業所票）

在宅生活改善調査 事業所票

※令和2年3月1日現在の状況について、ご回答ください。

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。

1) 所属するケアマネジャーの人数	{ }人
2) 「自宅等(3)を除く」にお住まいの利用者数	{ }人
3) 「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数	{ }人

問2 貴事業所において、過去1年の間(平成31年3月1日～令和2年3月1日)に「自宅等(※サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く)から、居場所を変更した利用者数(要介護度別)」をご記入ください。

※一時的に入院して自宅に戻った方、現在入院中の方は含めないでください。

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
{ }人	{ }人	{ }人	{ }人	{ }人	{ }人	{ }人	{ }人 ★

問3 貴事業所にて、過去1年の間(平成31年3月1日～令和2年3月1日)に「自宅等(※サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く)から、居場所を変更した利用者数(行き先別)」をご記入ください。

※一時的に入院して自宅等以外の居場所に移った場合は退院後の居場所をご記入ください。

※ここでご記入いただいた1)～13)の合計と、問2でご記入いただいた合計人数(★欄)が一致することをご確認ください。

	市内	市外
1) 兄弟・子ども・親戚等の家	{ }人	{ }人
2) 住宅型有料老人ホーム	{ }人	{ }人
3) 軽費老人ホーム(特定施設除く)	{ }人	{ }人
4) サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	{ }人	{ }人
5) グループホーム	{ }人	{ }人
6) 特定施設	{ }人	{ }人
7) 地域密着型特定施設	{ }人	{ }人
8) 介護老人保健施設	{ }人	{ }人
9) 療養型・介護医療院	{ }人	{ }人
10) 特別養護老人ホーム	{ }人	{ }人
11) 地域密着型特別養護老人ホーム	{ }人	{ }人
12) その他	{ }人	{ }人
13) 行先を把握していない	{ }人	
14) 死亡(※搬送先での死亡を含む)	{ }人	

(在宅生活改善調査／利用者票)

在宅生活改善調査 利用者票

「自宅」、「サ高住」、「住宅型有料」、「経費老人ホーム」にお住まいの方のうち、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」が対象です。

例を挙げれば、例假の身体介介が必要となったため、現在の訪問介介の利用では対応困難であり、定額返ササービスの利用がより適切と思う利用者、施設に準う周辺状況の悪化により、介護者の負担重くなったため、グループホームへの入居がより適切と思う方」が対象です。

[illegible]

（４） 居所変更実態調査

（居所変更実態調査／依頼状）

調査ご協力のお願い

[小郡市居所変更実態調査]

皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃から小郡市の介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

小郡市では、「第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を令和2年度中に策定いたします。

来年度の計画策定にあたり、介護サービス等の見込みの精度を高めること等を目的に、介護サービス事業所を対象とした実態調査の実施を国が推奨しています。

本市においても国が推奨する調査趣旨等を勘案し、介護サービス事業所を対象に2種類のアンケート調査を実施することといたしました。

このうち、本調査は、「居所変更実態調査」として、市内の施設・居住系サービス事業所（住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅を含む）を対象に行うものです。

調査結果は、来年度の計画策定及び介護保険事業の推進に役立てると同時に市政等に広く活用させていただきます。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

なお、回答の内容につきましては、情報の保護に十分な注意を払い、回答結果の統計的な処理にのみ活用するものであり、本事業の目的以外では使用しません。

令和2年3月

小郡市 市民福祉部 介護保険課

<実施主体>

小郡市 市民福祉部 介護保険課
〒838-0198 福岡県小郡市小郡 255-1
電話：0942-72-2111（内線：452）

<協力事業者>

株式会社サーベイリサーチセンター九州事務所
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目6番26号
電話：092-411-8811

調 査 要 綱

1 ご回答にあたって

- ・今回実施する介護サービス事業所を対象としたアンケート調査は2種類あります(下表参照)。
- ・このうち、本調査は「居所変更実態調査」であり、本調査票は小郡市内の全ての施設・居住系サービス事業所(住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅を含む)を対象に送付しております。
- ・ご回答いただいた内容を、貴事業所の許可なしに、貴事業所が特定される形で公表することはありません。

【参考】介護サービス事業所に対するアンケート調査(2種類)

調査名	調査対象
在宅生活改善調査	・居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所 ・上記に所属するケアマネジャー
居所変更実態調査	・施設・居住系サービス事業所(住宅型有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅を含む)

2 本調査の回答者・対象者

施設等の管理者の方にご回答をお願いしております。

また、本調査設問における「入居者数、退去者数」は、貴施設に入居、もしくは貴施設から退去するすべての人を対象とします。

3 調査票の提出方法

- ・管理者の方は、回答済みの調査票を、同封の返信用封筒(切手不要)に封入していただき、
令和2年3月24日(火)までにポストにご投函いただきますよう、お願い申し上げます。

（居所変更実態調査／施設等票）

居所変更実態調査

※令和2年3月1日現在の状況について、ご回答ください。

問1 該当するサービス種別を、ご回答ください。（1つに○）

※本調査では、以下のサービス種別をまとめて「施設等」と表記します。

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 住宅型有料老人ホーム | 2. 軽費老人ホーム（特定施設除く） |
| 3. サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く） | 4. グループホーム |
| 5. 特定施設 | 6. 地域密着型特定施設 |
| 7. 介護老人保健施設 | 8. 介護療養型医療施設・介護医療院 |
| 9. 特別養護老人ホーム | 10. 地域密着型特別養護老人ホーム |

問2 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

1) 施設等の名称	〔 〕
2) 定員数など	〔 〕[人・戸・室] ※該当する単位に○
3) 入所・入居者数	〔 〕人
4) (貴施設等の)待機者数	〔 〕人
5) 特別養護老人ホームの待機者数(申込者数)	〔 〕人 ※特養・地域密着型特養は回答不要

※「2) 定員数など」は、サービス付き高齢者向け住宅の場合は「住宅戸数」、住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームの場合は「居室数」、その他の施設等の場合は「定員数」をご回答ください。

※4)と5)は、該当者がいない場合は「0」を、不明の場合は「-」を記載してください。

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護度について、ご記入ください。（数値を記入）

※ここでご記入いただいた合計人数と、問2でご記入いただいた「3) 入所・入居者数」が一致することをご確認ください。

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明
〔 〕人	〔 〕人	〔 〕人	〔 〕人	〔 〕人	〔 〕人	〔 〕人	〔 〕人	〔 〕人

問4 以下の医療処置を受けている人数について、ご記入ください。（数値を記入）

1) 点滴の管理	〔 〕人	2) 中心静脈栄養	〔 〕人
3) 透析	〔 〕人	4) ストーマの処置	〔 〕人
5) 酸素療法	〔 〕人	6) レスピレーター	〔 〕人
7) 気管切開の処置	〔 〕人	8) 疼痛の看護	〔 〕人
9) 経管栄養	〔 〕人	10) モニター測定	〔 〕人
11) 褥瘡の処置	〔 〕人	12) カテーテル	〔 〕人
13) 喀痰吸引	〔 〕人	14) インスリン注射	〔 〕人

(居所変更実態調査／施設等票)

ここからは、過去1年間の新規の入所・入居者についてお伺いします。

問5 過去1年間(平成31年3月1日～令和2年3月1日)に、貴施設等にて新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。

※貴施設等に入所・入居している方で、一時的な入院等で貴施設等に戻った方は含めないでください。

新規の入所・入居者数(合計)

[]人 ★

問6 問5でご記入いただいた過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。

※ここでご記入いただいた「14)合計」と、問5でご記入いただいた「新規の入所・入居者数(合計)」(★欄)が一致することをご確認ください。

※一旦入院し、退院後に貴施設等に入所・入居した場合は入院前の居場所をご記入ください。

	市内	市外
1) 自宅(※兄弟・子ども・親戚等の家含む)	[]人	[]人
2) 住宅型有料老人ホーム	[]人	[]人
3) 軽費老人ホーム(特定施設除く)	[]人	[]人
4) サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	[]人	[]人
5) グループホーム	[]人	[]人
6) 特定施設	[]人	[]人
7) 地域密着型特定施設	[]人	[]人
8) 介護老人保健施設	[]人	[]人
9) 療養型・介護医療院	[]人	[]人
10) 特別養護老人ホーム	[]人	[]人
11) 地域密着型特別養護老人ホーム	[]人	[]人
12) その他	[]人	[]人
13) 入居・入所する前の居場所を把握していない	[]人	
14) 合計	[]人 ★	

（居所変更実態調査／施設等票）

ここからは、**過去1年間の退去者**についてお伺いします。

問7 過去1年間(平成31年3月1日～令和2年3月1日)に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。

※なお、一時的な入院等で貴施設等に戻った方、現在一時的に入院中の方(貴施設等との契約が継続している方)は含めないでください。

退去者数(合計) (※死亡・搬送先での死亡を含む) []人 ☆

問8 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、**要介護度別の人数**をご記入ください。

※死亡(搬送先での死亡を含む)した人については、「死亡」欄にその人数をご記入ください。

※ここでご記入いただいた合計人数と、問7でご記入いただいた「退去者数(合計)」(☆欄)が一致することをご確認ください。

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3
[]人	[]人	[]人	[]人	[]人	[]人
要介護4	要介護5	新規申請中	死亡	合計	
[]人	[]人	[]人	[]人	[]人 ☆	

問9 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、**退去先別の人数**をご記入ください。

※ここでご記入いただいた「16)合計」と、問7でご記入いただいた「退去者数(合計)」(☆欄)が一致することをご確認ください。

※一時的に入院して貴施設等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

	市内	市外
1) 自宅(※兄弟・子ども・親戚等の家含む)	[]人	[]人
2) 住宅型有料老人ホーム	[]人	[]人
3) 軽費老人ホーム(特定施設除く)	[]人	[]人
4) サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	[]人	[]人
5) グループホーム	[]人	[]人
6) 特定施設	[]人	[]人
7) 地域密着型特定施設	[]人	[]人
8) 介護老人保健施設	[]人	[]人
9) 療養型・介護医療院	[]人	[]人
10) 「9」を除く病院・診療所(一時的な入院を除く)	[]人	[]人
11) 特別養護老人ホーム	[]人	[]人
12) 地域密着型特別養護老人ホーム	[]人	[]人
13) その他	[]人	[]人
14) 行先を把握していない	[]人	
15) 死亡(※搬送先での死亡を含む)	[]人	
16) 合計	[]人 ☆	

(居所変更実態調査／施設等票)

問10 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んで、該当する口に✓をつけてください。

	退去理由「上位3つ」に✓		
	第1位	第2位	第3位
1) <u>必要な生活支援</u> が発生・増大したから	☐	☐	☐
2) <u>必要な身体介護</u> が発生・増大したから	☐	☐	☐
3) <u>認知症の症状</u> が悪化したから	☐	☐	☐
4) <u>医療的ケア・医療処置の必要性</u> が高まったから	☐	☐	☐
5) 「1」～「4」以外の状態像が悪化したから	☐	☐	☐
6) 入所・入居者の <u>状態等</u> が改善したから	☐	☐	☐
7) 入所・入居者が、 <u>必要な居宅サービスの利用を望まなかった</u> から	☐	☐	☐
8) <u>費用負担</u> が重くなったから	☐	☐	☐
9) その他	☐	☐	☐

小郡市高齢者等実態調査
結果報告書

発行年月：令和 2 年 5 月
発行：福岡県 小郡市

